志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書（16）

県営中山間地域総合整備事業志布志地区（倉園団地）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

倉園Ａ遺跡

２０２３年３月

鹿児島県志布志市教育委員会

序　　文

本書は、県営中山間地域総合整備事業志布志地区（倉園団地）に伴い、平成30年度に発掘調査を実施した倉園Ａ遺跡の調査報告書です。

倉園Ａ遺跡は宮崎県串間市との県境に近い山間部の、志布志町内之倉に所在しています。

本遺跡からは縄文時代前期後半から弥生時代初頭を中心とする時期の土器や石器が、狭い範囲ながら足の踏み場がないほど多量に見つかりました。

その中には西北九州から持ち込まれたと考えられる土器もあり、縄文時代における地域間交流の一端をうかがうことができました。また、縄文時代中期後半頃のものと考えられる石刀状石製品も見つかり、県内初の事例となりました。

このように、志布志山間部における縄文時代の歴史を明らかにする上で、貴重な成果となりました。

本書が市民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され、地域の歴史や文化財に対する関心と御理解をいただくとともに、文化財の普及啓発の一助となれば幸いです。

最後に、調査にあたり御協力いただきました鹿児島県大隅地域振興局農林水産部農村整備課や鹿児島県教育委員会等の関係各機関ならびに発掘調査や整理・報告書作成に従事・協力していただいた方々に厚く御礼申し上げます。

令和５年３月

志布志市教育委員会
教育長　福田　裕生

例　言

1　本書は、県営中山間地域総合整備事業志布志地区（倉園団地）に伴う倉園Ａ遺跡の発掘調査報告書である。

2　本遺跡は、鹿児島県志布志市志布志町町内之倉字大原に所在する。

3　発掘調査は、鹿児島県大隅地域振興局農林水産部農村整備課の依頼を受け、平成30年度に志布志市教育委員会が実施した。

4　整理作業・報告書作成は、令和元～４年度に志布志市埋蔵文化財センターにおいて実施した。

5　本書で用いたレベル値やグリッド基準杭の設定は、ありあけ測量株式会社に委託した。

6　掲載遺物番号は通し番号とし、本文・表・挿図・図版の番号は一致する。

7　本書で用いた遺構記号は、文化庁文化財部記念物課監修『発掘調査のてびき』（2010年刊行）に準拠している。

8　遺構番号は遺構の種類ごとに番号を付し、報告書まで固定しており、本文・挿図・図版の番号は一致する。

9　遺物注記で用いた遺跡略号は、「ＫＲＺ．Ａ」である。

10　挿図の縮尺は、各図面に示した。なお、本書の遺構配置図は、１グリッド（１マス）が10ｍ四方である。

11　遺跡位置図等の地図は、国土地理院発行の1：25,000地形図『志布志』を利用した。

12　発掘調査における図面作成及び写真撮影は、大窪祥晃と相美伊久雄が行った。

13　航空写真撮影は、株式会社ふじたに委託した。

14　遺物の実測・トレース作業は、会計年度任用職員の協力を得て、相美と川路皐太朗が行った。

15　土層断面図や遺構配置図、遺物分布図作成には、デジタル技術を用いた。

16　石器の実測図・トレース図作成の一部は、株式会社九州文化財研究所に委託した。

17　土層と遺物の色調は、『新版標準土色帳』（農林水産省農林水産技術会議事務局）に準拠している。

18　遺物の写真撮影は、鹿児島県立埋蔵文化財センターにおいて西園勝彦氏（鹿児島県立埋蔵文化財センター）が行った。また石器の一部は、市埋蔵文化財センターにおいて牛嶋茂氏（写測エンジニアリング株式会社）が行った。

19　本書の編集は川路と相美が担当し、執筆の分担は以下のとおりである。

第１章　　相美

第２章　　川路

第３章　　相美

第４章

第１節１・２・４、第２節１、第３節　　相美

第１節３、第２節２　　川路

第５章

第１節１（２）・２、第２～５節　　相美

第１節１（１）　　川路

20　第５章において、昭和17(1942)年に発見された出口Ａ遺跡出土の独鈷状石器２例と、平成29(2017)年に市指定建造物山中氏邸から見つかった独鈷状石器１例の紹介を行った。

21　出土遺物及び図面・写真の記録類は志布志市教育委員会で保管し、展示・活用する予定である。

本文目次

序文
例言
目次
第１章　調査の経過
　第１節　調査に至るまでの経過　・・・・・・　1
　第２節　分布調査　・・・・・・・・・・・・・　1
　第３節　確認調査　・・・・・・・・・・・・・　1
　第４節　本調査　・・・・・・・・・・・・・・　1
　第５節　整理・報告書作成作業　・・・・・・・　4
第２章　遺跡の位置と環境
　第１節　地理的環境　・・・・・・・・・・・・　5
　第２節　歴史的環境　・・・・・・・・・・・・　5
第３章　調査の方法
　第１節　発掘調査の方法　・・・・・・・・・・　9
　第２節　地形と層位　・・・・・・・・・・・・　11
第４章　調査の成果
　第１節　縄文時代～弥生時代初頭の調査　・　16
　第２節　古墳時代の調査　・・・・・・・・・　98
　第３節　時代不明の調査　・・・・・・・・・　98
遺物観察表　・・・・・・・・・・・・・・・・・　101
第５章　総括
　第１節　縄文時代の調査　・・・・・・・・・　111
　第２節　古墳時代の調査　・・・・・・・・・　113
　第３節　時代不明の調査　・・・・・・・・・　113
　第４節　小結　・・・・・・・・・・・・・・　114
　第５節　市内発見の精神文化関連石器について
　・・　114
写真図版
報告書抄録

挿図・表目次

第１図　確認トレンチ位置図（整備前）　・・・・・　2
第２図　確認トレンチ位置図（整備後）　・・・・・　3
第３図　遺跡位置及び周辺遺跡　・・・・・・・・・　8
第４図　調査範囲とグリッド図　・・・・・・・・・　10
第５図　Ⅳ層上面地形測量図　・・・・・・・・・・　11
第６図　土層断面図（１）　・・・・・・・・・・・　12
第７図　土層断面図（２）　・・・・・・・・・・・　13
第８図　土層断面図（３）　・・・・・・・・・・・　14
第９図　土層断面図（４）　・・・・・・・・・・・　15
第10図　遺物分布図及び遺構配置図　・・・・・・　17
第11図　土坑（１）　・・・・・・・・・・・・・・　18
第12図　土坑（２）　・・・・・・・・・・・・・・　19
第13図　土坑（３）　・・・・・・・・・・・・・・　20
第14図　集石遺構　・・・・・・・・・・・・・・・　21
第15図　土器分布図（１）　・・・・・・・・・・・　22
第16図　土器分布図（２）　・・・・・・・・・・・　23
第17図　土器分布図（３）　・・・・・・・・・・・　24
第18図　土器分布図（４）　・・・・・・・・・・・　25
第19図　土器分布図（５）　・・・・・・・・・・・　26
第20図　土器分布図（６）　・・・・・・・・・・・　27
第21図　土器・土製分布図　・・・・・・・・・・・　28
第22図　１～５類土器　・・・・・・・・・・・・・　30
第23図　５類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　31
第24図　５～７類土器　・・・・・・・・・・・・・　32
第25図　７～９類土器　・・・・・・・・・・・・・　33
第26図　９類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　34
第27図　９類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　35
第28図　９類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　36
第29図　９類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　37
第30図　９類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　38
第31図　９類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　39
第32図　９類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　40
第33図　９類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　41
第34図　９類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　42
第35図　９類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　43
第36図　９類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　44
第37図　10類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　45
第38図　10類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　46
第39図　10類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　47
第40図　10類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　48
第41図　10類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　49
第42図　10類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　50
第43図　10類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　51
第44図　10～11類土器　・・・・・・・・・・・・　52
第45図　11類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　53
第46図　12類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　54
第47図　12類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　55
第48図　12類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　56
第49図　12類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　57
第50図　12類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　58
第51図　12類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　59
第52図　12類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　60
第53図　13～15類土器　・・・・・・・・・・・・　61
第54図　15～16類土器　・・・・・・・・・・・・　62
第55図　17～19類土器　・・・・・・・・・・・・　63
第56図　19類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　64
第57図　19～20類土器　・・・・・・・・・・・・　65
第58図　21類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　66
第59図　21類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　67
第60図　22類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　68
第61図　22類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　69
第62図　22類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　70
第63図　22類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　71
第64図　22類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　72
第65図　22類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　73
第66図　23類土器　・・・・・・・・・・・・・・・　74

第67図　23類土器　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
第68図　23類土器　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
第69図　23類土器　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
第70図　23類土器　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
第71図　23類土器　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
第72図　23類土器・円盤状土製加工品　・・・・・・ 80
第73図　縄文石器　石材別分布図（１）　・・・・ 82
第74図　縄文石器　石材別分布図（２）　・・・・ 83
第75図　縄文石器　石材別分布図（３）　・・・・ 84
第76図　縄文石器　器種別分布図（１）　・・・・ 85
第77図　縄文石器　器種別分布図（２）　・・・・ 86
第78図　縄文石器　器種別分布図（３）　・・・・ 87
第79図　縄文石器（１）　・・・・・・・・・・・・ 88
第80図　縄文石器（２）　・・・・・・・・・・・・ 89
第81図　縄文石器（３）　・・・・・・・・・・・・ 90
第82図　縄文石器（４）　・・・・・・・・・・・・ 91
第83図　縄文石器（５）　・・・・・・・・・・・・ 92
第84図　縄文石器（６）　・・・・・・・・・・・・ 93
第85図　縄文石器（７）　・・・・・・・・・・・・ 94
第86図　縄文石器（８）　・・・・・・・・・・・・ 95
第87図　縄文石器（９）　・・・・・・・・・・・・ 96
第88図　縄文石器（10）　・・・・・・・・・・・・ 97
第89図　古墳時代土器　・・・・・・・・・・・・・ 98
第90図　時代不明　遺構配置図　・・・・・・・・・ 98
第91図　１号溝状遺構(SD1)平・断面図　・・・・ 99
第92図　２号溝状遺構(SD2)平・断面図　・・・・ 100
第93図　石刀状石製品関係資料　・・・・・・・・ 113
第94図　市内の独鈷状石器（１）　・・・・・・・ 115
第95図　市内の独鈷状石器（２）　・・・・・・・ 116

第１表　周辺遺跡地名表　・・・・・・・・・・・・ 7
第２表　土器観察表（１）　・・・・・・・・・・・ 101
第３表　土器観察表（２）　・・・・・・・・・・・ 102
第４表　土器観察表（３）　・・・・・・・・・・・ 103
第５表　土器観察表（４）　・・・・・・・・・・・ 104
第６表　土器観察表（５）　・・・・・・・・・・・ 105
第７表　土器観察表（６）　・・・・・・・・・・・ 106
第８表　土器観察表（７）　・・・・・・・・・・・ 107
第９表　土器観察表（８）　・・・・・・・・・・・ 108
第10表　円盤状土製加工品観察表　・・・・・・・・ 108
第11表　石器観察表（１）　・・・・・・・・・・・ 109
第12表　石器観察表（２）　・・・・・・・・・・・ 110
第13表　縄文石器組成表　・・・・・・・・・・・・ 112

写真図版目次

図版１
　①遺跡遠景（東から）
図版２
　①遺跡遠景（西から）
　②遺跡遠景（南から）
図版３
　①作業状況遠景（西から）
　②作業状況近景（東から）
　③Ｂ－２・３区アカホヤ層上面検出（北西から）
　④Ｃ・Ｄ－３区確認トレンチ（北西から）
　⑤Ｂ－５区南壁断面
　⑥Ａ・Ｂ－５・６区アカホヤ層上面検出（北から）
　⑦Ａ－９・10区北壁
図版４
　①土坑１号完掘（南西から）
　②土坑２号半裁（南東から）
　③土坑５号半裁（東から）
　④土坑６号半裁（南西から）
　⑤土坑７号半裁（北西から）
　⑥土坑８号半裁（北東から）
　⑦土坑10号半裁（北西から）
　⑧集石１号検出（東から）
図版５
　①春日式土器（№101）出土状況
　②大平式土器（№121）出土状況
　③Ｂ－６～８区SD１検出（北東から）
　④Ｂ－４・５区SD１完掘（東から）
　⑤SD１ベルトa-a’東壁断面
　⑥SD１ベルトc-c’西壁断面
図版６　１類・２類・３類・４類・５類土器
図版７　６類・７類・８類・９類土器
図版８　９類土器
図版９　９類土器
図版10　９類土器
図版11　９類・10類土器
図版12　10類土器
図版13　10類土器
図版14　10類土器
図版15　10類・12類土器
図版16　11類・12類土器
図版17　12類土器
図版18　12類・13類土器
図版19　14類・15類・16類・17類土器
図版20　18類・19類・20類土器・成川式土器
図版21　21類・22類土器
図版22　22類土器
図版23　22類土器
図版24　23類土器
図版25　23類土器・円盤状土製加工品
図版26　縄文時代石器１
図版27　縄文時代石器２
図版28　縄文時代石器３
図版29　縄文時代石器４
図版30　縄文時代石器５

第１章　調査の経過

第１節　調査に至るまでの経過

志布志市教育委員会（以下、市教委）は、文化財の保護・活用を図るため、各開発関係機関との間で、事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて事前に協議し、諸開発との調整を図っている。

平成23年度、鹿児島県大隅地域振興局農林水産部農村整備課（以下、県農政部）は、志布志市志布志町内之倉において平成25年度新規採択予定事業として、ほ場整備事業「県営中山間地域総合整備事業　志布志地区（倉園団地）」を計画した。事業実施に先立って、事業対象地内における埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会文化財課（以下、県文化財課）に照会した。

これを受けて県文化財課と市教委が、平成24年度に分布調査を実施した。その結果、事業対象地内に倉園Ａ遺跡と十文字遺跡の２遺跡が存在することが判明した。

これを受けて、市教委と県農政課、市耕地林務水産課（以下、市耕地課）は埋蔵文化財の保護と事業の調整を図るための協議を行い、その結果、事業着手前に上記２遺跡の確認調査を実施することになった。

確認調査は文化庁の国庫補助事業を利用し、市内遺跡発掘調査等事業として平成28年度に実施した。

確認調査の結果をふまえ、あらためて遺跡の取り扱いについて市教委と県農政部、市耕地課は協議を行った。その結果、倉園Ａ遺跡の遺物包含層に影響を及ぼし、現地保存が困難な範囲については、工事着手に先立って市教委が平成30年度に本調査を実施することとなった。

第２節　分布調査

開発事業の実施予定箇所について、遺跡の所在や範囲を把握するために、平成24年12月18・19日に分布調査を行った。分布調査は、県文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センター・市教委の各職員で実施した。その結果、倉園Ａ遺跡と十文字遺跡の２遺跡の所在が明らかとなった。

第３節　確認調査

詳細な遺跡範囲及び遺物包含層の状況を把握するため、平成28年11月１日から11月17日まで確認調査を行った。

調査方法は、計画範囲内に２×３ｍを主とするトレンチを15か所設定し（第１・２図参照）、重機により表土を剥いだ後、人力にて掘り下げを行った。

その結果、２～５・７～９・12・13・15トレンチから縄文時代中・後期の遺物が出土した。

調査体制（平成28年度）

調査主体　　志布志市教育委員会

調査責任者　志布志市教育委員会

		教　育　長	和田幸一郎
調査事務局	〃	生涯学習課長	樺山　弘昭
	〃	文化財管理室長	若松　利広
	〃	埋蔵文化財係長	上田　義明
	〃	主任主査	相美伊久雄
調査担当	〃	主任主査	大窪　祥晃
	〃	主　事	坂元　裕樹

第４節　本調査

本調査は平成30年度に実施した。調査体制及び調査の具体的経過は、以下のとおりである。なお、調査の具体的経過は、日誌抄を月毎に集約して記載する。

調査体制（平成30年度）

事業主体　　鹿児島県大隅地域振興局農村整備課

調査主体　　志布志市教育委員会

調査責任者　志布志市教育委員会

		教　育　長	和田幸一郎
調査事務局	〃	生涯学習課長	若松　利広
	〃	文化財管理室長兼	
	〃	埋蔵文化財係長	上田　義明
調査担当	〃	主任主査	大窪　祥晃
	〃	主任主査	相美伊久雄

調査の具体的経過

平成30年度の本調査は、平成30年８月27日から平成31年１月16日（実働66日）まで実施した。調査表面積は、1,000㎡である。

【８月】

営繕用地・駐車場整地作業、コンテナハウス設置、電気・水道引込工事などの環境整備。グリッド設定。

Ａ・Ｂ－４～８区の重機による表土剥ぎ。

【９月】

Ａ・Ｂ－４～８区Ⅲa・Ⅲb層の調査。溝状遺構の調査。

【10月】

Ａ・Ｂ－５～８区Ⅲa・Ⅲb層の調査。集石１・土坑１～８の調査。

Ｂ・Ｃ－７～11区の重機による表土剥ぎ。

Ｂ－10区・Ｃ－７区・Ｃ－８区・Ｃ－９区・Ｃ－10区・Ｂ－11～14区下層確認トレンチ設定・調査。

Ａ・Ｂ－８～11区Ⅲa層の調査。Ｂ・Ｃ－７～９区Ⅲa層の調査。

Ａ・Ｂ－４～８区埋め戻し。

【11月】

Ｂ～Ｃ－７～11区Ⅲa・Ⅲb層の調査。Ａ－９・10区Ⅲa層の調査。

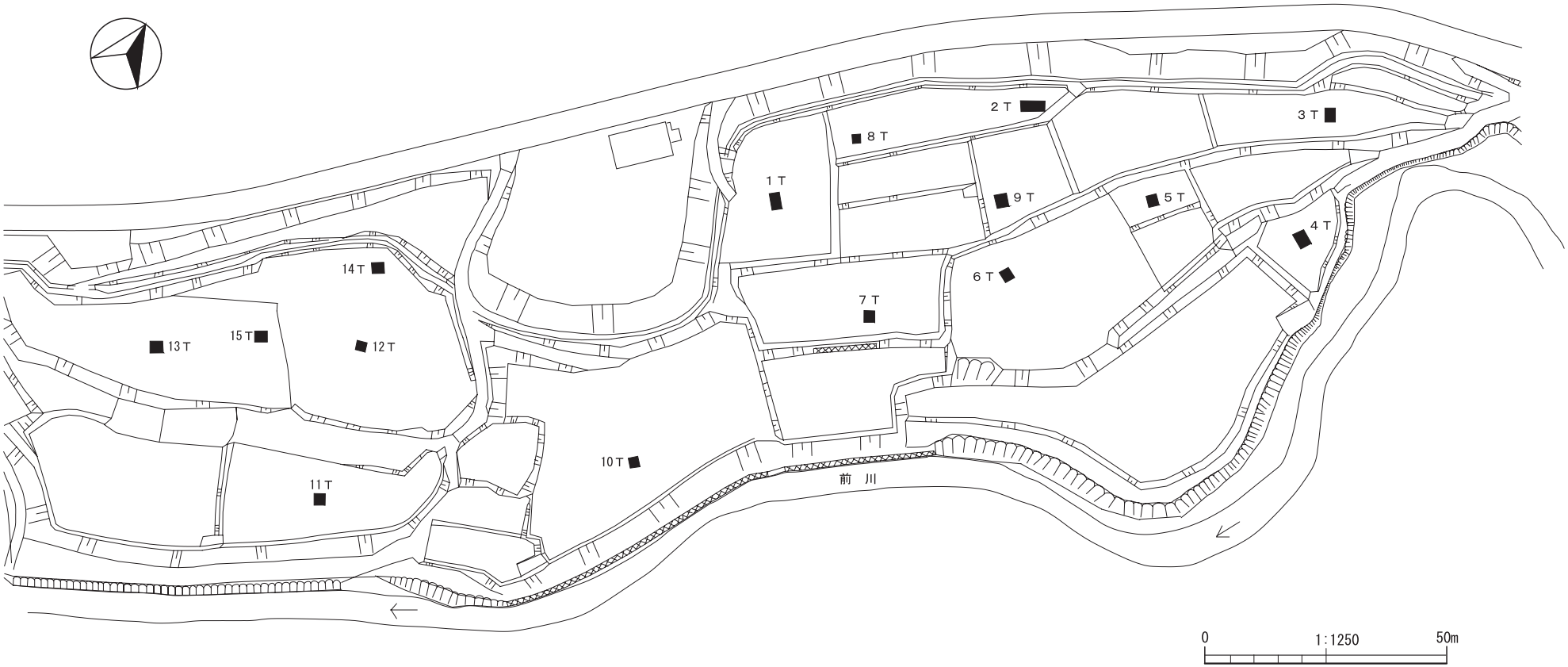
Ａ～Ｄ－２・３区下層確認トレンチ設定・調査。

Ｂ－７区下層確認トレンチ設定・調査。

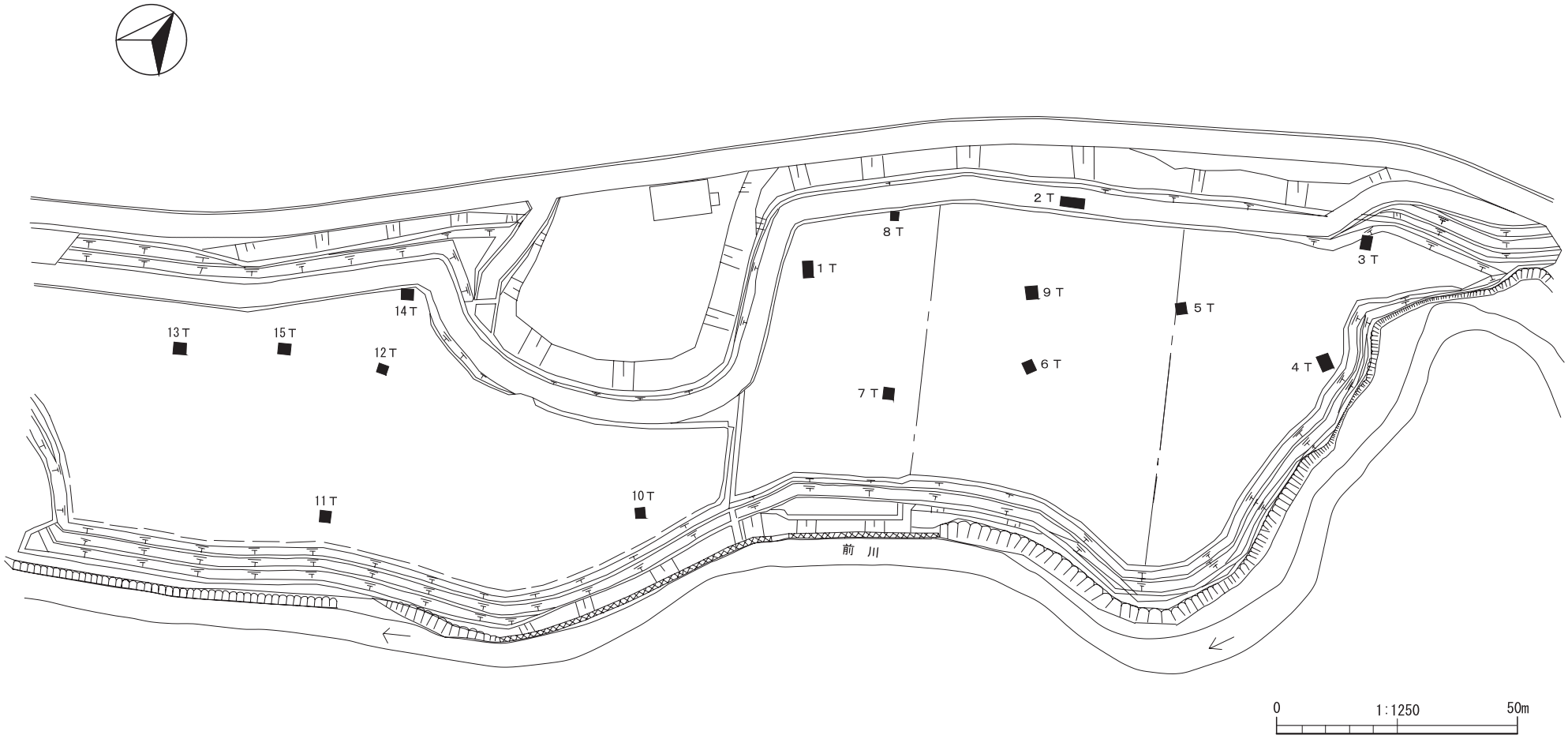
Ｂ－２・３区表土剥ぎ、Ⅲa・Ⅲb層の調査。

【12月】

Ｂ－２・３区Ⅲa・Ⅲb層の調査。土坑９・10の調査。



第１図　確認トレンチ位置図（整備前）



第２図　確認トレンチ位置図（整備後）

Ｂ－７～10区Ⅲa・Ⅲb層の調査。航空写真撮影（20日）。
Ｂ－２・３区埋め戻し。Ｂ－７～10区埋め戻し。

本調査終了後、文化財保護法第108条及び遺失物法第４条第１項に基づいて、「埋蔵物発見届」（平成31年１月17日付）を志布志警察署長へ、「発掘調査実施報告書」・「埋蔵文化財保管証」（平成31年１月17日付）を県教育委員会に提出するなど、発掘調査に係る諸手続きを実施した。

第５節　整理・報告書作成作業

整理・報告書作成作業は、令和元～４年度に市埋蔵文化財センターにおいて実施した。

各年度における調査体制及び作業の内容・経過は、以下のとおりである。作業の具体的経過は、日誌抄を月毎に集約して記載する。

調査の体制（令和元年度）

事業主体　鹿児島県大隅地域振興局農村整備課
調査主体　志布志市教育委員会
調査責任者　志布志市教育委員会

		教　育　長	和田幸一郎
調査事務局	〃	生涯学習課長	萩迫　和彦
	〃	文化財管理室長兼	
	〃	埋蔵文化財係長	上田　義明
	〃	主任主査	相美伊久雄
調査担当	〃	主任主査	大窪　祥晃

作業の具体的経過

【７～２月】
遺物洗浄・注記。土器分類。
石器分類、石器実測委託（11～２月）。

調査の体制（令和２年度）

事業主体　鹿児島県大隅地域振興局農村整備課
調査主体　志布志市教育委員会
調査責任者　志布志市教育委員会

		教　育　長	和田幸一郎 （令和３年２月23日まで）
			福田　裕生 （令和３年２月24日から）
調査事務局	〃	生涯学習課長	江川　一正
	〃	文化財管理室長	上田　義明
	〃	生涯学習課長補佐	小村　美義
調査担当	〃	埋蔵文化財係長	相美伊久雄
	〃	技　師　補	川路皐太朗

作業の具体的経過

【７～９月】
遺物洗浄・注記。遺物分類。
【９～２月】
土器接合・復元。石器実測委託（９～２月）。

調査の体制（令和３年度）

事業主体　鹿児島県大隅地域振興局農村整備課
調査主体　志布志市教育委員会
調査責任者　志布志市教育委員会

		教　育　長	福田　裕生
調査事務局	〃	生涯学習課長	江川　一正
	〃	文化財管理室長	上田　義明
	〃	生涯学習課長補佐	小村　美義
	〃	埋蔵文化財係長	相美伊久雄
調査担当	〃	技　師　補	川路皐太朗

作業の具体的経過

【７～９月】
土器接合・復元。
【10～２月】
土器実測、拓本。

調査の体制（令和４年度）

事業主体　鹿児島県大隅地域振興局農村整備課
調査主体　志布志市教育委員会
調査責任者　志布志市教育委員会

		教　育　長	福田　裕生
調査事務局	〃	生涯学習課長	江川　一正
	〃	文化財管理室長	上田　義明
	〃	生涯学習課長補佐	小村　美義
調査担当	〃	埋蔵文化財係長	相美伊久雄
	〃	技　師	川路皐太朗

作業の具体的経過

【６～11月】
遺物写真撮影。土器実測、拓本。石器実測。
遺物・遺構トレース。
【11・12月】
原稿執筆、観察表作成、報告書レイアウト。
【１～３月】
入稿、校正、納本。遺物収納。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

志布志市は、鹿児島県の最東部に位置しており、宮崎県都城市及び串間市と県境をなす。北は曽於市、南西は大崎町と接し、南は太平洋に向け湾口を開く志布志湾に面する。平成18(2006)年１月１日に志布志町・有明町・松山町の三町が合併して誕生した市である。

本市の地形は、東から志布志湾に向かって緩やかに傾斜し、海岸近くで急崖となり、わずかな沖積平野を経て海岸線となる。この海岸線は、西側に旧期砂丘・新期砂丘に二分される砂丘海岸が続くのに対し、東側は日南層群で構成される岩礁海岸となる。市の北東部には御在所岳(530.4m)・笠祇岳(444.2m)・陣岳(349.3m)など、日南層群が構成する急峻な山岳地帯がある。

その西側には入戸火砕流が広く分布し、いわゆるシラス台地を形成し、志布志市の主体をなす。「原(ばる)」と呼ばれる比較的平坦な台地であるシラス台地は、南流する前川・安楽川・菱田川など大小の河川の浸食作用による深い浸食谷(「迫(さこ)」)により細かく刻まれ、大小の狭長な台地となっている。

このシラス台地からは、北部の霧岳(408.3m)や中央部の岳野山（274.3m）、西部の宇都丘(179.1m)・草野丘(268.4m)など、市北東部同様の日南層群が構成する山岳・丘陵が突き出ている。

前述の三河川の流域には、高位・中位・低位の三段の段丘が認められる。低・中位段丘では、段丘崖下からの自然湧水により集落が形成されてきた。一方、高位段丘では、地下水位が深いために集落形成が困難であり、「蓬原開田」や「野井倉開田」などのように近～現代に開かれるまでは、畑地として利用されるにとどまっていた。

この地域の地質は古いほうから、日南層群－阿多鳥浜火砕流－夏井層－阿多(夏井)火砕流－旧期ローム層－入戸火砕流－新期火山灰層となる。日南層群は、主に頁岩・砂岩の細互層から成り、年代は漸新世～前期中新世とされている。阿多鳥浜火砕流は、夏井海岸の一部に認められるもので、23～25万年前とされる。夏井層は、下部の貝や植物の化石を含むシルト層と上部の礫層からなる。阿多(夏井)火砕流は、黒色を呈する溶結度の低い均質な凝灰岩で、年代は8.5～10.5万年前とされる。入戸火砕流は、海岸に沿った地域では海抜40m程のシラス台地を形成する。下部には、大隅降下軽石層が存在する。

倉園Ａ遺跡は、前川河口から北東へ約8.3km上流の、串間市との県境に近い志布志町内之倉に位置する(第３図参照)。標高は約75mで、前川との比高約10mの台地裾部に広がる。後背の台地は最頂部が標高124mある。

地元住民によると、もともと台地裾部は傾斜地であったが、耕地削平及び十文字地区と倉園地区を結ぶ農道の開通により、現在の階段状地形となったとのことである。

第２節　歴史的環境

倉園Ａ遺跡は、昭和39(1964)年に個人による畑地の削平工事中に発見された遺跡で、瀬戸口望氏の論考によって、縄文時代後期の遺跡として広く存在を知られることとなった。

昭和59(1984)年９～10月に、県営特殊農地保全整備事業（十文字・大川内地区）による整備に伴い、隣接する土光Ａ・Ｂ遺跡、風穴遺跡とともに旧志布志町教育委員会が確認調査を実施している。その調査成果は、昭和59年度に刊行された、『志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（10）』にまとめられている。

周囲に縄文時代の遺跡が密集していることもあり、昭和59年度の調査以前まで、遺跡の名称や所在地の記載が文献によって異なる。隣接する倉園Ｂ遺跡と混同しているものも見受けられる。

本遺跡が所在する志布志市には、現在約500ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が認められている。戦前には、大正５(1916)年に六月坂横穴墓群について報告を行った瀬之口伝九郎氏や昭和19(1944)年に出口Ａ遺跡採集の独鈷状石器を紹介した梅原末治氏の調査研究がある。戦後は、河口貞徳氏・諏訪昭千代氏・上村俊雄氏・酒匂義明氏の学術調査・研究に加え、海老原行秀氏・瀬戸口望氏という志布志町在住の研究者による熱心な調査・研究が行われており、学史上重要な遺跡も多い。

1980年代になると、主に志布志町において圃場整備に伴う発掘調査が行われ、縄文時代の調査事例が増加した。

2000年代には、主に有明町において農道整備に伴う発掘調査が行われ、弥生・古墳時代の様相が明らかとなった。最近では、地域高規格道路（都城志布志道路）や東九州自動車道に伴う大規模な発掘調査が行われ、質量ともに充実した資料が増加している。

本市は現在の行政区分では鹿児島県に属するが、過去は日向国に属しており、明治４(1871)年の廃藩置県後も一時期、都城県や宮崎県に属した歴史もある。したがって、この地域の歴史・文化を考える上で薩摩・大隅だけでなく、日向地方の影響も考慮する必要がある。

旧石器時代

中須Ｂ遺跡・蕨野Ｂ遺跡では剥片尖頭器・角錐状石器等が、安楽小牧Ｂ遺跡ではナイフ形石器が出土している。

次五遺跡や和田上遺跡、中原遺跡では、畦原型細石刃核が出土しており、硬質砂岩や珪質頁岩を利用している。畦原型細石刃核が濃密に分布する宮崎平野地域との関係や石材の原産地を考える上で注目される。

縄文時代

志布志町では瀬戸口氏等の調査によって、「縄文銀座」と呼ばれるほど多数の遺跡が見つかっている。

草創期　学史上重要な東黒土田遺跡がある。隆帯文土器や舟形配石炉、貯蔵穴が見つかっている。特に貯蔵穴から出土した堅果類は日本最古である。安楽小牧Ｂ遺跡では、爪形文土器が出土している。

早期　本遺跡の北側の後背台地にある倉園Ｂ遺跡や春日堀遺跡からは、前半期の竪穴建物や集石、連穴土坑が多数見つかった。また、前半期の連穴土坑や多数の集石、被熱破砕礫が見つかった稲荷迫遺跡・高吉Ｂ遺跡・下堀遺跡・横堀遺跡・次五遺跡、塞ノ神Ａ式壺形土器等の良好な資料が出土した夏井土光Ｂ遺跡、耳栓が出土した稲荷上遺跡・横堀遺跡・安楽小牧Ｂ遺跡など、シラス台地縁辺部に遺跡数が多い。

前期　曽畑式が出土した別府石踊遺跡、野久尾遺跡、本村遺跡などがあるが、調査事例は少ない。

中期　この時期も調査事例は少ないものの、春日式期の竪穴建物が見つかった前谷遺跡、野久尾式や深浦式・船元式が出土した野久尾遺跡のように重要な遺跡がある。このほか、宇都遺跡や山ノ口遺跡では大平式の良好な資料が出土している。

後期　代表する遺跡として中原遺跡と片野洞穴がある。中原遺跡では在地系の宮之迫式・指宿式と瀬戸内系の中津式･福田ＫⅡ式･宿毛式の良好な資料が多数出土している。片野洞穴は本遺跡から北西へ約1.7㎞の場所に位置し､西平式～御領式期の動物骨や貝殻、釣針やかんざし等の骨角器が出土している。

市内は、中岳Ⅱ式の遺跡が多く認められており、下原遺跡では竪穴建物跡と埋設土器が、稲荷迫遺跡では埋設土器が見つかっている。

このほか、後期のほぼ全ての型式が出土した家野遺跡、独鈷状石器が見つかった出口Ａ遺跡がある。

晩期　井手上Ａ遺跡や上苑遺跡では入佐式深鉢の埋設土器が見つかっている。

小迫遺跡では黒川式期の良好な資料が認められており、クズの葉と推定される木葉痕をもつ組織痕土器が出土している。

弥生時代

縄文時代に比べると調査事例は少ないものの、学史上重要な遺跡が存在する。一つは京ノ峯遺跡で、中期後半の円形・方形周溝墓が多数見つかっている。南九州では稀有な墓制であり、近畿・瀬戸内地方の影響が考えられている。

もう一つは土橋遺跡で、明治40(1907)年、中広形銅鉾が見つかっている。県内唯一の、さらに本土最南端の発見例である。中期後半に位置づけられるもので、中広形銅矛は高知県中央～西部、豊前～豊後地域に分布が集中することから、豊後水道地域における地域間交流の過程でもたらされた可能性が指摘されている。

稲荷迫遺跡では中期前～中葉の入来Ⅰ・Ⅱ式期の土坑墓が検出された。この遺跡では、刻目突帯文土器の良好な資料が認められている。刻目突帯文土器が主体を占める遺跡は大隅半島では稀であり、注目される。

小迫遺跡で出土した､刻目突帯文土器期精製浅鉢からは、イネやエゴマの圧痕が見つかっている。最近実施されたイネの潜在圧痕の炭素14年代測定によって、現状における南九州最古のイネ資料であることが確認された。

井手上Ａ遺跡では、中期中葉の入来Ⅱ式期の竪穴建物が見つかっている。中期後半の山ノ口Ⅱ式期になると竪穴建物の検出例が増加し、高吉Ｂ遺跡、長田遺跡、本村遺跡、下原遺跡、井手間遺跡、前谷Ｂ遺跡がある。

京ノ峯遺跡や高吉Ｂ遺跡、稲荷迫遺跡では瀬戸内地域から搬入された土器が出土している。夏井土光遺跡では柱状片刃石斧が出土している。

古墳時代

集落遺跡は、有明町において調査事例が多い。仕明遺跡や春日堀遺跡では弥生時代終末期～古墳時代前期の、屋部当遺跡では辻堂原～笹貫式期の、長田遺跡では笹貫式期の竪穴建物が見つかっている。志布志町でも、稲荷迫遺跡において笹貫式期の竪穴建物が見つかっている。なお、春日堀遺跡で見つかった古墳時代前期の花弁形建物跡は県内最大である。

市内は、本遺跡のように笹貫式新段階期（７世紀代）の調査事例が多く、宮脇遺跡、安良遺跡、仕明遺跡、春日堀遺跡がある。春日堀遺跡では、竪穴建物・掘立柱建物・溝が見つかっており、７世紀中～後半頃の集落跡とされる。溝は、安良遺跡でも見つかっている。

市内では、県内での出土例が少ない６世紀末～８世紀前半頃の須恵器が多数認められており、様相が不明瞭な７世紀代の南九州を考える上で、重要な地域である。

古墳は、前方後円墳の飯盛山古墳と小牧１号墳、円墳の原田古墳がある。飯盛山古墳は出土した埴輪から中期初め(４世紀後半)､原田古墳は出土した須恵器から中期中頃(５世紀中頃)､そして小牧１号墳は採集された須恵器から後期後半(６世紀後半)に築造された可能性ある。

これら以外には、原田地下式横穴墓群や馬場地下式横穴墓群がある。平成29(2017)年12月に発見された原田３号地下式横穴墓からは、完全な形の短甲が出土した。完全な形での出土例は、鹿屋市祓川地下式横穴墓出土例以来67年ぶり２例目となった。短甲以外にも長頸鏃、圭頭鏃、ヤリ先、鉄剣、刀子、有肩鉄斧、Ｕ字形鍬鋤先、鑷子状鉄製品など40点程の副葬品が見つかっている。地下式横穴墓としては県内最大級の規模をもち、県内最多の副葬品数である。志布志とヤマト政権との関係を考える上で重要な発見となった。また、春日堀遺跡と安良遺跡でも地下式横穴墓が見つかっている。ともに溝を掘り込んで玄室を構築しており、注目される。

県内では２例しか認められていない横穴墓が市内には存在していた。それは六月坂横穴墓群であり、明治42(1909)年に旧制志布志中学校敷地整地の際発見されたもので、後期末～奈良時代初め(６世紀後半～８世紀前半)の須恵器などが見つかっている。

六月坂横穴墓群や志布志湾岸では希少な６世紀代の前方後円墳である小牧１号墳の存在は、後に日向国諸県郡に属することになるこの地域を考える上で注目される。

古代

水ヶ迫横穴墓で須恵器の蔵骨器が見つかっている。墨書土器が小迫遺跡、安良遺跡、牧ノ原Ａ遺跡、井手上Ａ遺跡で出土している。製塩土器が野久尾遺跡、宮脇遺跡、稲荷迫遺跡、仕明遺跡など出土している。

８世紀代の須恵器が宮脇遺跡や安良遺跡などで出土しているように、８世紀代までは市内でも遺跡が確認されるものの、９世紀以降は様相がはっきりしない。調査事例が乏しいこともあるが、７世紀代に比べると遺跡自体が少ない可能性もある。

中世

この地域は中世において日向国諸県郡救仁院・救仁郷とされた。「志布志」の名が史料で確かめられるのは、正和５(1316)年のことで、「日向方島津御庄**志布志津**大沢水宝満寺敷地…」(『沙弥蓮正打渡状案』)とあり、万寿３(1026)年平季基が開いた島津庄・日向諸県郡一帯の港であったと考えられている。

室町時代以降も交通の要衝として栄えていたようであり、永禄５(1562)年に著された明の海防･倭寇対策書である『籌海図編』巻二（倭国事略）には、薩摩・大隅の港の一つとして記された「審孛署」は志布志とされる。

このような交通の要衝であった志布志を巡って、中世の約400年間に武士興亡の歴史が繰り広げられた場所が国指定史跡の志布志城跡である。

志布志城とは、内城・松尾城・高城・新城の四城の総称である。志布志城は文治５(1189)年頃の救仁院氏の居城に始まって以来、楡井氏・畠山氏・肝付氏・島津氏など数々の領主に変遷した。

平成18(2006)年以降、保存整備目的で継続的に発掘調査が行われ、華南三彩のような中世後期の中国産陶磁器や東南アジア産陶器も出土している。

この他市内には建久(1190～1198)年間に地頭弁済使安楽平九郎為成の居城とされる安楽城跡、文治４(1188)年に平重頼によって築かれたとされる松山城跡、南北朝期(1359年)に救仁郷氏の居城とされる蓬原城跡などが存在する。

中世山城以外の調査事例では、安良遺跡が注目できる。この遺跡では、掘立柱建物や竪穴建物が見つかっている。また、中世前期の輸入陶磁器や国産陶器のほか、畿内系羽釜、楠葉型・和泉型瓦器碗も出土している。炭化ご飯塊と炭化籾塊の出土も注目される。安良遺跡から約１㎞北に位置する安楽城跡や明治26(1893)年に境内から青白磁四耳壺の蔵骨器や鏡・太刀・青白磁合子などが見つかっている安楽山宮神社を含めて、その歴史的背景が注目される。

長田遺跡や仕明遺跡では、中世墓が見つかっている。宇都上遺跡では、石塔類や輸入陶磁器、国産陶器、そしてタイ産四耳壺等が埋まっていた大型土坑が検出された。

近世

日向国諸県郡志布志郷とされ、東を秋月藩と接することから陸海ともにきわめて重要な郷であった。

現在の志布志小学校に地頭仮屋がおかれ、その周辺には武家屋敷が建ち並ぶ「麓」を形成していた。この「志布志麓」は、令和元(2019)年５月に日本遺産に認定された。

藩米等の集積・積出港であった前川河口には、津口番所が置かれていた。藩政末期には琉球を通しての密貿易が行われ、その商人であった中山宗五郎の屋敷は密貿易屋敷と呼ばれていた。

これら地頭仮屋跡・津口番所跡・密貿易屋敷跡では、確認調査が行われ、陶磁器類が出土している。

船迫遺跡では、県内遺跡からは初の出土例となった二分金が見つかっている。

近代

明治４(1871)年の廃藩置県によって、鹿児島県諸県郡志布志郷となり、同年11月には新設の都城県に属した。明治６(1873)年には宮崎県の所管に移されたが、明治９(1876)年に宮崎県が鹿児島県に編入されることに伴い再び鹿児島県に属することになった。そして、明治16(1883)年宮崎県再設置の際は鹿児島県に残り､鹿児島県南諸県郡に属した。

この時期の遺跡では戦争遺跡が注目できる。太平洋戦争末期、連合軍の南九州上陸作戦（オリンピック作戦）を予想した日本軍は志布志湾沿岸に洞窟式の地下陣地を造った。その現存している一つが､権現島水際陣地跡である。また、野井倉台地には昭和20(1945)年に海軍航空隊志布志基地（野井倉飛行場）が建設された。

（参考文献）※発掘調査報告書は割愛した。

有明町誌編さん委員会　1980『有明町誌』

梅原末治　1944「大隅発見の異形石器」『人類学雑誌』59―7

大木公彦・内村公大　2012『夏井海岸の地形・地質調査報告書』志布志市教育委員会

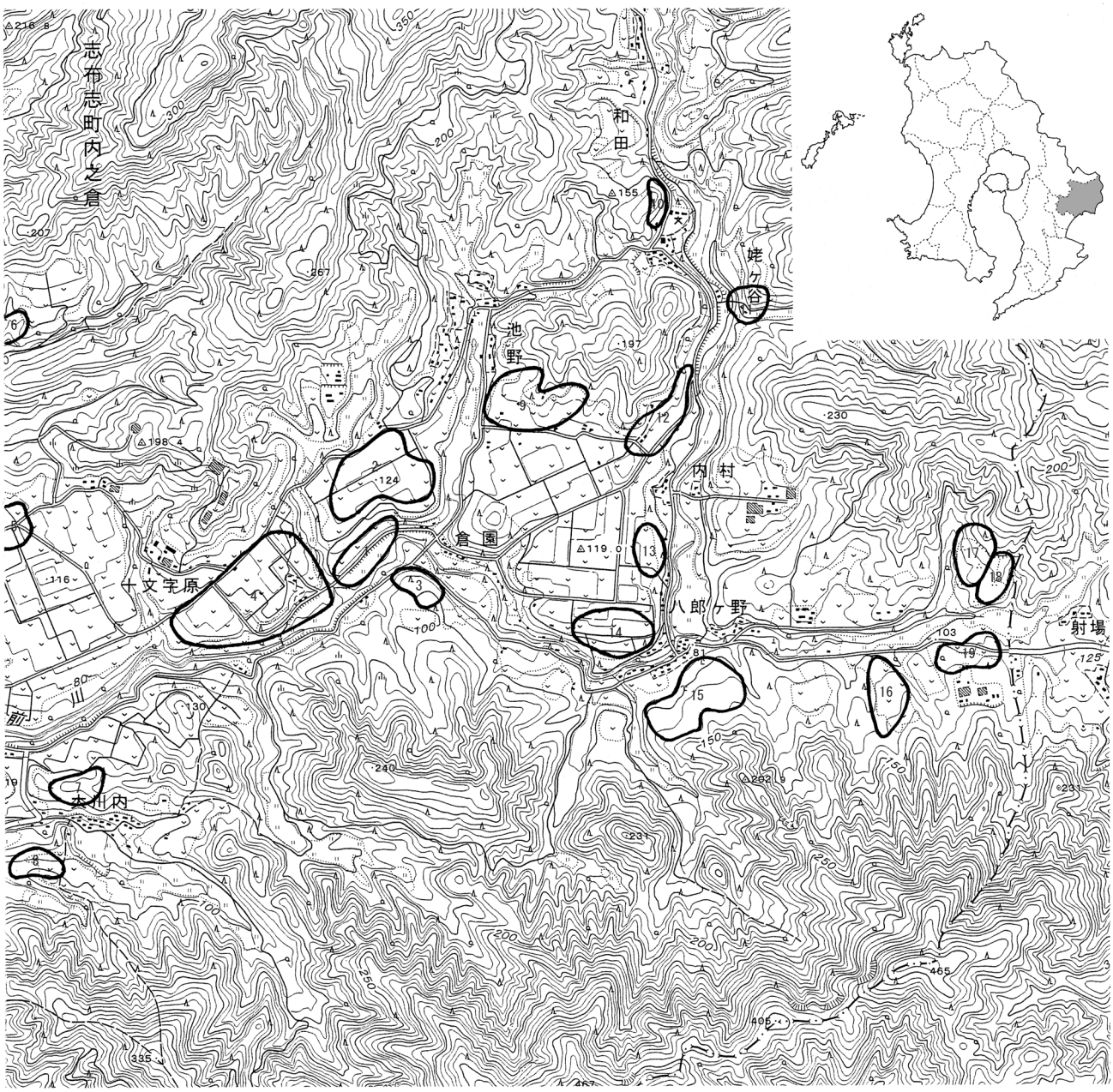
小畑弘己・真邉彩・國木田大・相美伊久雄　2022「土器包埋炭化物測定法による南九州最古のイネの発見－志布志市小迫遺跡出土のイネ圧痕とその所属時期について－」『日本考古学』54　日本考古学協会

黒川忠広　2018「瀬戸口望コレクションの紹介～志布志市坂之上遺跡～」『黎明館調査研究報告』30

志布志町誌編集委員会　1972『志布志町誌』上巻

志布志町教育委員会　1985『志布志の埋蔵文化財』

瀬戸口望　1974「倉園遺跡採集の指宿式土器と其の他について」『鹿児島考古』10　鹿児島県考古学会



第３図　遺跡位置及び周辺遺跡（１：12,500）

第１表　周辺遺跡地名表

No.	遺跡番号	遺跡名	所在地	旧石器	縄文	弥生	古墳	古代	中世
1	221-171	倉園Ａ	志布志町内之倉字大原		○		○		
2	221-86	倉園Ｂ	志布志町内之倉字池野	○	○				
3	221-264	倉園Ｃ	志布志町内之倉字前原		○				
4	221-172	十文字	志布志町内之倉字十文字		○				
5	221-173	向園	志布志町内之倉字向園ほか		○				
6	221-156	片野洞穴	志布志町内之倉字宮前		○	○			
7	221-154	風穴	志布志町内之倉字風穴ほか		○				
8	221-175	平原	志布志町内之倉字平原		○				
9	221-170	池野	志布志町内之倉字大原		○				
10	221-230	和田	志布志町内之倉字和田			○			
11	221-167	姥ケ谷	志布志町内之倉字姥ケ谷		○	○			
12	221-169	井手平	志布志町内之倉字井手平	○	○				
13	221-216	八郎ケ野Ｂ	志布志町内之倉字向原		○				
14	221-87	八郎ケ野Ａ	志布志町内之倉字向原	○	○				
15	221-196	八郎ケ野Ｃ	志布志町内之倉字八野		○				
16	221-97	八野	志布志町内之倉字八野		○				
17	221-218	東黒土田Ｂ	志布志町内之倉字東黒土田			○			
18	221-83	東黒土田	志布志町内之倉字東黒土田	○	○				
19	221-168	東黒土田Ｃ	志布志町内之倉字東黒土田		○				

第３章　調査の方法

第１節　発掘調査の方法

１　発掘作業の方法

調査範囲は、ほ場整備によって埋蔵文化財に影響が及ぶ範囲である。具体的には、２・８トレンチ周辺である。

調査対象表面積は、調査中に確認トレンチを設定して調査範囲の絞り込みを行った結果、1,000㎡となった。

工事の掘削深度の関係上、アカホヤ火山灰層（Ⅳ層）以下については調査を行っていない。

調査区の基準軸は、業者に委託して設定した。南北方向にＡ～Ｄ、東西方向に１～17とする10×10ｍのグリッドを設定している（第４図）。

このグリッドを基にして、遺構・遺物の測量作業を行った。トータルステーションで測量作業を行う場合、測量座標はＡ－17区の右上を原点（０、０）とし、縦軸をＸ、横軸をＹとした。

レベルは、委託業者が設置した基準点(Ｈ＝73.183ｍ)を用いた。

発掘作業は、表土（Ⅰ層）を重機により除去し、表土最下部から人力（鋤簾・山鍬）による掘り下げを行った。人力掘り下げの際、出土遺物が少ない場所では鋤簾を中心に用い、遺物が集中している場所はねじり鎌を用いた。

出土した遺物はトータルステーションを用いて、番号を付して取上げた。番号を付したものは、包含層と遺構内出土合わせて約19,200点である。小型の遺物や特徴のない遺物は、グリッド毎に一括して取り上げた。一括取上げ分を含めると、40,000点以上（コンテナケース70箱分）になる。

遺物出土状況の写真撮影は、時期比定可能なものなど、特徴的なものを主な対象とした。なお、遺構調査状況を含め、撮影時に使用したフィルムは、白黒・カラーリバーサルの２種類である。デジタルカメラも使用した。

土層断面図は、調査区の地形が表現できる箇所を選んで実測した（1/20スケール）。

２　遺構の調査方法

検出した遺構には、集石、土坑、溝状遺構がある。遺構のほとんどは、Ⅳ層上面で検出した。当時の掘り込み面に限りなく近いレベルでの検出ができるように調査を行ったものの、結果的に判別しやすい地層面での検出となった。

遺構を検出した順に集石は「SS」の略記号を、土坑は「SK」の略記号を、溝状遺構は「SD」の略記号を用いた。

これらの遺構は、検出状況の写真撮影後、土層観察用ベルトを設定し、掘り下げ、出土遺物の写真撮影・取上げ、土層断面実測・撮影、完掘、完掘状況実測・撮影を行った。

土坑の掘り下げには半截法を、溝状遺構の掘り下げには任意の箇所にベルトを残す方法を用いた。そして、埋土の違いを比較しながら移植ゴテで掘り下げた。

出土遺物は、トータルステーションを用いて、番号を付して取り上げた。なお、小型の遺物や特徴のない遺物は、一括取上げを行った。集石の礫も番号を付して取り上げた。

実測について、集石と土坑は1/10スケールで行った。溝状遺構は、トータルステーションを用いた。

調査中及び終了後、遺構の検出層や埋土状況、遺構内出土遺物、土層断面等の情報から、遺構の形成時期や性格等の検討を行った。

３　整理作業の方法

図面整理は、土層断面図と遺構実測図に区分し、さらに遺構実測図は種類別に仕分けを行い、台帳や遺物との照合及び再確認を行った。

洗浄について、土器・礫石器・礫はブラシを用いて、剥片石器は超音波洗浄器を用いて土の除去を行った。

注記は、遺跡名を表す「KRZ.A」を頭に、包含層出土遺物は続けて「グリッド区」「層」「取上番号」の順で記入した。遺構出土遺物は「KRZ.A」に続けて「遺構記号」「取上番号」の順で記入した。なお、剥片石器は注記を行っていない。包含層及び集石の礫は注記を行わず、観察後破棄した。

土器の接合は、時代ごとに大きく分類した後、型式ごとに細分して行った。接合後、報告書掲載遺物の選別を行い、実測・拓本・トレースを行った。

石器は、器種ごとに細分した。分類後、報告書掲載遺物の選別を行い、実測・トレースを行った。一部石器の実測・トレースは、作業の効率化を図るために業務委託を行った。

実測遺物には、実測番号を付して作業管理を行った。遺物のトレースは、ロットリングペンを用いた。遺構図のトレースは、ロットリングペンを用いた。土層断面図と遺構配置図は、デジタルトレースを行った。

４　出土遺物の分類・選別の方法

（１）土器

土器は主にアカホヤ層上位のⅢa層とⅢb層から出土しており、そのほとんどが縄文前期～弥生初頭に属する。分類は、既存の型式にあてはめて行った。

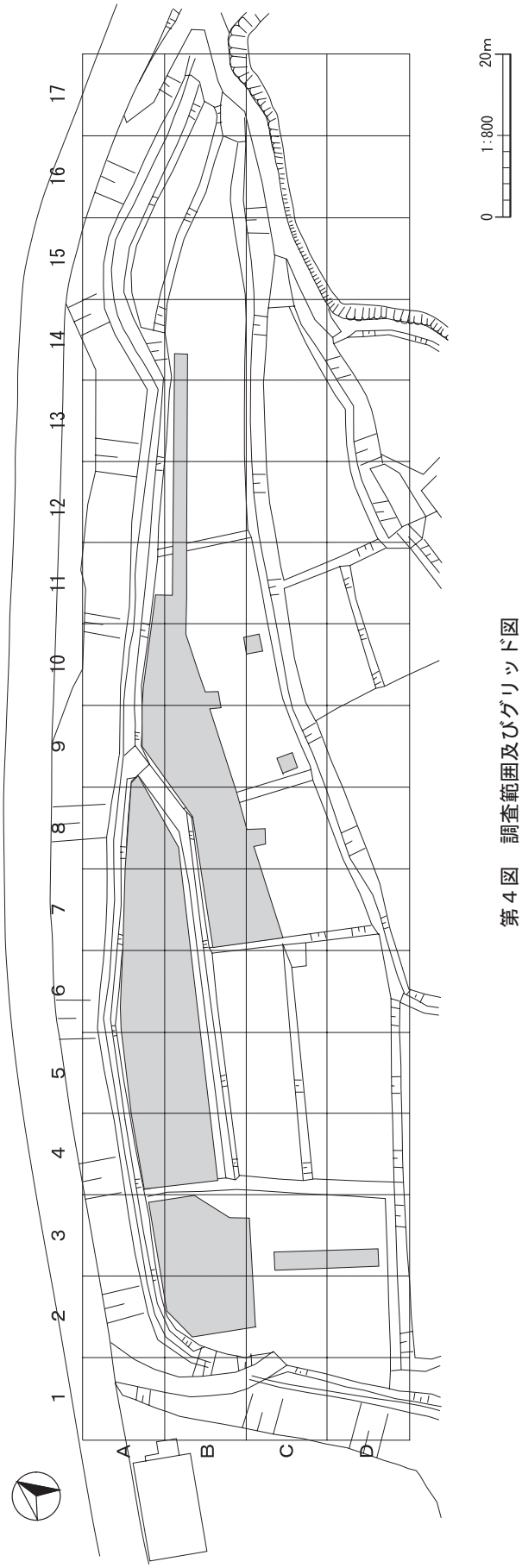
特徴がない、あるいは小片のため判断できないものは、「無文土器」や「条痕文土器」として扱っている。分類の詳細は、第４章において述べる。

報告書掲載遺物の選別について、各類の中で数量が多いものは、口縁部や底部など特徴的なものを優先した。小片であっても、各類の中で少数のものや時期比定可能なものはできるだけ選んでいる。

（２）石器

石器も土器と同じくⅢa層とⅢb層から出土しており、そのほとんどが縄文前期～弥生初頭に属すると考える。

出土石器は器種ごとに分類し、さらにその器種内で石材分類を行った。詳細は、第４章において述べる。



第４図　調査範囲及びグリッド図

報告書掲載遺物の抽出は、器種の中で数量が少ないものはそのほとんどを抽出し、数量が多いものは特徴的なものを優先した。

（３）石材分類

石材分類について、肉眼観察によってある程度石材産地が推定できる黒曜石は細分を行った。チャートも主に色調により細分を行った。

このほか、ギョクズイ、鉄石英、珪質頁岩、頁岩、砂岩、凝灰岩、花崗岩などが認められる。主な石材の詳細は以下のとおりである。

黒曜石１類

透明感があり、不純物を多く含むもの。アメ色～青味がかった灰色を呈する。鹿児島県三船で採取される黒曜石に類似する。

黒曜石２類

不純物を多く含み、漆黒で光を通さないもの。鹿児島県上牛鼻などで採取される黒曜石に類似する。

黒曜石３類

アメ色～黒色を呈し、不純物を含まない良質なもの。佐賀県腰岳で採取される黒曜石に類似する。

黒曜石４類

青灰色を呈し、不純物を少し含むもの。長崎県東浜で採取される黒曜石に類似する。

黒曜石５類

灰白色で少し光を通し、黒色の粒状不純物を含むもの。大分県姫島の黒曜石に類似する。

チャート１類

基調が白色系の色調を呈するもの。

チャート２類

基調が青灰色～緑色系の色調を呈するもの。

チャート３類

基調が黒色～黒褐色系の色調を呈するもの。

玻璃質安山岩

元来は黒色を呈するが､風化すると灰白色を呈するもの。不純物をほとんど含まない。

ギョクズイ

珪質分に富み、白色系の色調を呈するもの。

鉄石英

珪質分に富んで透明感がなく、赤色を呈するもの。

珪質頁岩

表面にぬめりをもち、油脂光沢があるもの。黒色及び白色を呈する。

粘板岩

薄く板状に剥離するもので、暗灰色～黒色系の色調を呈する。赤化した鉄分が、表面に付着する。

第２節　地形と層位

１　地形

本遺跡の発掘調査前の状況は、南側の前川に向かって下がっていく段々の田畑が広がっていた。旧地形もアカホヤ上面での地形測量図（第５図）で示したように、北から南へ傾斜していたことがわかる。

なお､北へ向かうほど傾斜は急になっている｡そのため、調査範囲の最北部は表土除去後にⅣ層途中あるいはⅤ層が検出されている（網ふせ箇所）。

２　層位（第６～10図）

基本層位は、平成30年度に実施した確認調査時のものを参考にした。ただし、川に近いこともあって部分的に存在する地層もある。詳細は、以下のとおりである。

Ⅰ層：現耕作土（Ⅰa層）・旧耕作土（Ⅰb層）・造成土などである｡色調や含有物により､数枚に細分可能である。Ⅰb層下部は、鉄分が凝縮し、土が凝固していることが多い（いわゆる水田の盤である）。

Ⅱa層：黒褐色（10YR3/2）のシルト質土で、締まっている。明黄褐色パミスをまんべんなく含み、全体的に赤味を帯びる。上面をⅠ層に削られている。層厚は約15㎝。

Ⅱb層：黒褐色（10YR3/1）のシルト質土で、やや締まっている｡黄橙色パミス（径１～２㎜）をまんべんなく含み、黄橙色パミスは下位ほど多くなる。層厚は約20㎝。

Ⅲa層：にぶい黄褐色（10YR4/3）のシルト質土で、締まっている。やや砂質気味である。下部に黄橙色パミス（径２～３㎜）を多く含む。川に近いほど色調が暗くなる。層厚は約50㎝。縄文前～晩期遺物包含層。

Ⅲa-１層：Ⅲa層よりも黄橙色パミスを多く含む。

Ⅲa-２層：にぶい黄褐色（10YR5/4）シルト質土で、締まりが弱い。黄橙色の砂を含む。Ｂ－９・10区の川側に部分的に認められる。

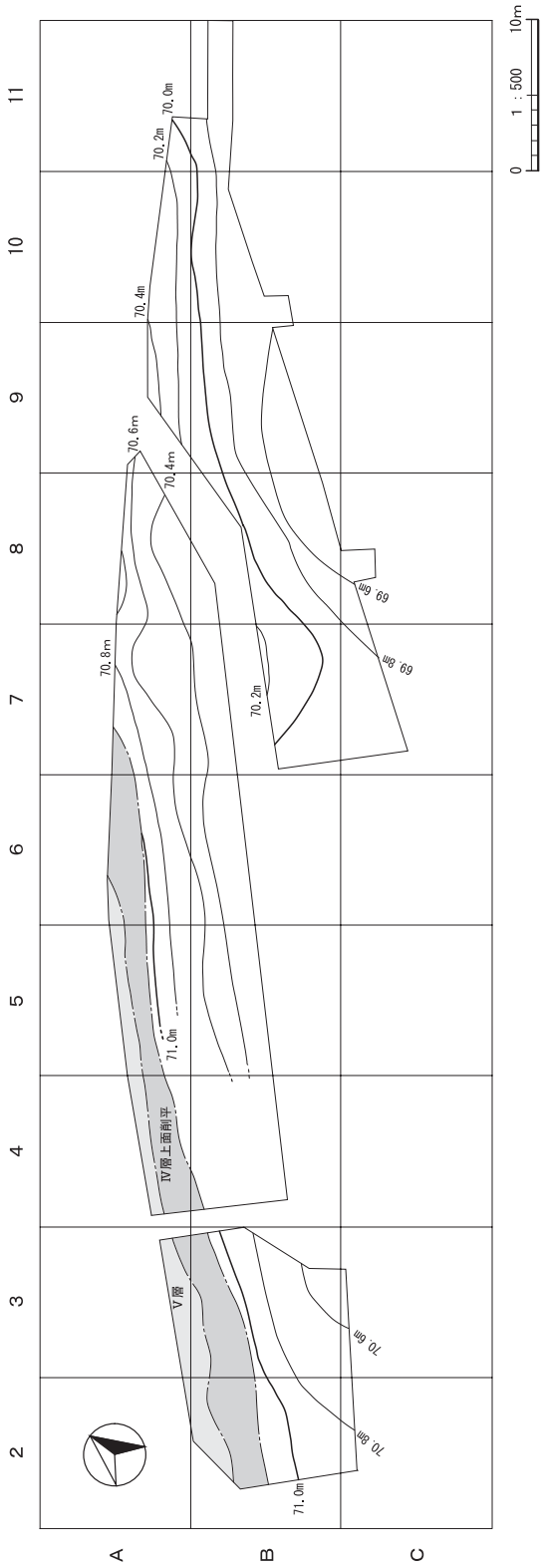
Ⅲb層：褐色（10YR4/4）シルト質土で、締まっている。黄橙色パミス（径２～３㎜）を含む。層厚は約20㎝。縄文前～後期遺物包含層。

Ⅳ層：黄褐色（10YR7/8）のシルト質土で､締まっている。やや砂質気味である。アカホヤ火山灰層。川に近いほど堆積がしっかりしない。層厚は約30㎝。

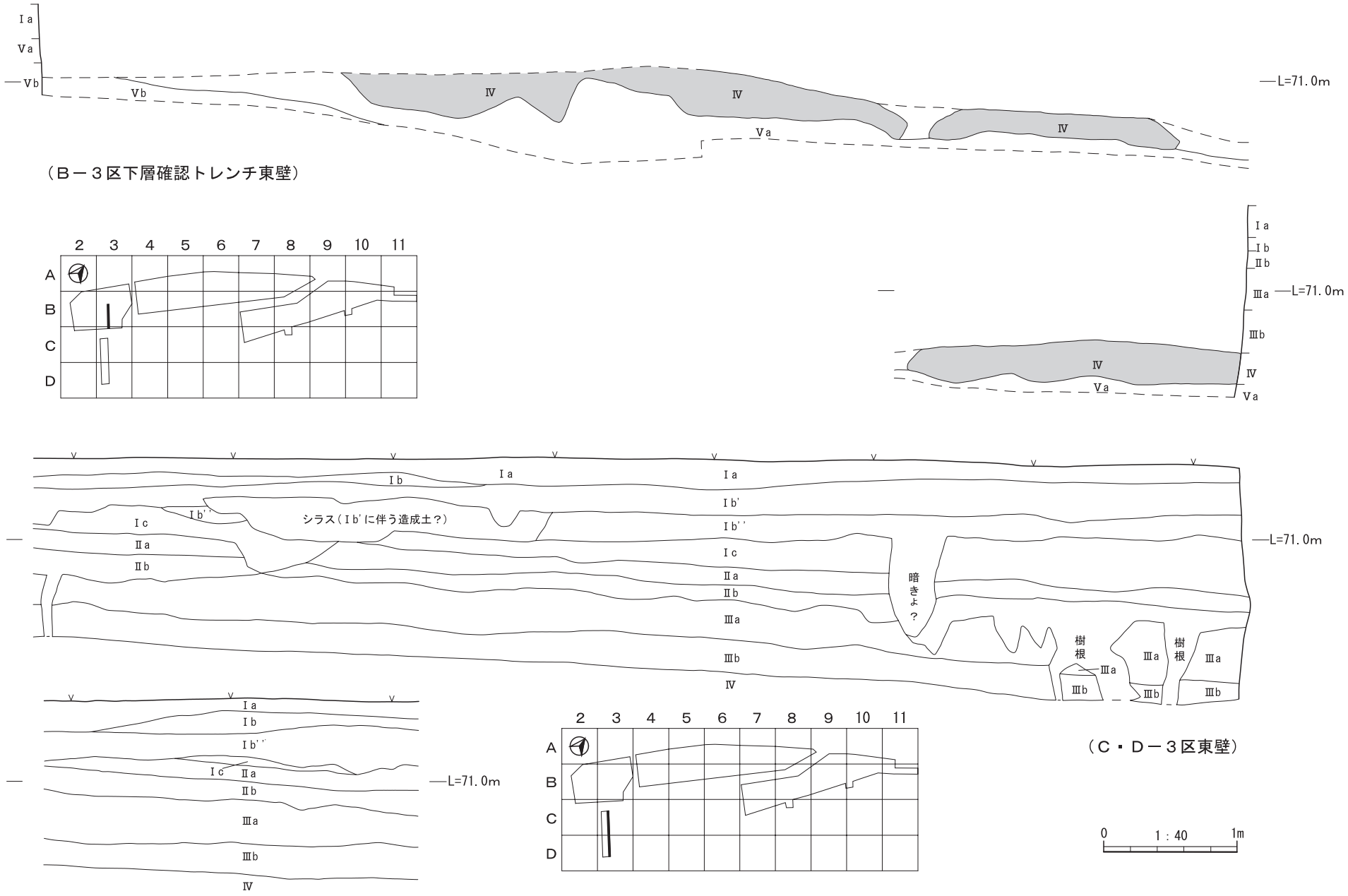
Ⅴa層：黒色（10YR2/1）のシルト質土で、締まりが弱い。白色粒子（径１～２㎜）をまんべんなく含む。黄橙色パミス（径１～２㎜）をわずかに含む。礫を含む。層厚は約15㎝。

Ⅴb層：暗褐色（５YR3/2）シルト質土で、締まり弱い。白色粒子と黄橙色パミスをわずかに含む。礫を含む。

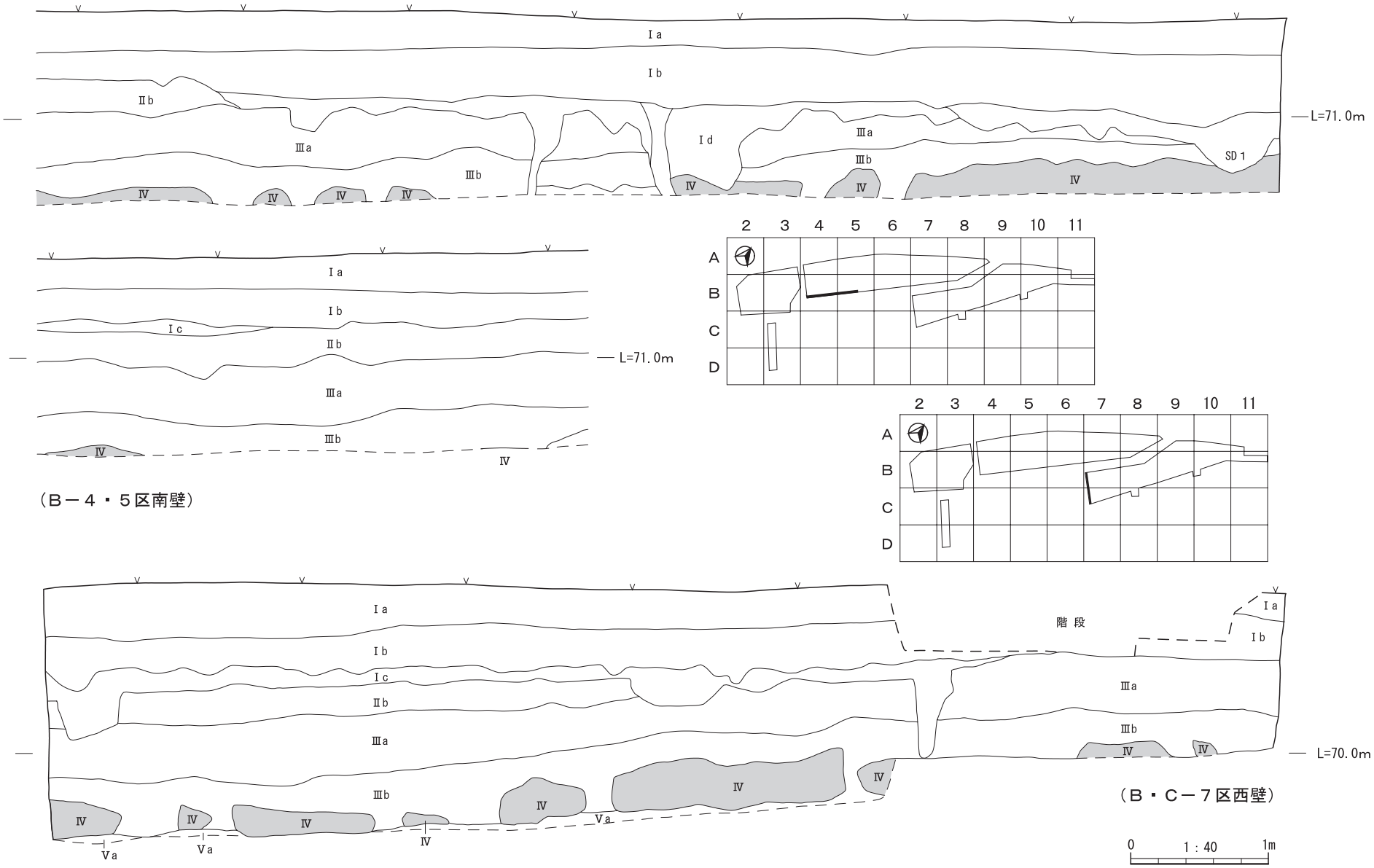
Ⅵ層：暗褐色（10YR3/3）シルト質土で、かなり締まっている。薩摩火山灰層か？



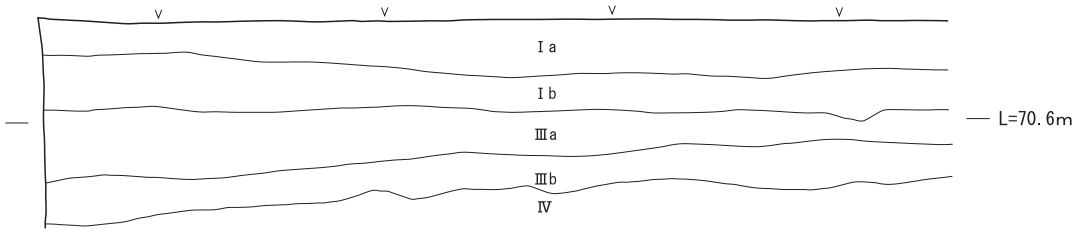
第５図　Ⅳ層（アカホヤ層）上面地形測量図

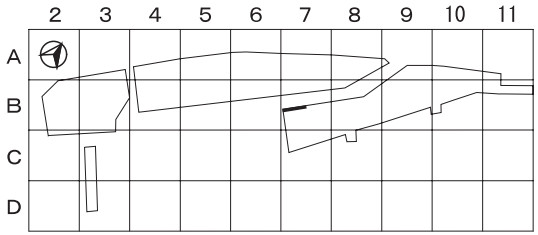

Ⅰa
Ⅴa
Ⅴb
Ⅳ
Ⅳ
Ⅳ
Ⅴa
L=71.0m
（Ｂ－３区下層確認トレンチ東壁）
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
A
B
C
D
Ⅰa
Ⅰb
Ⅱb
Ⅲa
Ⅲb
Ⅳ
Ⅴa
L=71.0m
Ⅰb
Ⅰa
Ⅰa
Ⅰb'
Ⅰb''
Ⅰc
Ⅱa
Ⅱb
シラス（Ⅰb'に伴う造成土？）
暗きょ？
樹根
Ⅲa
Ⅲb
L=71.0m
（Ｃ・Ｄ－３区東壁）
0 1：40 1m

第６図　土層断面図（１）

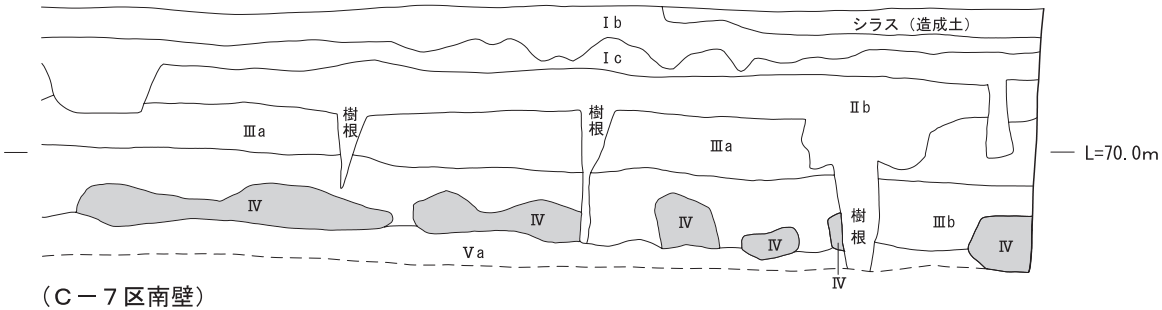

Ⅰa
Ⅰb
Ⅱb
Ⅲa
Ⅲb
Ⅳ
Ⅰd
SD1
L=71.0m
Ⅰc
（B－４・５区南壁）
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
A
B
C
D
階段
Va
L=70.0m
（B・C－７区西壁）
0 1：40 1m

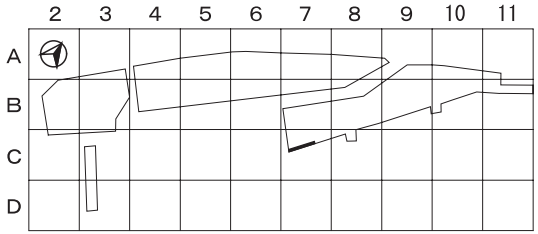
第７図　土層断面図（２）



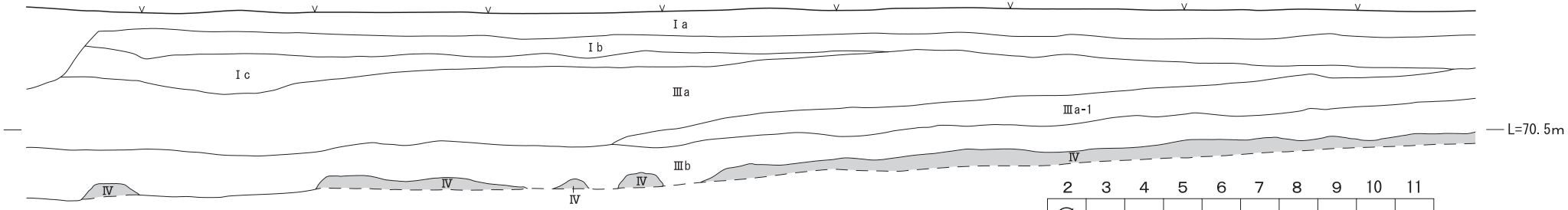


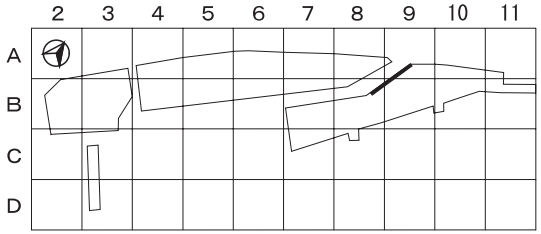
（Ｂ－７区北壁）





（Ｃ－７区南壁）

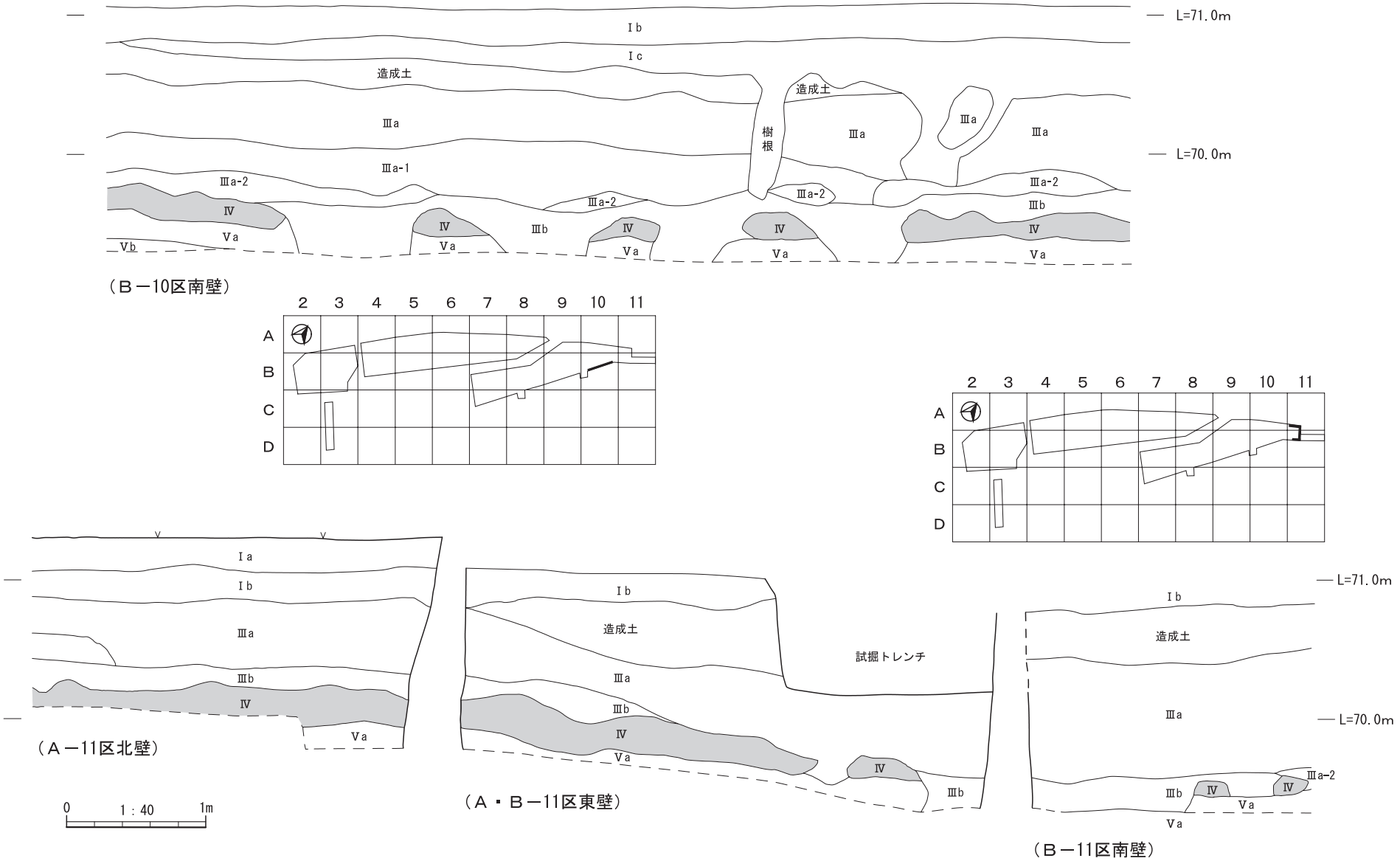




（Ｂ－８・９区北壁）

0　1：40　1m

第８図　土層断面図（３）


L=71.0m
L=70.0m
Ⅰb
Ⅰc
造成土
Ⅲa
Ⅲa-1
Ⅲa-2
Ⅳ
Ⅴa
Ⅴb
Ⅲb
樹根
（Ｂ－10区南壁）
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
A
B
C
D
Ⅰa
（Ａ－11区北壁）
0 1：40 1m
試掘トレンチ
（Ａ・Ｂ－11区東壁）
（Ｂ－11区南壁）

第９図　土層断面図（４）

第４章　調査の成果

第１節　縄文時代～弥生時代初頭の調査

１　調査の概要

ほ場整備工事の掘削深度の関係上、アカホヤ火山灰層（Ⅳ層）以下の調査は行っていない。そのため、縄文前期以降が対象となる。

ただし、アカホヤ火山灰上位層から縄文時代前期以降の遺物に混在する状況で、縄文早期の土器が８点確認されている。

縄文前期～弥生初頭の遺物は、主にⅢa層とⅢb層から出土しており（番号取上分で約19,200点）、調査区の７区以東からの出土が多い（第10図上）。特に８区以東は、足の踏み場がないほど多量に出土した。

遺構は、そのほとんどが標高の高いＡ・Ｂ－５～８区で認められた（第10図下）。遺構は、遺物分布の薄い場所で検出されている。

２　遺構

（１）土坑（第11～13図）

人為的に掘り込まれた遺構を土坑と、７基認定した。当初土坑として調査を行ったものの、平面形や床面がいびつである等の理由から人為的なものではないと判断したものもある。

全てⅣ層（アカホヤ火山灰層）上面で検出している。掘り下げは半裁法を用いて、埋土の違いを確認しながら移植ゴテで行った。

平面形態は楕円形もしくは不定形で、全て単独で検出されている。埋土内から土器が出土したものもある。

土坑１号（SK１）

Ａ－５区Ⅳ層上面で検出した。平面形は1.4×1.25ｍの不定形を呈する。最深は0.4ｍを測り、床面はＶa層、一部はⅥ層上面まで達している。

埋土は、にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト質土で、締まっている。下部ほど黒味を帯びる。Ⅲa層土に類似する。

土坑２号（SK２）

Ａ－５区Ⅳ層上面で検出した。平面形は1.2×0.7ｍの細長い不定形を呈する。最深は0.2ｍで、床面はＶa層となる。

埋土は褐色（10YR4/6）シルト質土で、やや締まっている。Ⅲa層土に類似する。

土坑５号（SK５）

Ｂ－６・７区Ⅳ層上面で検出した。平面形は1.95×0.5ｍの長楕円形を呈する。北側にはテラスをもつ。最深は0.3ｍを測り、床面はＶ層となる。

埋土は、灰黄褐色（10YR4/2）シルト質土で、締まっている。灰白色パミス・黄橙色パミスを含み、アカホヤ層ブロックをわずかに含む。Ⅲb層土に類似する。

土坑６号（SK６）

Ｂ－７区Ⅳ層上面で検出した。平面形は1.3×0.6ｍの長楕円形を呈する。最深は0.3ｍを測り、床面はＶa層となる。

埋土は、灰黄褐色（10YR4/2）シルト質土で、締まっている。灰白色パミス・黄橙色パミスを含み、アカホヤ層ブロックをわずかに含む。Ⅲb層土に類似する。

土坑７号（SK７）

Ａ－７区Ⅳ層上面で検出した。Ⅲa層掘り下げ時から黄橙色パミスが密集していたため、何らかの遺構が存在することは予想できていたものの、平面プランが明瞭となったのはⅣ層上面であった。

平面形は1.3×1.25ｍの不定形を呈する。掘り過ぎたため、上場ラインが不明な箇所が一部ある。最深は0.45ｍを測り、床面はＶa層となる。

埋土は、暗褐色（10YR3/3）シルト質土で、締まっている。Ⅲb層土に類似する。

土坑８号（SK８）

Ａ－８区Ⅳ層上面で検出した。平面形は1.3×0.8ｍの長楕円状の不定形を呈する。最深は0.4ｍを測り、床面はＶa層となる。

埋土は暗褐色（10YR3/3）シルト質土で、締まっている。灰白色パミス・黄橙色パミスを多く含み、アカホヤ層ブロックを含む。Ⅲb層土に類似する。

土坑10号（SK10）

Ｂ・Ｃ－７区Ⅳ層上面で検出した。平面形は1.85×1.4ｍの不定形を呈する。最深は0.4ｍを測り、床面はＶa層となる。

埋土は黒褐色（10YR3/1）シルト質土で、締まっている。径１㎝程の黄橙色パミスを含む。Ⅲb層土に類似する。

埋土内からは、土器24点、石器１点が出土した。土器は、そのほとんどが型式不明の胴部片であるが、３類土器１点（第22図８）と９類土器１点（第25図48）が認められる。石器は、黒曜石１類の剥片である。

（２）集石（第14図）

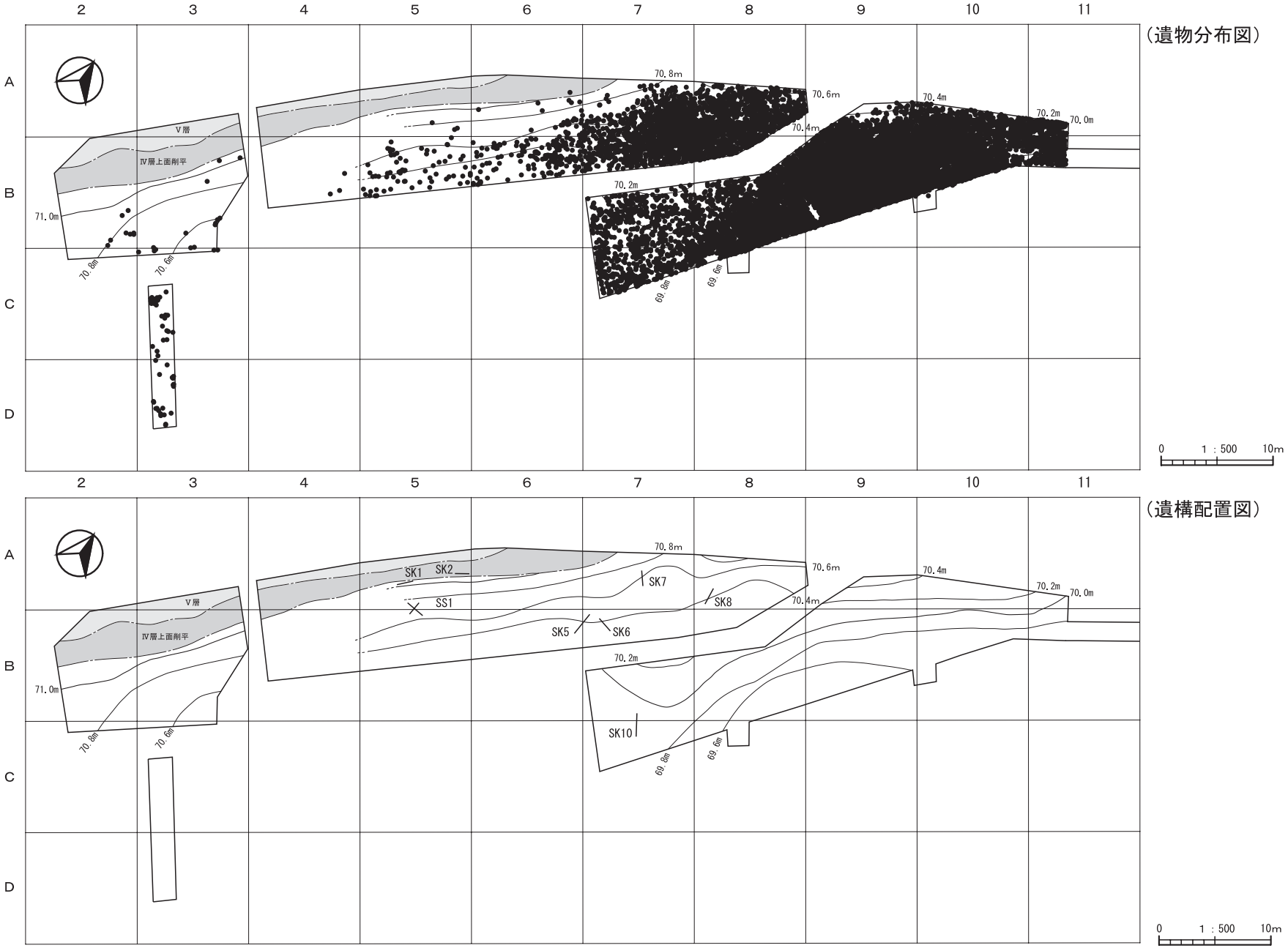
１基確認した。前川が近いこともあり、Ⅲa層とⅢb層からは礫が多数出土したが、礫がある程度まとまっている場所は１箇所のみで、そこを集石と認定した。

集石の認定後、礫の集中している箇所を集石の中心部と想定し、そこを基準に軸を設定し、平面図と見通し断面図一面を作成しながら、礫を取り上げた。礫は番号を付して取り上げた。礫の取上後、実測ポイントを残しながら、掘り込みの有無の精査をⅣ層上面まで行った。

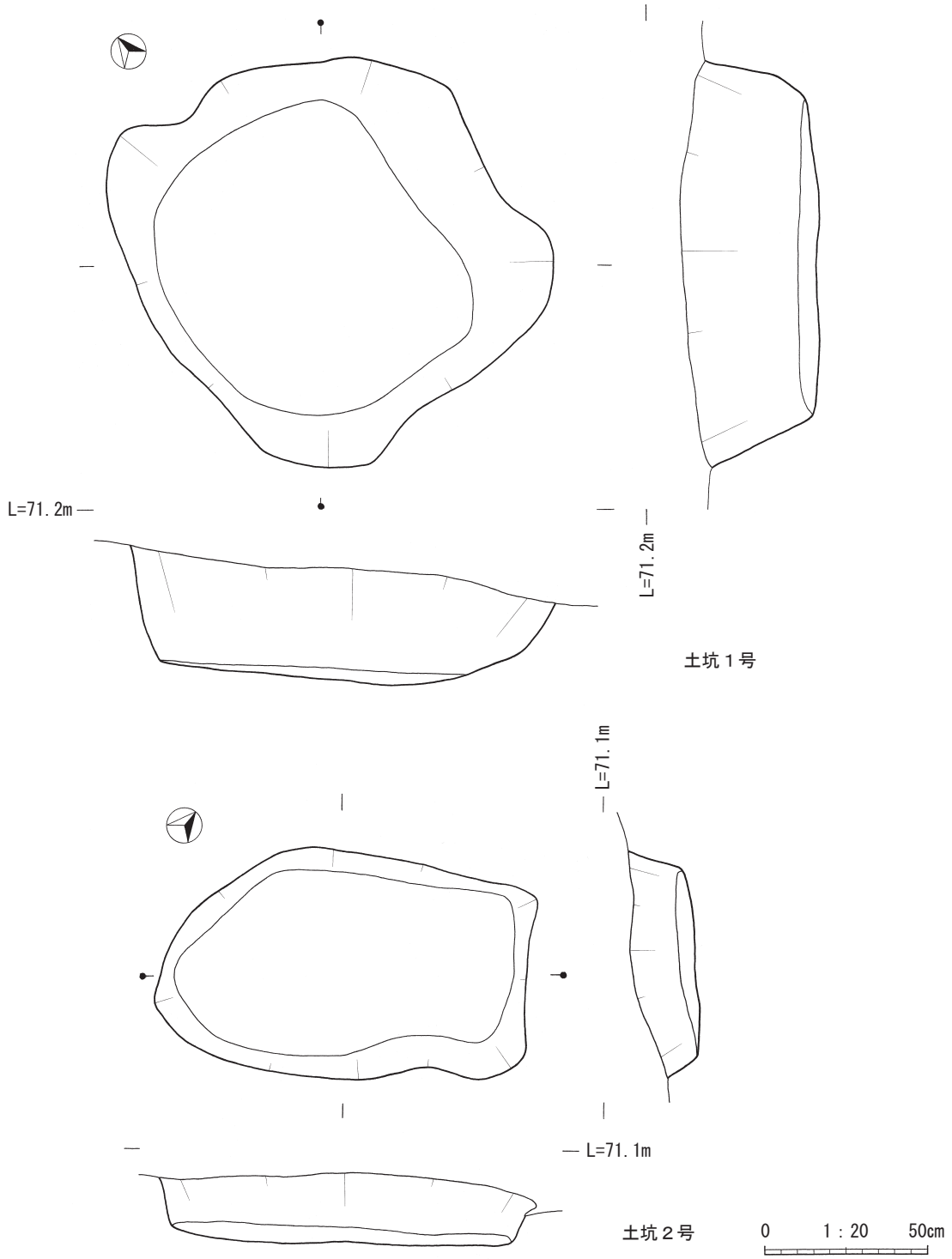
集石１号（SS１）

Ａ・Ｂ－５区Ⅲa層下位で検出した。1.8×1.5ｍの範囲に礫が広がる。中心の土壌は、やや黒味を帯びる。礫は0.3ｍの厚さで分布し、下部の礫はⅢb層に達する。掘り込みは、確認できなかった。

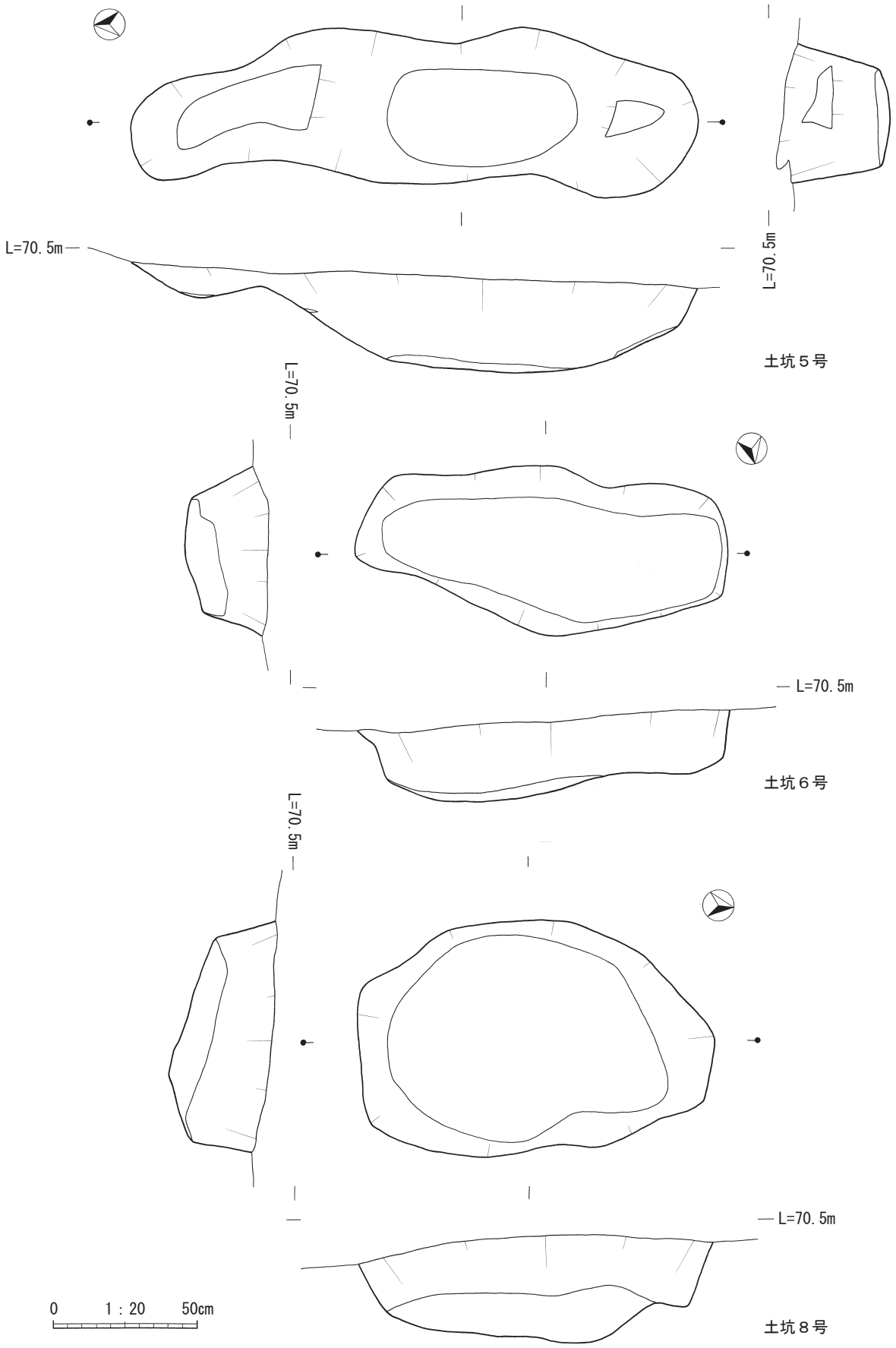
礫は、91点取り上げた。礫のほとんどは、被熱により破砕・赤化しており、黒化しているものもある。石材は、砂岩（72点）と頁岩（19点）からなる。



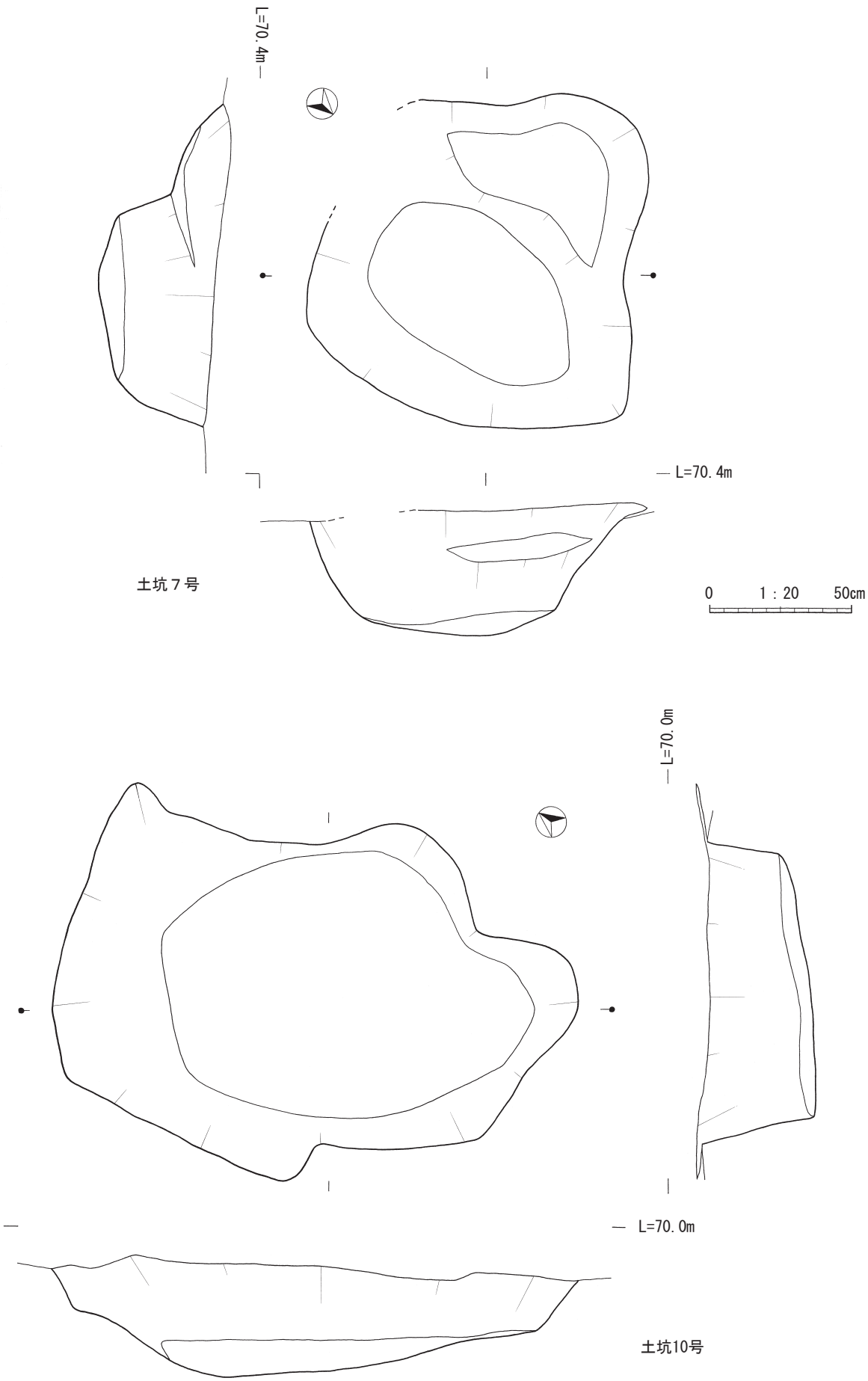
第 10 図　遺物分布図及び遺構配置図



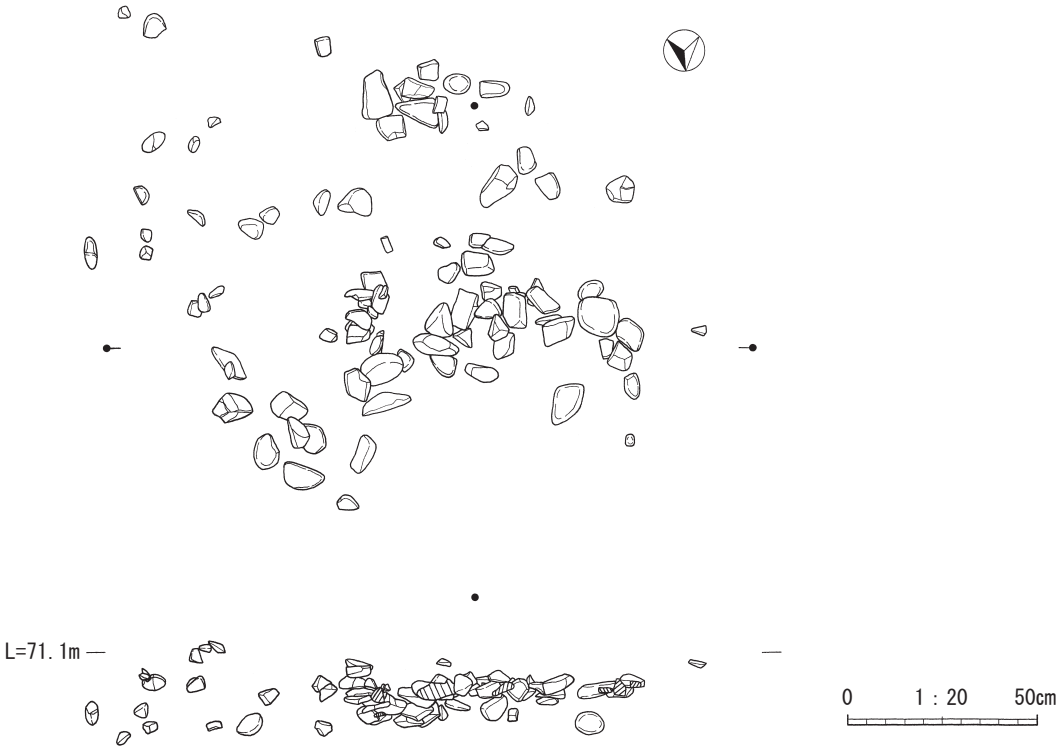
第11図　土坑（１）


L=70.5m
L=70.5m
土坑５号
L=70.5m
L=70.5m
土坑６号
L=70.5m
L=70.5m
土坑８号
0
1：20
50cm

第12図　土坑（２）



第13図　土坑（３）



第14図　集石遺構

礫の総重量は、11923.9ｇである。礫重量の平均値は131.0ｇ、中央値は100.6ｇ、最大値は606.0ｇ、最小値は4.6ｇ。礫最大長の平均値は7.0㎝、中央値は6.8㎝、最大値は12.8㎝、最小値は2.9㎝である。

集石の範囲内から、無文の胴部片が３点出土した。

３　土器

土器は、主にⅢa層・Ⅲb層から、番号取上分で約16000点出土した。

土器の大半は、縄文時代前期～後期に属すると考える。少量だが、縄文時代早期にまで遡るものや、弥生時代初頭に該当するものも確認されている。平面分布図を見ると、６区以東で多く認められる。

文様などから、１～23類に大別した。このうち、１～４類は早期に、５類は前期に、６～10類は前期末～中期に、11～19類は後期に、22類は中～後期に、20類は晩期～弥生初頭に位置づけられる。

以下、各類について報告する。

１類土器（第22図１～５）

胴部に横位・斜位の貝殻条痕が施され、直行する口縁部に刺突文を施すことを特徴とする。５点確認し(番号取上分)、全て図示した。

１は、棒状もしくはヘラ状工具による浅い刺突文を、２列に施す。２・３は、貝殻腹縁刺突文を施す。４・５は胴部で、粗い貝殻条痕が確認できる。

２類土器（第22図６，７）

胴部に貝殻腹縁刺突文を、密接して施すことを特徴とする。２点確認し(番号取上分)、全て図示した。

６・７は、胴部に貝殻条痕などはみられず、丁寧なナデ調整を施した後に、貝殻腹縁刺突文を施す。

３類土器（第22図８）

器面全体に、貝殻腹縁刺突文を羽状に施すことを特徴とする。１点のみ確認し(番号取上分)、図示した。

文様は、ナデ調整後に施文しており、貝殻腹縁刺突文は羽状に施す。胎土は粗く、内外面に石英・長石・礫類が目立つ。

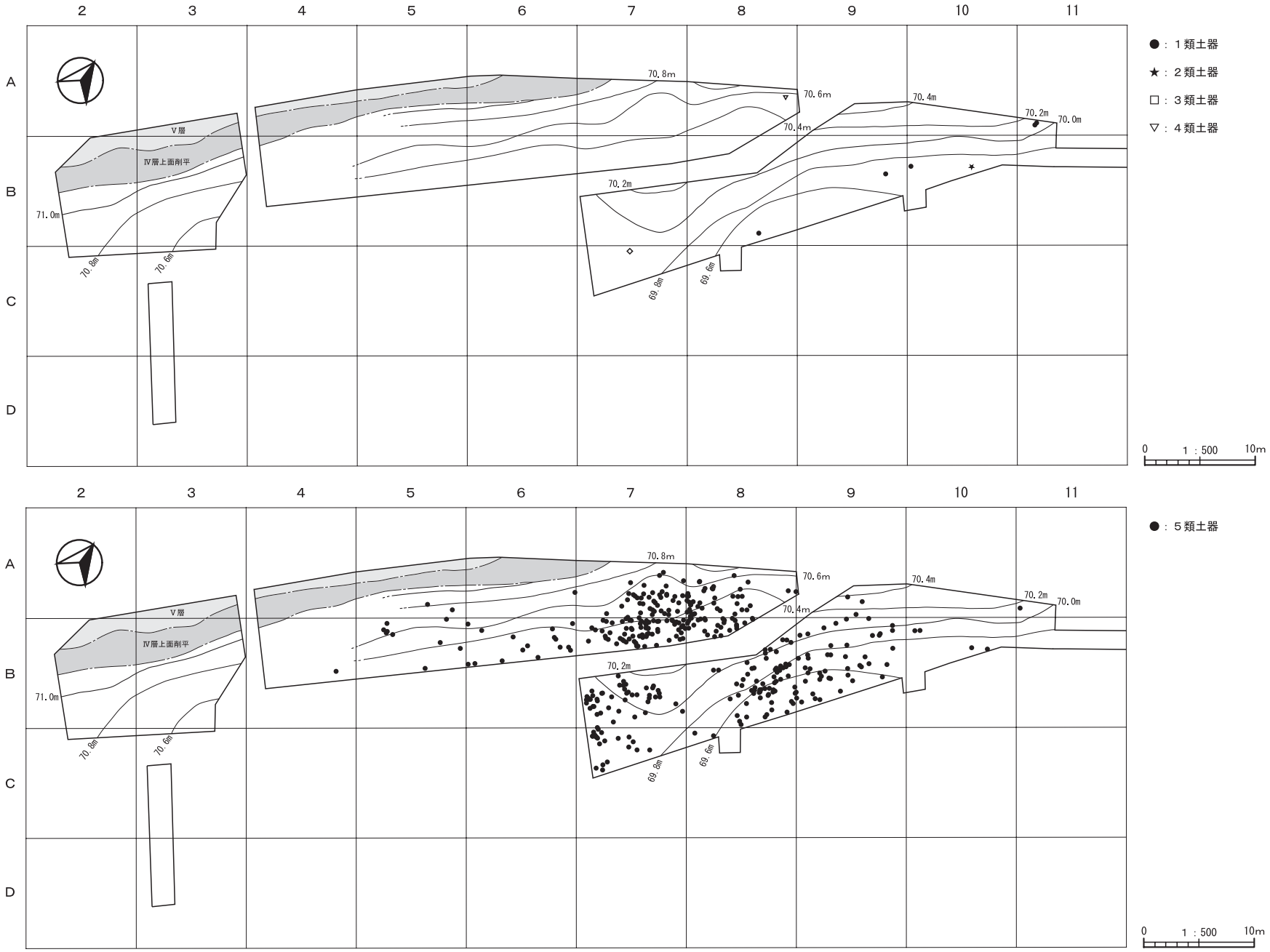
４類土器（第22図９）

沈線による区画内に、撚糸文を施すことを特徴とする。１点のみ確認し(番号取上分)、図示した。

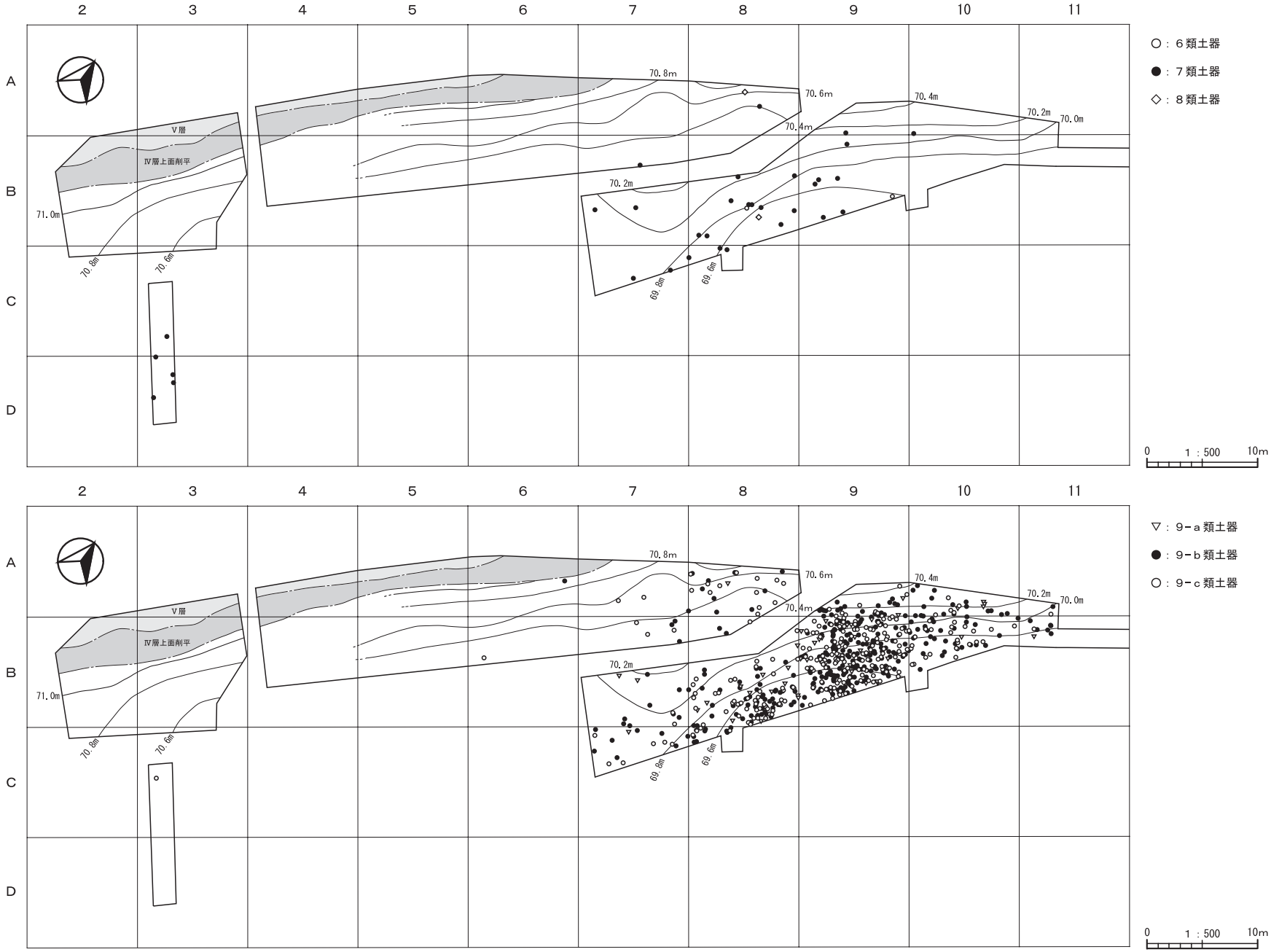
区画ごとに撚糸文は、横位・縦位・斜位へと変化する。斜位の撚糸文を施す箇所の、沈線を挟んだ両側の区画は、無文と考えられる。色調は、白色に近い明褐色を呈す。

５類土器（第22～24図10～32）

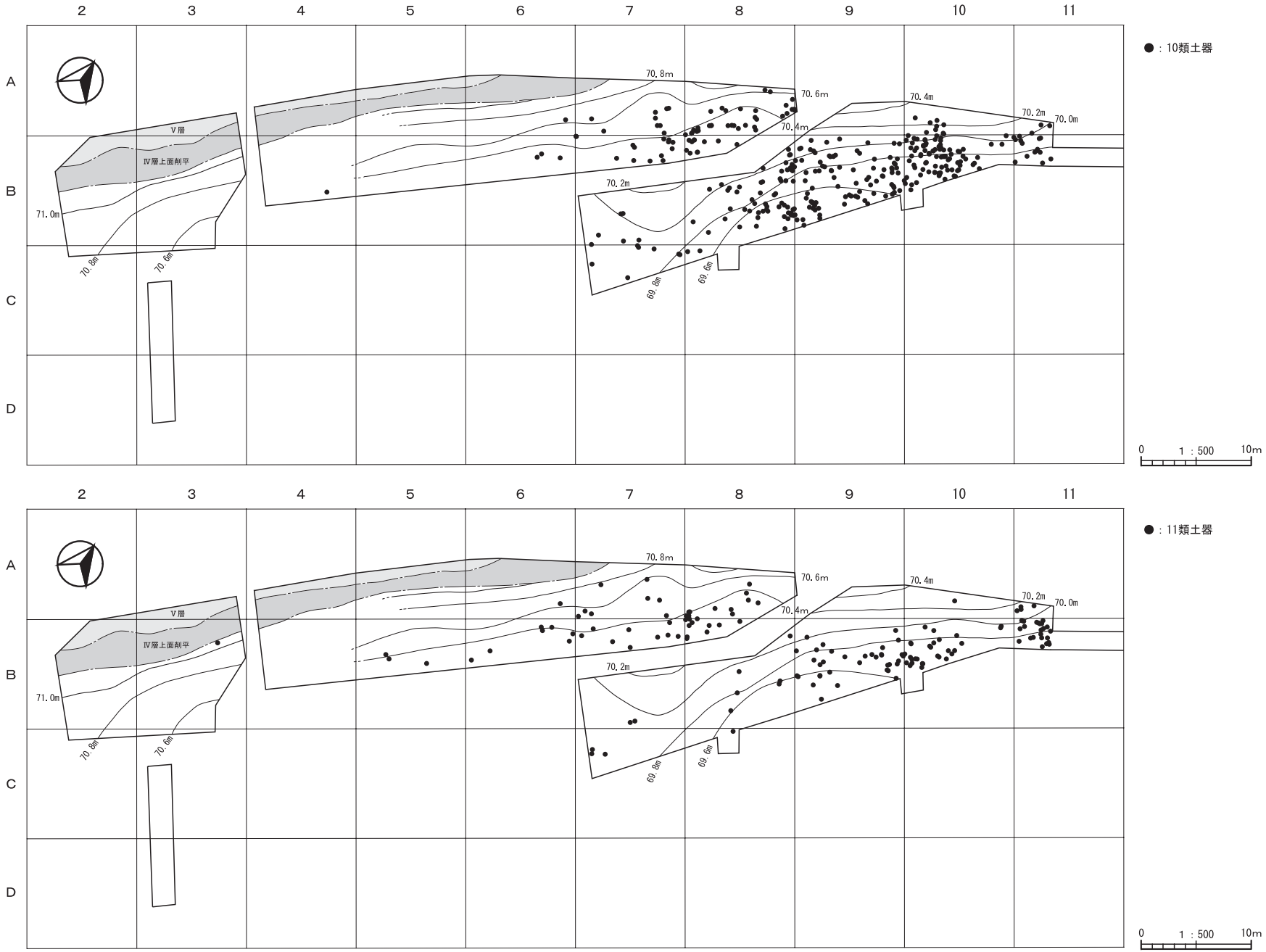
外面全体と口縁部内面に、棒状もしくはヘラ状工具で幾何学的な沈線文を、密接して施すことを特徴とする。405


2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
A
B
C
D
Ⅴ層
Ⅳ層上面削平
71.0m
70.8m
70.6m
70.8m
70.6m
70.4m
70.2m
70.4m
70.2m
70.0m
69.8m
69.6m
●：１類土器
★：２類土器
□：３類土器
▽：４類土器
0
1：500
10m
●：５類土器

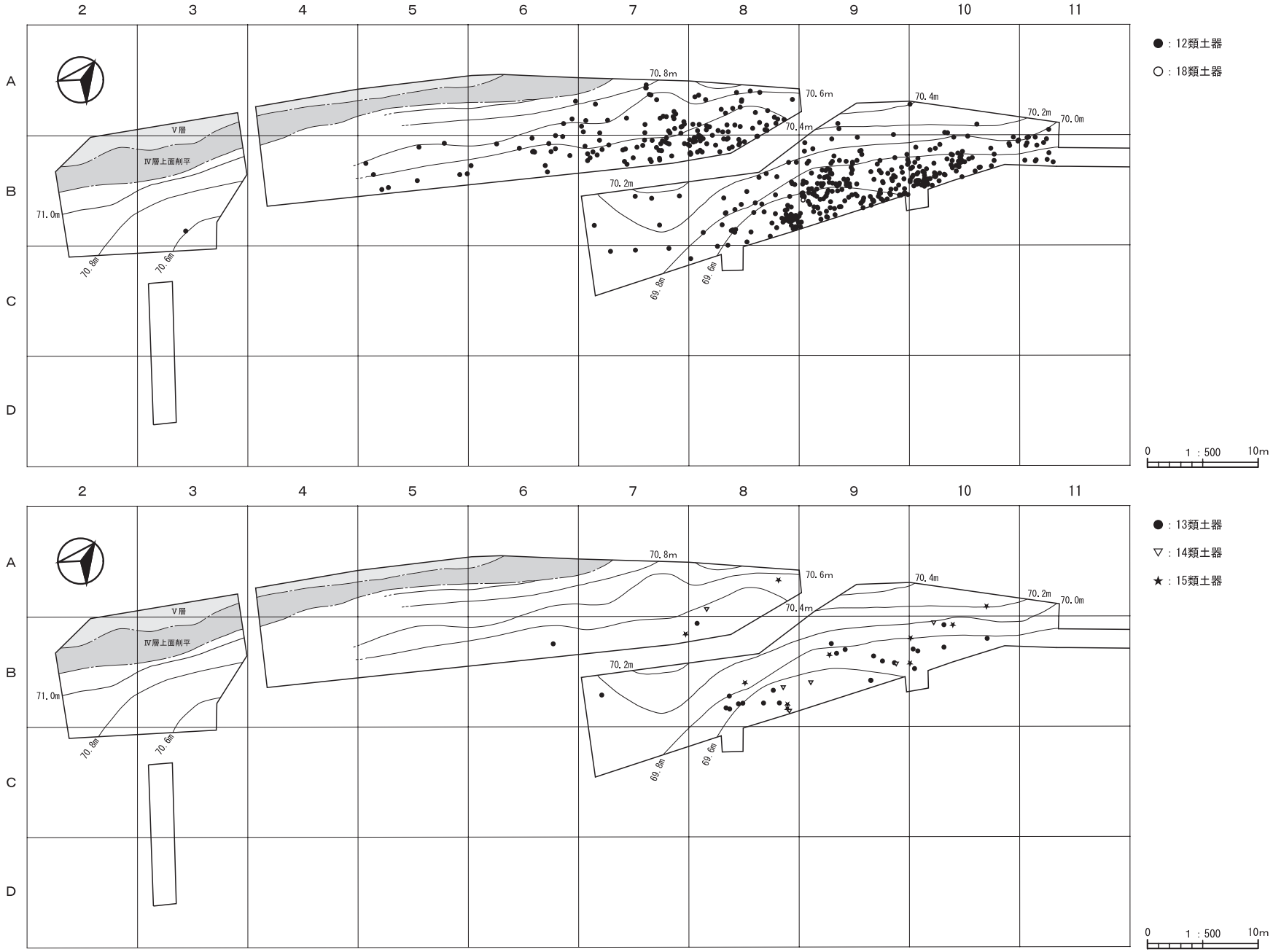
第 15 図　土器分布図（１）


2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
A
B
C
D
Ⅴ層
Ⅳ層上面削平
71.0m
70.8m
70.6m
70.4m
70.2m
70.0m
69.8m
69.6m
○：６類土器
●：７類土器
◇：８類土器
▽：９－ａ類土器
●：９－ｂ類土器
○：９－ｃ類土器
0
1：500
10m

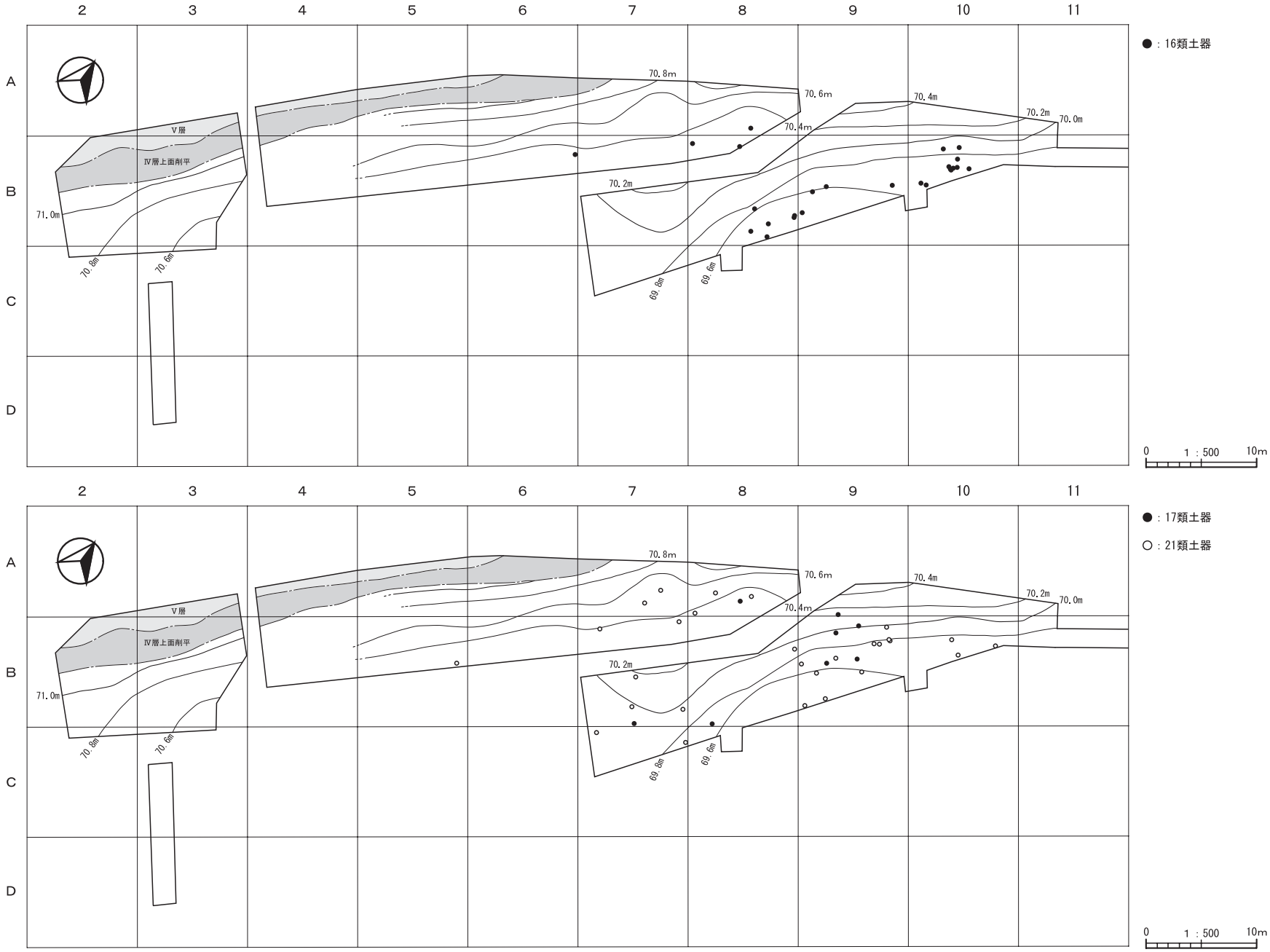
第 16 図　土器分布図（２）


2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
A
B
C
D
●：10類土器
●：11類土器
Ⅴ層
Ⅳ層上面削平
71.0m
70.8m
70.6m
70.4m
70.2m
70.0m
69.8m
69.6m
0
1：500
10m

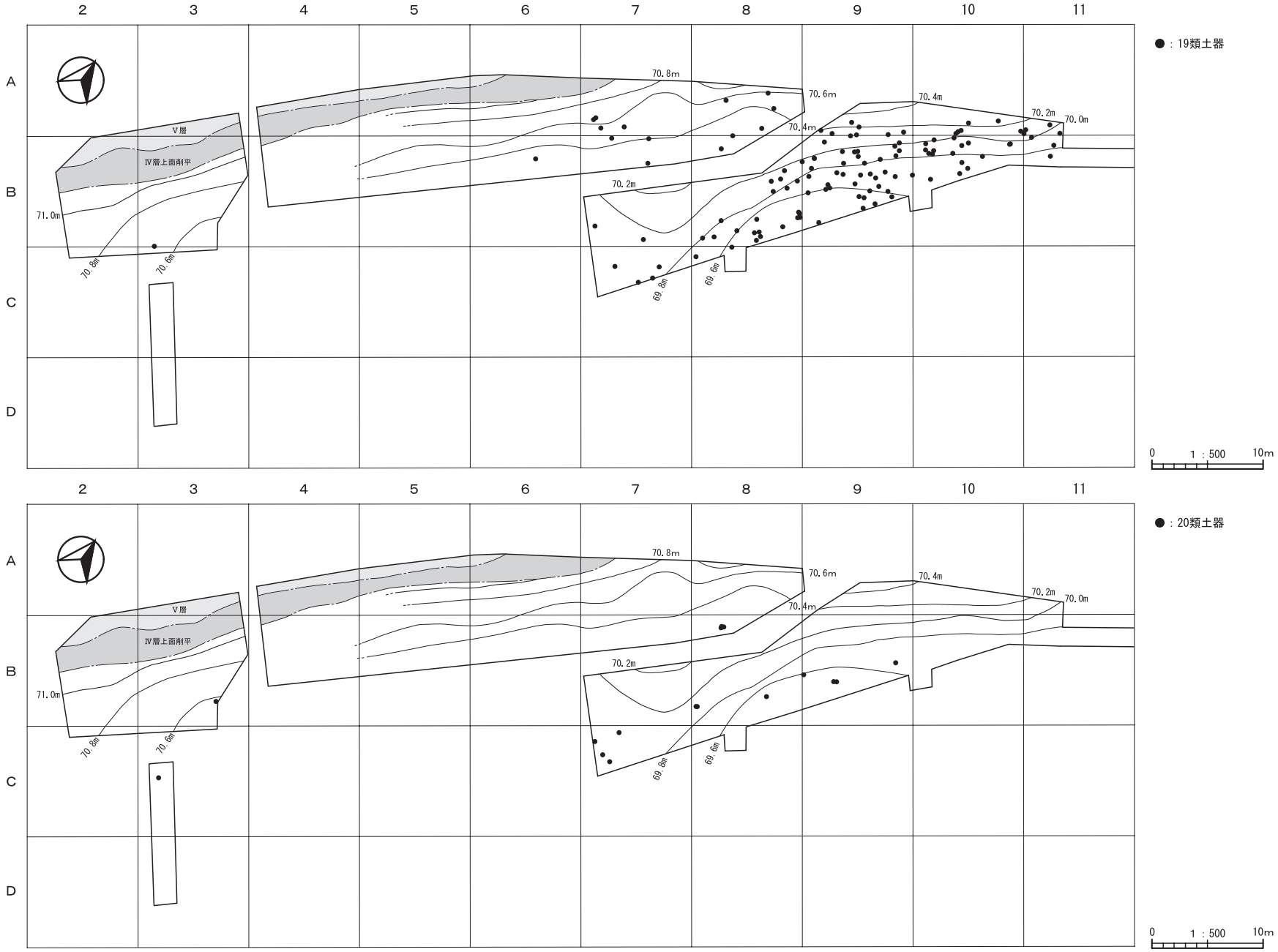
第17図　土器分布図（3）


2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
A
B
C
D
Ⅴ層
Ⅳ層上面削平
71.0m
70.8m
70.6m
70.8m
70.6m
70.4m
70.2m
70.4m
70.2m
70.0m
69.8m
69.6m
●：12類土器
○：18類土器
0
1：500
10m
●：13類土器
▽：14類土器
★：15類土器

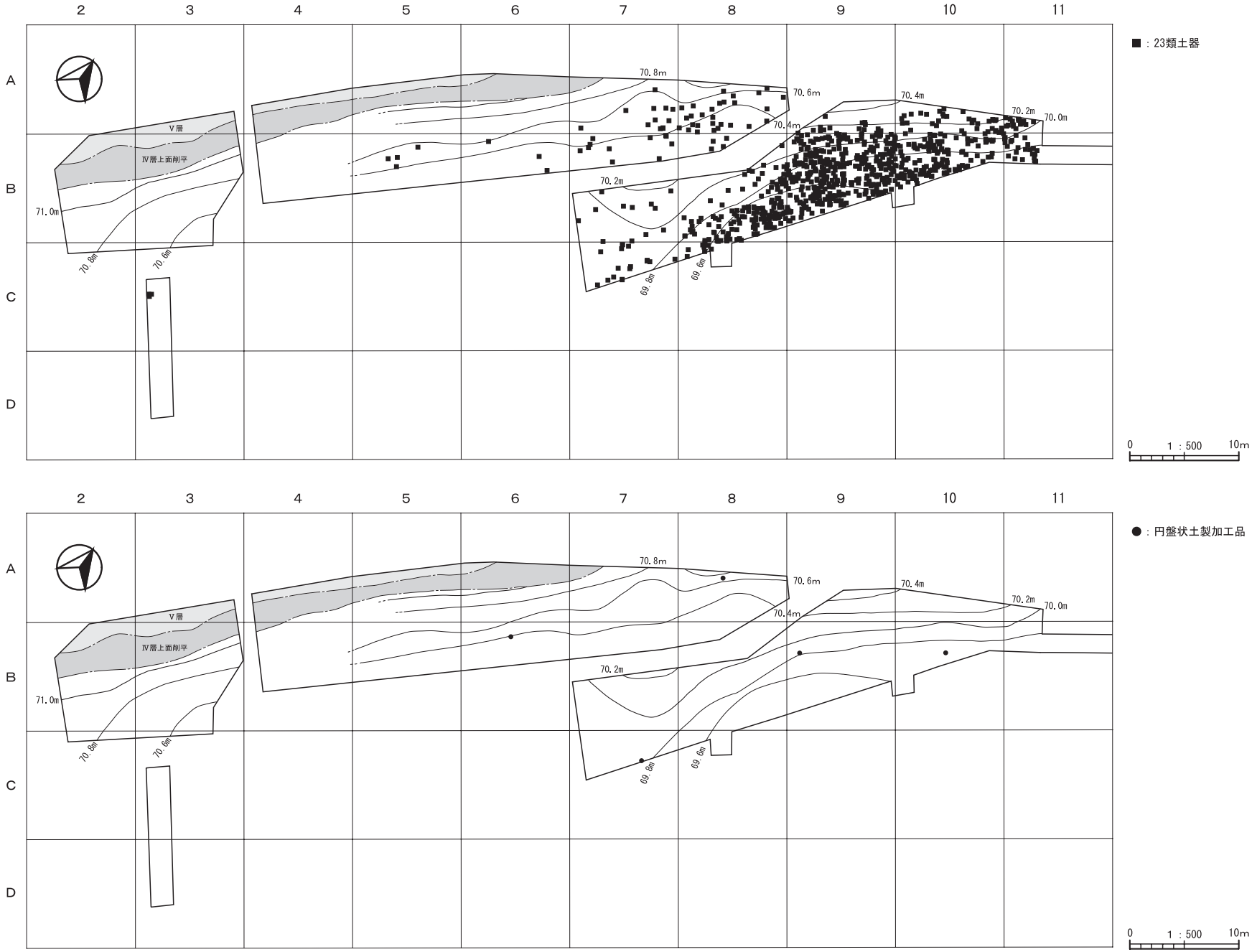
第18図　土器分布図（4）


2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
A
B
C
D
V層
Ⅳ層上面削平
71.0m
70.8m
70.6m
70.8m
70.6m
70.4m
70.2m
70.4m
70.2m
70.0m
69.8m
69.6m
●：16類土器
0
1：500
10m
●：17類土器
○：21類土器

第19図　土器分布図（5）


2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
A
B
C
D
●：19類土器
●：20類土器
Ⅴ層
Ⅳ層上面削平
71.0m
70.8m
70.6m
70.4m
70.2m
70.0m
69.8m
69.6m
0
1：500
10m

第20図　土器分布図（6）



第21図　土器・土製品分布図

点確認し(番号取上分)、23点図示した。

口縁部は、ほとんどが直行もしくは外反する。底部は丸底である。10～18は口縁部で、口唇部に刻みや連点文を施す。10・12・13は、口縁端部まで斜線が施されている。13は、沈線文と連点文を組み合わせている。11・14～18は、口縁部に横位沈線文を施す。

19～28は胴部で、斜線の上に曲線・波状文及び三角・四角組み合わせ文を施す。

29～32は底部であり、沈線により綾杉文や十字文を施す。特に十字文は、交差する箇所が底部の中心部に位置するように、意識して施されている。

器面調整は、ナデ調整を行うものがほとんどであるものの、15・27・28のように、内面に貝殻条痕が認められるものもある。26と32、27と28は、同一個体の可能性がある。

６類土器（第24図33、34）

貝殻連点文や細い突帯文を、幾何学的に施すことを特徴とする。２点確認し(番号取上分)、全て図示した。

特徴から、２類に大別した。

６－a類(第24図33)

33は、貝殻腹縁刺突による連点文を施している。連点文は浅く施されており、連点文の間隔は密である。

６－b類(第24図34)

34は、突帯をＬ字状に貼付している箇所が確認できる。突帯は、貼付後に貝殻による刺突文と、棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。

７類土器（第24～25図35～41）

ミミズばれ状で貼付が甘く、つまみ上げによる指頭痕が明瞭に確認できる突帯文を有し、底部が尖底となることを特徴とする。32点確認し(番号取上分)、７点図示した。

突帯は、基本的に口縁部に対して横位に貼付を施すが、波状のもの(36)や、口縁端部に向けて横位から縦位に変わるもの(39)もある。口縁部は直行または外反し、内外面に丁寧な貝殻条痕を施す。または、口唇部に刻みを施すものもある。

35は、基本的に横位の突帯が、口唇部や胴部に向かって縦位に向きが変わっている。縦位の突帯は、わずかに口唇部にはみ出している。37は、Ｖ字状に不規則な貼付となっている。37・40は、突帯の貼付部位において、ナデ調整後に貼付を施す。

８類土器（第25図42）

外面に粗い縄文を施すことを特徴とする。１点確認し(番号取上分)、図示した。

内面は丁寧なナデ調整を施すのに対して、外面は固い繊維を原体とする縄文を施文したと考えられ、全体的に筋が目立つ状態となっている。胎土も特徴的で、石英・長石類が多量に含まれる状態が、土器の表面や断面に確認できる。色調は、灰褐色を呈す。

９類土器（第25～36図43～118）

口縁部が、キャリパー形に内湾、または直行・外反し、地文に貝殻条痕が施され、器壁は薄手で、底部は平底または上げ底を特徴とする。668点確認し(番号取上分)、76点図示した。

波状口縁を呈するものも多い。文様は、無文のものや突帯を有するもの、沈線文を施すものなどがあり、施文手法は多様である。突帯を有するものは、突帯を貼り付けただけのものは確認できず、突帯上に刺突文や押引文、沈線文を施すなど、多重に施文している。突帯は、口唇部まで至るものも多い。文様は口縁部に集中して施され、胴部まで広がるものは確認できない。口唇部に刻みを施すものもある。

内面は、基本的に横位の貝殻条痕がみられ、外面は口縁部で横位、胴部で斜位の貝殻条痕を施すものが大半である。

口縁部形態から、３類に大別した。

９－ａ類（第25～26図43～53）

最もキャリパー形口縁の形態が発達し、口縁部が強く内湾するもの。

43は無文で、口唇部に部分的な刻目を有するのみである。44は、横位の押引文を２列に施す。45～48は突帯を有する。45・48は、突帯上に貝殻腹縁刺突文を施す。49～53は、沈線文を施す。46・49・50・53のように、沈線文を施した後に、沈線内もしくは沈線に沿うように、刺突文を細かく施すものが多い。51は、２列に押引文を施す。

９－ｂ類（第26～30図54～83）

口縁部が緩く屈曲するもの。

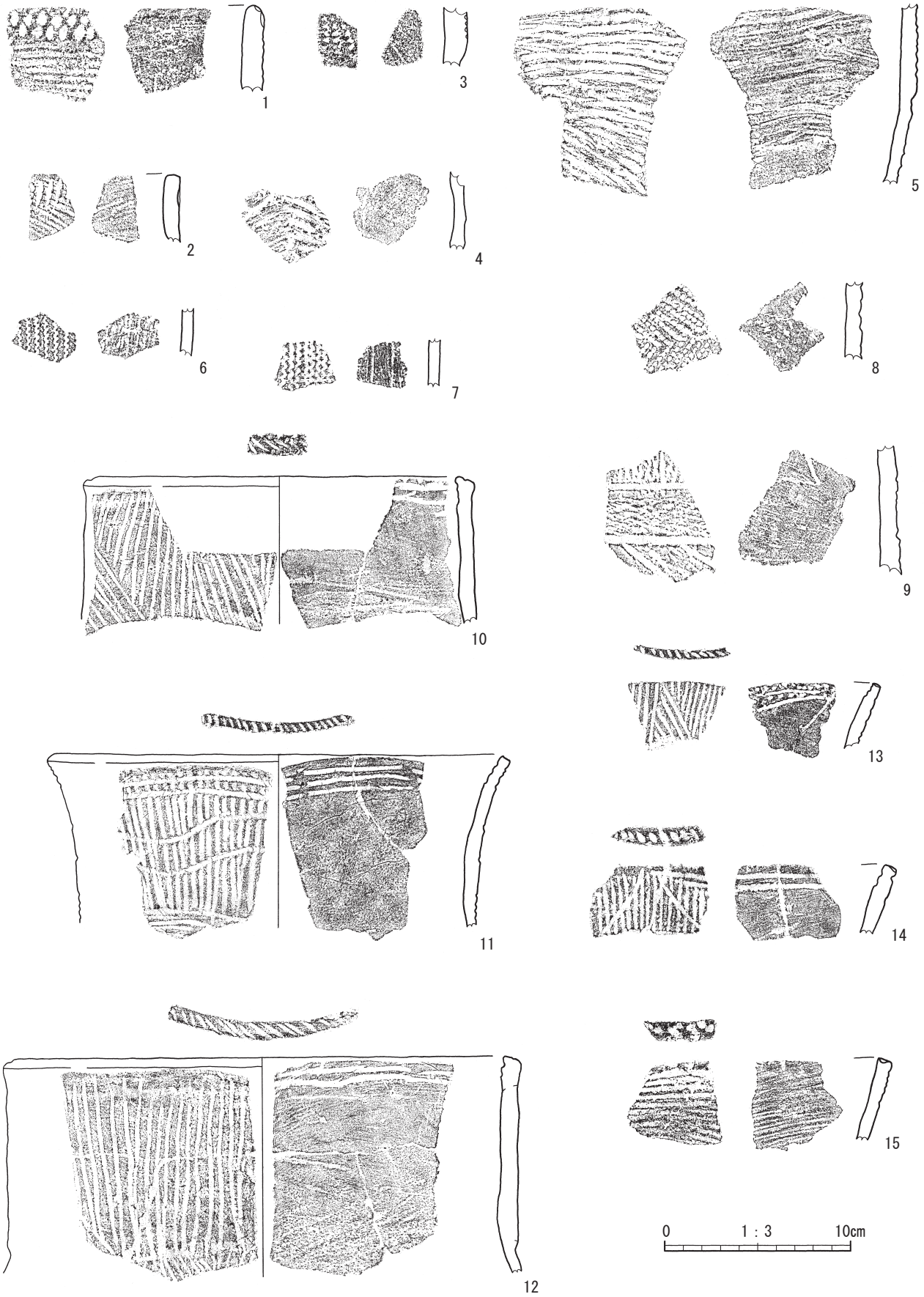
54・55は無文である。56～60は、押引文を施す。押引文は、間隔が狭く細かいものが多い。54・58は、波状口縁の波頂部である。

61～72・74は沈線文を施す。63・71は口唇部に押引文、61・62は口唇部に刺突文を施す。65は、沈線内刺突文と、口唇部に貝殻腹縁刺突文を施す。73・75～80・82は突帯文を施す。73・76・79は、貝殻押引文を突帯上に密接して施す。75・82は、突帯上に貝殻腹縁刺突文を施す。81のみ、口縁部から底部まで復元可能な個体である。口縁部に浅い刺突文を２列に施す。器形が歪んでおり、胴部が片側に膨らむ。

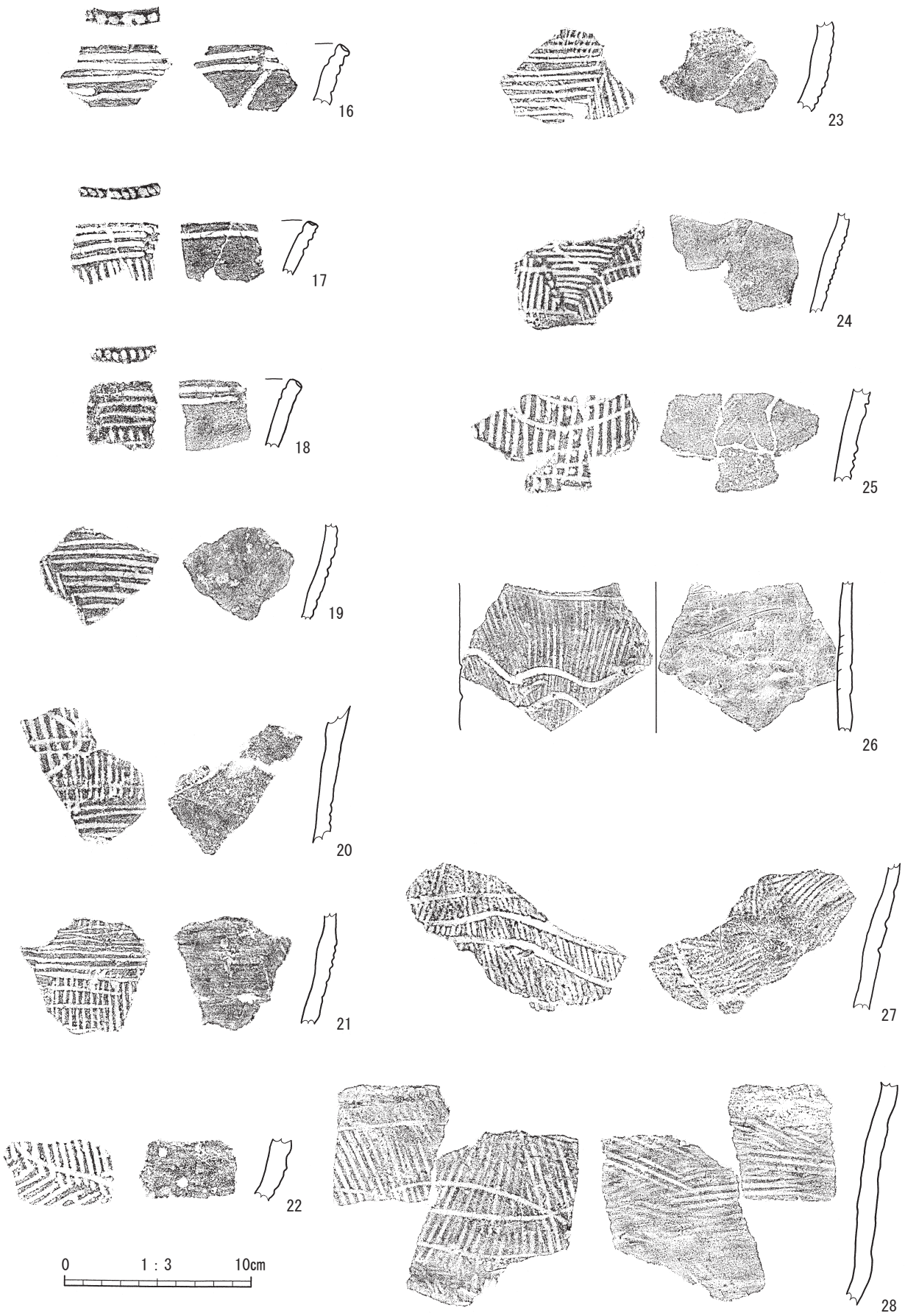
９－ｃ類（第30～36図84～118）

口縁部が直行・外反するもの。

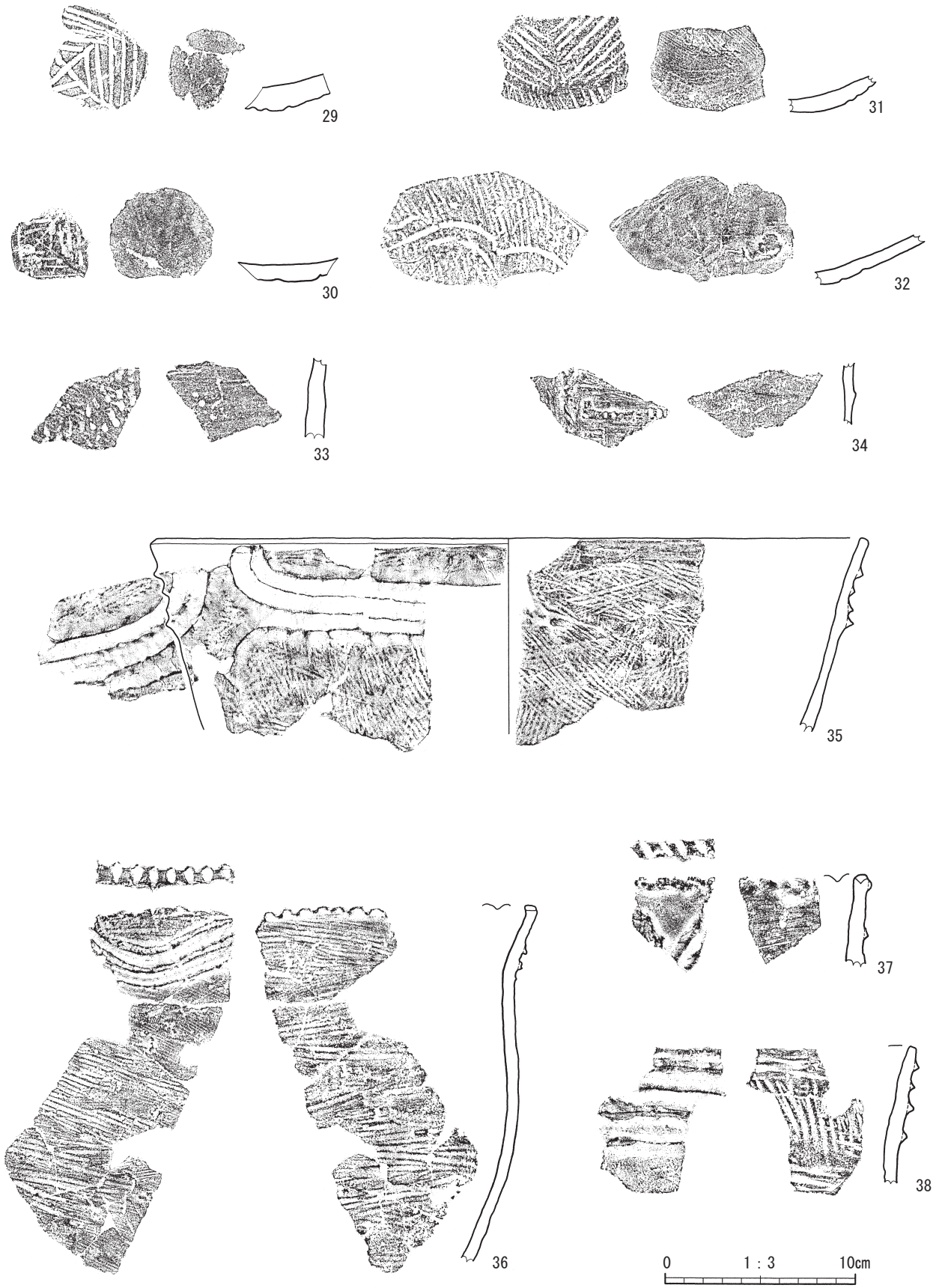
84・86～89は沈線文を施す。86～88は、沈線に沿って刺突文を施す。85は、口縁部と口唇部に刺突文を施す。90～100・117は無文である。101～116・118は突帯文を施す。101は、横位に１本の突帯を貼り付け、突帯上に貝殻腹縁刺突文を施す。102は、口縁部と口唇部に深く細かな押引文を施す。104は、２本の突帯上に棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。105は、１本の突帯上に貝殻腹縁による押引文を施す。106は、横位に突帯を１本貼り付け、２本の突帯を縦位に貼り付ける。口唇部と横位の突帯上に、棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。107は、２本の波状の突帯上に、棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を深く施す。110は、波状の突帯上に、棒状もしくはヘラ状工具によ



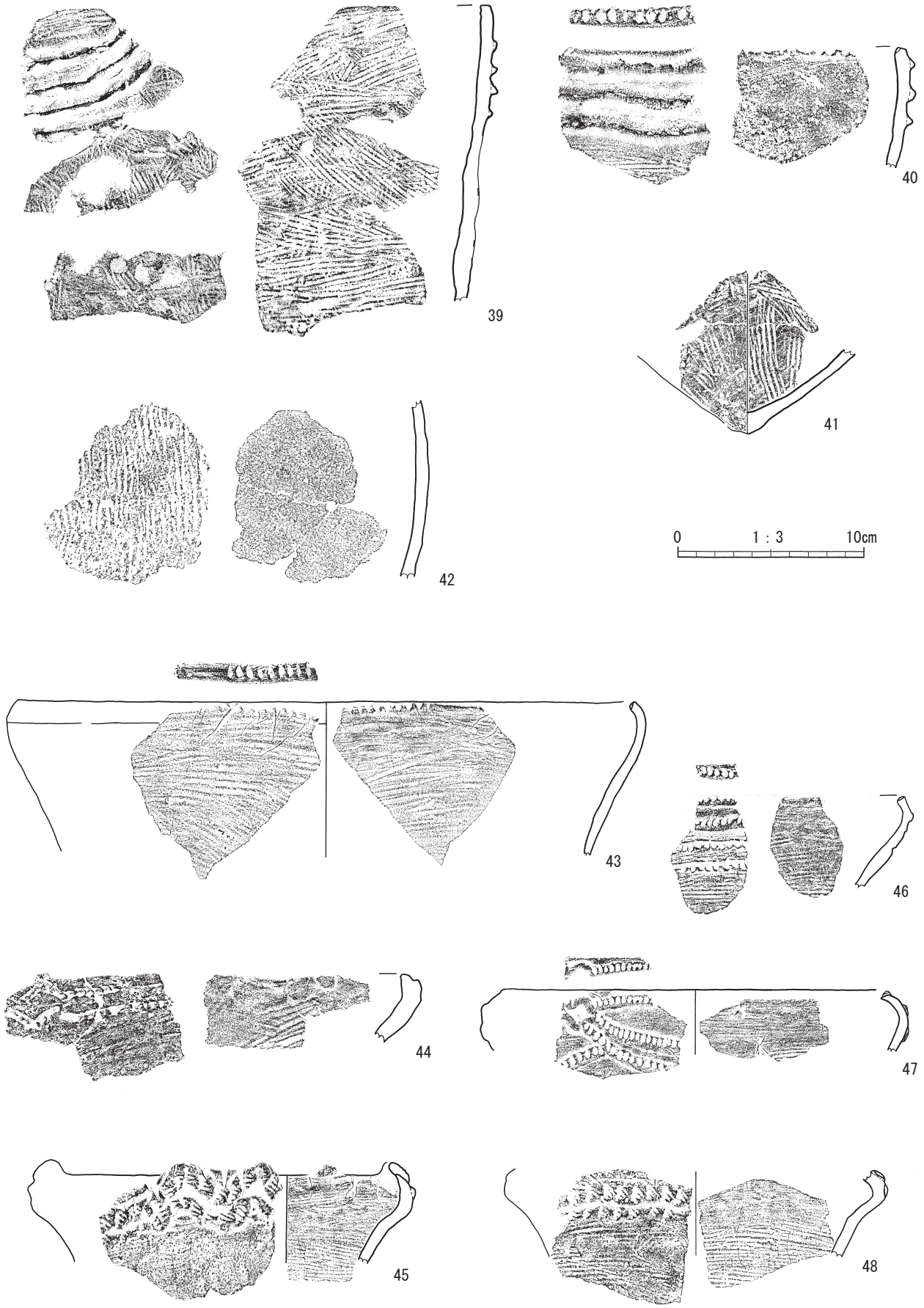
第22図　１～５類土器



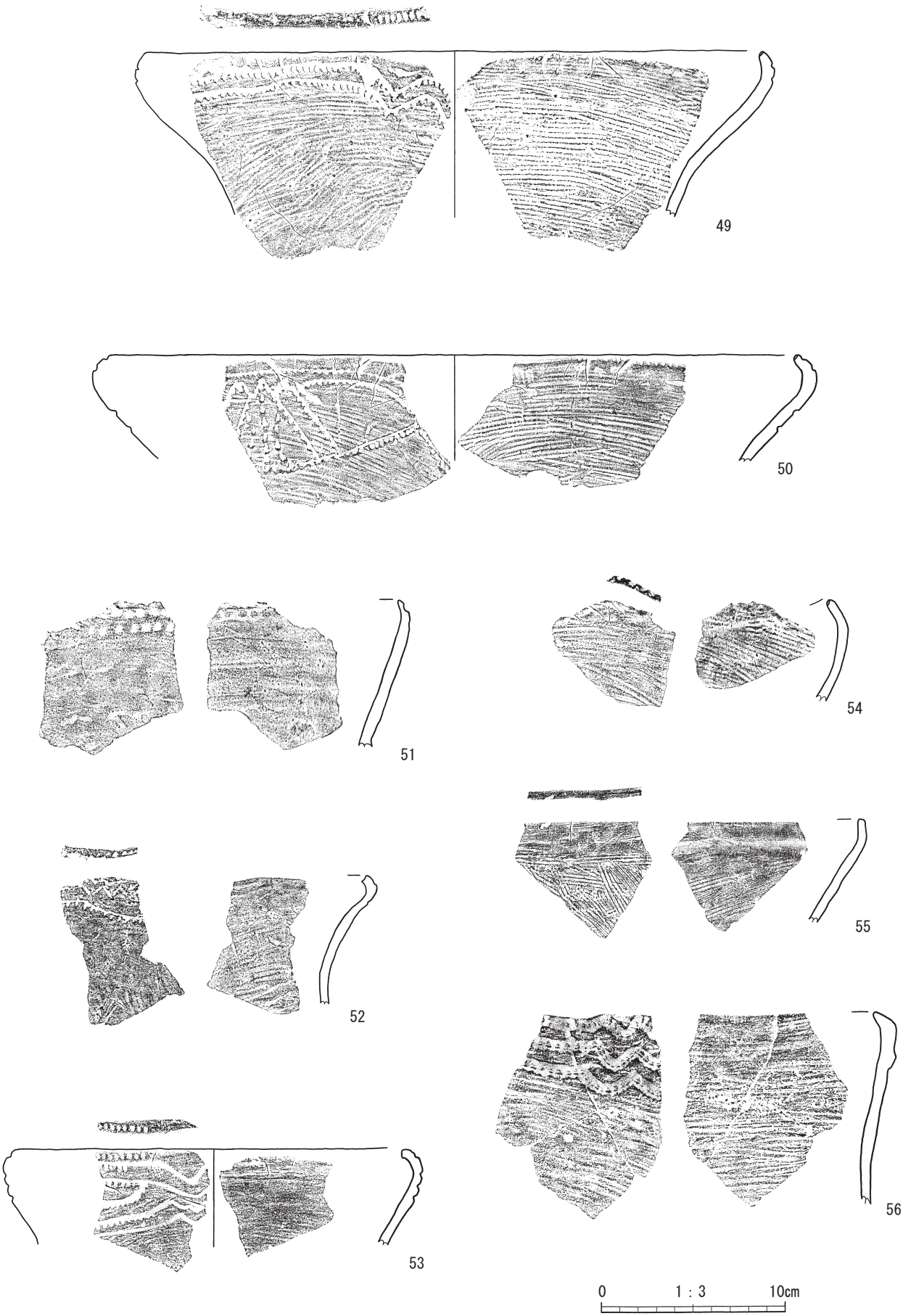
第23図　５類土器



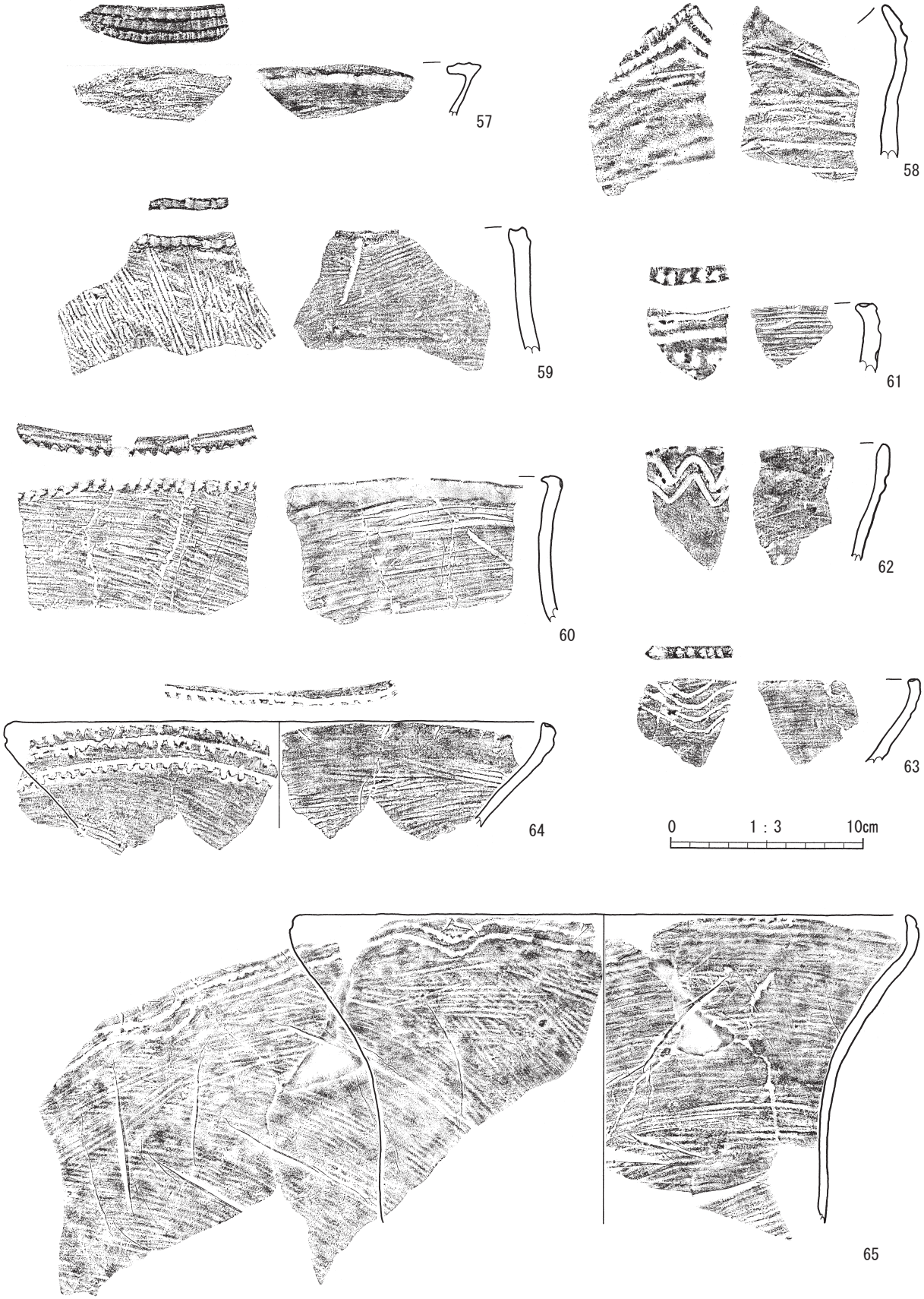
第24図　５～７類土器



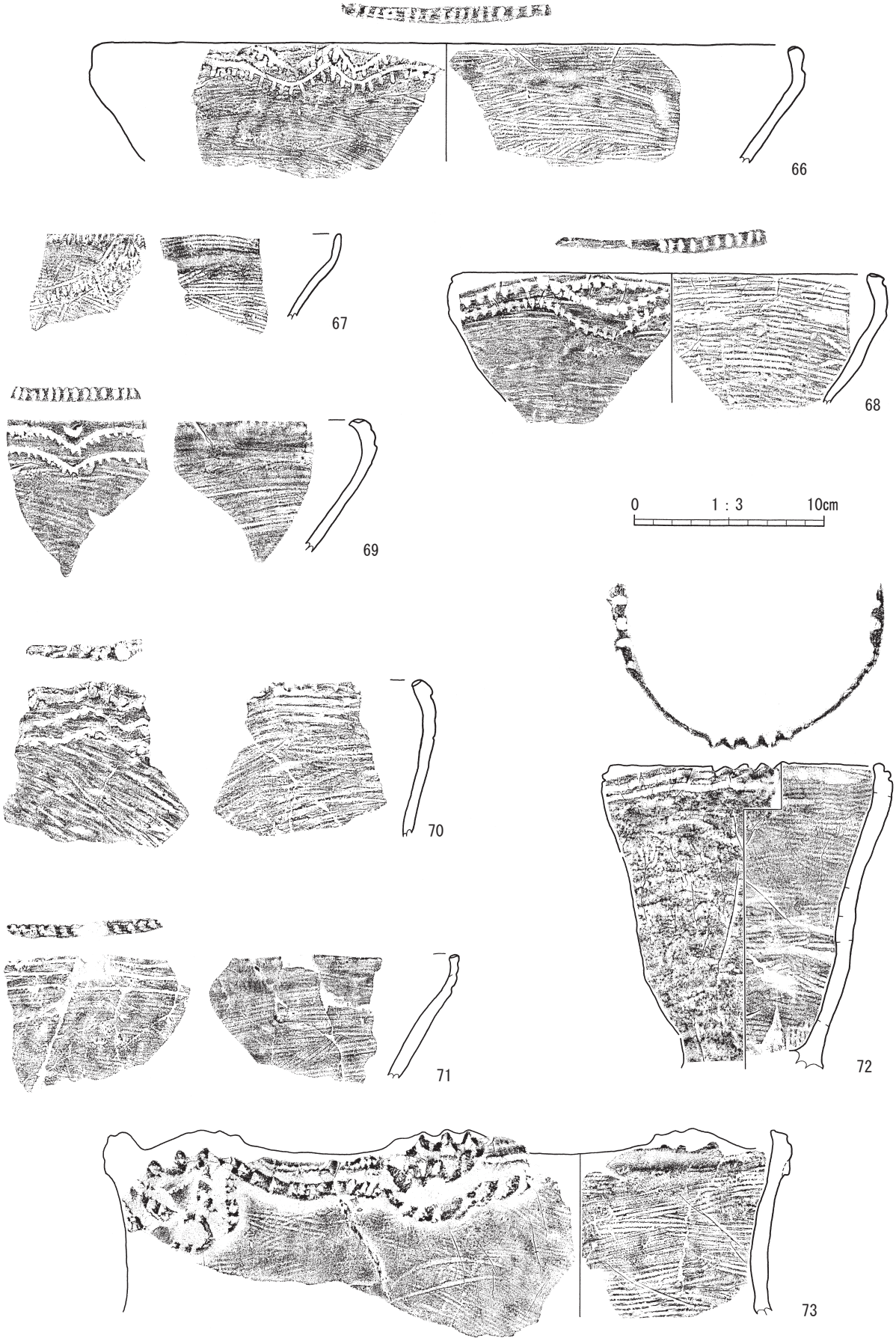
第25図　７～９類土器



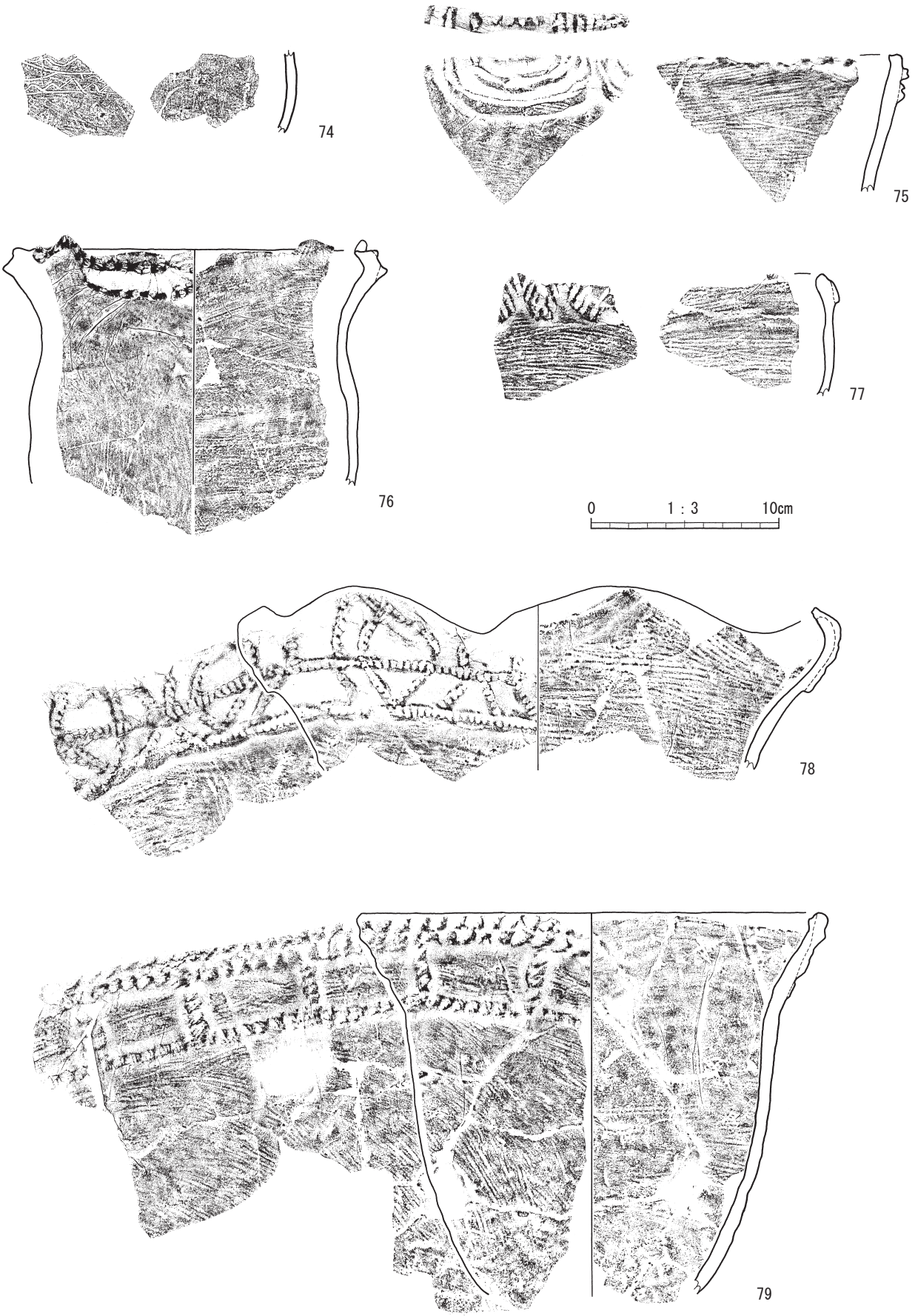
第26図　９類土器



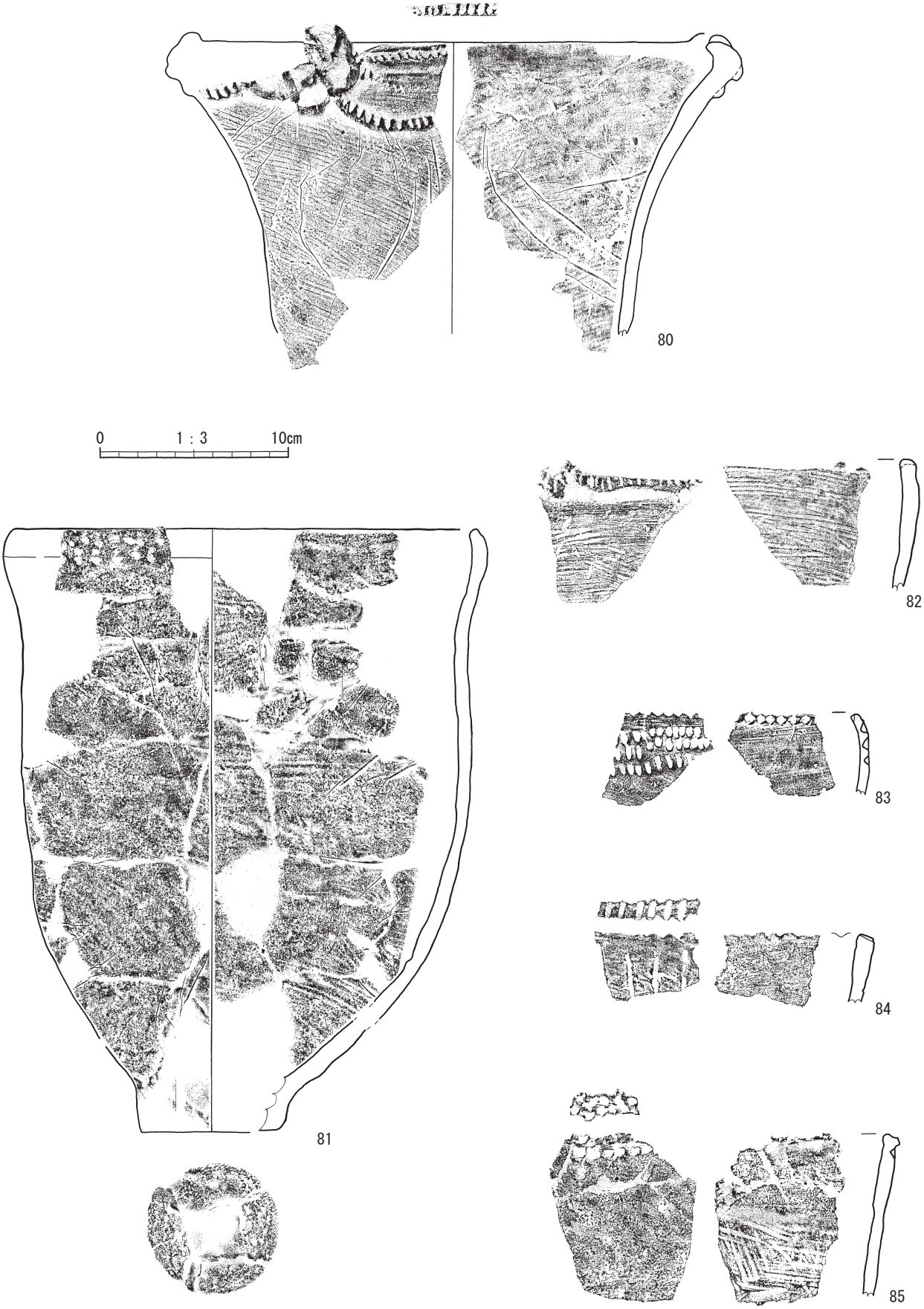
第27図　９類土器



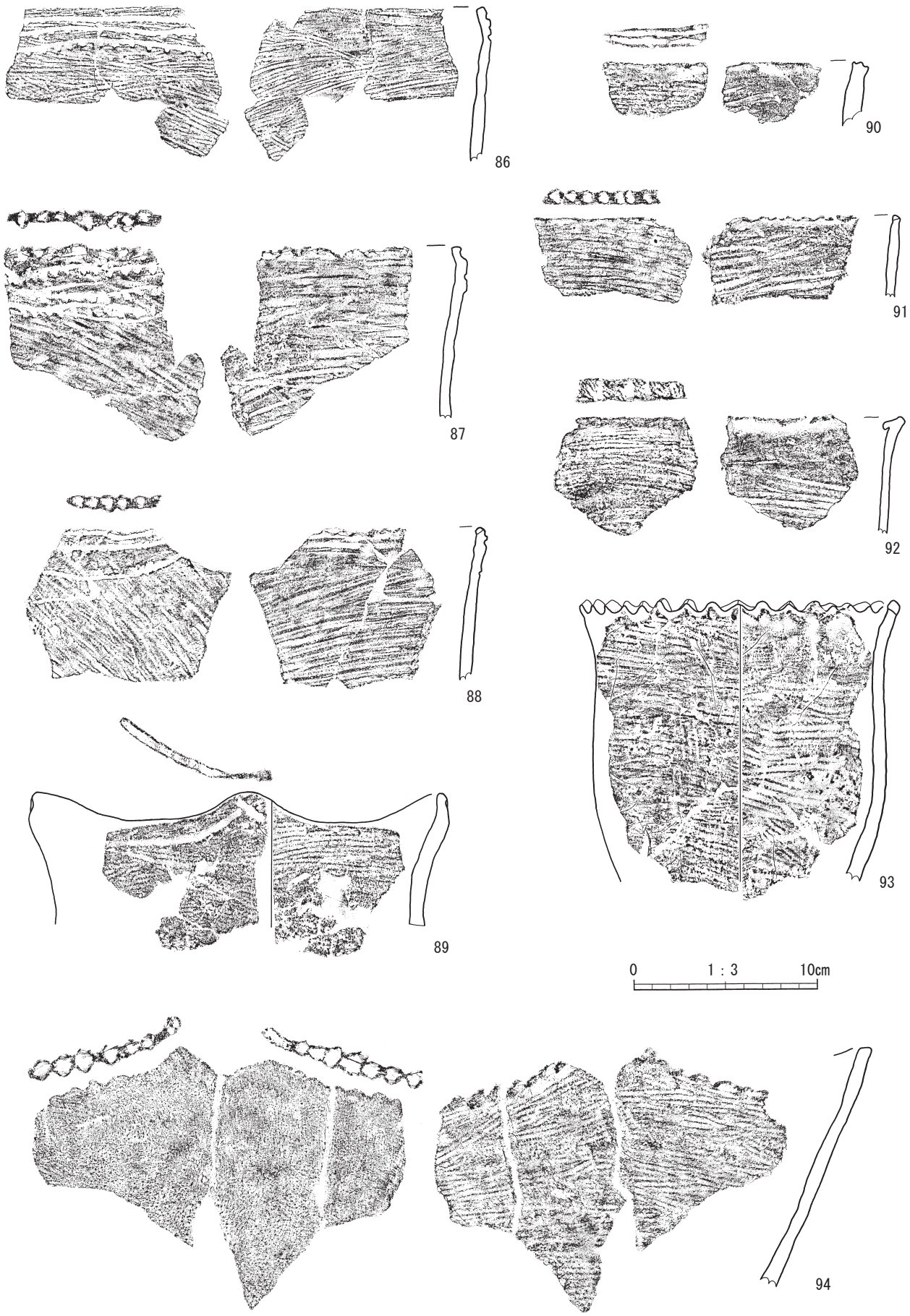
第28図　９類土器



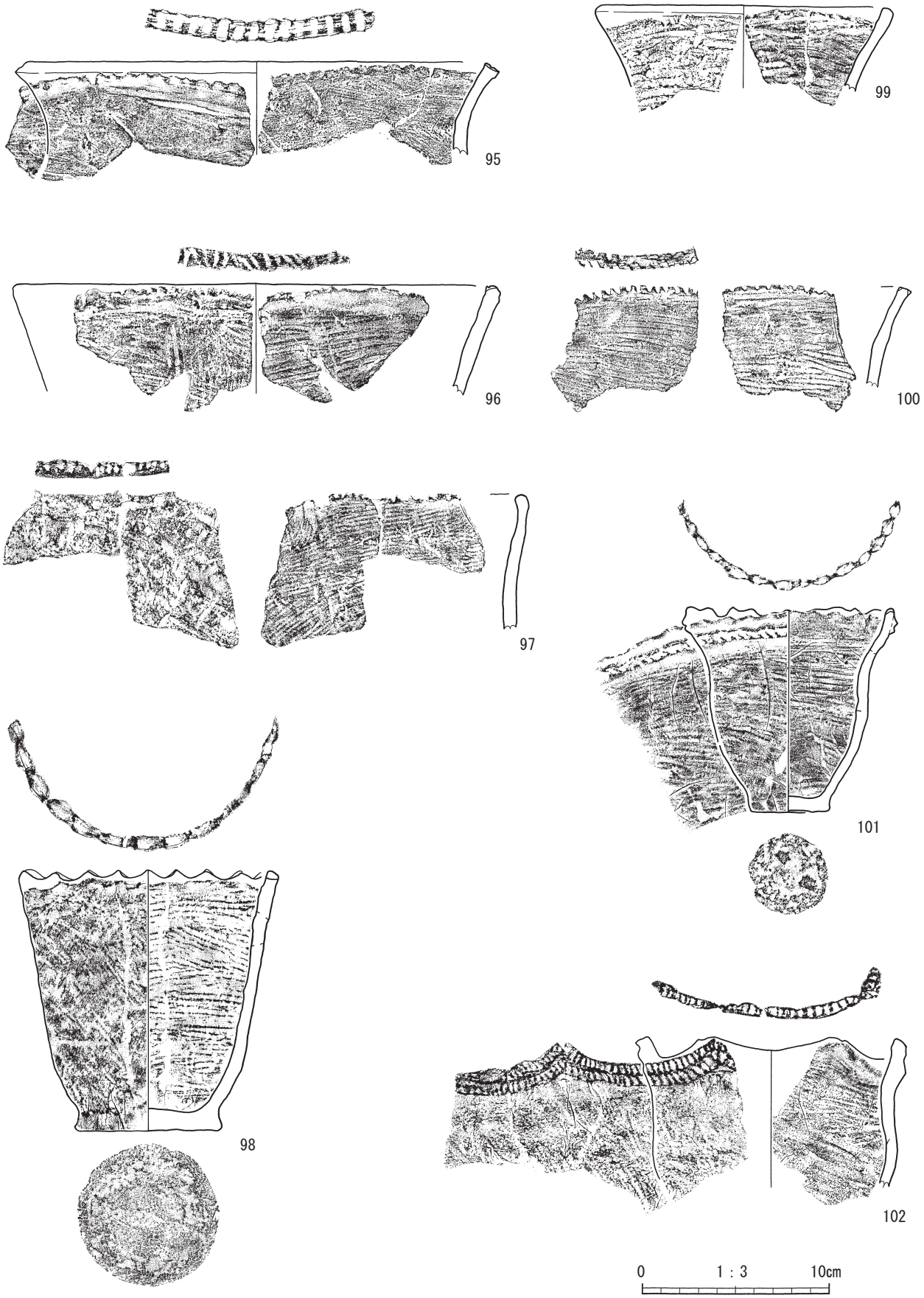
第29図　９類土器



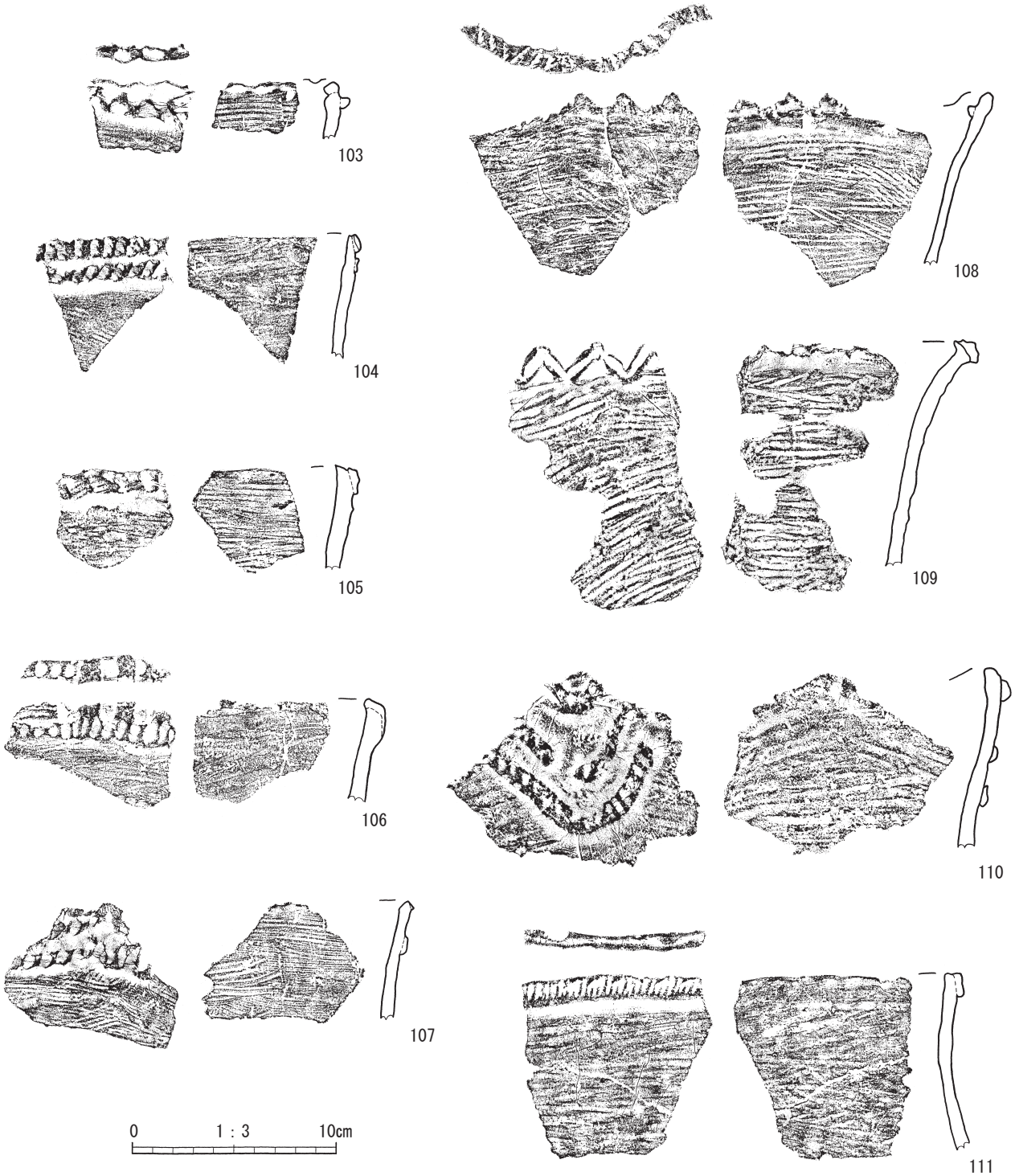
第30図　９類土器



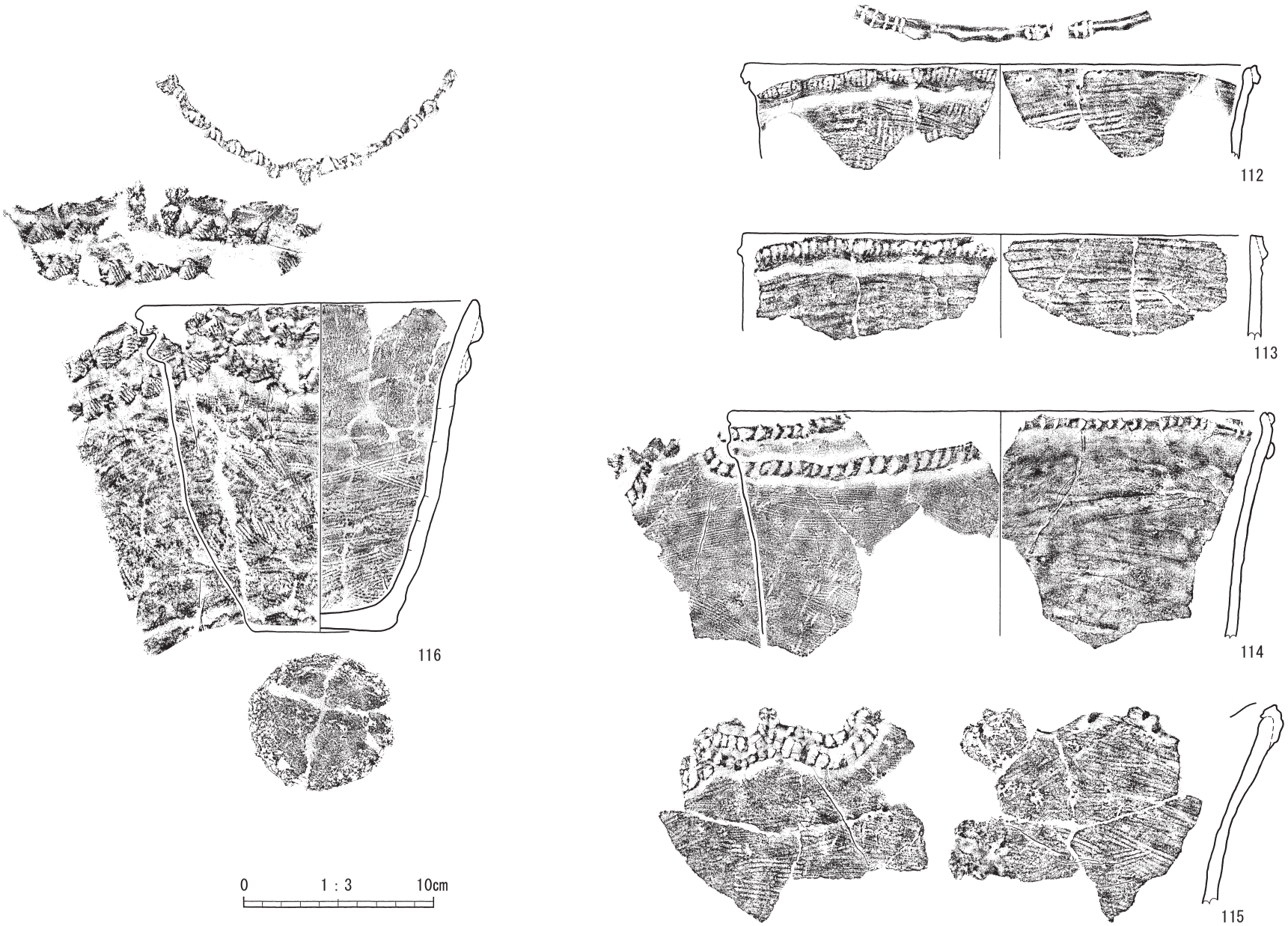
第31図　９類土器



第32図　９類土器



第33図　９類土器



第34図　９類土器

第35図　９類土器

る刺突文を浅く施す。111は、１本の突帯上に、貝殻押引文を施す。112は、１本の突帯上に、貝殻押引文を施し、口唇部には貝殻腹縁刺突文を施す。113は、１本の突帯上に貝殻押引文を施す。111～113は、同一個体の可能性が高い。114は、不規則な突帯を２列で横位に貼り付けており、突帯上に棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。口唇部には、棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。115は、波状に貼り付けた突帯上に、棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。

c類は、93・98・101・118のように、細かな波状口縁を呈するものが多い。94・117は、胎土や色調から同一個体の可能性が高い。94は、波状口縁の波頂部のため、117も波状口縁を呈する可能性が高い。98は、外面全体にナデ調整を施しているのに対し、内面は貝殻条痕が明瞭に確認できる。

116は、突帯上に貝殻を押引状に施す。突帯は基本的に横位に貼り付けられているが、口唇部に向かって波状に持ち上がる箇所や、縦位に貼り付けられた突帯も確認できる。口唇部にも、貝殻腹縁押引文を施す。118は、大きさに対して器壁が薄く、滑石を胎土に含む。２本の沈線を横位に施し、沈線に沿うように棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。

10類土器（第37～44図119～163）

口縁部に、沈線で幾何学的文様を描く文様帯を有し、口縁部下位に屈曲する段が付くことを特徴とする。374点確認し(番号取上分)、45点図示した。

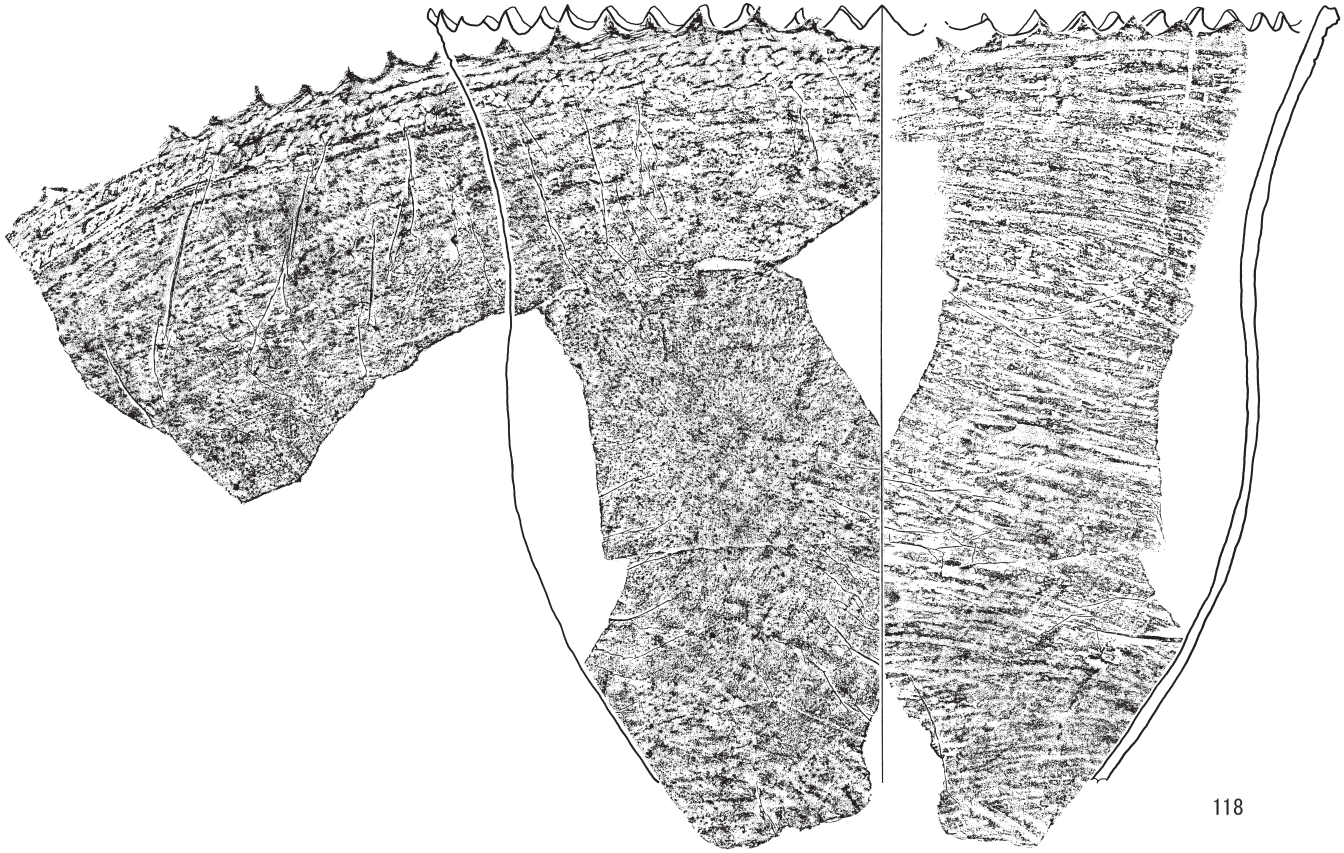
器面調整は、貝殻条痕後にナデ調整を施すものが多い。特に口縁部は、丁寧なナデ調整を施した後に施文を行っている。

口縁部形態から４類に大別した。

10－ａ類（第37～40図119～129）

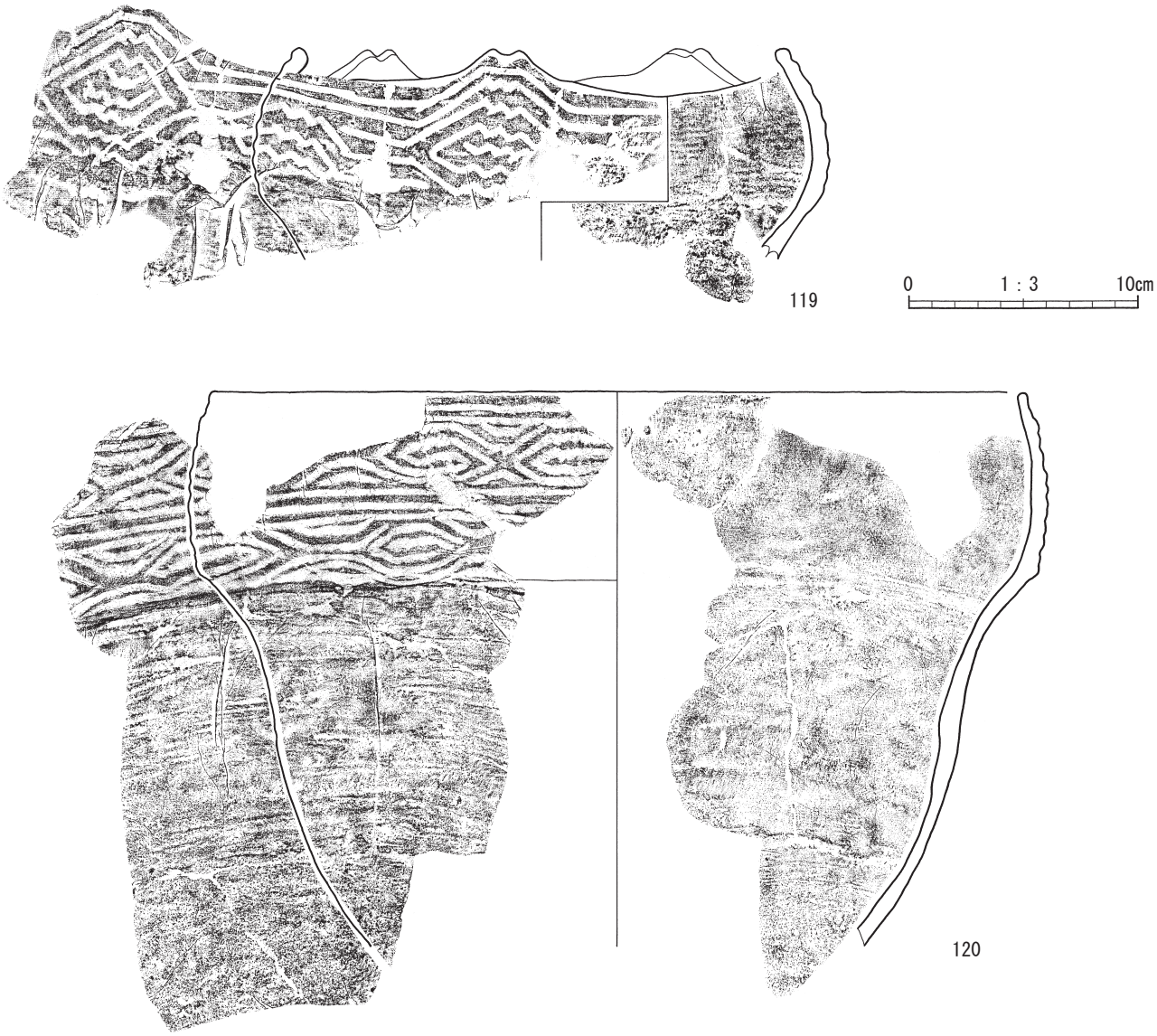
口縁部が内湾するもの。鋸歯文を多用するものが多く、沈線文が密接して施される。

119は、５つの波頂部をもつ波状口縁を呈し、波頂部は２つの突起をもつ形状である。120は、沈線文内で部分的に押引文を施文している箇所がある。121は、鋸歯文の箇所のみ器面に対して斜めから棒状工具で施文している。屈曲せずなだらかに胴部へ至る。122は、口縁部の屈曲がかなり発達しており、せり出す形態である。一見すると、沈線による施文の印象を受けるが、浅く細かな押引文を沈線状に巡らせている。内外面ともに、貝殻条痕の後にナデ調整を基本的に施している。口縁部は、部分的に煤が付着している。121・122は、胴部に比べて口縁部を肥厚させている。128は浅い押引文を巡らせる。



0　1：3　10cm

第36図　９類土器



第37図　10類土器

10－ｂ類（第40～42図130～144）

段が明瞭で、口縁が内傾・直行・外傾するもの。文様間隔が少し広く、文様帯の無文箇所が目立つ。

131・135・136・143・144は、押引文を施す。130・131・133・134のように、口縁に対して文様を垂直方向に施すものが多く確認できる。沈線を浅く施すものが目立つ。132・140は、貝殻腹縁による条線文を施す。141は、二又状工具による沈線文を施す。142は無文である。

10－ｃ類（第43図145～151）

段が不明瞭なもの。

145・146・148・149は、沈線が口縁に対して垂直方向に施される。145・148のように、文様帯が広くなるものがある。149は、残存部位の形状から、口縁部が内湾するものである可能性が高い。150は、浅く細かい押引文を施す。

10－ｄ類（第43～44図152～163）

段の有無・形状が不明の口縁部を一括した。他類に比べて、施文が不規則なものも多い。

152は、口唇部に瘤状の浅い突起が付く。153は、幅の揃った細かい沈線がみられるため、櫛状工具で施文したと考えられる。154・161は、押引文を施す。155は、二又状工具による沈線文を施す。156は波状口縁の波頂部と考えられる。156・160は、他のものと比べて幅広の工具で浅く施される。157・160・162のように、他類と比べて薄い作りのものが目立つ。

11類土器（第44～45図164～188）

指先や幅広の工具などを押し当てた凹線を描くことを特徴とする。155点確認し(番号取上分)、25点確認した。

口縁部は、直行・外傾・外反する。176は波状口縁を呈する。多くは地文の貝殻条痕が明瞭に確認できる。内面調整後に外面を施文しているため、164・165・174の凹点の部位では、内面が少し浮き出ている。より幅の狭い166・167の

第38図　10類土器

0　1：3　10cm

ような凹点では、内面に浮き出るものはみられない。177のみ、口縁部上位に貝殻腹縁刺突文が確認できる。178は、口縁部が緩やかに湾曲する形状を呈するため、波状口縁の可能性もある。184は、凹線内に凹点文が施される。その残存形態から、円盤状土製加工品の可能性がある。

12類土器（第46～51図189～239）

口縁部から胴部にかけて、沈線文や細形凹線文を用いて、直線と曲線を主体とした文様を描くことを特徴とする。522点確認し（番号取上分）、51点図示した。

口径の大きな個体が多い。口縁部形態は、内湾するものから外反するものまで存在する。口縁部や口唇部に、密接して刺突文を施すものも多い。平口縁を呈するものが多いが、なだらかな波状口縁を呈するものもある。そして、波頂部の口唇部に刻みを施すことが多い。

胎土に金色の雲母を含むものがある。

器面調整は、194・201のように、貝殻条痕を確認できるものがあるものの、大半にはナデ調整を施す。

199は、肥厚した口縁部に凹点文を施した後に、板状の粘土を上から貼り付け、さらに凹線を施している。203は、口縁部がかなり肥厚する。205は、丁寧なナデ調整を施す。外面は黒色を呈するが、内面と胎土は赤褐色を呈し、色調差が大きい。217・218は、胎土や文様などから、同一個体である可能性が高い。ともに凹線文を施文後、凹線文間に貝殻腹縁刺突文を施しており、いわゆる擬似縄文である。228も、凹線文間に貝殻腹縁刺突文を施す。

13類土器（第52～53図240～256）

口縁部が断面三角形あるいは、「く」の字形を呈することを特徴とする。29点確認し（番号取上分）、17点図示した。

第39図　10類土器

0　1：3　10cm

ナデ調整後に施文されているものが大半を占めており、赤みがかった褐色を呈するものが目立つ。

241・252・256は、波状口縁の頂部である。241は、器壁が厚く、内面に深い細形凹線文と刺突文を施している。244・249・250は、口唇部に押引文を施す。253は、口縁部に細かな押引文を３列に施す。248・256は、細形凹線文と貝殻腹縁刺突文を施す。252は、貝殻腹縁刺突文を２列でＶ字状に施す。254は、口唇部に雑な押引文を施す。255は無文である。

14類土器（第53図257～262）

貝殻腹縁刺突文を、１列あるいは２列で多重に施すことを特徴とする。６点確認し(番号取上分)、全て図示した。

胎土に金色の雲母を含むものがある。

257は口縁端部で肥厚させ、その下部に斜位の貝殻腹縁刺突文を施す。260は、波状口縁の波頂部の可能性があり、斜位の貝殻腹縁刺突文を浅く施す。261のみ、刺突文の施文方向が変わる状態が確認できる。259は、若干押引状に刺突文を施す。

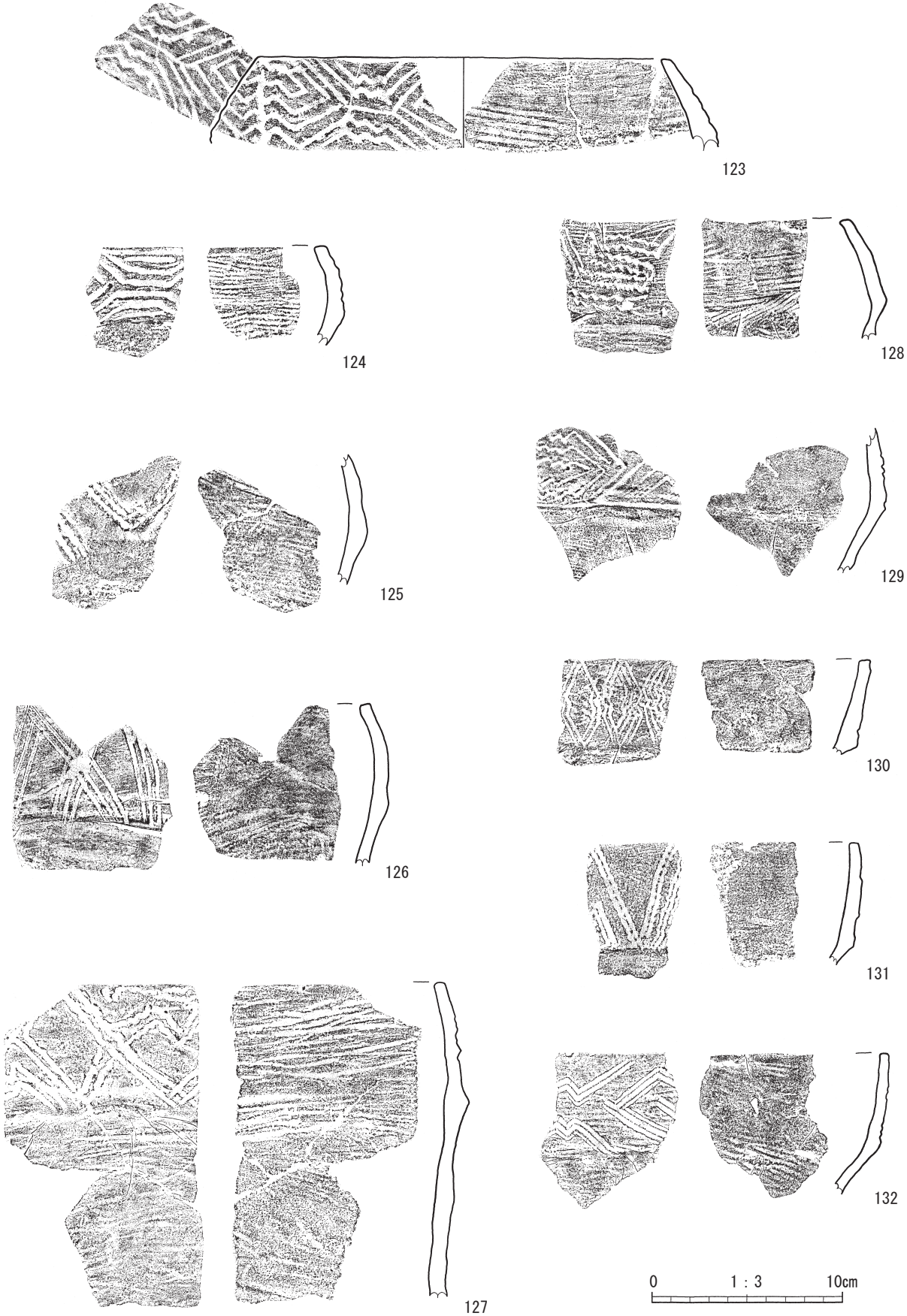
15類土器（第53～54図263～276）

凹点文を横位に連続して施すことを特徴とする。11点確認し(番号取上分)、14点図示した。

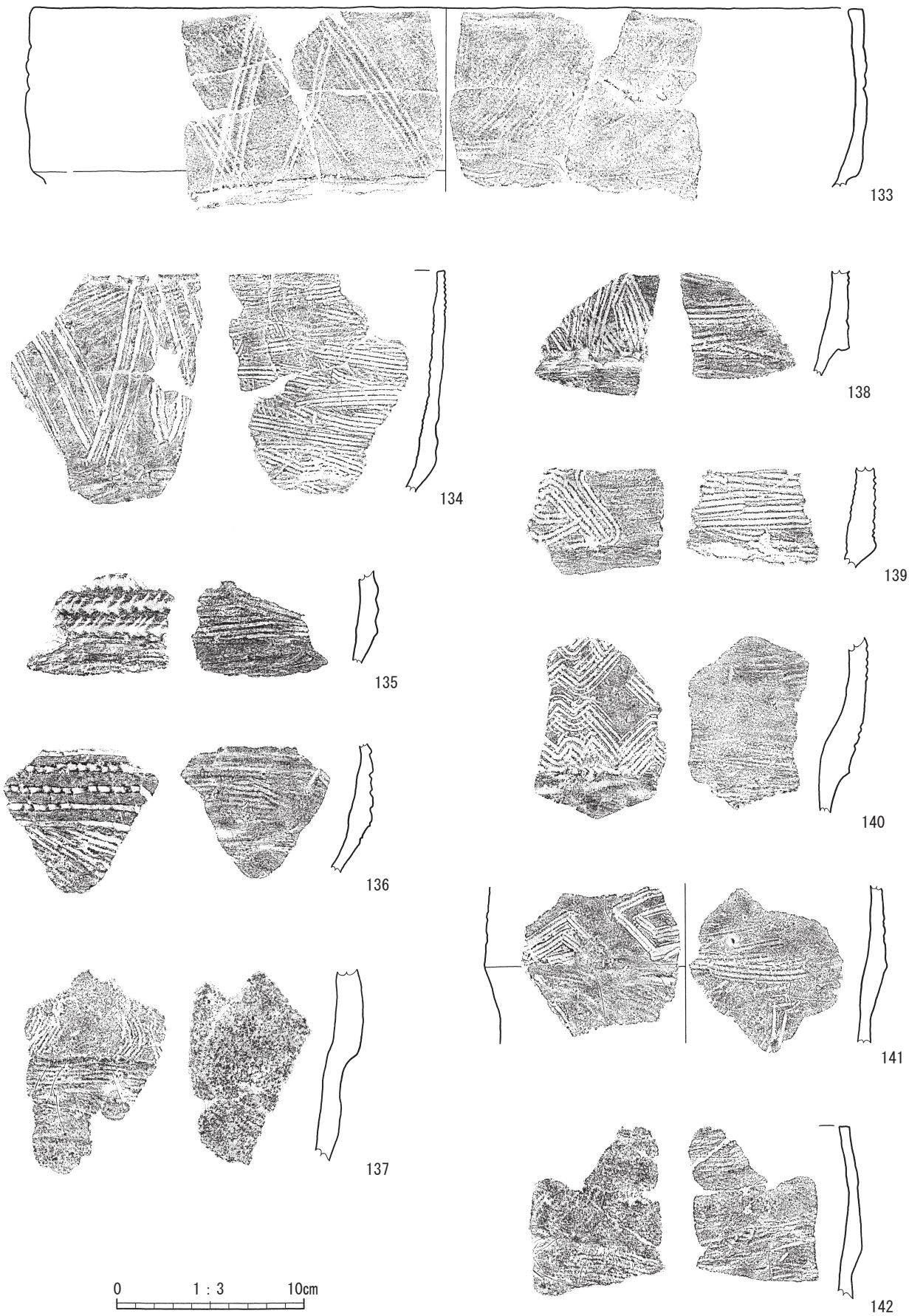
確認できたものは全て口縁部で、口唇部でつまみ上げるように細くなるものと、肥厚したまま端部まで至るもの、肥厚せず端部まで至るものがある。

263は、沈線を挟むように細かく刺突文を施す。264は、口唇部に凹線を施す。265は、口唇部に凹線と刺突文を施す。266は、貝殻腹縁による刺突文をＶ字状に交差させ、口唇部には、貝殻を使用したと思われる細かな条痕が確認できる。267に施された刺突文は、中心部に表面が盛り上がる状態が確認できるため、竹管状のもので施文していることが分かる。268・276は、ともに横長の凹点を施す。268は、口唇部が凹線のように若干凹む形状を呈している。

269は、沈線と浅い刺突文を施す。270は、棒状工具による刺突文を施し、貝殻腹縁による刺突文を沈線状に横位に連ねて施す。271は、半裁竹管状の工具で、押引くように凹点を横位に施し、口唇部にも刺突文が確認できる。272は、口縁端部に凹線を、口唇部に細かな押引文を施す。273は、



第40図　10類土器



第41図　10類土器

第42図　10類土器

浅く押引文を２列に施す。274は、縦位の凹点を施し、口唇部内側にも浅い刻目を施す。275は、深い凹線文を施す。

16類土器（第54図277～291）

器壁が厚く、内外面ともにミガキもしくは丁寧なナデ調整を行い、凹線文や沈線文を施すことを特徴とする。25点確認し(番号取上分)、15点図示した。

277・279・280・281のように、口縁部に１本の凹線を施すものが多いが､283のように口縁部が無文のものも確認できる。282のみ、沈線を施す。

285・288は、沈線を密接して施す胴部である。289は底部で、外底面はミガキ調整やナデ調整は施されない。290は、口縁部の可能性がある。291は、屈曲して膨らむ箇所にススが付着している。

17類土器（第55図292～300）

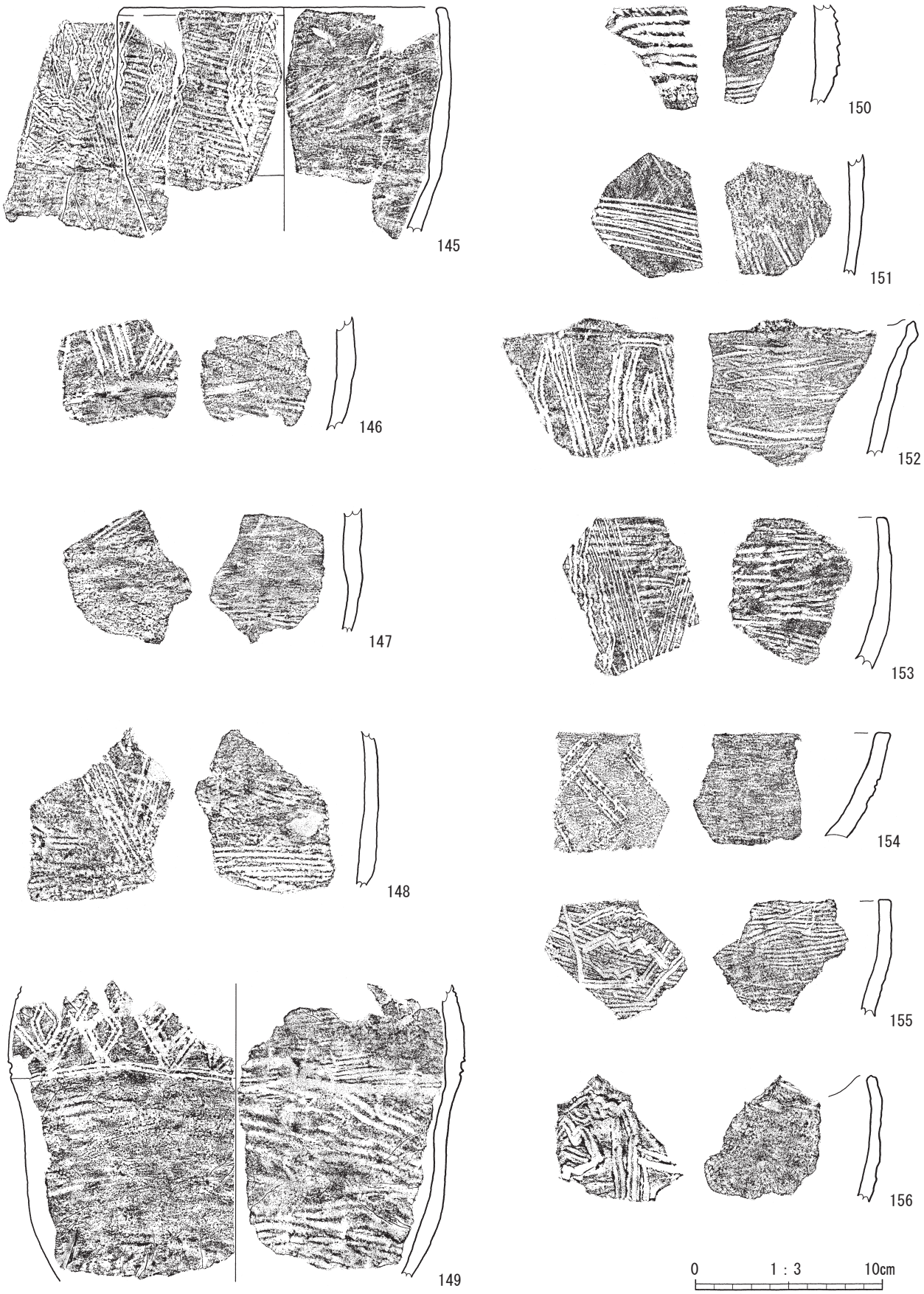
縄文後期に属すると考えるが、11～16類に含まれないものを一括した。９点確認し(番号取上分)、全て図示した。

292は、口唇部が平坦に広がり、貝殻腹縁押引文を施す。293は、口唇部を挟るように深く凹線文を施す。294は、口唇部にヘラ状工具による凹線と刻目を施す。296は、波状口縁の波頂部であり、円形に貼り付けた突帯の中心部が凹む形状となる。297は、口縁部に沈線を、口唇部に刺突文を施す。298は、肥厚する口縁上部に凹点を、口唇部に幅の広い刻目を施す。299・300は、口唇部に沈線を施す。

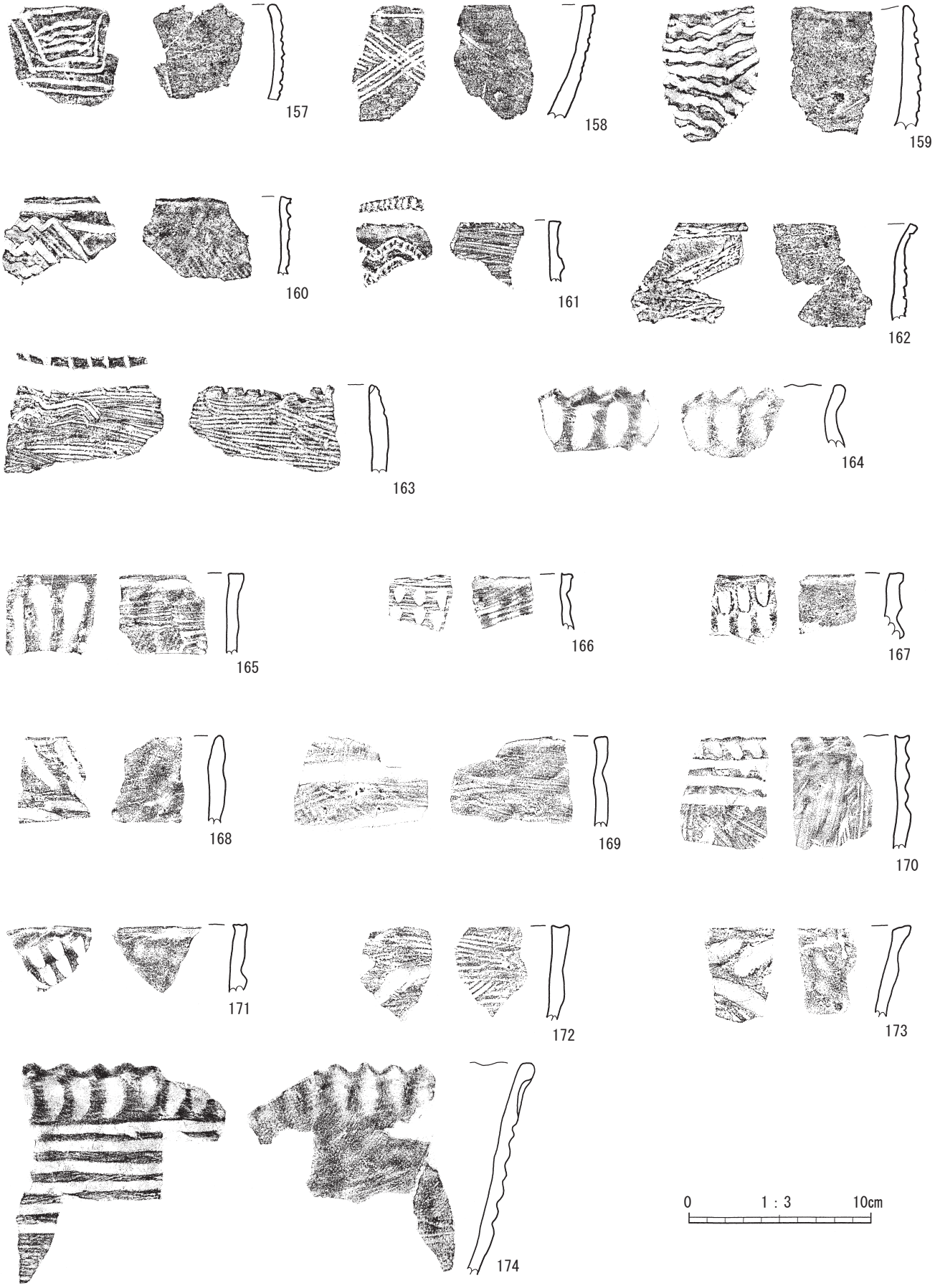
18類土器（第55図301～305）

磨消縄文が確認できるもの。５点確認し(番号取上分)、全て図示した。

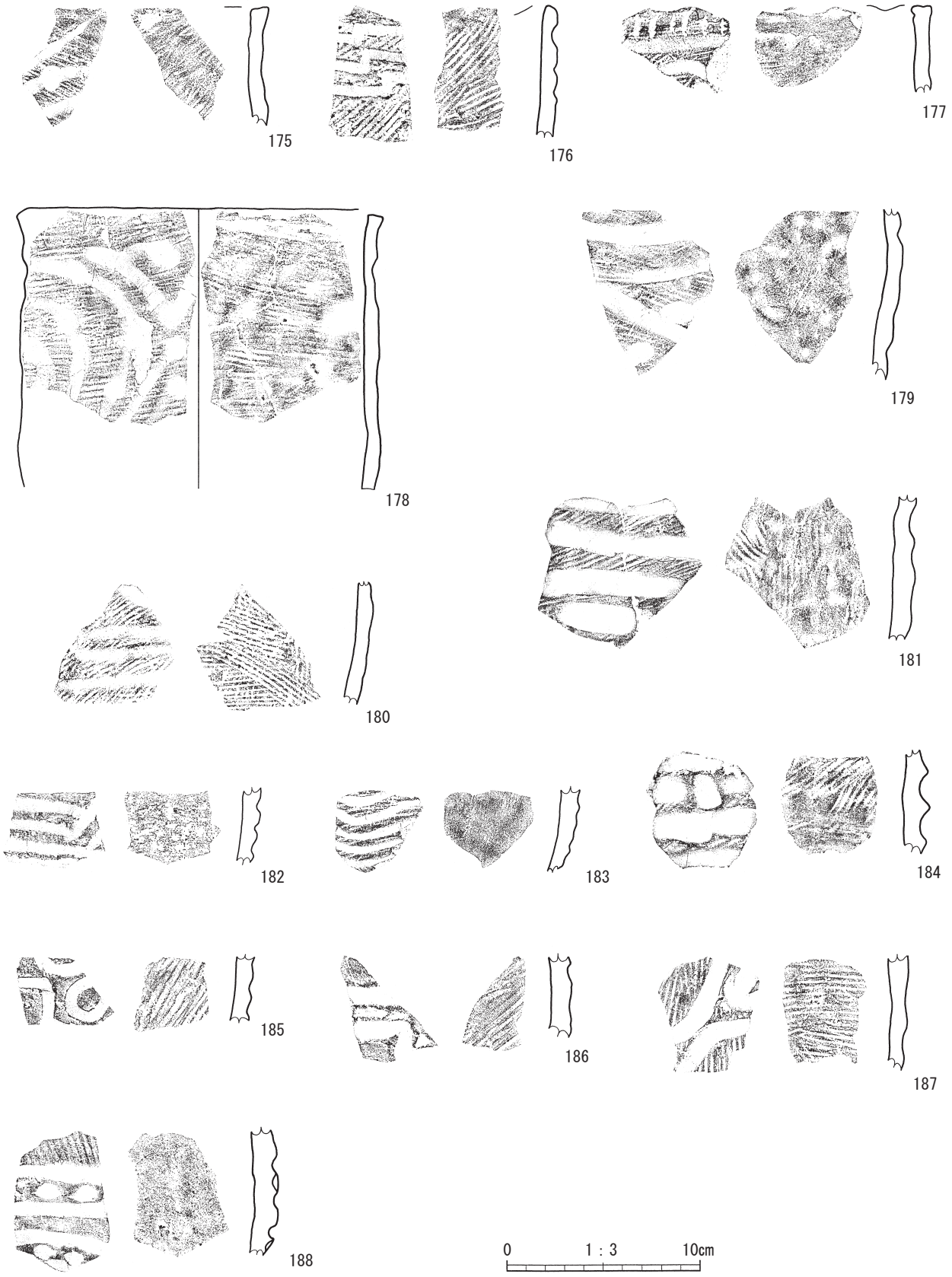
いずれも内面はナデ調整を施す。301・305は、地文の縄文のみ確認できる。302は、横位の沈線の後に、斜位の沈線を施す。304は、浅い沈線が２本確認でき、２本目の沈線の下部は、縄文が磨り消され無文部となっている。



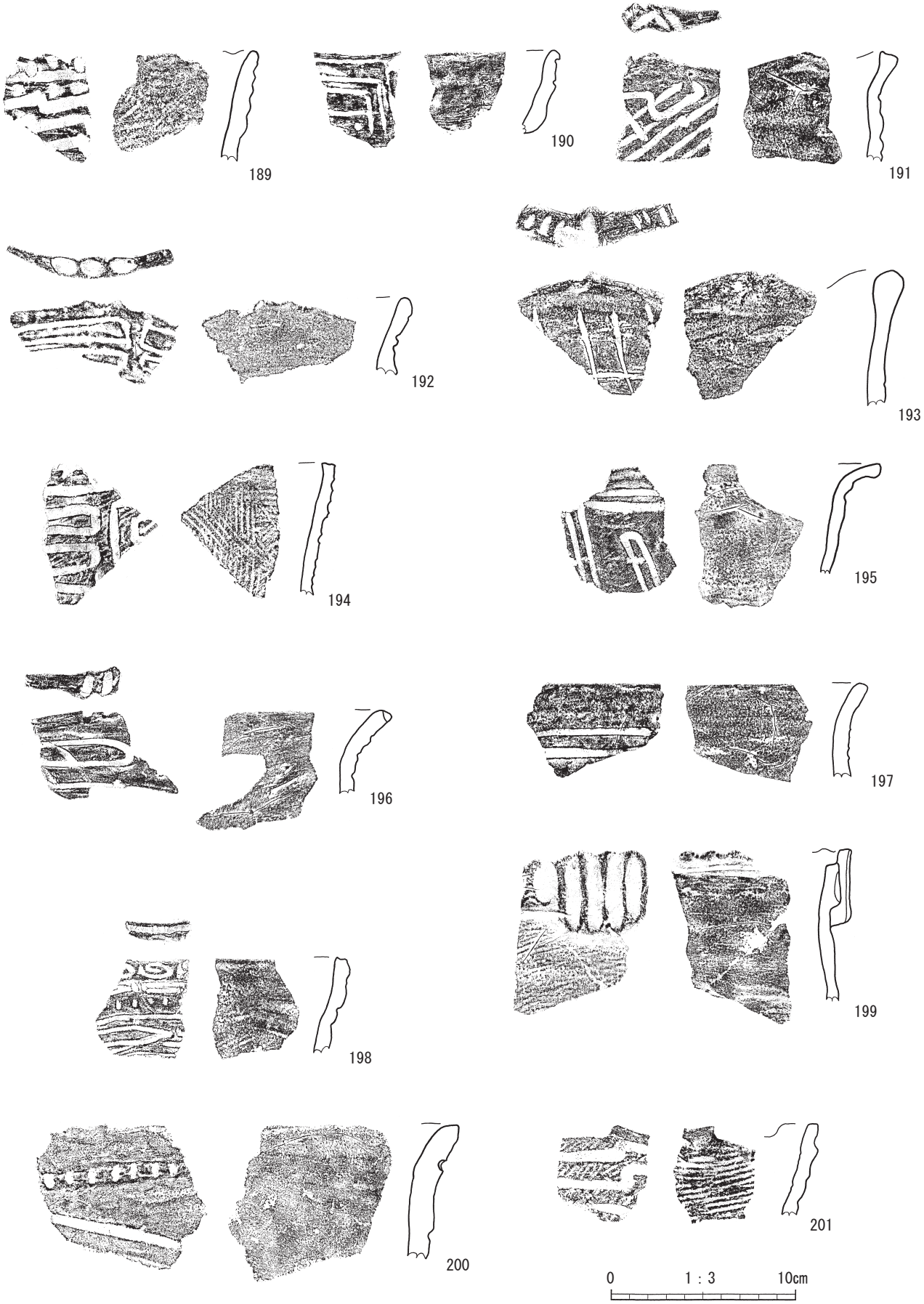
第43図　10類土器



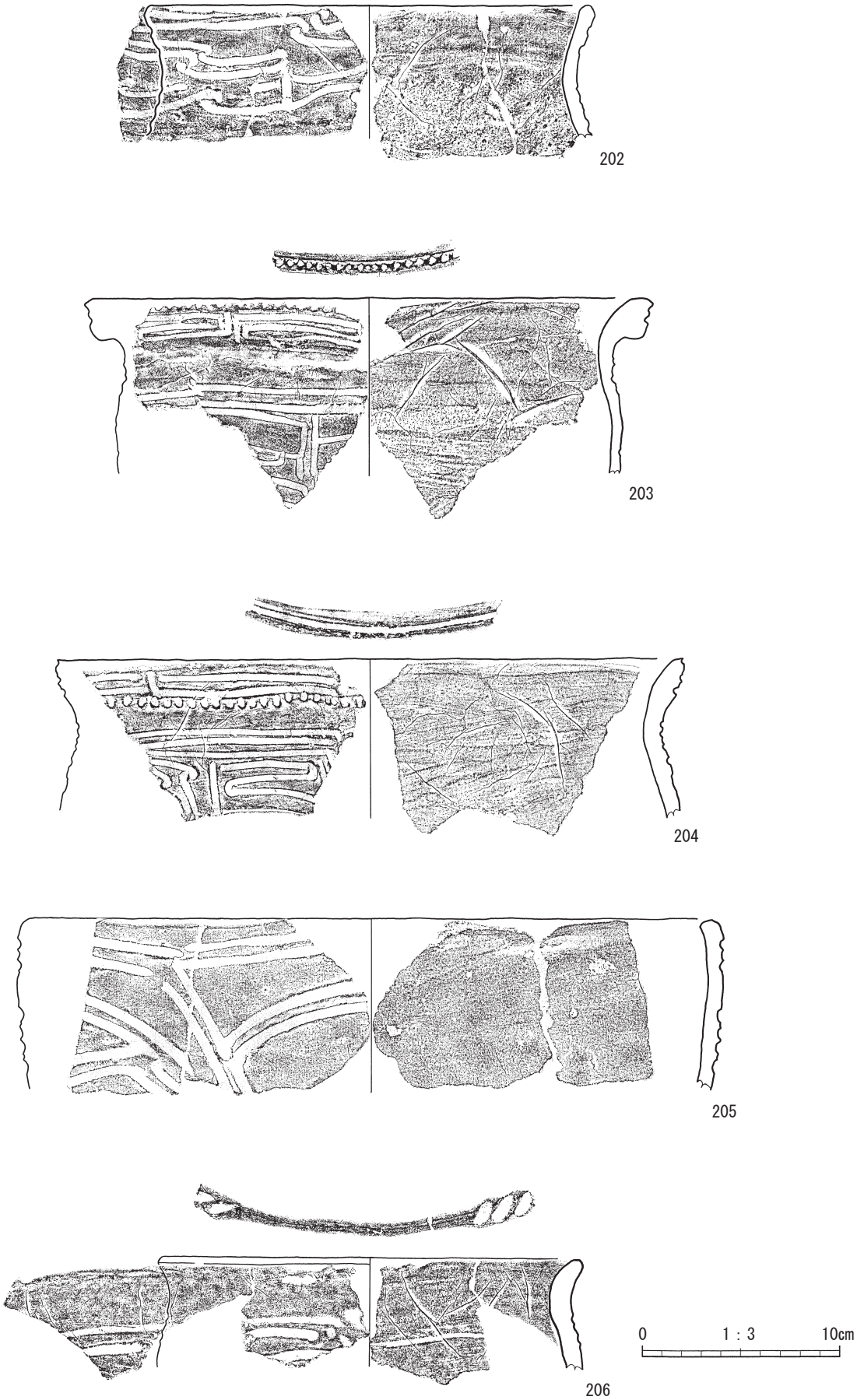
第44図　10～11類土器



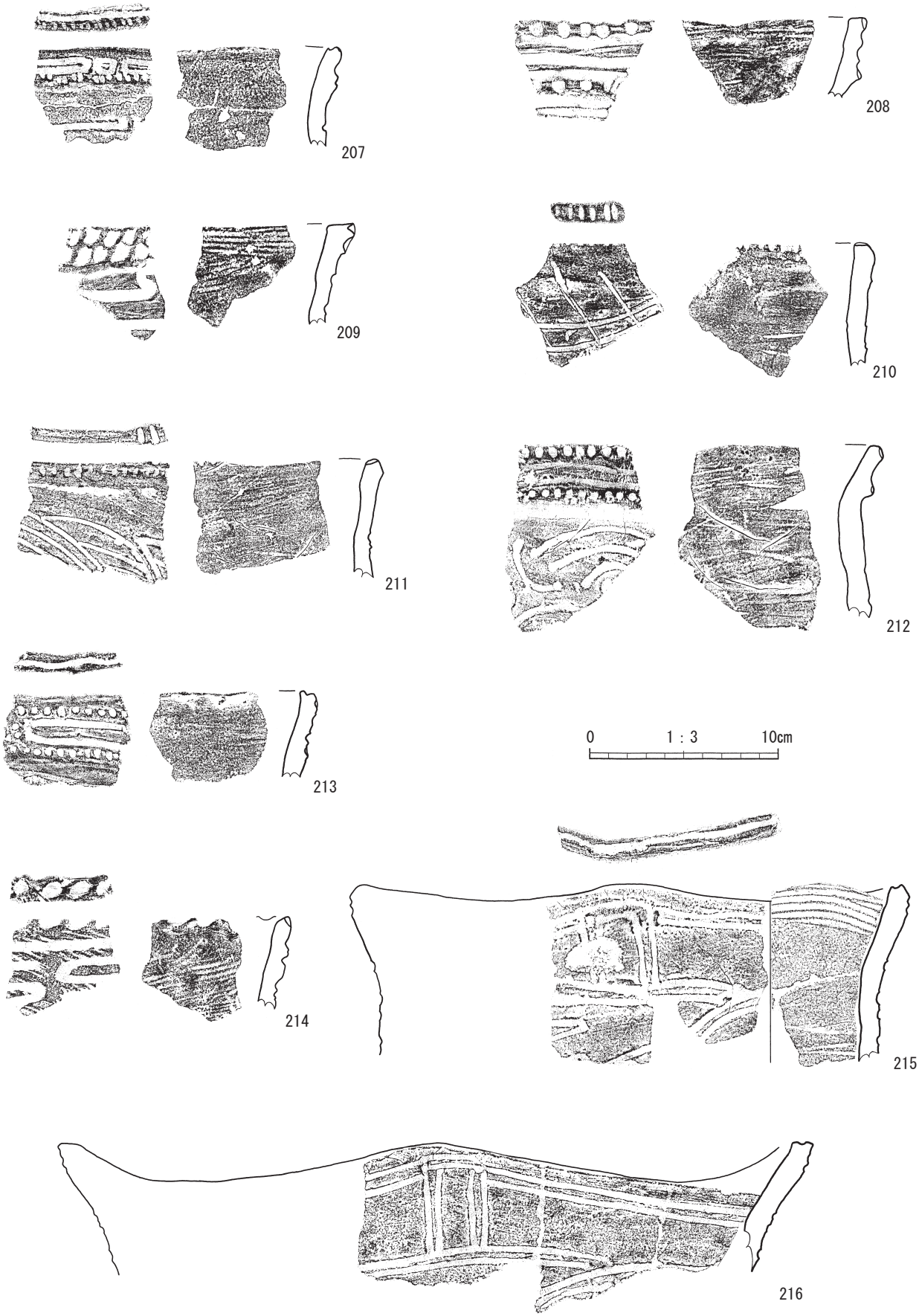
第45図　11類土器



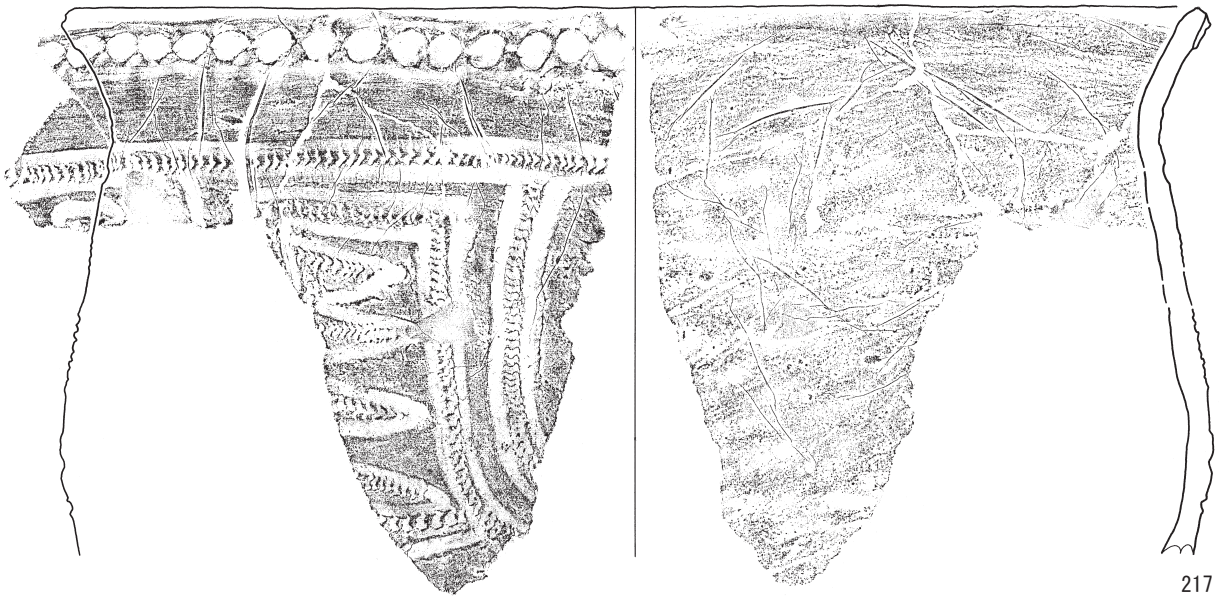
第46図　12類土器



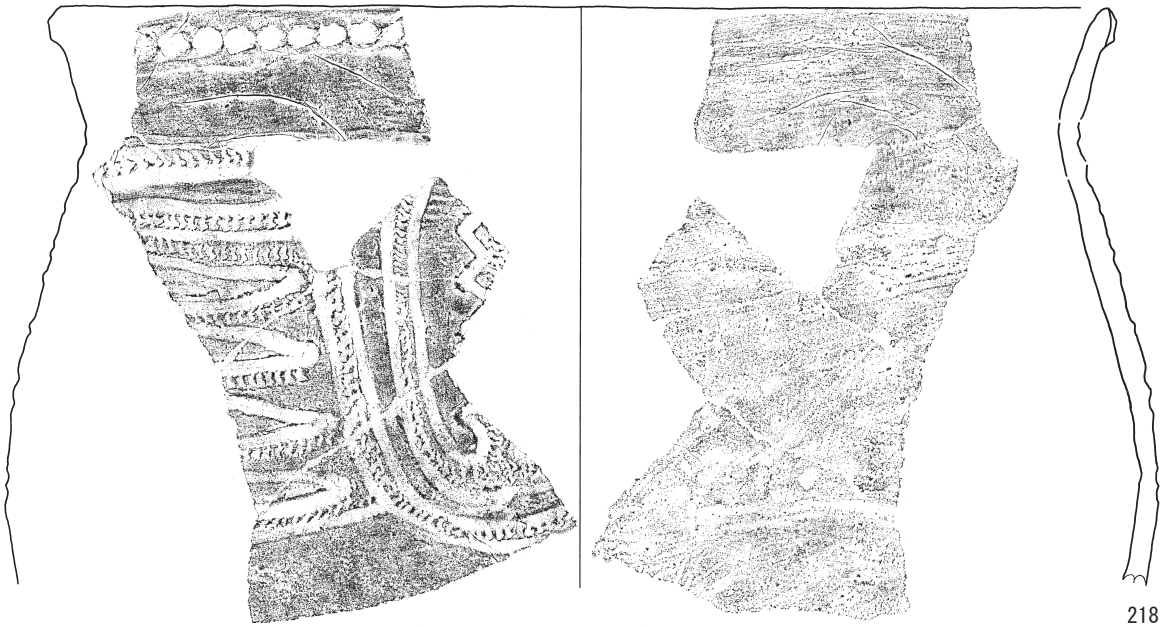
第47図　12類土器



第48図　12類土器



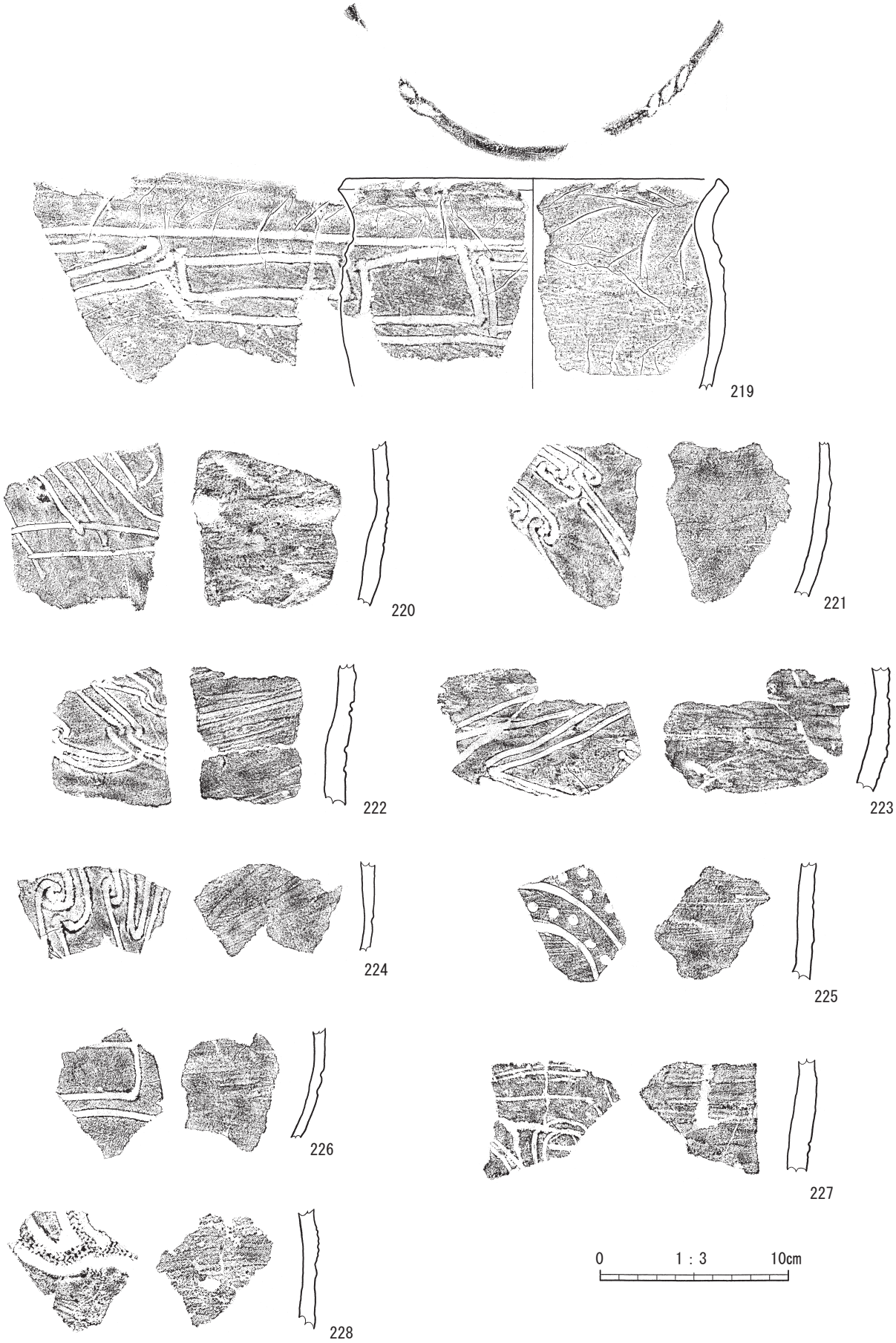
217



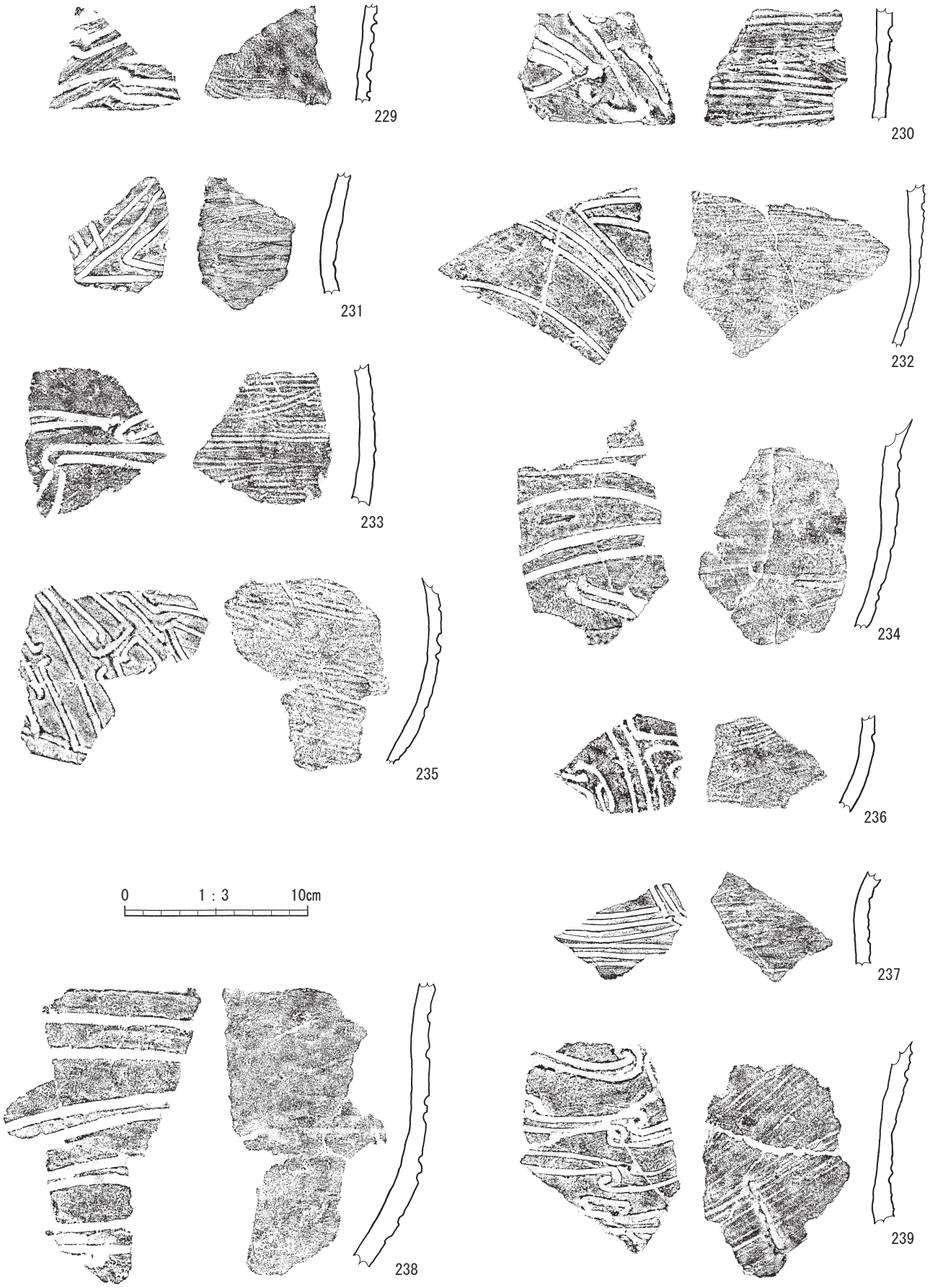
218

0　1：3　10cm

第49図　12類土器



第50図　12類土器

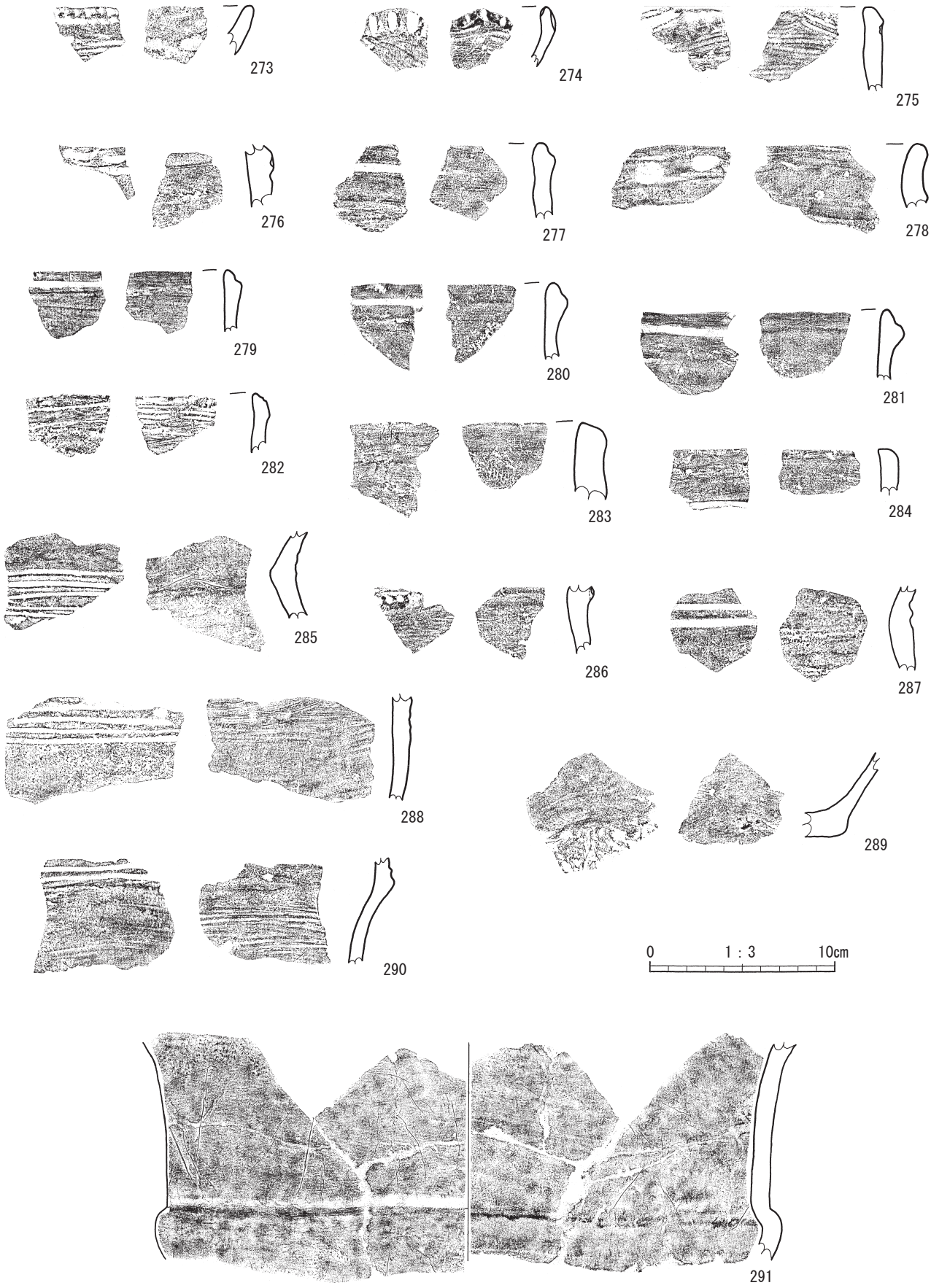


第51図　12類土器

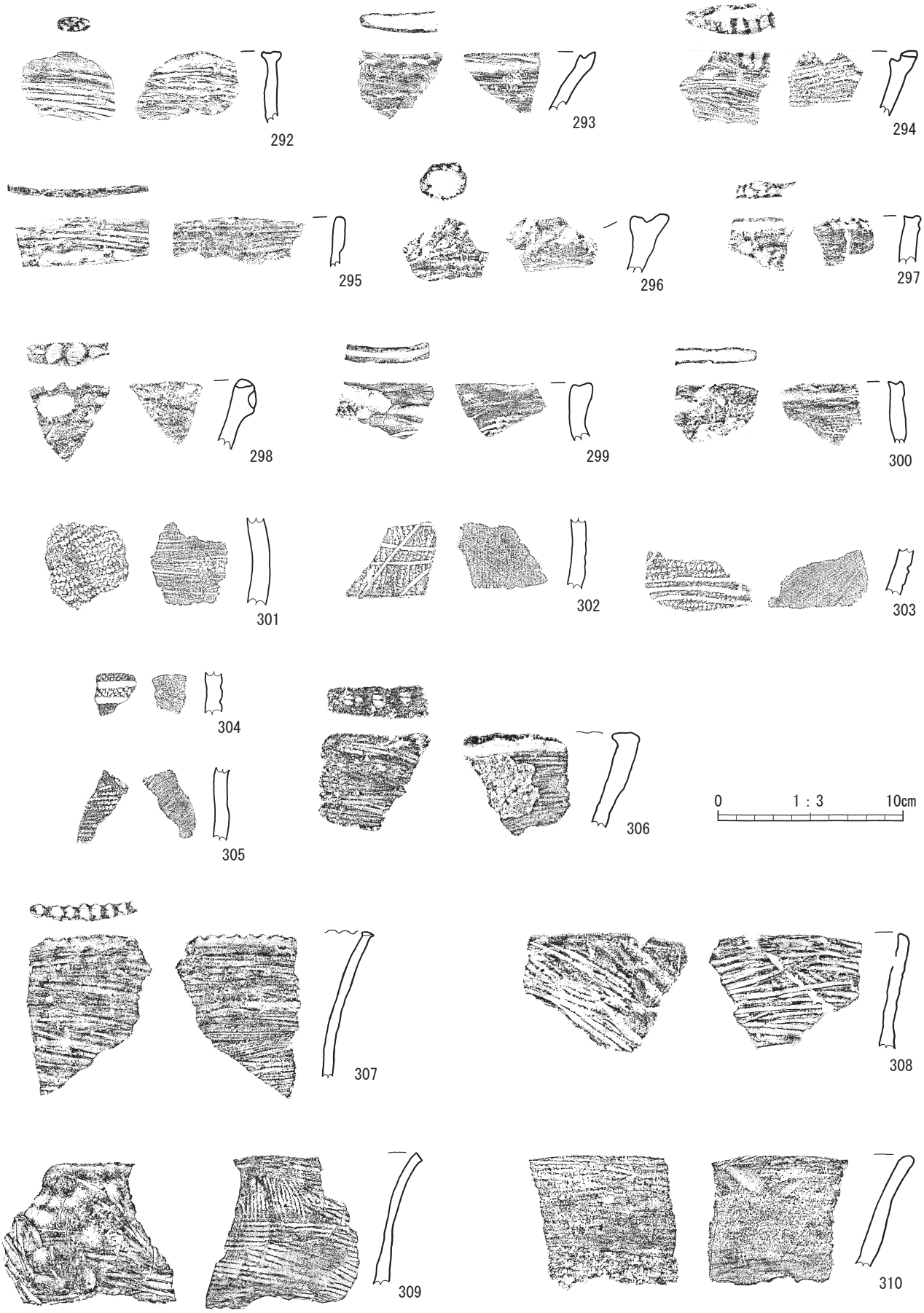
240
241
242
0
1：3
10cm
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255

第52図　13類土器

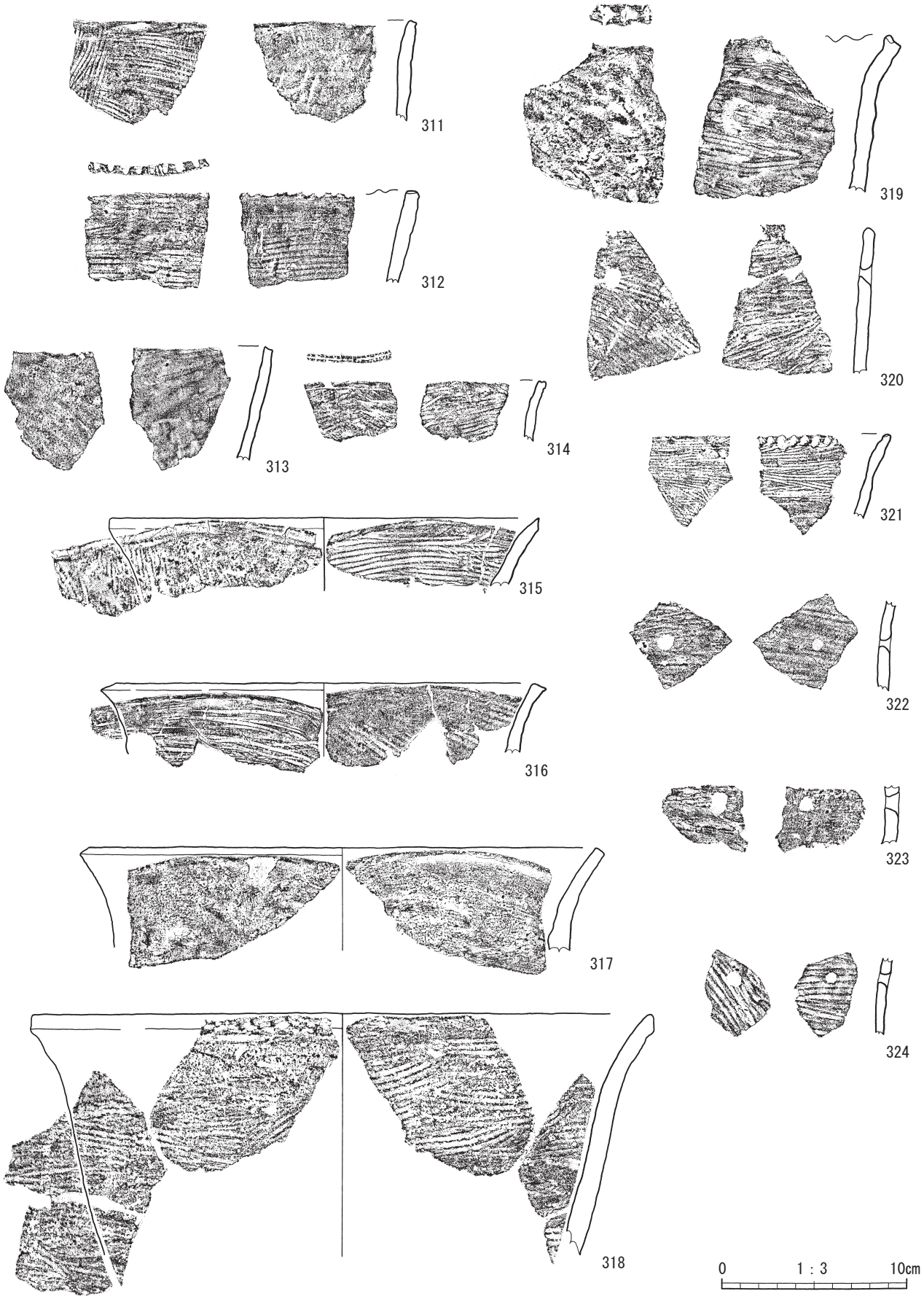
第53図　13～15類土器



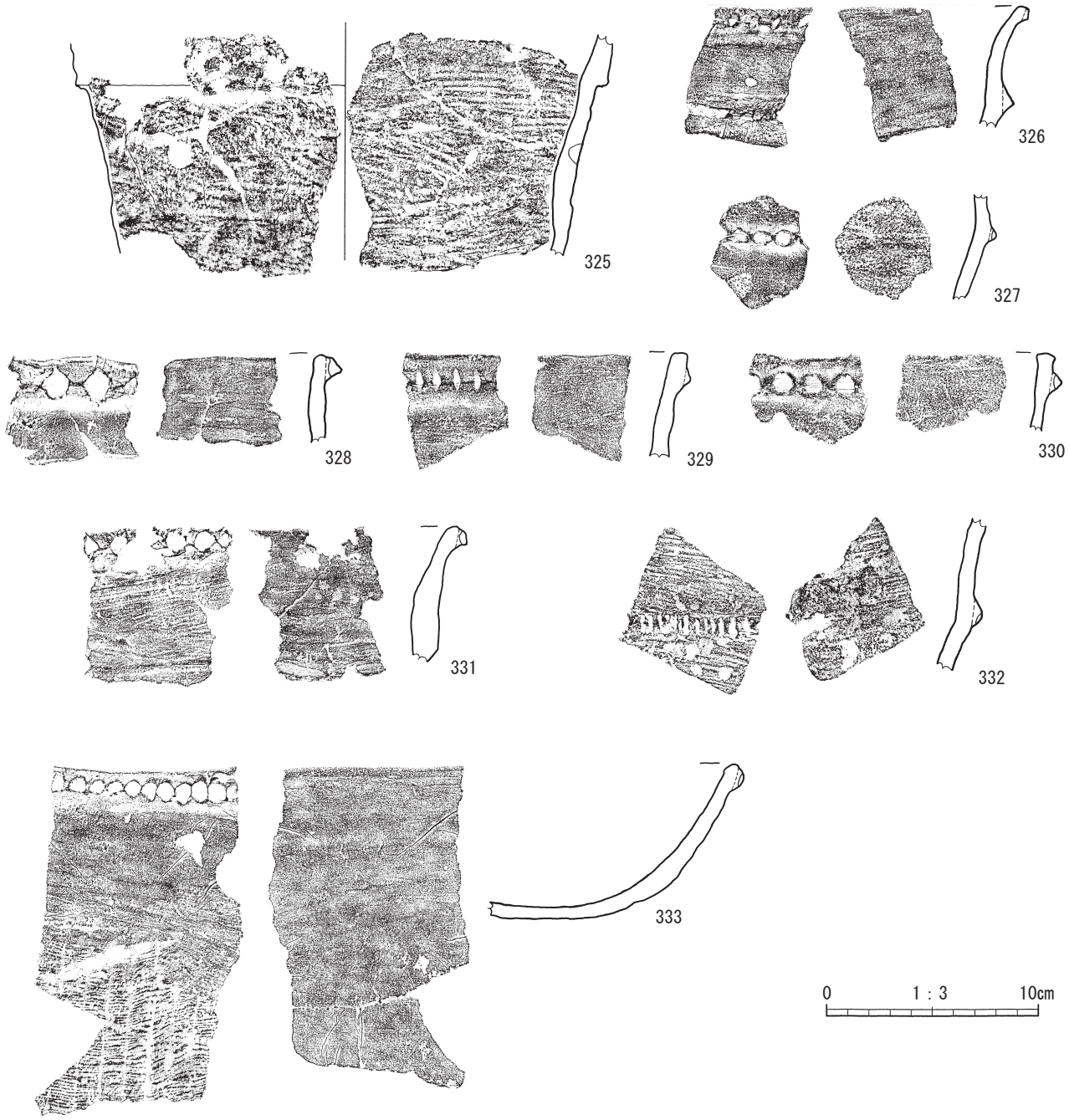
第54図　15～16類土器



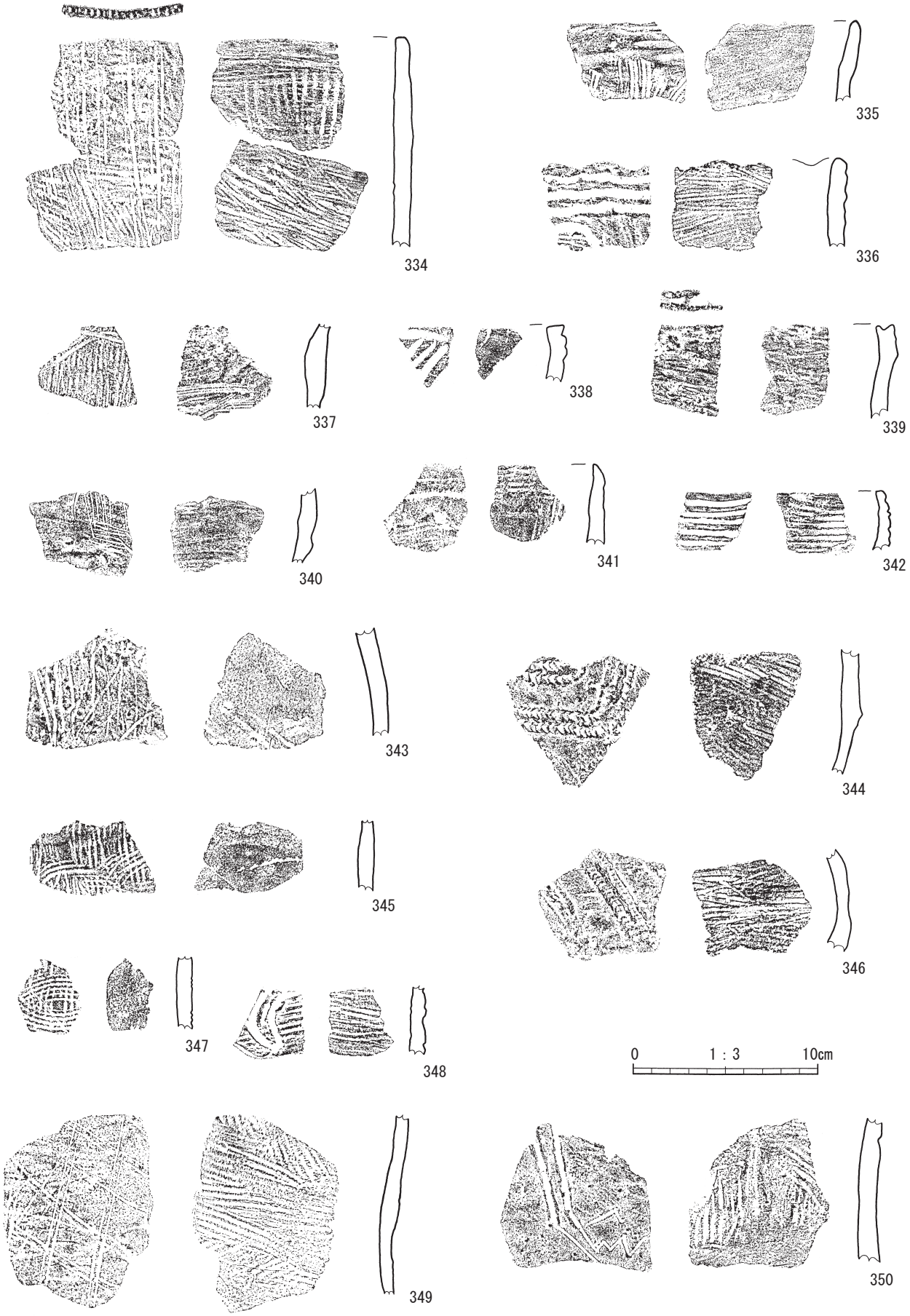
第55図　17～19類土器



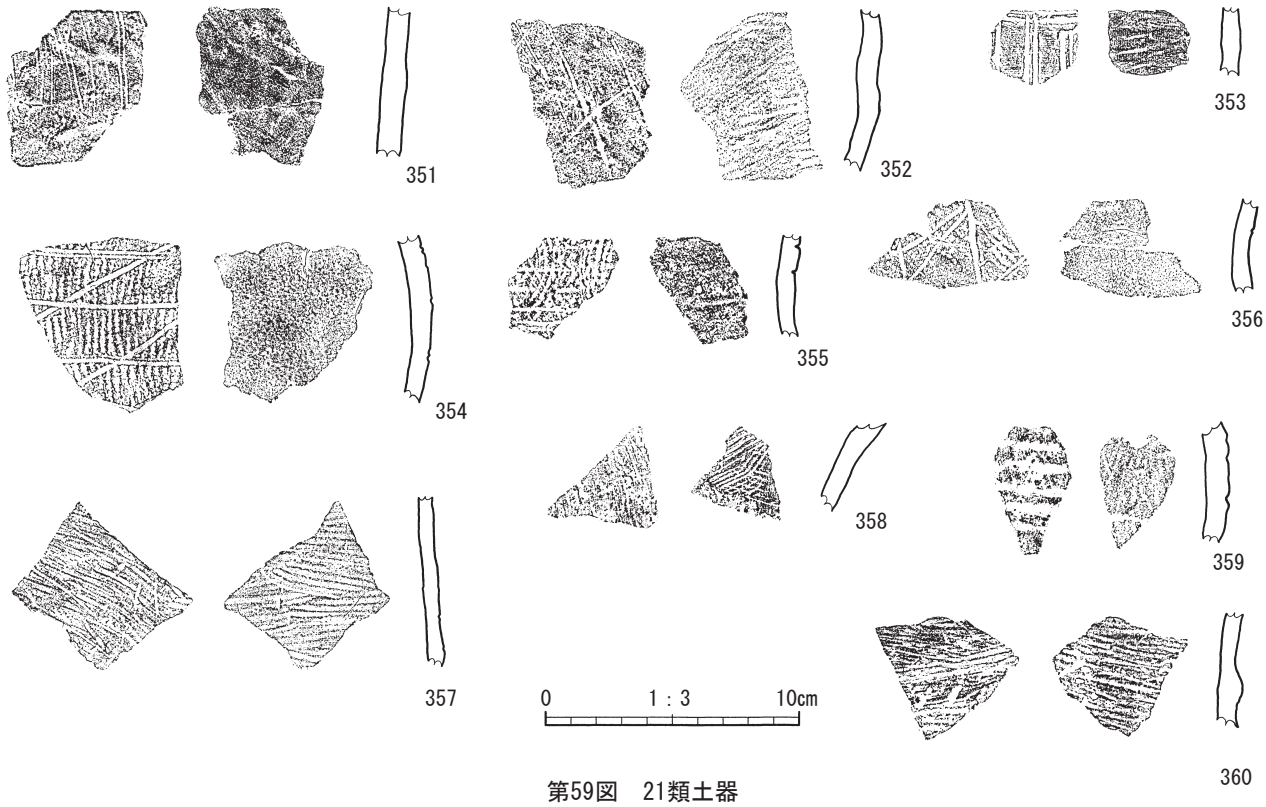
第56図　19類土器



第57図　19～20類土器


334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
0
1 : 3
10cm
349
350

第58図　21類土器



第59図　21類土器

19類土器（第55～57図306～325）

縄文後期に位置付けられる、文様のない粗製土器を一括した。口縁部が外傾もしくは外反し、板状工具などでケズリもしくは擦るように仕上げた後に、丁寧な調整を施さないことを特徴とする。120点確認し(番号取上分)、20点図示した。

306は、器壁が厚く口唇部が内側にせり出す形状で、口唇部にわずかに確認できる棒状もしくはヘラ状工具による刺突文を施す。307は、口唇部に棒状工具による押引文を施す。312は、口唇部に棒状もしくはヘラ状工具による刻目を施す。319は、口唇部に半裁竹管状の工具による刺突文を施す。

320・322・323・324は、補修孔が確認できる。直径は３～５㎜を測る。

325は、外面に段が付くように肥厚する箇所が確認できる。また、穿孔途中の孔が確認できる。

20類土器（第57図326～333）

刻目を施した突帯をめぐらせることを特徴とする。突帯は、口縁部と胴部に施す。刻目は、指先もしくはヘラ状工具で施す。17点確認し(番号取上分)、８点図示した。

口縁部は、直行もしくは外反する形状で、刻目は突帯上に密接して施す。突帯貼付後、丁寧なナデ調整を行うため、接合部は綺麗に消されている。

329・330は、口縁端部より下位に突帯が貼付される。

333は、口縁部から底部まで残存しており、底部には組織痕が確認できる。組織痕は、１㎝幅のモジリ編みである。口径は復元できなかったが、残存状態から、口径は30㎝以上になると考えられる。

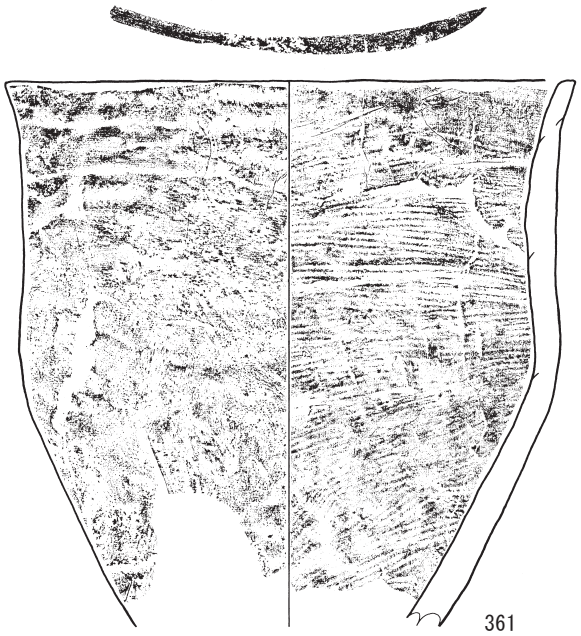
21類土器（第58～59図334～360）

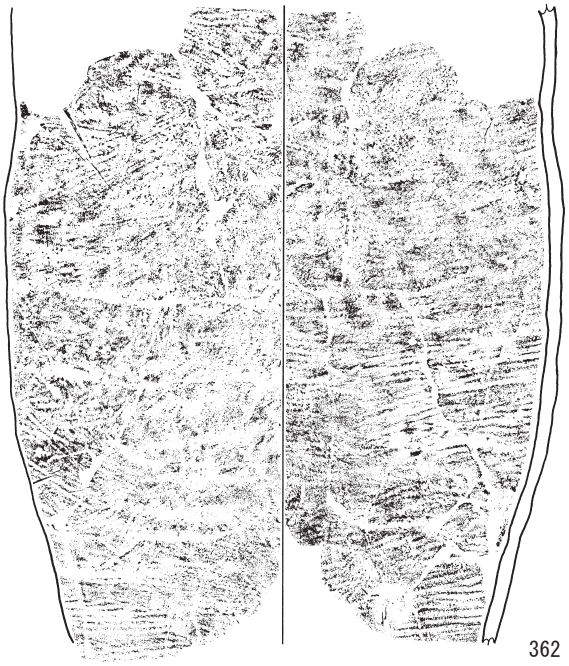
沈線文などの特徴的な文様がみられるものの、１～20類に含まれないものを一括した。27点確認し(番号取上分)、全て図示した。

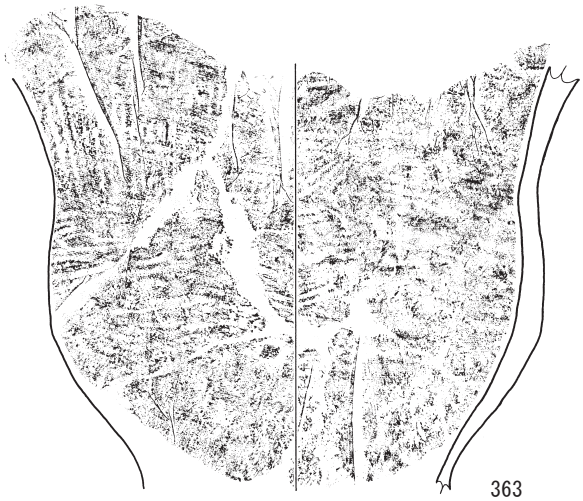
334は、直行する口縁部である。浅い沈線が縦位に施され、口縁部にススが付着している。350は、直線部位の沈線は深く施すことに対し、鋸歯状の部位は浅くなる。335は、横位の凹線と浅い沈線を施す。336は、押引文と曲線を描く沈線を横位に施す。337は、内面に凹凸が確認でき、外面には沈線と考えられる施文がみられる。340は、櫛状の先端が細かいもので、表面を掻くように浅い沈線を施す。345・351も、沈線の施文手法は類似している。341は、口唇部に向かって摘み上げるように細くなり、口縁部下位に横位の沈線を施す。342は、内湾気味の口縁部に密接して沈線を施す。344・346は、押引文が器面より浮いているため、浅い突帯を貼付してから、突帯を押し潰すように押引文を施した可能性が考えられる。349は、格子状の沈線を施す。352は、鋭い沈線を施す。354は、地文に縄文が施され、斜位の沈線の後に横位沈線を施している。船元式系の可能性がある。355は、かなり先端の細いもので刺突文を施している。360は、背の低い突帯上に貝殻腹縁刺突文を施す。

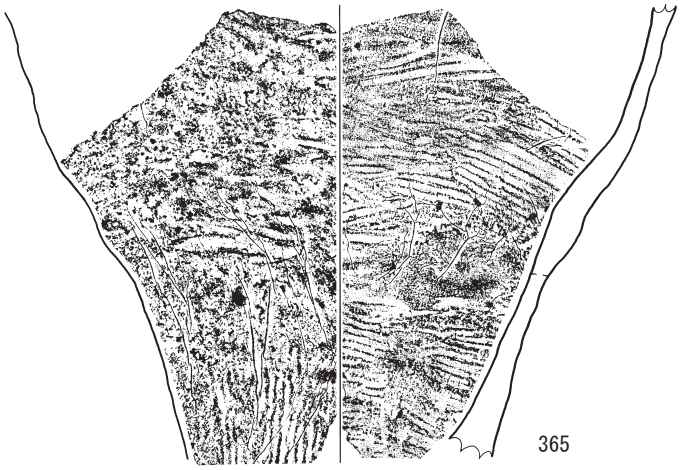
22類土器（第60～65図361～381）

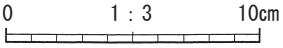
口縁部から胴部、胴部、胴部から底部までがある程度復元できたものの、文様などが確認できず分類できなかった



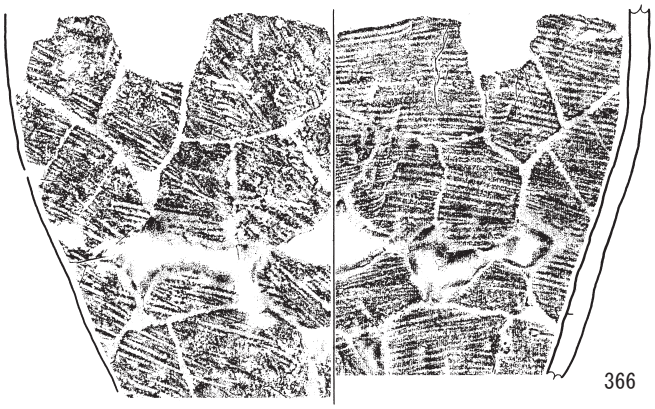


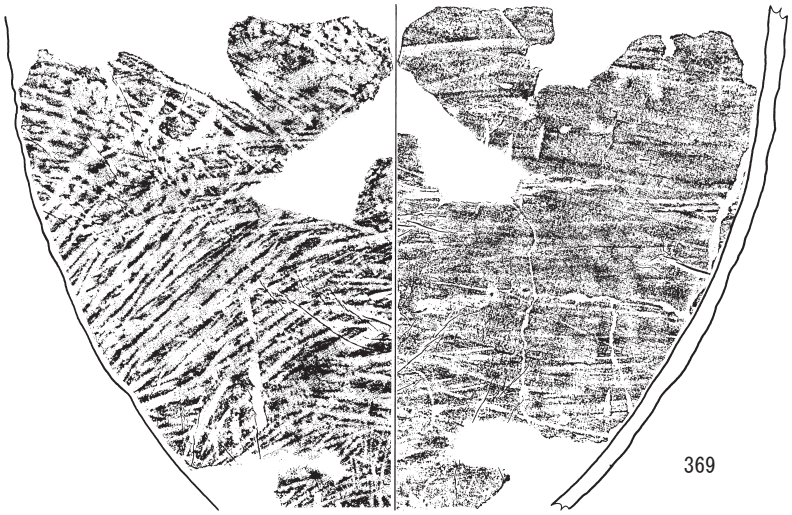






第60図　22類土器

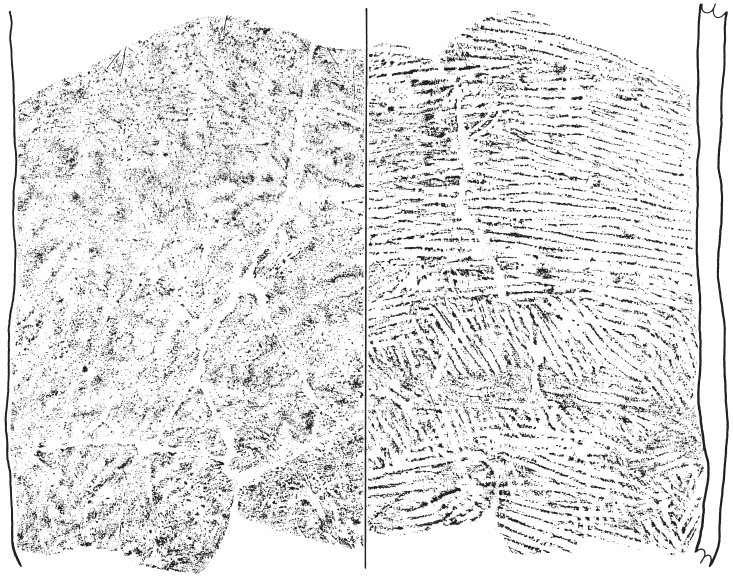




0　1：3　10cm

第61図　22類土器

372

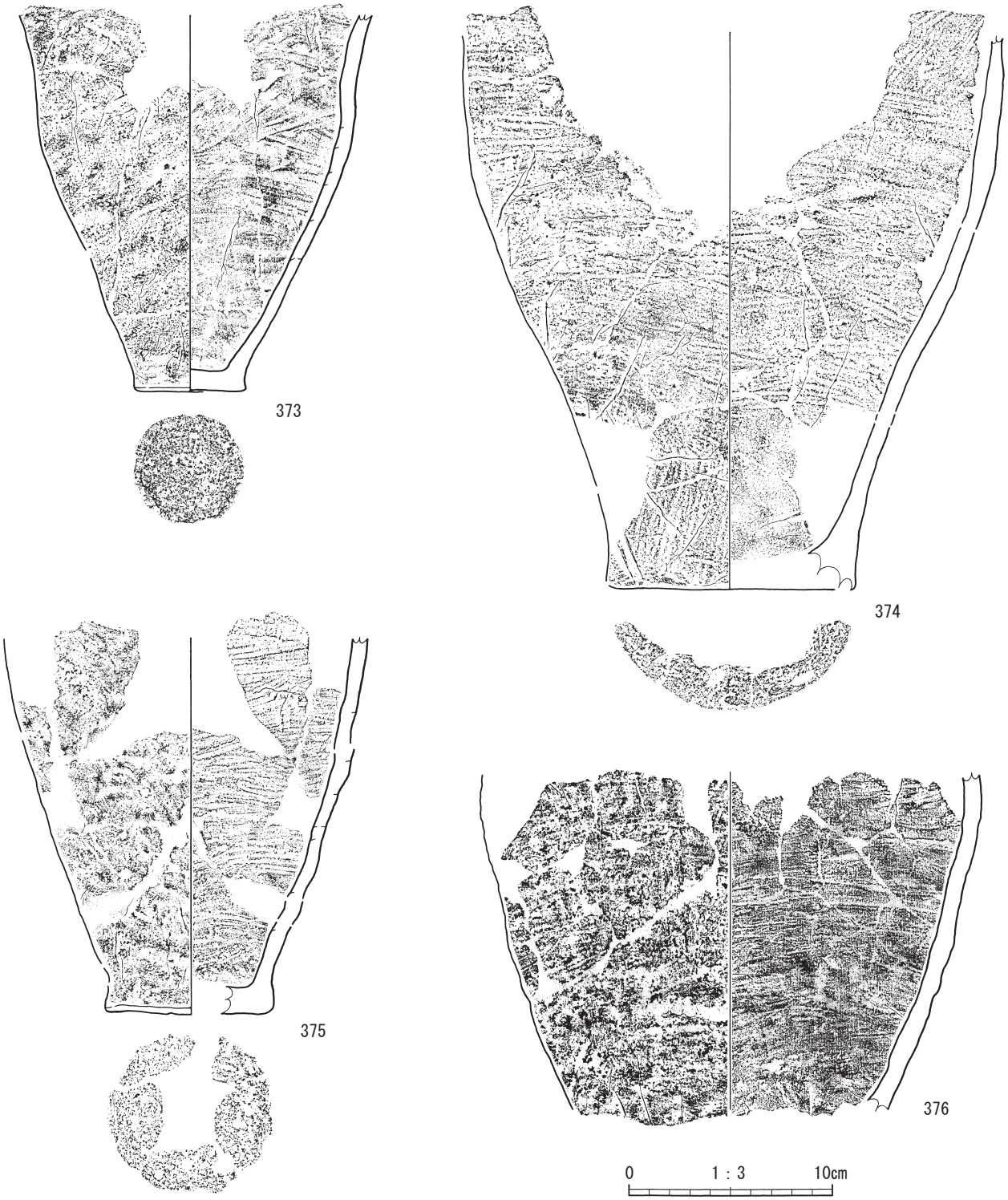


370

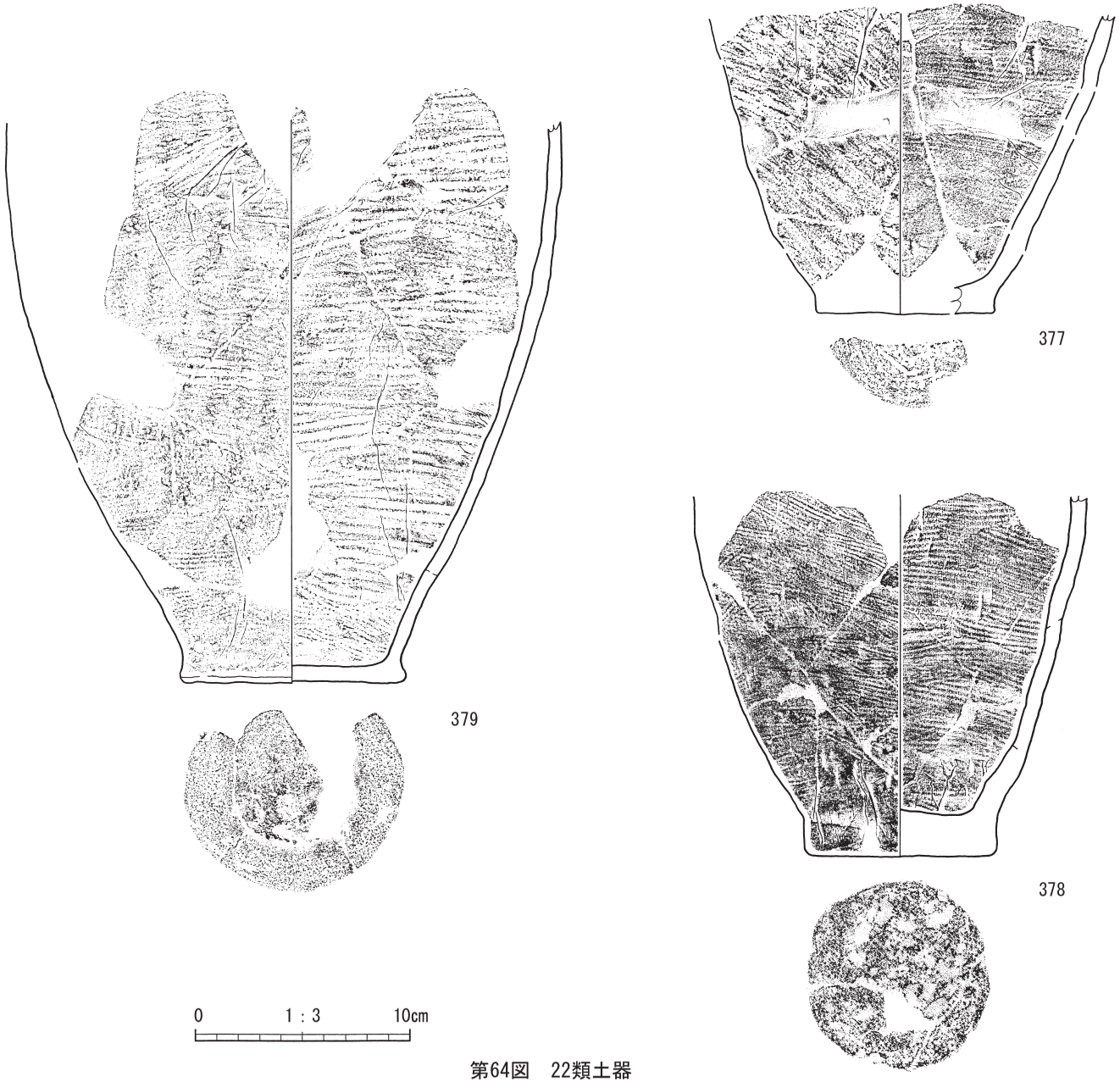
371

0　1：3　10cm

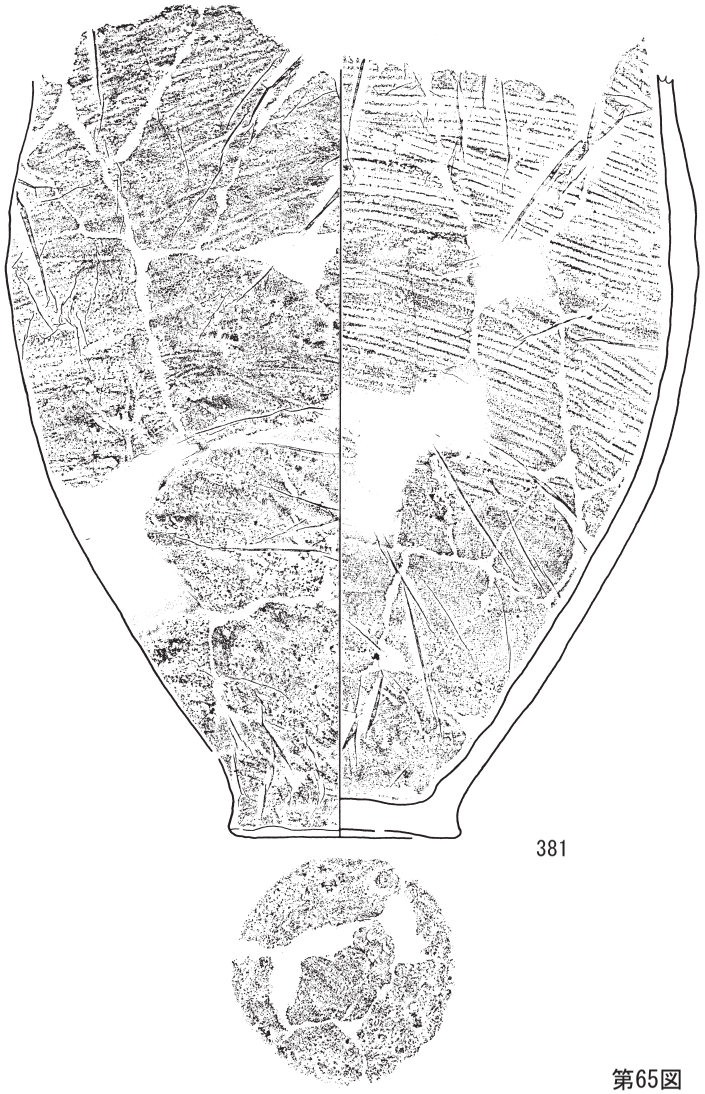
第62図　22類土器

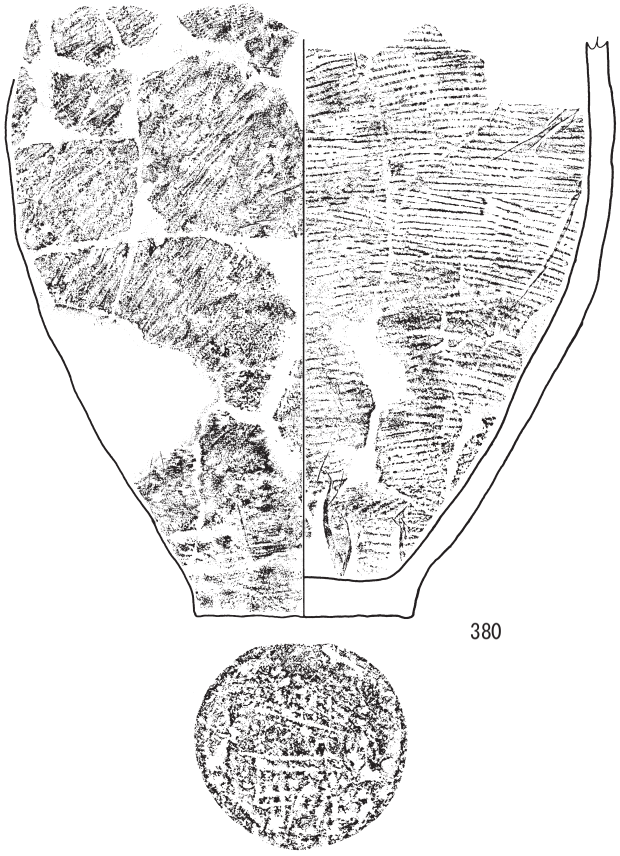


第63図　22類土器



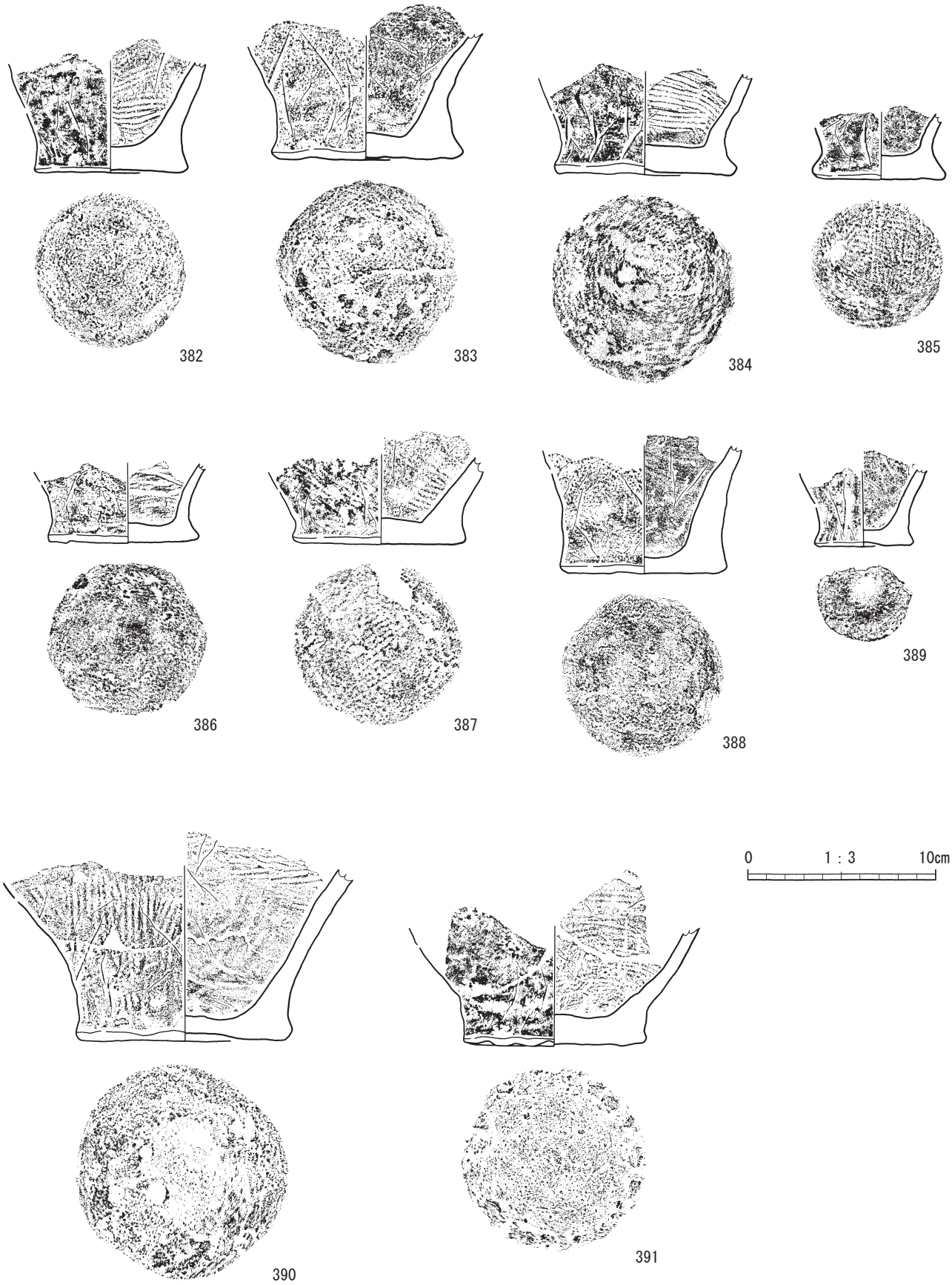
第64図　22類土器



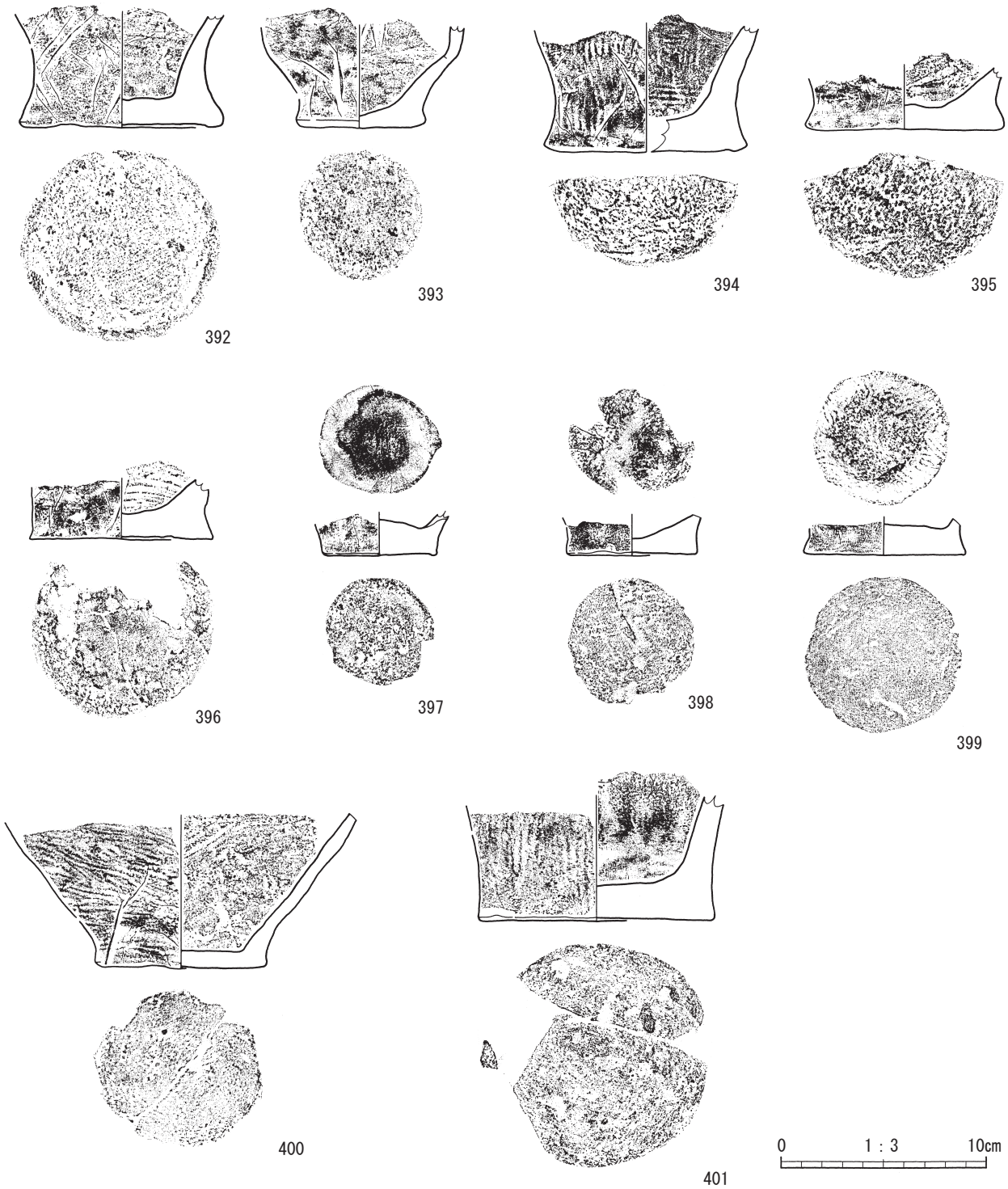


0　1：3　10cm

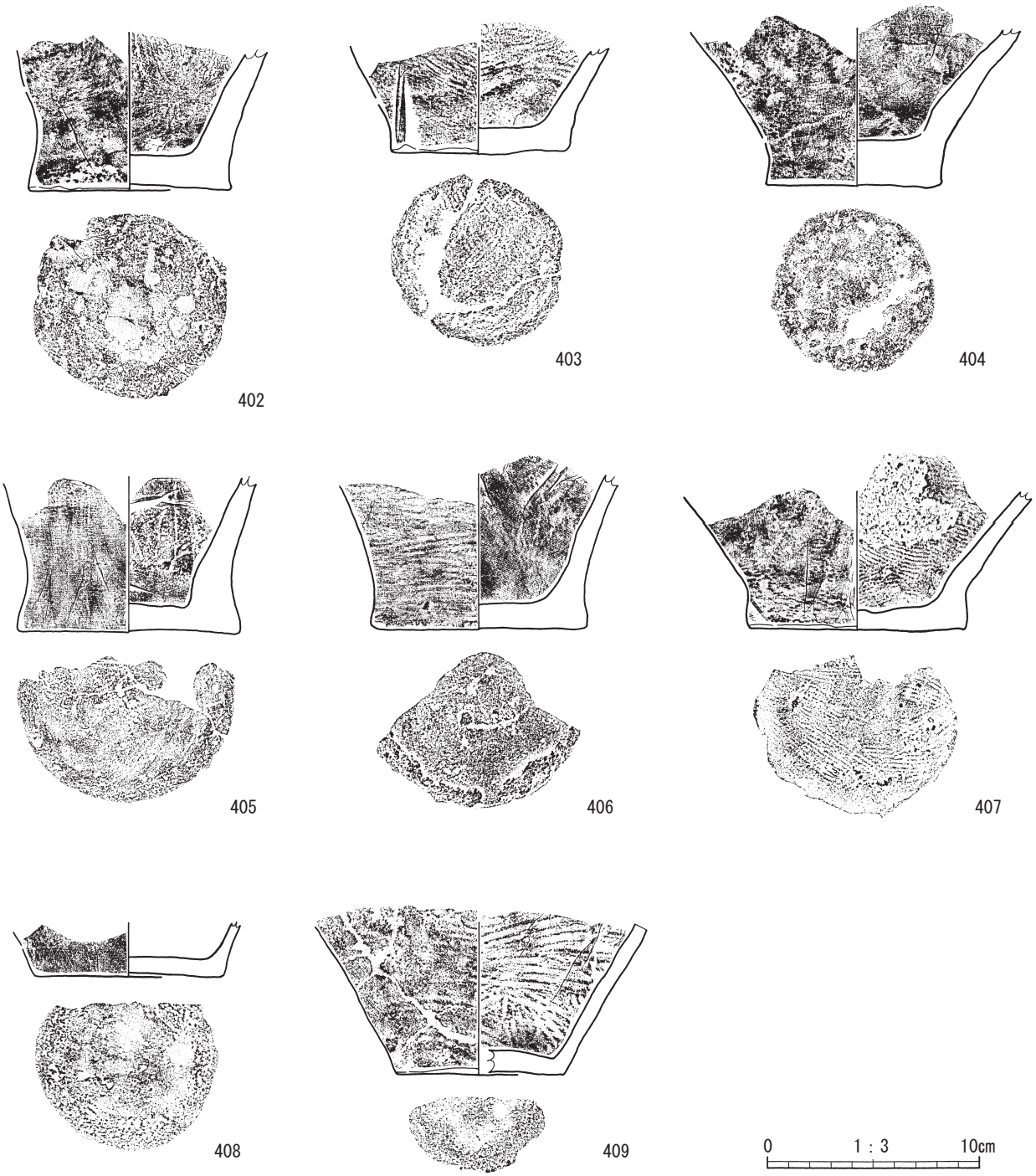
第65図　22類土器



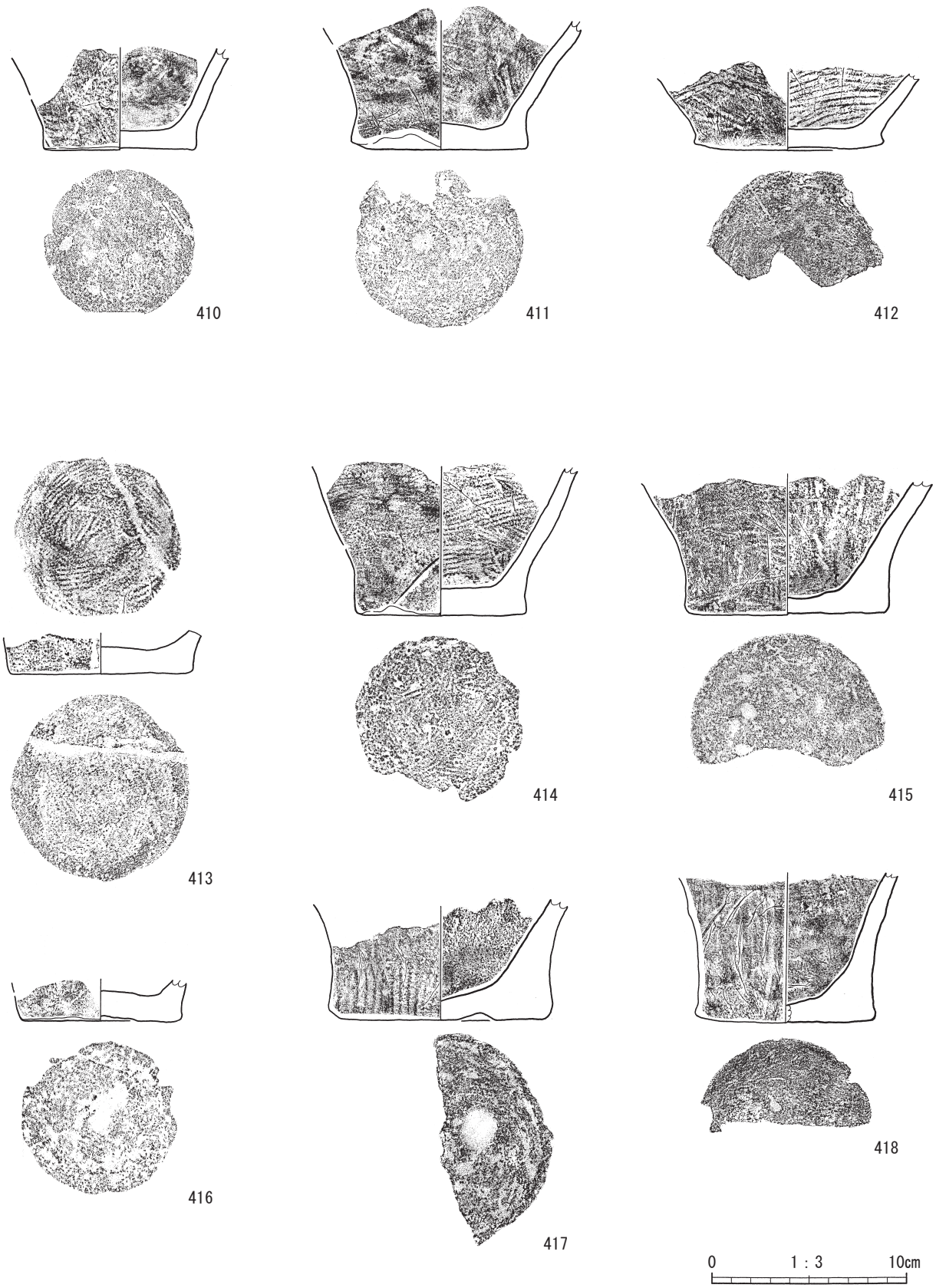
第66図　23類土器



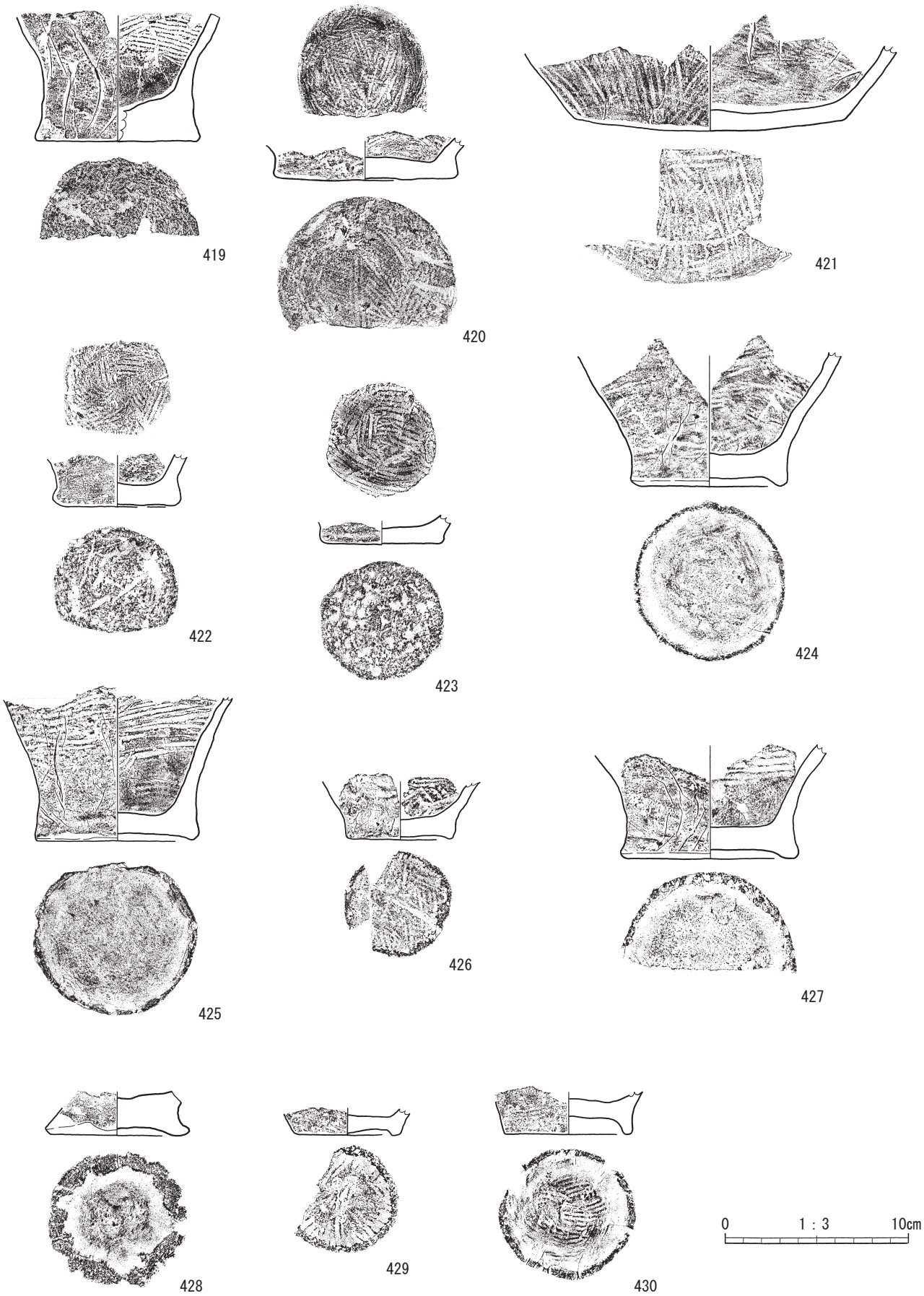
第67図　23類土器



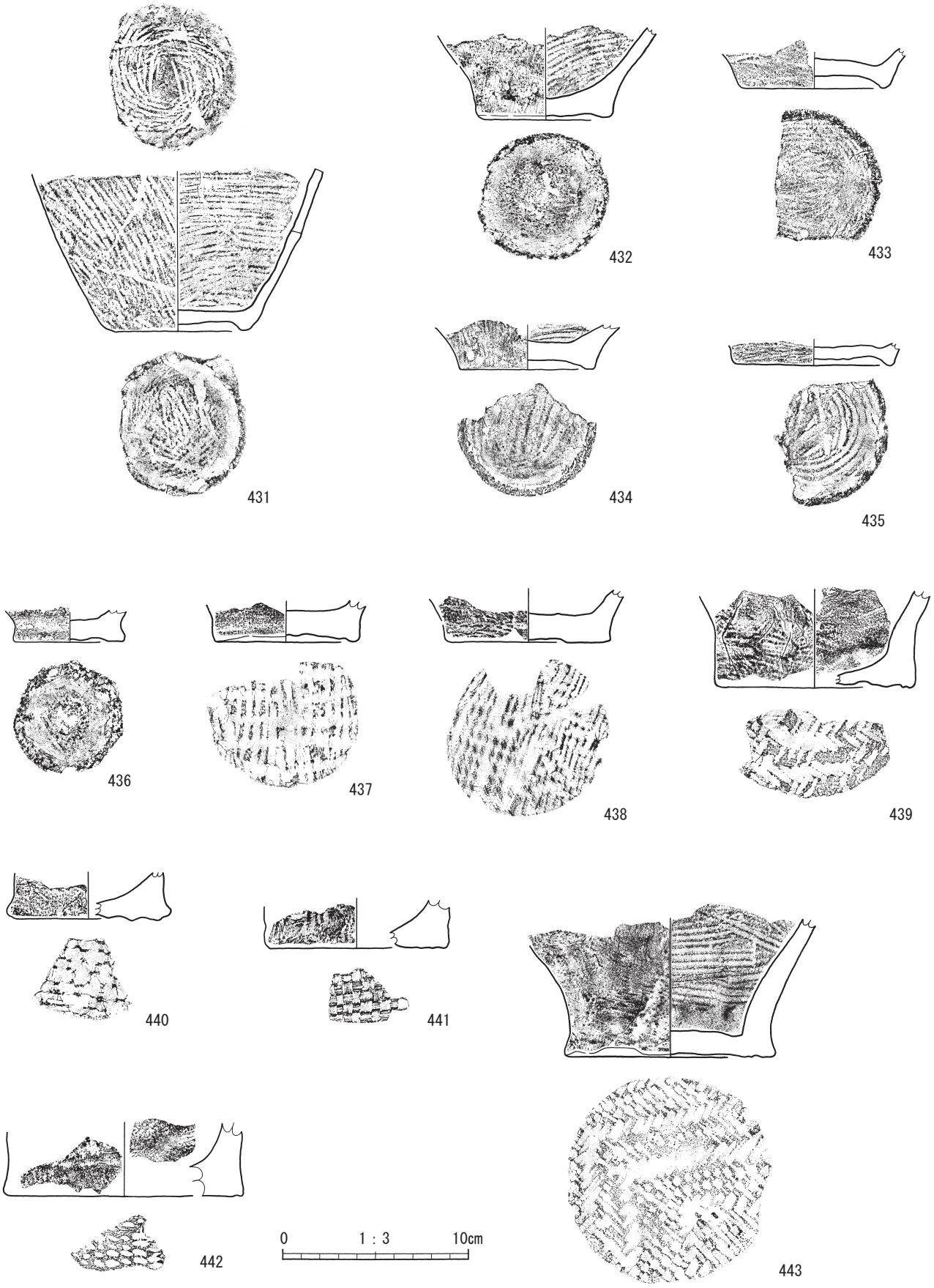
第68図　23類土器



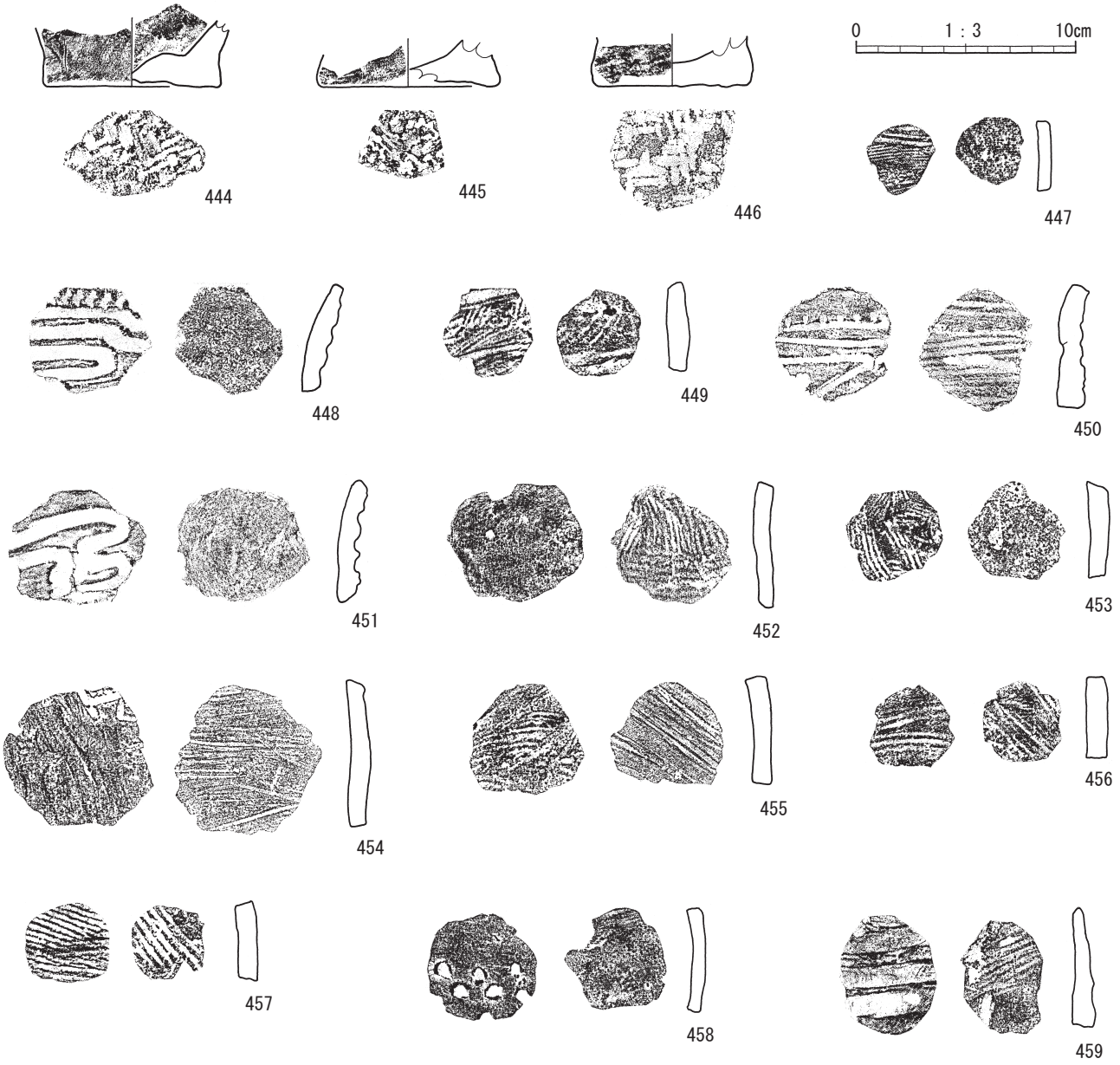
第69図　23類土器



第70図　23類土器



第71図　23類土器



第72図　23類土器・円盤状土製加工品

もの。縄文中～後期に位置付けられる。21点図示した。

361は、口縁部から胴部まで復元できる。内外面はナデ調整が施されるものの、外面は全体的に指で軽く押さえたような凹凸が確認できる。365は、内面に黄褐色のシミ状の痕が全体的に確認できる。363・367は、胴部下半から底部に向かってすぼまるような形状を呈する。369は、内面は丁寧にナデ調整を施すことに対して、外面には貝殻条痕が明瞭に確認できる。370は、湾曲部がみられない直線的な胴部である。底部は、接合痕に沿って剥離している。外面は丁寧にナデ調整を施すことに対して、内面は貝殻条痕が明瞭に確認できる。371は、外面と比べて内面に胎土の粗さが目立つ。

23類土器（第66～72図382～446）

土器の底部である。875点確認し(番号取上分)、65点図示した。確認できる特徴から４類に大別した。

23－ａ類（第66～67図382～396、400）

平底で、底端部が強く張り出すもの。

385・389は、他の底部と比べて底径が小さい。385は、胴部へ立ち上がる箇所から器壁が薄い。389は、底面の中心部が指で押さえたようにわずかに凹む。390は、今回確認できた中で最大の底部で、外面の一部に煤が付着している。391は、底面の外縁部が不整形にわずかに盛り上がる。393は、内面が碗状に胴部へ立ち上がる。396は、内底部に貝殻条痕が明瞭に確認できる。

23－ｂ類（第67～70図397～399、401～423）

平底で、底端部はあまり張り出さず直線的に立ち上がるもの。

409は、接合痕に沿って全周が剝離している。417は、底面に半球状の凹みがあり、堅果類の圧痕の可能性がある。421は、底径が大きく底端部に稜を持つが、丸底に近い形状を呈している。５類土器の底部の可能性がある。

23－ｃ類（第70～71図424～436）

上げ底になっているもの。９類土器の底部と考えられる。35点確認し(番号取上分)、13点図示した。

425は、器壁が薄くなって胴部へ立ち上がる。426は、内面に貝殻条痕の始点と考えられる痕が確認できる。428は、不整形な外底面を呈する。突き出た端部を内側に折り返したか、もしくは高く上げ底状に整形した底部を、上から押し潰したような状態となっている。端部には、棒状もしくはヘラ状工具によって付けられたと考えられる、刻目が不規則に確認できる。431は、器壁が４～５㎜ほどと薄く、内外面に貝殻条痕が明瞭に確認できる。429・435は、ともに底部の器壁が薄く、底面の中心部に白色物質が付着する。

23－ｄ類（第71～72図437～446）

外底面に組織痕が確認できるもの。８点確認し(番号取上分)、10点図示した。

437・442は、モジリ編みである。437のモジリ編みは、１㎝の幅で目を持つ。438・443・444・445は、平編みと綾編みを組み合わせている。445は、断面に堅果類と考えられる種実の圧痕が確認できる。439・446は、綾編みである。440・441は、平編みである。

円盤状土製加工品（第72図447～459）

土器片の縁辺を打ち欠き、円形に整えたもの。５点確認し(番号取上分)、13点図示した。

448・450・451は12類土器、459は11類土器に比定できる。ある程度大きさを揃えているように見受けられるが、厚みや扁平具合にはそれぞれ差がある。

４　石器

石器は、Ⅲa 層・Ⅲb 層を中心に約 3,000 点出土した。

出土土器から判断すると、石器のほとんどは縄文前期～弥生初頭に属すると考える。

ただし、上述したように環状石斧は縄文早期に属する可能性が高いと考える。また、縄文早期土器が混在する状況から、環状石斧以外にも縄文早期に属する石器が存在する可能性は否定できない。

剥片石器は 129 点確認し、石鏃が半数を占める。礫石器は 65 点確認し、石斧と磨石・敲石類がその多くを占める。

使用される石材は剥片石器の場合、黒曜石１類（三船産類似）が最も多く、次いで玻璃質安山岩である。礫石器の場合は、砂岩がそのほとんどを占める。

分布状況について、７区以東に多く、特にＡ・Ｂ－７区とＡ・Ｂ－８～11 区に集中する。

石材ごとの分布状況について（第 73～75 図参照）、玻璃質安山岩はＡ・Ｂ－７区に集中部が認められる。チャートやギョクズイ、粘板岩は、Ａ・Ｂ－８～10 区に分布が偏っている。黒曜石３類と４類は２・３区にもある程度認められており、調査範囲にまんべんなく分布する。

器種ごとに見ると（第 76～78 図参照）、ある箇所に偏って出土するということはなく、有意義な分布状況を示していない。

以下、器種毎に報告を施す。

石鏃（第 79 図 460～483）

平面形態などから、３類及び未製品、欠損品に大別した。65 点確認した。

１類

全体形状が、正三角形状（長幅比＝1.2：１未満）を呈するもの。基部の抉りの有無により、２類に細分した。

１ａ類（460～462）

基部に抉りがないもの。11 点確認し、３点図示した。

１ｂ類（463～469）

基部に抉りがあるもの。14 点確認し、７点図示した。

２類（470・471）

全体形状が、二等辺三角形状（長幅比＝1.2：１以上）を呈するもの。４点確認し、２点図示した。

３類（472～482）

基部に深い抉りがあり、明確に脚部が作出されるもの。23 点確認し、11 点図示した。

欠損品

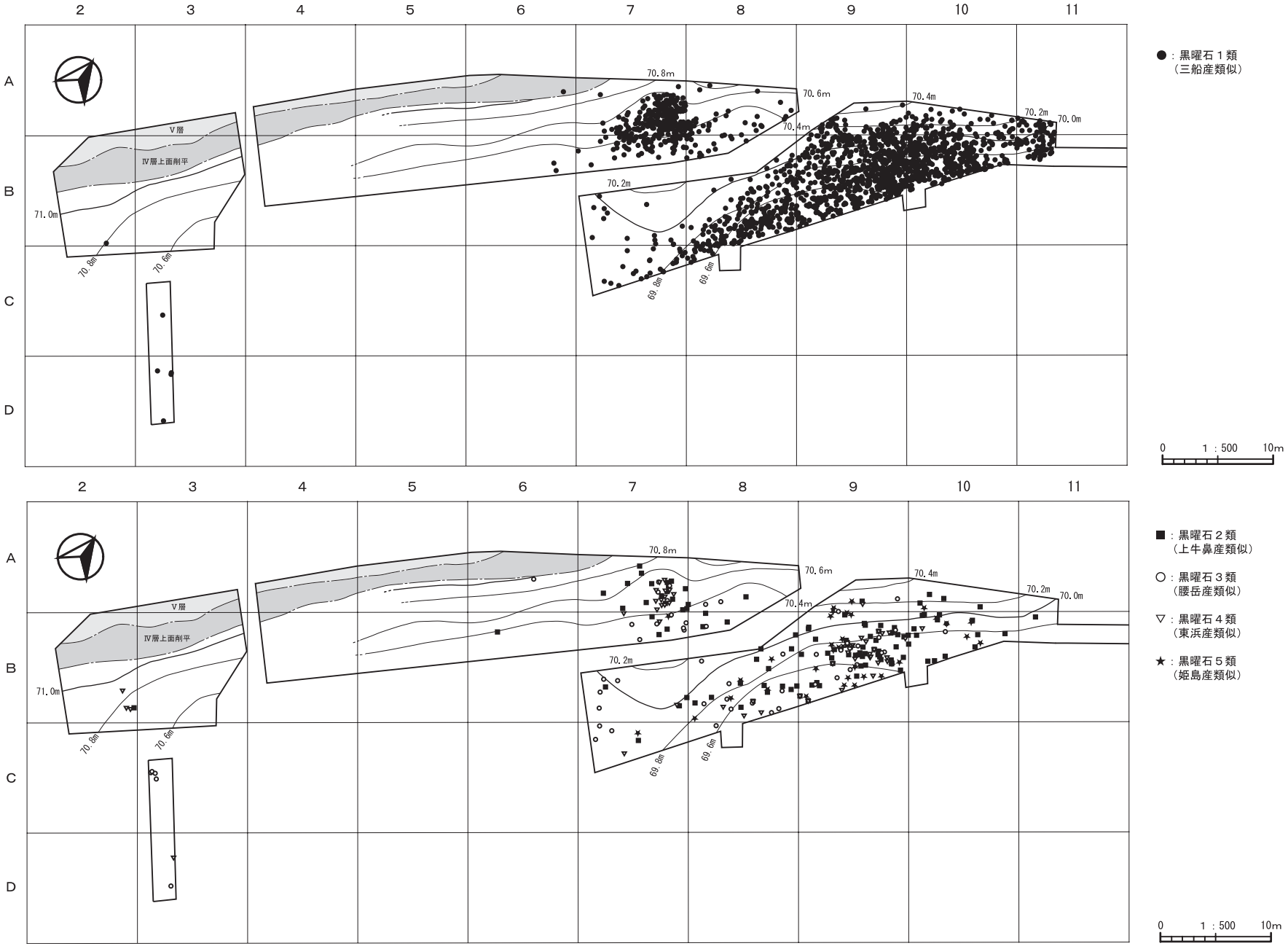
破損のため、上記の分類に含めることができないものである。10 点確認した。

未製品（483）

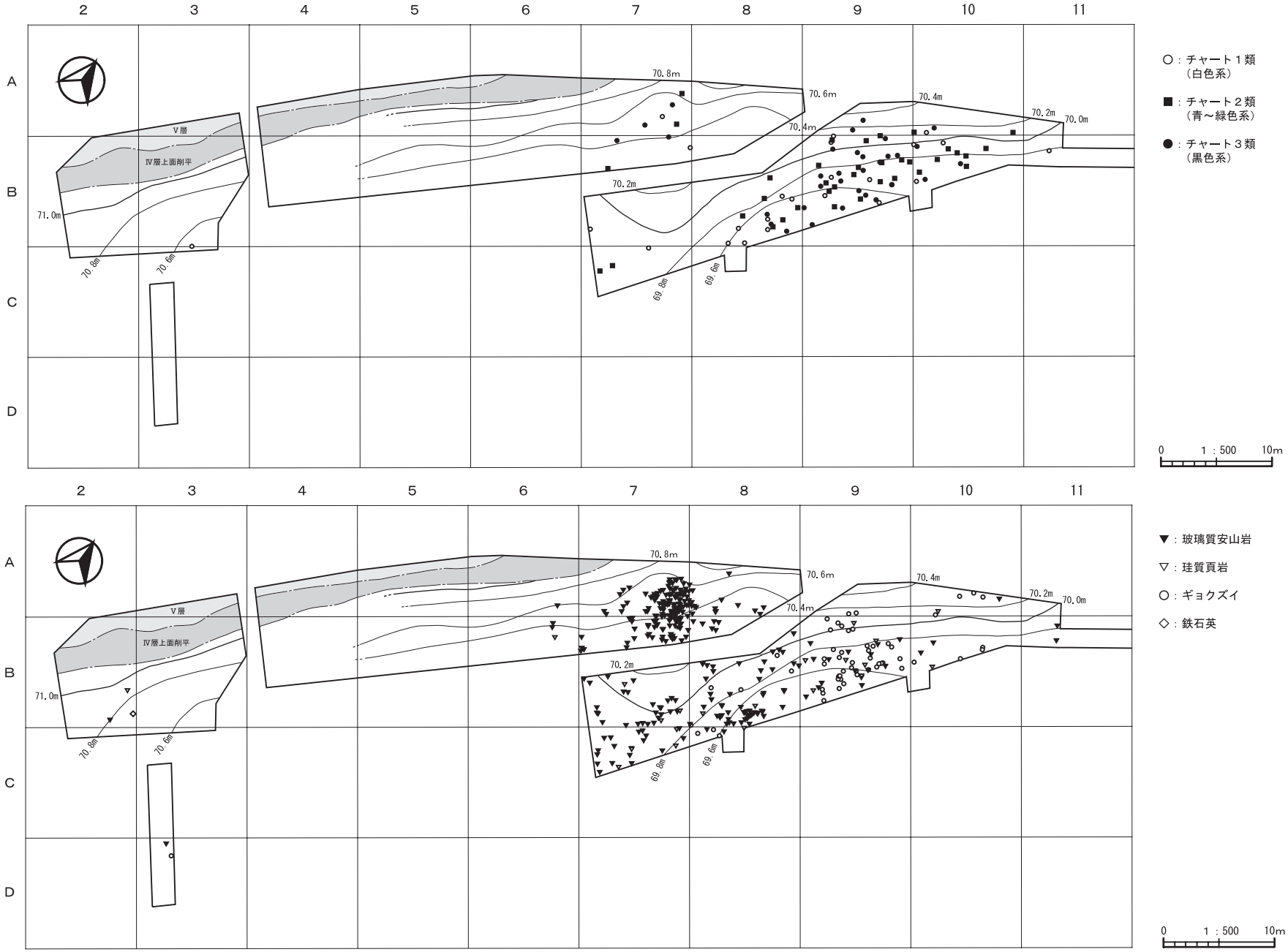
打製石鏃の未製品と考えられるものである。厚みがあることから、未製品と判断した。４点確認し、１点図示した。

スクレイパー（第 80 図 484～486）

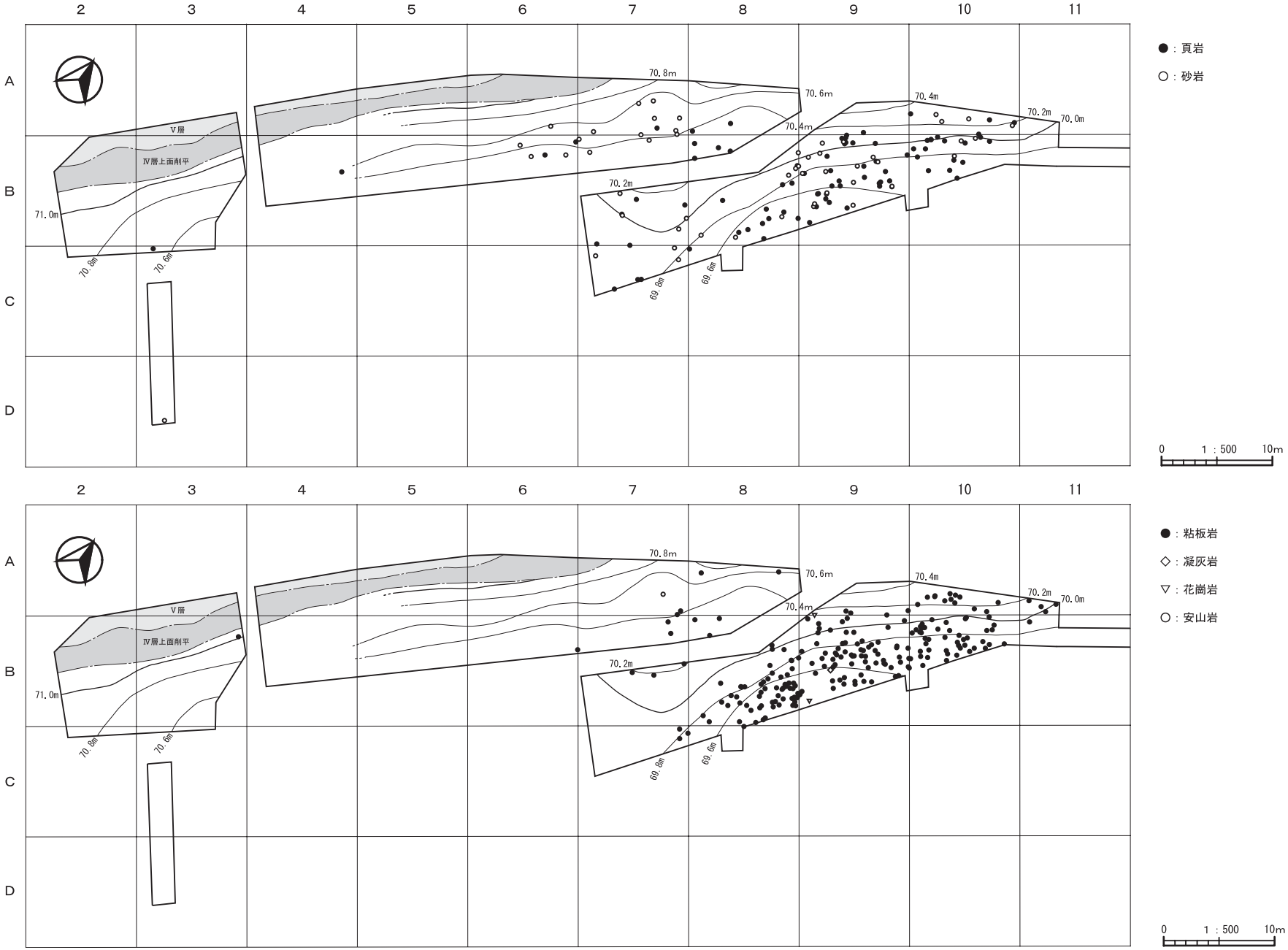
７点確認し、３点図示した。484 は厚手の横長剥片を素材としており、下縁に剥離を行って刃部としている。主要剥離面が大きく残る。485・486 ともに側縁に剥離を行って



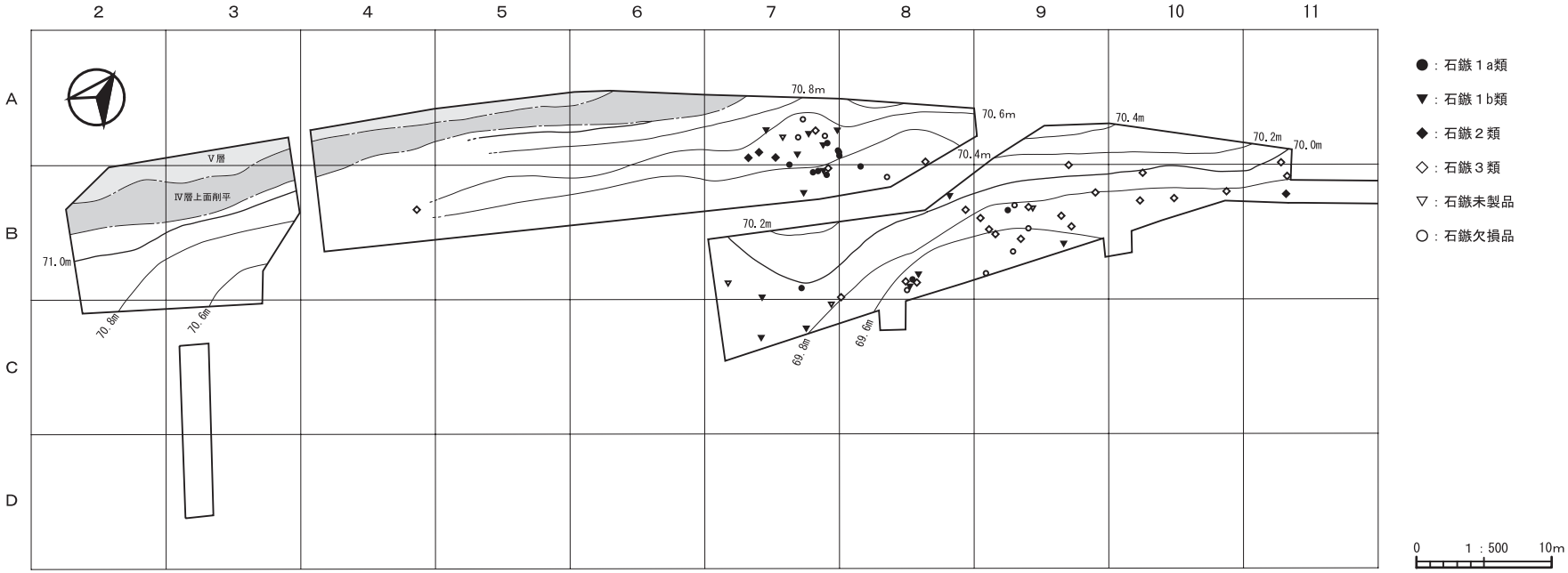
第73図　縄文石器　石材別分布図（１）

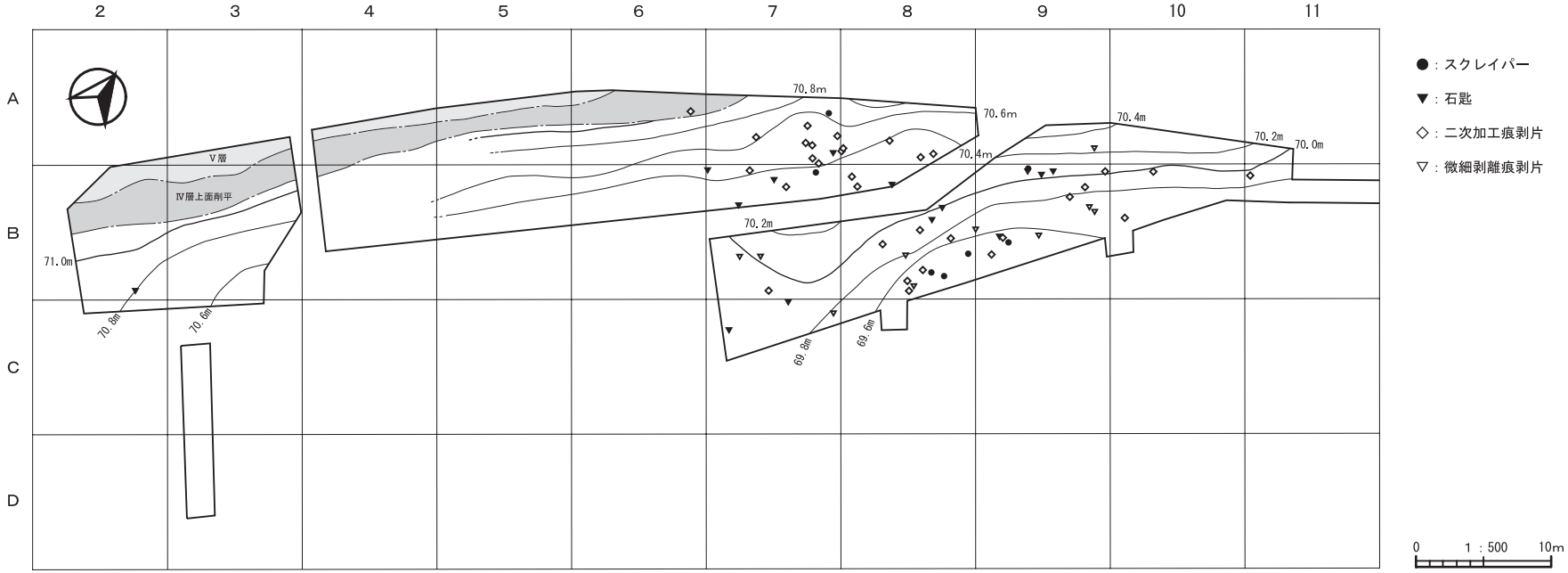


第74図　縄文石器　石材別分布図（２）

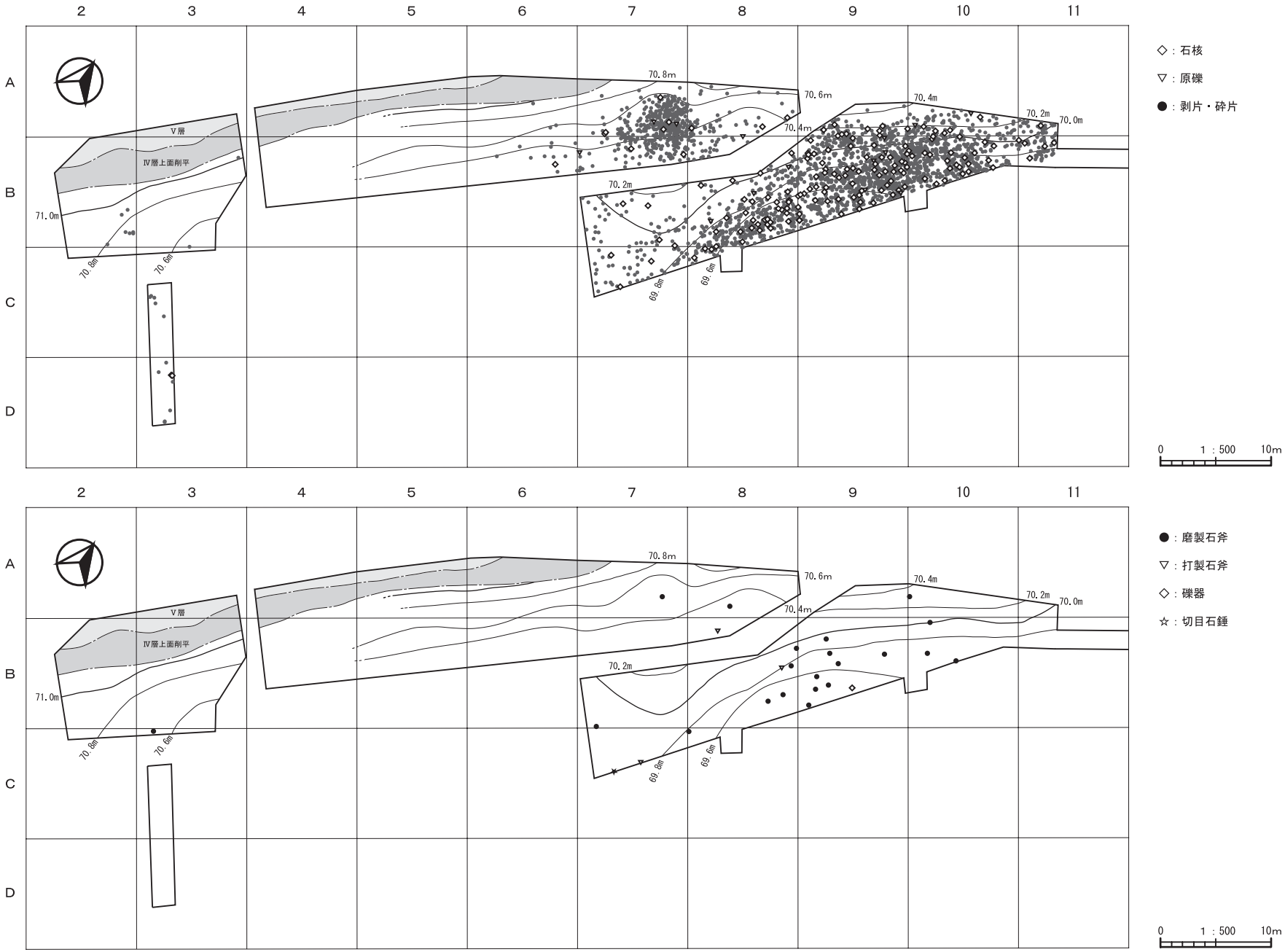


第75図　縄文石器　石材別分布図（３）

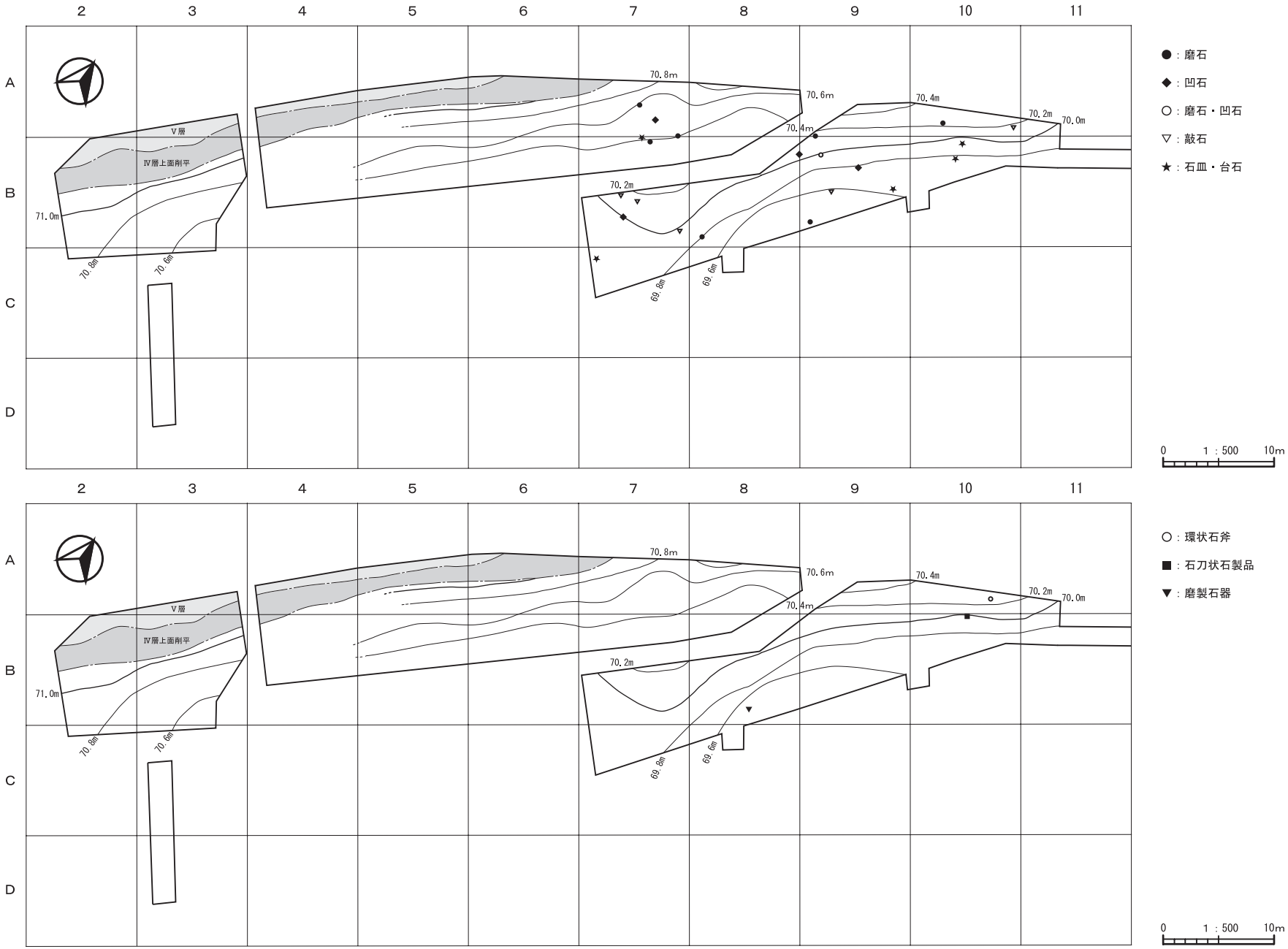




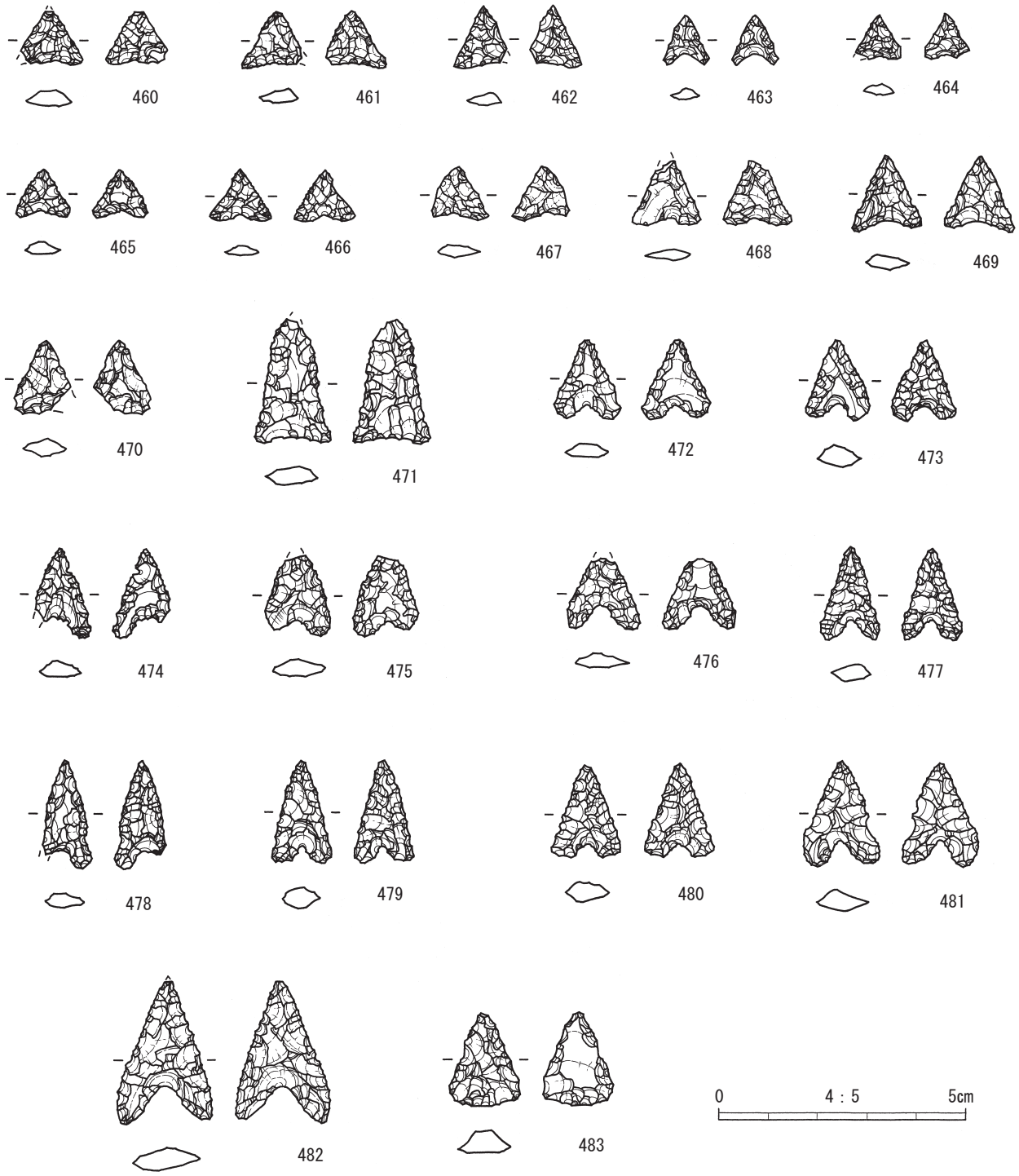
第76図　縄文石器　器種別分布図（１）



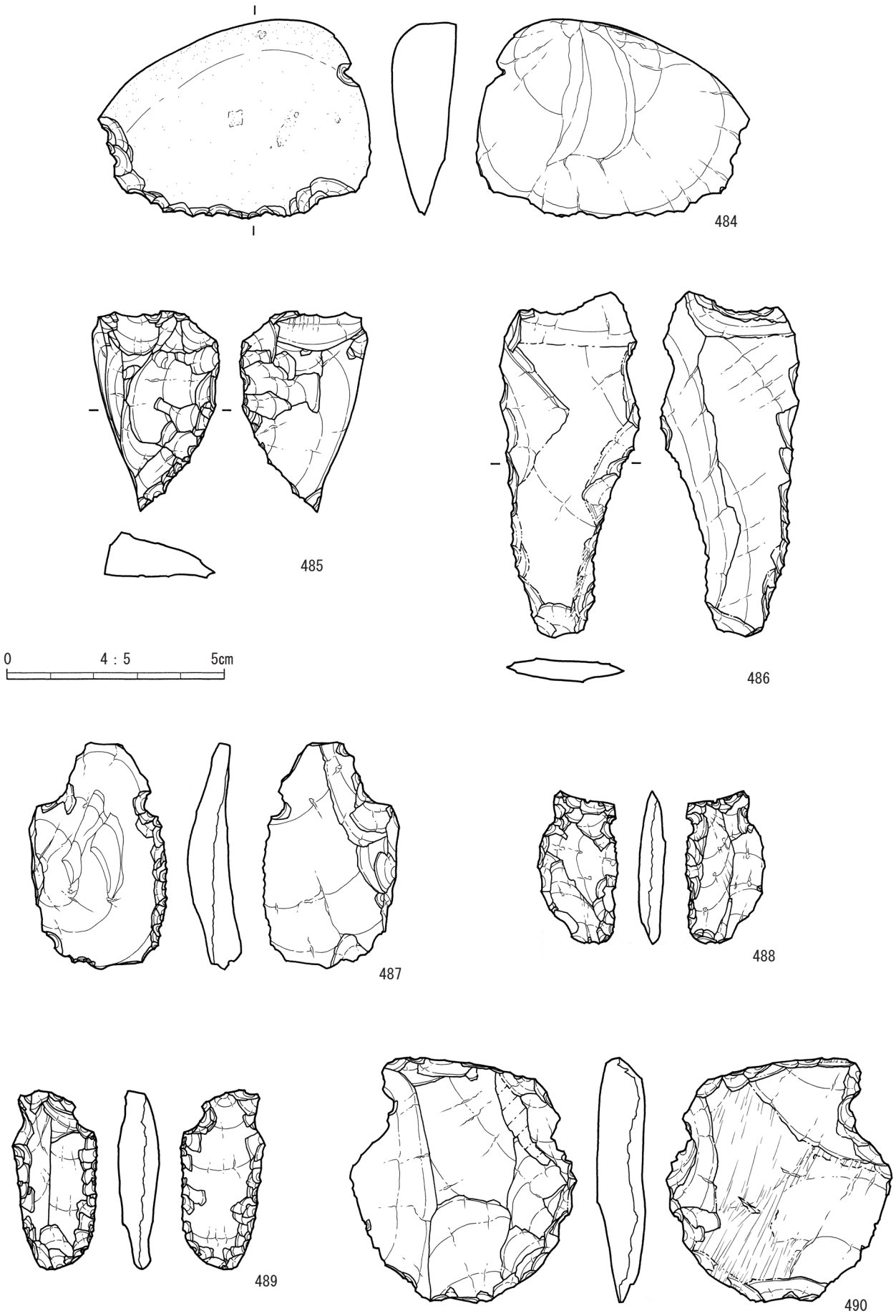
第77図　縄文石器　器種別分布図（２）



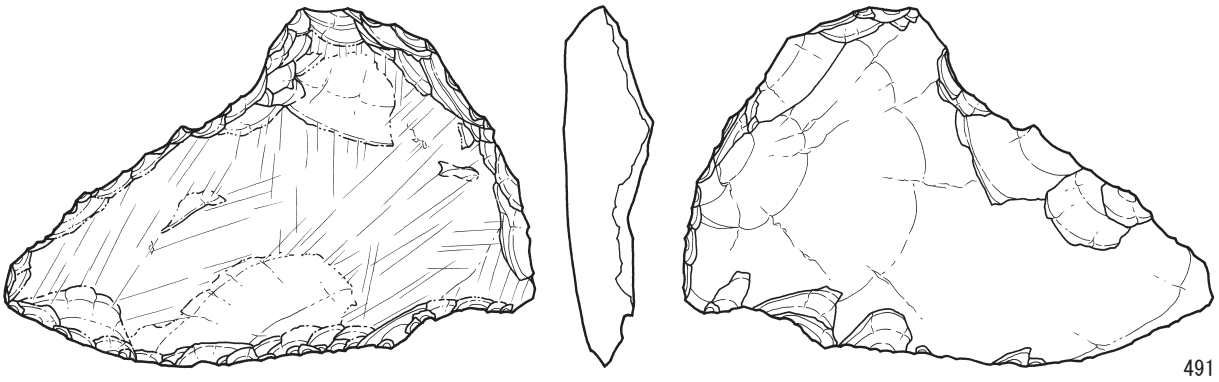
第78図　縄文石器　器種別分布図（３）

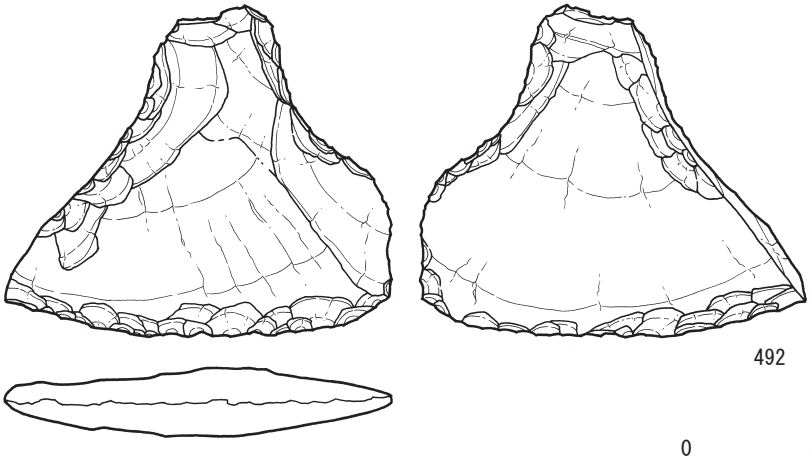

460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
0
4：5
5cm

第79図　縄文石器（1）

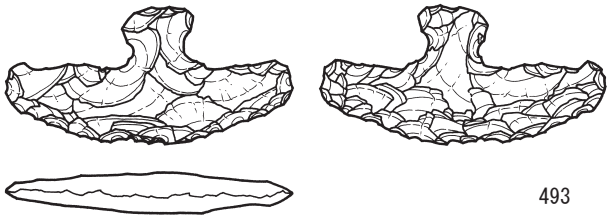


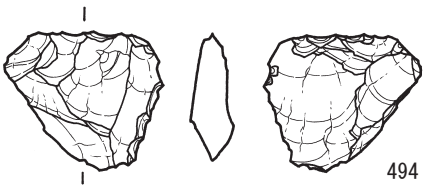
第80図　縄文石器（２）

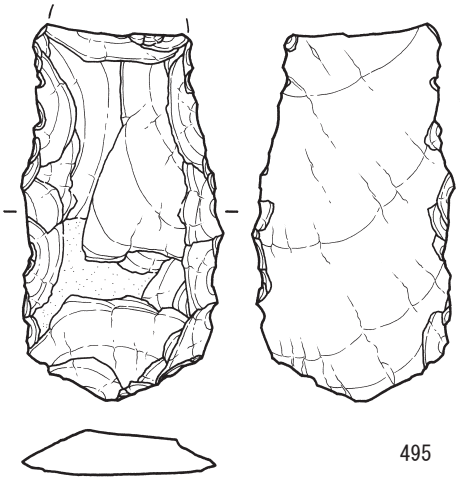


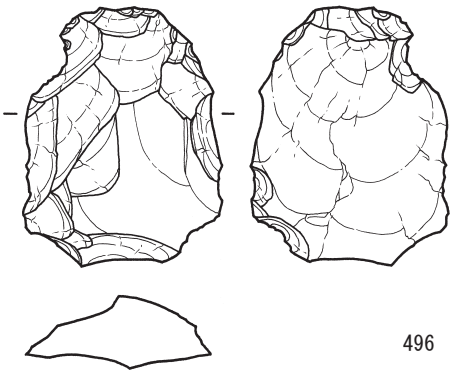


0　4：5　5cm

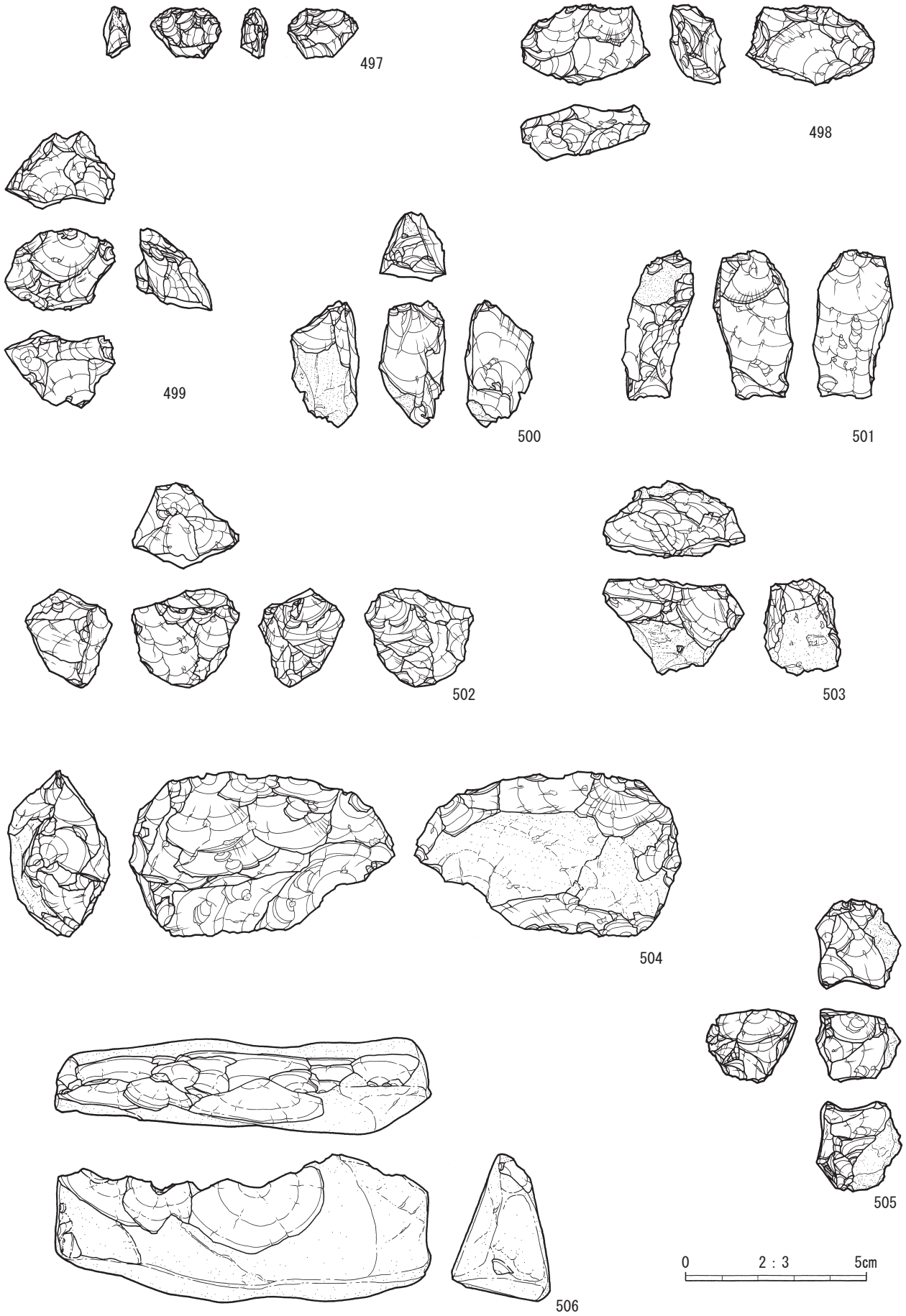




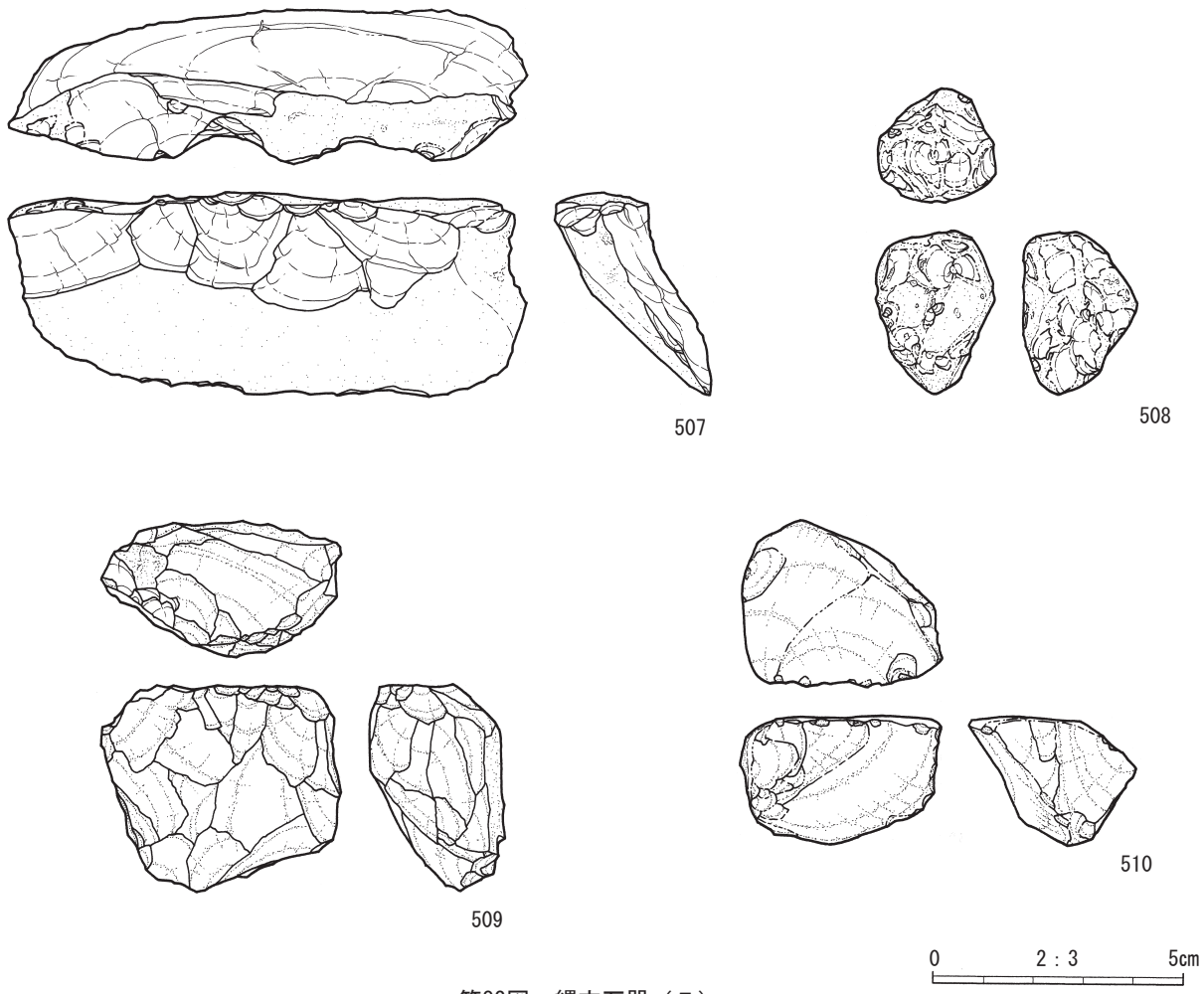




第81図　縄文石器（３）



第82図　縄文石器（４）



第83図　縄文石器（５）

刃部としている。

石匙（第 80～81 図 484～486）

横型７点、縦型５点、未製品１点の計 13 点確認し、７点図示した。

487～490 は、縦型の石匙である。487・488 は横長剥片を素材とし、489 は縦長剥片を素材としている。487 は、未製品の可能性がある。490 も未製品の可能性があり、背面に擦痕が確認できる。

491～493 は、横型の石匙である。491 は、大型の縦長剥片を素材としている。正面に擦痕が確認できる。

二次加工剥片（第 81 図 494～496）

剥片に二次加工が認められるものの、器種認定が困難なものである。32 点確認し、３点図示した。

495・496 は、縦長剥片の周縁に加工が認められる。

石核（第 82～83 図 497～507）

164 点確認し、11 点図示した。黒曜石１類がそのほとんどを占める。

497～501 は、ほぼ限界まで剥離が行われている。502～505 は打面転移を繰り返し、作業面を複数もつ。506・507 は比較的大型のもので、507 はほぼ限界まで剥離が行われている。

原礫（第 83 図 508～510）

剥片採取を意図した剥離痕が認められないもの。14 点確認し、３点図示した。

微細剥離痕剥片

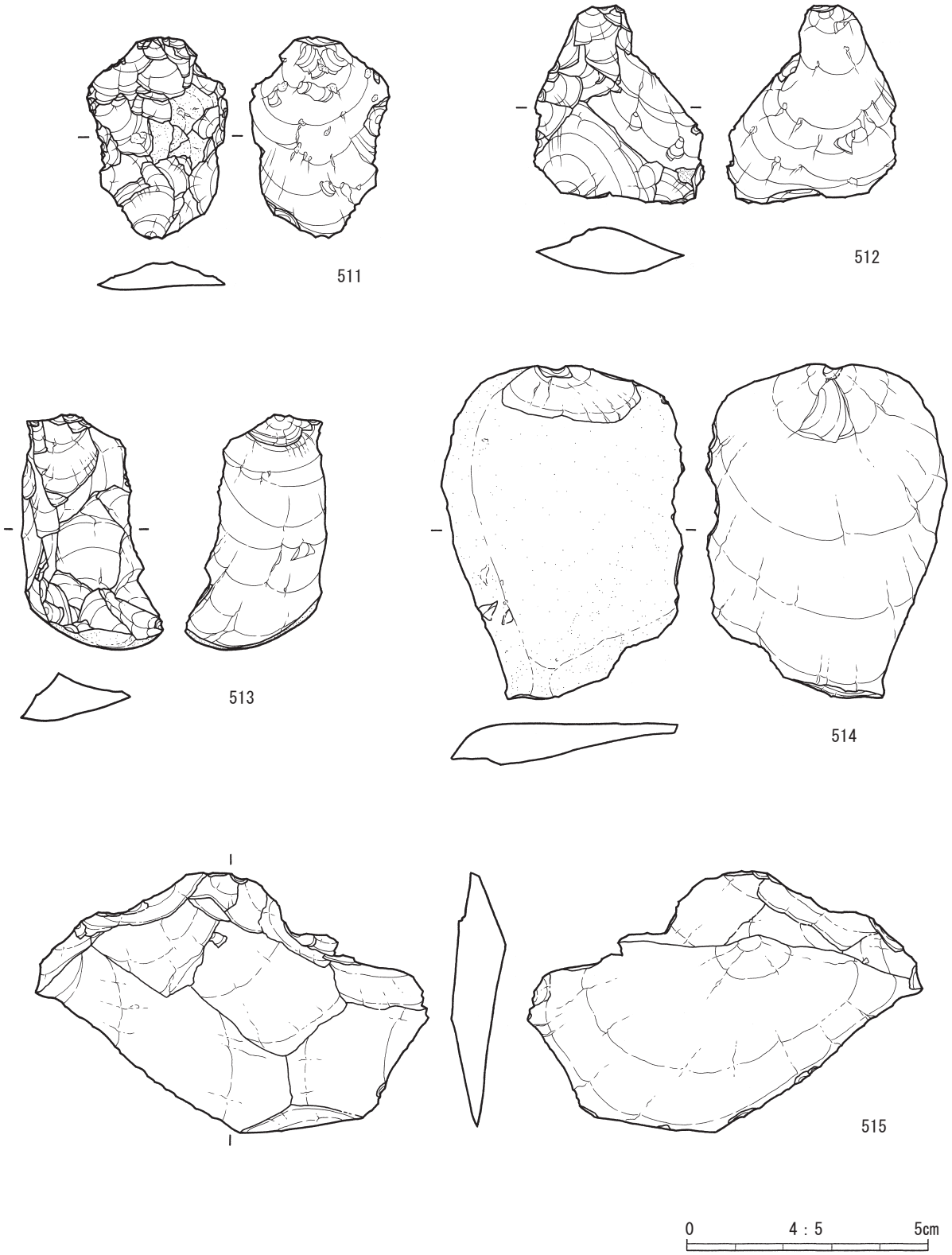
剥片の縁辺に微細な剥離痕が認められるものである。11 点確認した。

剥片（第 84 図 511～515）

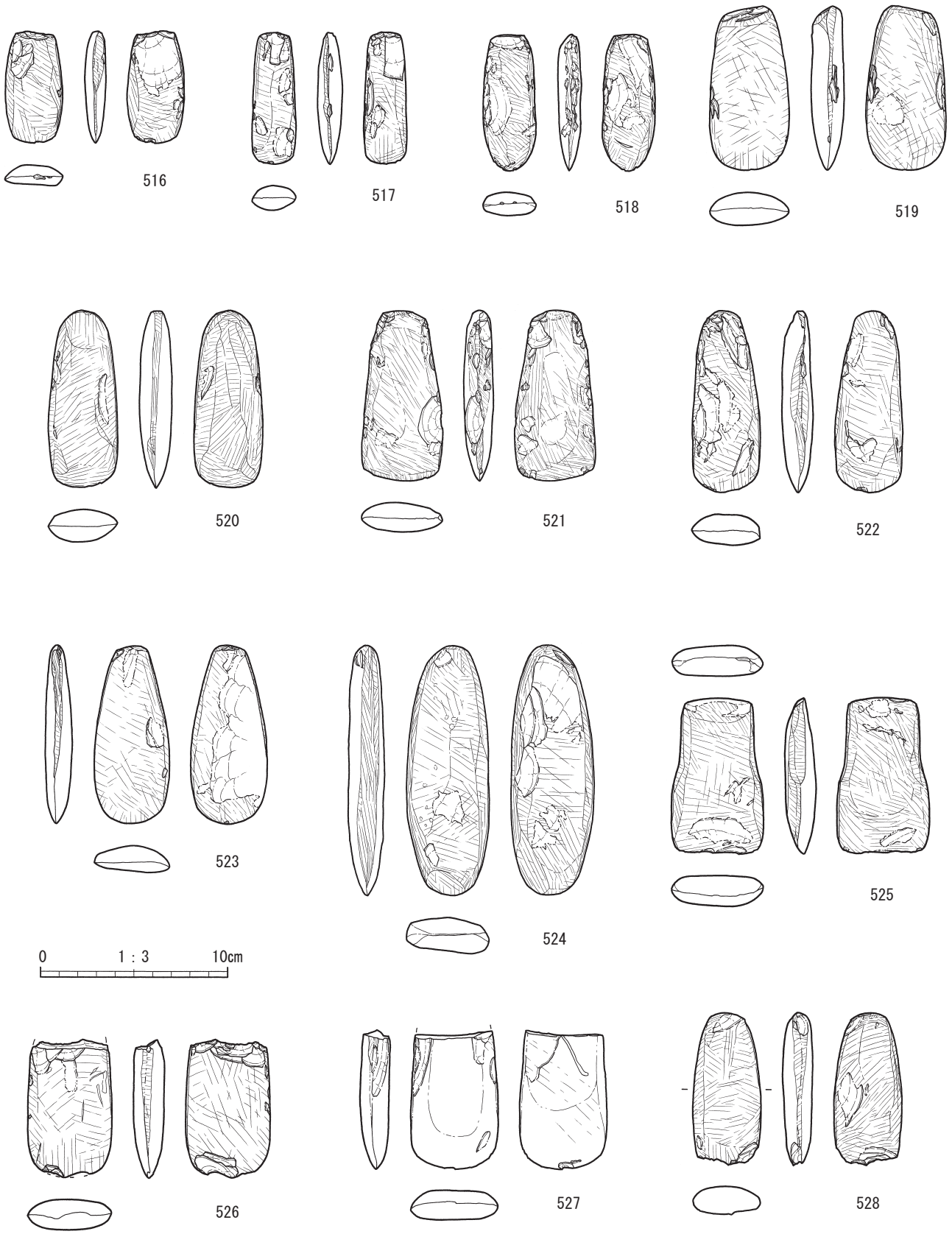
約 2,600 点（一括取上分を除く）の剥片が認められた。この中から代表的なものを５点図示した。511～514 は、縦長の剥片である。515 は、大型の横長剥片である。

石斧（第 85～86 図 516～535）

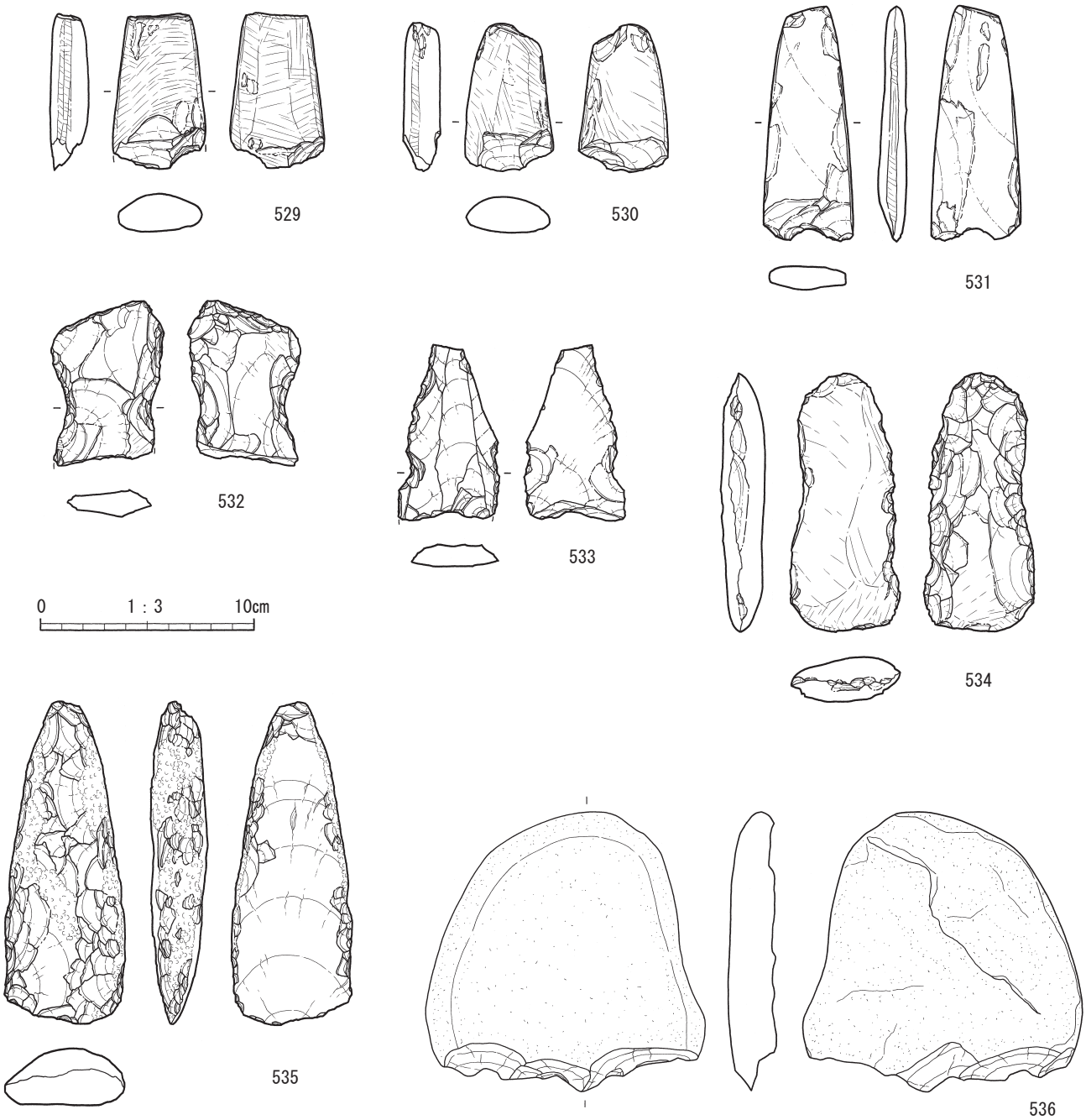
磨製石斧、打製石斧、局部磨製石斧、未製品を一括した。磨製石斧 21 点、打製石斧４点、局部磨製石斧３点確認し、19 点図示した。石材は、全て頁岩である。



第84図　縄文石器（６）



第85図　縄文石器（７）



第86図　縄文石器（８）

516～530 は、磨製石斧である。全面に丁寧な研磨が行われている。526・527 は基部を、528～530 は刃部を欠損している。516 や 517 はかなり小型であり、限界まで使用されたことがうかがえる。平面形状は、短冊形を呈するものがほとんどであるが、524 は紡錘形を呈する。525 は、上下端に刃部が認められる。

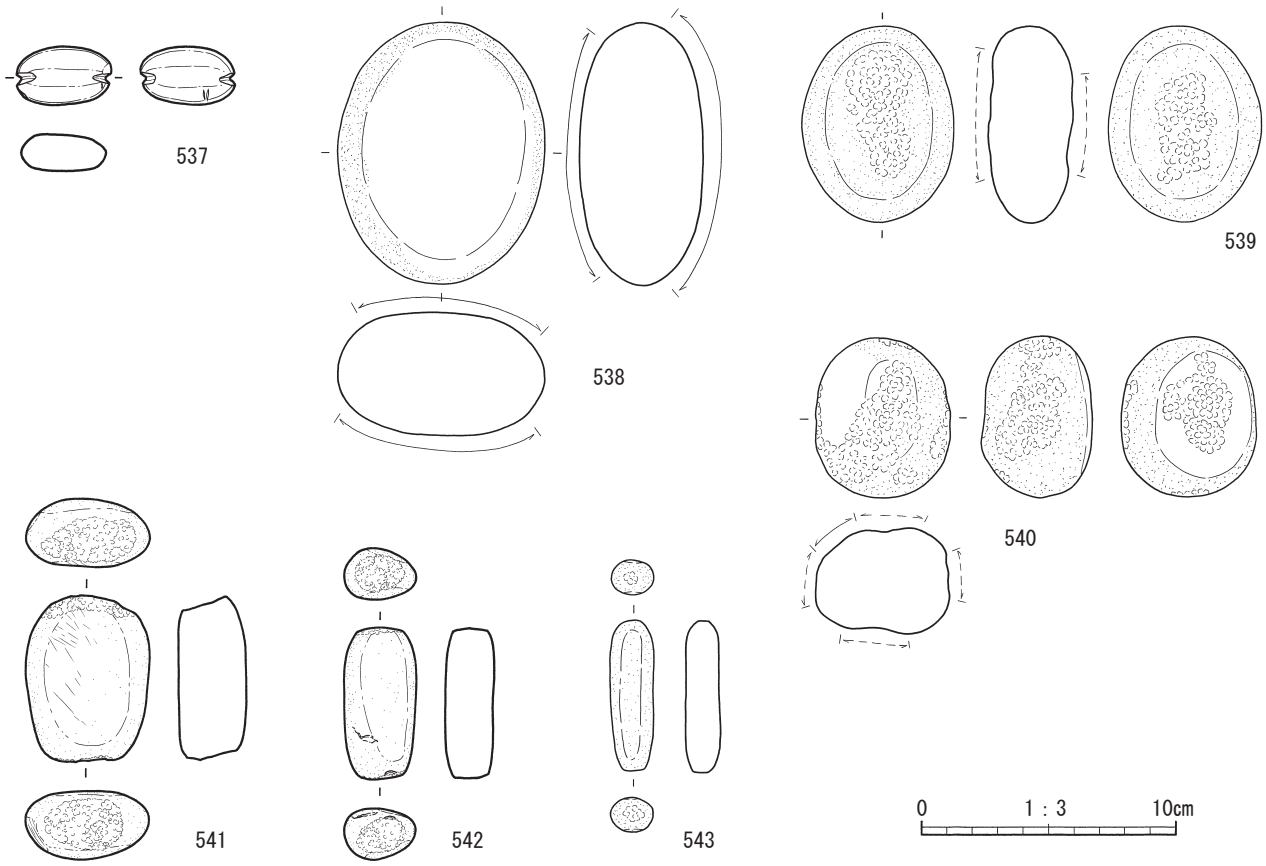
532・533 は打製石斧で、ともに刃部を欠損している。532 は、両側縁に抉りが認められる。

531・534 は、局部磨製石斧である。531 は刃部を欠損している。正・背面に剥離面が大きく残り、側面のみ磨面が認められる。534 は、刃部を中心に磨面が認められる。

535 は、石斧未製品と考える。正面や両側面に成形のための敲打痕が認められるが、磨面は認められない。背面に剥離面が大きく残る。

礫器（第 86 図 536）

自然礫を素材とし、礫の一端に粗い剥離により、刃部を作出するものである。１点確認した。三角形状の礫を利用し、中心線と直角に刃部を作出している。



第87図　縄文石器（９）

切目石錘（第 87 図 537）

礫の長軸上の両端に、擦切による切目によって抉りを作出する石錘である。１点確認した。平面が長楕円形を呈し、断面扁平な頁岩製の礫を素材としている。

磨石・敲石類（第 87 図 538～543）

磨面や敲打痕が認められるものを一括して扱い、使用痕から４類に大別した。なお、図面のドットの白抜きが磨面を表している。

１類（538）

正・背面に磨面が認められるもの。７点確認し、１点図示した。砂岩製と花崗岩製が認められる。

２類（539）

正・背面に凹みをもつもの。磨面をもつものもある。５点確認し、１点図示した。

３類（540）

正・背面に凹みが、周縁に敲打痕が認められるもの。１点確認した。磨面をもつ。

４類（541～543）

周縁あるいは長軸の両端に敲打痕や敲打によるつぶれが認められるもの。５点確認し、３点図示した。542・543 は平面形と大きさから、ハンマーストーンと考える。

石皿・台石類（第 88 図 544）

ほぼ平坦な磨面をもつものやほぼ平坦な磨面上に敲打痕が認められるものもある。砂岩製の大型の扁平な礫を素材としている。５点確認し、１点図示した。

平面形状が台形状を呈し、正面のみ磨面が認められる。

環状石斧（第 88 図 545）

頁岩製で、全面を丁寧に研磨して整形している。半分を欠損しているが、直径 9.0 ㎝となる。中央孔の内径は 3.2 ㎝。最大厚 2.3 ㎝、重量 133.76 g を測る。周縁には、細かい剥離痕がいくつか確認できる。

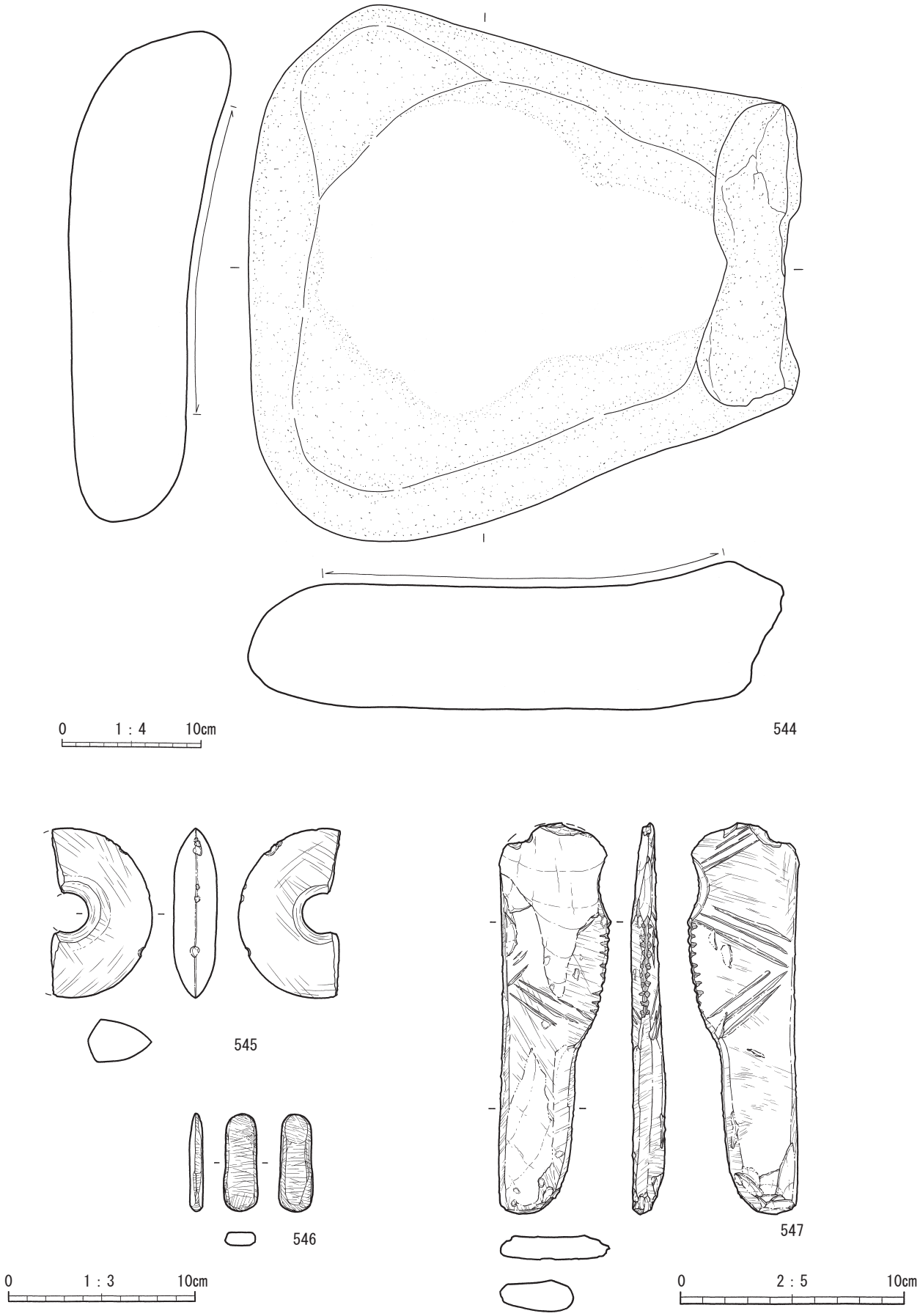
磨製石器（第 88 図 546）

全体に研磨を施すが、器種の特定が困難なものである。１点確認した。

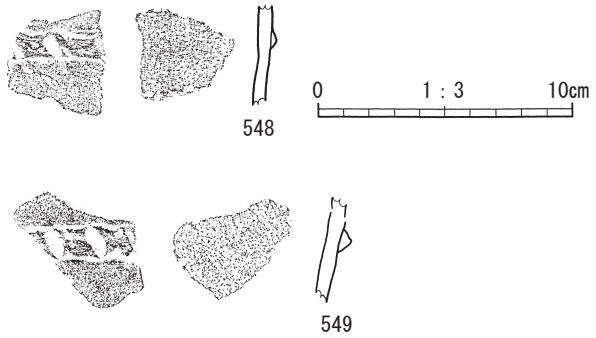
石刀状石製品（第 88 図 547）

刃部先端を欠損しており、残存長 17.6 ㎝、最大幅 5.0 ㎝、最大厚 1.5 ㎝、重量 147.95 g を測る。粘板岩製で、器面に鉄分が多く付着する。

全面を丁寧に研磨しており、器面に擦痕が確認できる。刃部背側と柄部両側面には、研磨による複数の平坦面をも



第88図　縄文石器（10）



第89図　古墳時代土器

つ。刃部から柄部に向かって、幅が狭くなり、ナデ調整関状となる。柄部は、先端に向かって先細りとなる。

刃部には縦位の一条の沈線とそれに直交する形で短い沈線（刻み）を複数施している。この刻みにより、鋸歯に見える。正面と背面に、三条一単位の沈線が鋸歯状に施す。

第２節　古墳時代の調査

１　調査の概要

古墳時代の土器がⅠ層からわずかに出土したのみである。過去の土地改変により、包含層が削平されている可能性が高い。

２　遺物（第 89 図 548・549）

成川式土器の甕の胴部を、２点確認した。色調と胎土の状態から、同一個体の可能性が高い。ナデ調整後に、突帯の貼付を施す。さらに突帯上に、棒状もしくはヘラ状工具による刻目を施す。外面は薄橙色を呈し、胎土及び内面は白色である。

第３節　時代不明の調査

１　調査の概要（第 90 図）

２～８区において、溝状遺構が２条検出された。これらは、土層断面の観察から時期的に新しいと判断できる。

２　１号溝状遺構（SD１）（第 91 図）

（１）検出・構造

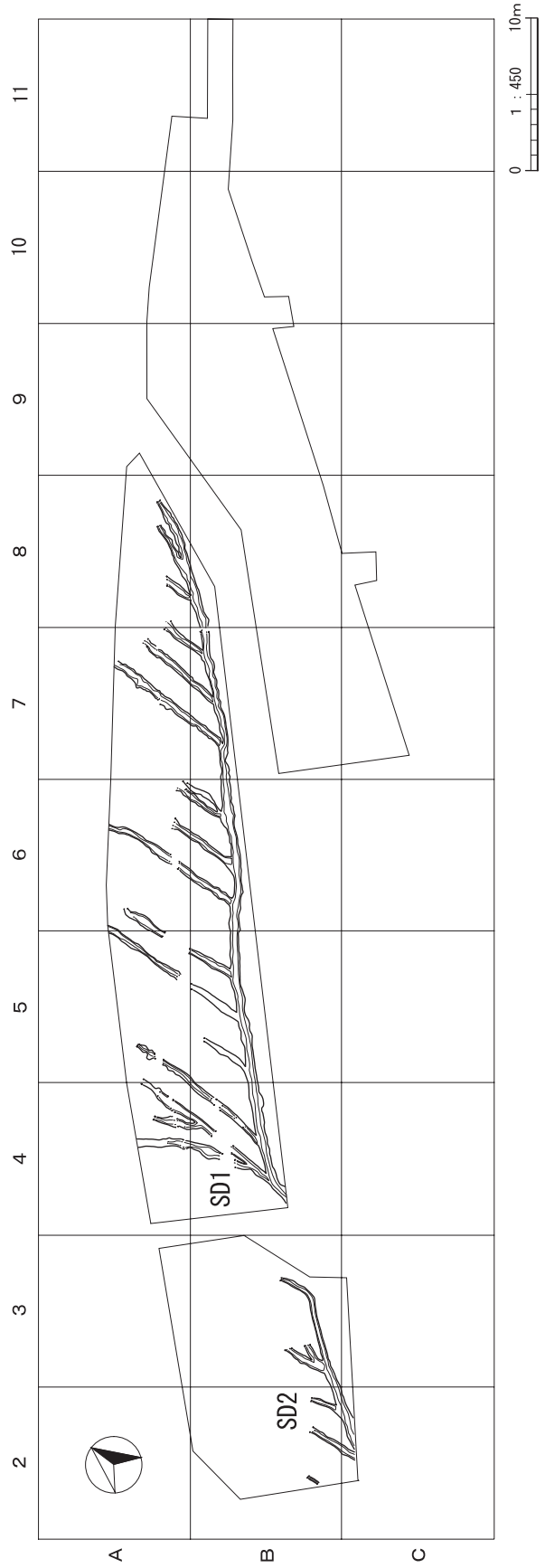
表土除去後のⅢa 層上面において検出した。Ｂ－４区からＡ－８区の北東－南西方向に約 47m延びる。12 箇所に枝分かれした支線がある。その支線からさらに枝分かれするものもある。

検出面での幅は、0.3～0.8mである。断面は逆台形状を呈し、床面はいびつである。深さは約７～20cm を測り、東側ほど浅くなる。支線は、より浅くなる。

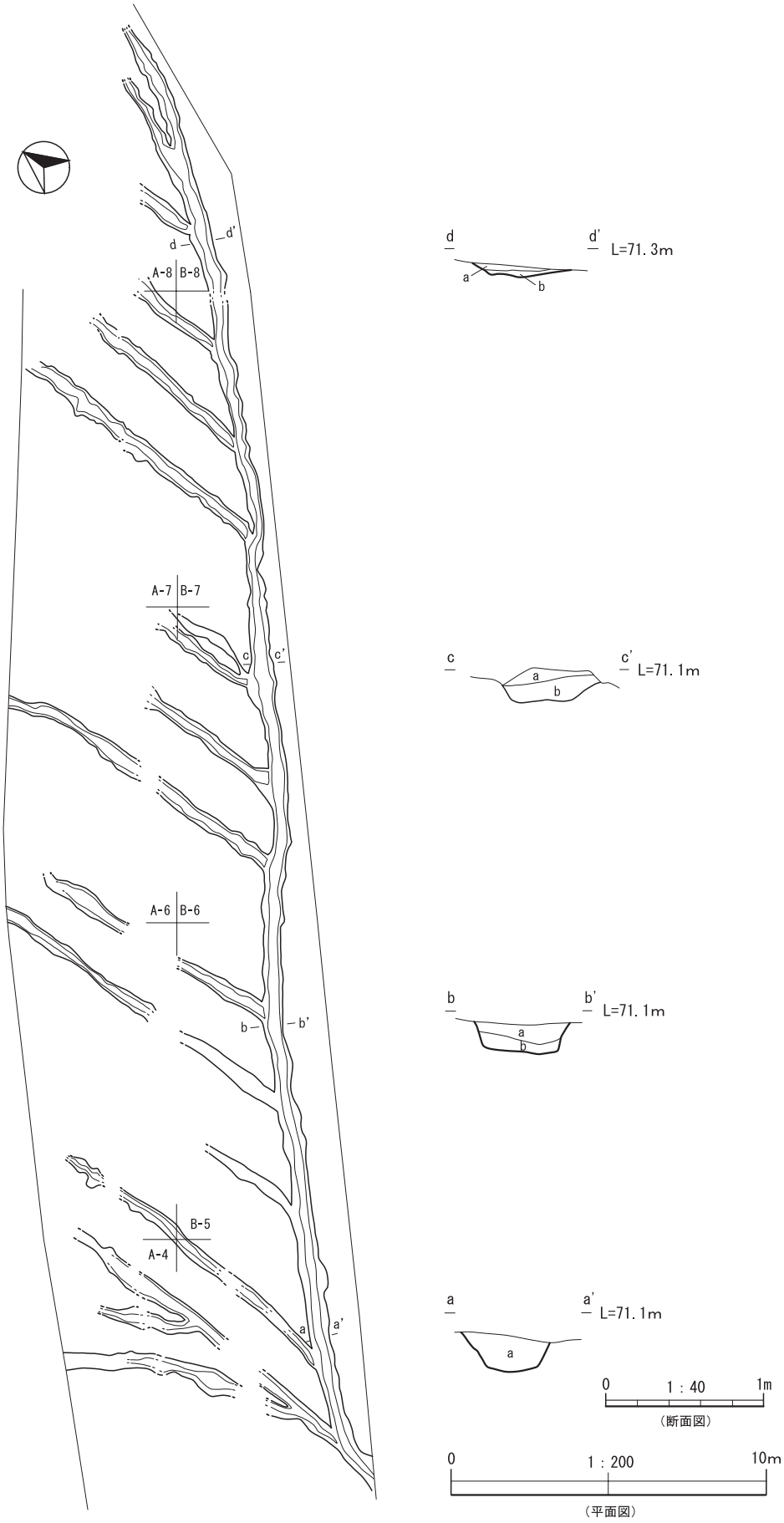
（２）埋土

埋土は、２層（ａ・ｂ）に分けられる。

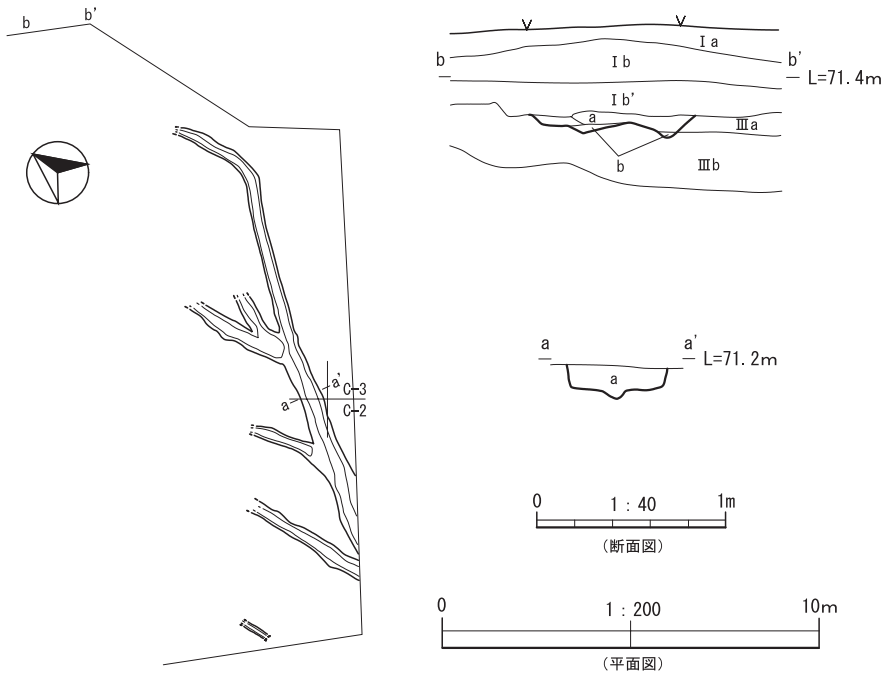
ａ：黒色（10YR3/1）シルト質土で、締まりが弱い。0.5cm程の白色粒を多く含む。Ⅲa 層のブロック土を含む。Ⅰｂ層に類似する。



第90図　時代不明　遺構配置図



第91図　１号溝状遺構（ＳＤ１）平・断面図



第92図　２号溝状遺構（ＳＤ２）平・断面図

ｂ：灰黄褐色(10YR4/2)シルト質土で、締まりが弱い。Ⅲa 層・Ⅲb 層のブロック土を含む。下位ほど礫を多く含む。場所によっては、ａ層との境に川砂のような砂が薄く層を成す。

（３）遺物

埋土内から縄文時代土器や石斧（第 86 図 535）をはじめとする石器が認められており、一括取上を行った。

これら遺物は、遺構の壁や床面をなすⅢa 層・Ⅲb 層から流れ込んだものと考える。

３　２号溝状遺構（SD２）（第 92 図）

（１）検出・構造

表土除去後のⅢa 層上面において検出した。Ｃ－２区からＢ－３区の北東－南西方向に約 11m延びる。４箇所に枝分かれした支線がある。

検出面での幅は、0.3～0.7ｍである。断面は逆台形状を呈し、床面はいびつである。深さは 10～15 ㎝を測る。支線は、より浅くなる。

（２）埋土

埋土は、２層（ａ・ｂ）に分けられる。

ａ：黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まりが弱い。0.5 ㎝程の白色粒を含む。Ⅲa 層・Ⅲb 層のブロック土を含む。

ｂ：黒褐色(10YR3/1)シルト質土で、締まりがない。部分的に砂を含む。

（３）遺物

埋土内から縄文時代土器や石器が認められており、一括取上を行った。これら出土遺物は、遺構の壁や床面をなすⅢa層・Ⅲb層から流れ込んだものと考える。

第２表　土器観察表（１）

挿図	報告No.	取上No.	区	層	分類	型式	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石／長	胎土 輝／角	胎土 雲母	胎土 火ガ	胎土 風礫	胎土 く礫	備考
22	1	19114	B-8	3b	1	前平	ヨコ貝殻条痕	ヨコナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい褐(7.5YR5/4)	○	○	－	－	－	－	
	2	9367	B-9	3a			ナナメ貝殻条痕	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄(2.5Y8/4)	○	○	－	△	－	－	
	3	9345	B-10	3a			貝殻条痕	ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	明褐(7.5YR5/8)	○	△	－	△	－	－	
	4	12143	A-11	3a			ナナメ貝殻条痕	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	灰(5Y4/1)	○	△	－	－	○	－	
	5	12146	A-11	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕	ヨコ・ナナメケズリ	にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄(2.5y7/4)	○	△	－	○	△	－	
	6	3820	A-11	3a	2	小牧３Ａ	ナデ	タテケズリ	にぶい黄橙(10YR7/4)	橙(7.5YR6/6)	○	△	－	－	－	－	
	7	9656	B-10	3a			ナデ	タテケズリ	橙(5YR6/6)	明赤褐(5yr5/6)	○	－	－	○	○	－	
	8	18065	C-7	SK10	3	下剝峯	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	○	－	－	○	－	－	
	9	16883	B-8	3a	4	塞ノ神Ａ	ナデ	ヨコナデ	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄(2.5Y8/4)	△	－	－	△	－	－	
	10	1956他1点	A-7	3a・3b	5	曽畑	ヨコ・ナナメナデ	ヨコナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	灰黄(2.5Y6/2)	○	△	－	－	－	－	復元口径19.5cm
	11	2661他1点	A-8	3a・3b			ナデ	ナデ	灰(5Y4/1)	にぶい黄(2.5Y6/3)	△	○	－	－	－	－	復元口径24.0cm スス付着
	12	1562他2点	A・B-7	3a・3b			ナデ	ナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	にぶい黄橙(10YR7/4)	○	○	－	△	△	－	復元口径26.5cm
	13	19085	B-9	3a			ナデ	ナナメナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい黄褐(10YR5/4)	○	－	○	－	－	－	
	14	15514他1点	C-7	3b			ナデ	ナナメナデ	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	○	○	－	△	－	－	
	15	9568	B-8	3a			貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナナメナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	橙(7.5YR6/6)	△	－	－	－	－	－	
23	16	11716	B-7	3b			ヨコナデ	ヨコナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	灰(5Y4/1)	○	△	－	○	△	△	
	17	14478他1点	B-8	3a			ナデ	ヨコナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい褐(7.5YR5/3)	○	○	－	△	－	－	
	18	8024	B-7	3a			ナデ	ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	にぶい黄(2.5Y6/3)	○	○	－	○	－	－	
	19	14930	B-8	3a			ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	暗灰黄(2.5Y5/2)	○	△	△	－	－	－	
	20	834他1点	B-7	3a			ナデ	ナデ	灰(5Y4/1)	浅黄(2.5Y7/3)	△	○	－	－	－	－	
	21	17427	C-7	3b			ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	○	○	－	△	－	－	
	22	8032	B-7	3a			ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	－	－	－	○	
	23	15893	B-8・9	3a・3b			ナデ	丁寧なナデ	浅黄(2.5Y7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	－	－	－	○	○	
	24	2540	A-8	3b			ナデ	丁寧なナデ	灰黄褐(10YR5/2)	暗灰黄(2.5Y4/2)	△	△	－	－	－	－	
	25	13095他2点	B-9・11	3a・3b			ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	暗灰黄(2.5Y5/2)	○	○	－	－	－	－	
	26	11150	B-7	3a			タテ貝殻条痕後ナデ	ナデ	黄褐(2.5Y5/3)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	○	－	－	－	○	
	27	784	A-7	3a			タテ貝殻条痕後ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	橙(7.5YR6/6)	○	○	－	○	－	－	
	28	11063他1点	B-8・9	3a・3b			タテ貝殻条痕後ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	○	－	△	－	○	
24	29	14525	C-8	3a			ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	灰(5Y4/1)	△	△	－	－	－	－	
	30	1581	B-7	3a			ナデ	丁寧なナデ	灰黄(2.5Y6/2)	灰(5Y4/1)	△	△	－	－	－	－	
	31	2152	B-7	3a			ナデ	ヨコ・ナナメナデ	橙(7.5YR6/6)	黄褐(2.5Y5/3)	○	△	－	－	○	－	
	32	1775	A-7	3a			タテ貝殻条痕	ヨコナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄褐(10YR4/3)	○	△	－	○	－	○	
	33	18888	B-9	3b	6a	深浦	ナデ	ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	○	－	－	△	－	
	34	14486	B-8	3a	6b	深浦	貝殻条痕後ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	褐(7.5YR4/3)	○	－	－	－	△	－	
	35	11919他4点	B-8	3a・3b	7	野久尾	ナナメ貝殻条痕	口端：貝殻条痕後ヨコナデ 口：ナナメ貝殻条痕	黒褐(10YR3/1)	橙(7.5YR6/6)	○	－	－	△	－	－	復元口径38.0cm
	36	14230	B-9	3a			口：貝殻条痕後ナデ 胴：ナナメ貝殻条痕	ヨコ貝殻条痕後ナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	にぶい黄(2.5Y6/3)	○	△	－	○	－	－	
	37	15287	D-3	3a			ナデ	ヨコナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	暗灰黄(2.5Y4/2)	○	△	－	－	○	－	
	38	13459他	B・C-8	3a			ナデ	タテ貝殻条痕後ヨコナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	○	△	－	○	△	－	
25	39	6426	C-8	3a			口：貝殻条痕後ナデ 胴：ナナメ貝殻条痕	ヨコ・ナナメ貝殻条痕	灰黄褐(10YR4/2)	橙(7.5YR6/6)	△	△	－	－	－	－	
	40	10953	A-9	3a			貝殻条痕後ヨコナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	暗灰黄(2.5Y5/2)	○	○	－	○	○	○	
	41	6548	B-7	3a			タテ貝殻条痕後ナデ	タテ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	暗灰黄(2.5Y4/2)	○	△	－	○	－	－	
	42	14461	B-8	3a	8	船元	縄文	ナデ	黄褐(2.5Y5/3)	浅黄(2.5Y7/3)	○	－	－	－	○	－	
	43	16762	B-10	3b	9a	春日（前谷）	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	黄褐(2.5Y5/3)	にぶい黄(2.5Y6/4)	△	－	－	－	△	－	復元口径33.2cm
	44	12439	B-8	3a			ヨコナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	明赤褐(5YR5/8)	○	－	－	△	△	○	
	45	6531	B-7	3a			ナナメナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	暗灰黄(2.5Y4/2)	△	－	－	－	△	－	復元口径19.6cm
	46	5593	B-8	1c			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	黒褐(2.5Y3/2)	△	△	－	－	－	△	
	47	16364	B-10	3b			ヨコ・ナナメナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい黄(2.5Y6/4)	浅黄(2.5y7/4)	△	△	－	－	－	－	復元口径22.0cm
	48	18068	C-7	SK10			ヨコ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	ヨコ貝殻条痕・ヨコナデ	灰オリーブ(5Y4/2)	黄褐(2.5Y5/4)	△	－	－	－	－	－	復元口径19.2cm
26	49	18411	B-9	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕・ナデ	ヨコ貝殻条痕	暗灰黄(2.5Y4/2)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	○	－	－	－	－	復元口径33.6cm
	50	14655他1点	B-9	3a・3b			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	浅黄(2.5y7/4)	△	△	－	－	－	△	復元口径37.0cm
	51	1544	B-7	3a			丁寧なナデ	丁寧なナデ	暗赤褐(5YR3/3)	オリーブ褐(2.5Y4/3)	○	－	－	△	－	－	
	52	6397	A-10	3a			ナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐(10YR4/3)	オリーブ褐(2.5Y4/3)	△	－	－	－	△	－	
	53	17471	B-9	3a			丁寧なヨコナデ	丁寧なヨコナデ	黒褐(2.5Y3/2)	黄褐(2.5Y5/3)	○	△	－	△	－	－	復元口径22.0cm
	54	17356	B-8	3a	9b	春日（轟木ヶ迫）	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	褐(7.5YR4/3)	にぶい褐(7.5YR5/4)	△	－	－	－	－	○	
	55	8805	A-10	3a			口端：ヨコナデ 口：ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	橙(7.5YR6/6)	△	○	－	－	－	△	
	56	6428	C-8	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	褐灰(10YR4/1)	にぶい黄橙(10YR6/4)	○	○	－	△	－	－	
27	57	6205	B-9	3a			ヨコナデ	ヨコナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	○	○	－	○	△	－	
	58	18149	B-9	3a			ヨコ・ナナメナデ	ヨコ・ナナメケズリ	橙(5YR6/6)	暗灰黄(2.5Y5/2)	△	△	－	－	－	－	
	59	11929	B-9	3a			ナナメケズリ後タテ貝殻条痕	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	○	○	－	○	○	－	
	60	8631	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい赤褐(5YR5/3)	灰黄褐(10YR5/2)	△	－	△	－	△	△	

第３表　土器観察表（２）

挿図	報告No.	取上No.	区	層	分類	型式	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石／長	胎土 輝／角	胎土 雲母	胎土 火ガ	胎土 風礫	胎土 く礫	備考
27	61	10774	B-7	3a	9b	春日（轟木ヶ迫）	ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	にぶい橙(7.5YR6/4)	○	△	－	○	△	△	
	62	6272	B-8	3a			丁寧なナデ	丁寧なナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	灰(5Y4/1)	○	－	－	－	△	－	
	63	16951	B-9	3a			ヨコナデ	丁寧なヨコナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい黄(2.5Y6/3)	△	○	－	－	△	△	
	64	12052他1点	B-11	3a			ナナメ貝殻条痕後タテナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄(2.5Y6/4)	△	△	－	－	△	○	復元口径27.6cm
	65	12650他1点	B-9	3a			口：ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ 胴：ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	黄褐(2.5Y5/3)	△	△	－	△	－	－	復元口径32.0cm
28	66	14483	B-8	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	淡黄(2.5Y8/3)	浅黄(2.5Y7/3)	△	○	－	△	△	－	復元口径37.2cm
	67	16676	B-9	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	黒褐(2.5Y3/1)	暗灰黄(2.5Y4/2)	△	－	－	－	△	－	
	68	9816	A-10	3b			ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	淡黄(2.5Y8/3)	△	○	－	－	－	－	
	69	9081	A-9	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	黄褐(10YR5/6)	△	△	－	－	－	－	
	70	11983	B-9	3a			ナナメ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	△	○	－	－	○	－	
	71	18352	B-9	3a			ヨコナデ	ヨコ・ナナメナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	－	△	－	－	
	72	6013	B-9	3a			ナデ	口：ヨコ貝殻条痕後ナデ 胴：ヨコ貝殻条痕	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	△	－	－	－	△	－	復元口径14.2cm
	73	18380他3点	B-9	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	暗灰黄(2.5Y5/2)	△	△	△	－	－	○	復元口径34.0cm
29	74	13358	B-8	3a			ナデ	ナデ	灰(5Y4/1)	オリーブ黒(5Y3/1)	△	－	○	△	△	－	
	75	4172	A-10	3a			ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	黄褐(2.5Y5/3)	△	－	－	－	－	△	
	76	11633他2点	B-9	3a			丁寧なナデ	丁寧なヨコナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	にぶい黄褐(10YR5/4)	○	△	－	○	○	－	復元口径19.4cm
	77	10067	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕	ヨコ貝殻条痕後ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	△	△	－	－	－	－	
	78	15478他1点	B-9	3a・3b			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	にぶい黄褐(10YR5/4)	○	○	－	△	－	－	復元口径32.0cm
	79	11858	B-9	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ナデ	にぶい黄(2.5Y6/4)	にぶい黄褐(10YR5/3)	○	○	－	○	○	－	復元口径24.6cm
30	80	8643	B-9	3a			ナナメケズリ	丁寧なナデ	オリーブ黒(5Y3/2)	黄褐(2.5Y5/3)	△	△	－	△	－	－	復元口径30.0cm
	81	9818	A-9	3b			丁寧なナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	にぶい黄褐(10YR5/4)	○	－	－	△	△	－	復元口径24.4cm
	82	11137	A-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	黒褐(2.5Y3/1)	浅黄(2.5Y7/3)	△	－	－	－	△	－	
	83	16380	B-9	3a			ヨコ・ナナメナデ	ヨコナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	暗灰黄(2.5Y4/2)	△	△	－	－	○	－	
	84	6814	B-10	3a	9c	春日（南宮島）	ヨコ・ナナメナデ	ヨコナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	にぶい褐(7.5YR5/4)	○	△	○	－	－	－	
	85	823	B-7	3a			ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	黒褐(2.5Y3/2)	灰(5Y4/1)	△	－	－	－	－	－	
31	86	9085他1点	A-9	3a			ナナメ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	黒褐(2.5Y3/1)	浅黄(2.5Y7/3)	△	－	－	△	○	－	
	87	9077	A-9	3a			ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい赤褐(5YR4/4)	明赤褐(5YR5/8)	△	○	－	○	○	－	
	88	12616	B-9	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい黄褐(10YR4/3)	灰オリーブ(5Y4/2)	○	△	－	－	○	△	
	89	4724	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	黄褐(2.5Y5/3)	にぶい黄(2.5Y6/4)	△	△	－	－	○	△	復元口径22.6cm
	90	17266	B-10	3b			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5y7/4)	○	○	－	○	－	－	
	91	11988	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	黒褐(10YR3/1)	黄褐(2.5Y5/3)	△	△	－	－	○	－	
	92	49	A-8	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	黄褐(2.5Y5/3)	にぶい黄褐(10YR5/4)	－	△	－	－	△	－	
	93	12432	B-8	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	灰(5Y4/1)	△	－	－	－	○	－	復元口径16.6cm
	94	9818	A-9	3b			丁寧なナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	明褐(7.5YR5/6)	明褐(7.5YR5/6)	○	○	－	○	○	－	
32	95	15148他1点	B-10	3a			ヨコナデ	ヨコナデ	黄灰(2.5Y4/1)	浅黄(2.5Y7/3)	△	○	－	△	－	－	復元口径26.0cm
	96	17371	B-8	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	灰黄褐(10YR4/2)	暗灰黄(2.5Y4/2)	△	○	－	－	－	－	復元口径26.3cm
	97	14159他1点	B-9	3a			ナナメケズリ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後タテ・ヨコナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	黄灰(2.5Y4/1)	△	△	－	－	△	－	
	98	5918	B-9	3a			タテ・ナナメナデ	ヨコ貝殻条痕	浅黄(2.5y7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	－	－	－	－	－	復元口径14.0cm 底径7.6ｃｍ
	99	15436	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	オリーブ黒(5Y3/1)	○	△	－	－	－	－	復元口径16.0cm
	100	18844	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	灰黄褐(10YR5/2)	△	△	－	－	△	○	
	101	6449	C-8	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	暗灰黄(2.5Y4/2)	△	△	－	－	－	－	復元口径11.0cm 底径4.2ｃｍ
	102	16330	B-10	3a			ヨコ・ナナメナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	暗灰黄(2.5Y4/2)	○	－	－	－	△	－	復元口径14.0cm
33	103	13402	B-8	3a			ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	オリーブ黒(5Y3/2)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	－	－	－	－	－	
	104	17266	B-10	3b			ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	○	－	－	△	－	
	105	14031	B-10	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	褐(7.5YR4/3)	にぶい褐(7.5YR5/3)	○	△	－	○	－	－	
	106	5950	A-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	暗灰黄(2.5Y5/2)	△	△	－	－	－	－	
	107	17283	B-9	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい黄褐(10YR4/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	○	－	－	－	－	－	
	108	10886	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕	にぶい黄褐(10YR5/3)	黄褐(2.5Y5/3)	－	○	－	△	△	○	
	109	17402	B-8	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕	ヨコ・ナナメ貝殻条痕	にぶい橙(7.5YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	○	○	－	△	△	－	
	110	5241	C-7	1c			ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	○	－	△	○	－	
	111	15421	B-9	3a			丁寧なヨコナデ	丁寧なヨコナデ	橙(7.5YR6/6)	暗灰黄(2.5Y5/2)	△	○	－	－	△	○	
34	112	9190他2点	B-9	3a			タテ・ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(5YR6/6)	△	△	－	△	－	△	復元口径27.0cm
	113	11609	B-9	3a			ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR7/6)	△	○	－	－	－	－	復元口径27.6cm
	114	8768他1点	B-8	3a			ヨコ・ナナメナデ	ヨコナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	－	－	－	－	○	復元口径28.8cm
	115	15878他1点	B-9	3a			ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	暗灰黄(2.5Y5/2)	△	△	－	－	△	△	
	116	13411	B-8	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	口：ヨコ貝殻条痕後ナナメナデ 胴：ヨコ・ナナメ貝殻条痕	にぶい赤褐(5YR4/3)	にぶい褐(7.5YR5/4)	△	△	－	－	○	△	復元口径17.6cm 底径7.6cm
35	117	9818	A-9	3b			丁寧なナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	橙(7.5YR6/6)	○	－	－	○	○	－	復元口径36.0cm 底径9.0cm
36	118	10044他2点	B-9	3a			口：ヨコ・ナナメナデ 胴：タテ・ナナメナデ	ヨコ・ナナメケズリ後ナデ	にぶい黄(2.5Y6/3)	浅黄(2.5y7/4)	△	－	－	－	○	○	滑石を含む 復元口径35.6cm

第４表　土器観察表（３）

挿図	報告No.	取上No.	区	層	分類	型式	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石／長	胎土 輝／角	胎土 雲母	胎土 火ガ	胎土 風礫	胎土 く礫	備考
37	119	18188	B-10	3a	10a	大平	ナデ	ヨコ貝殻条痕後丁寧なナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	－	－	－	○	－	復元口径21.6cm
	120	12849他1点	B-9	3a			口：丁寧なナデ 胴：ヨコ貝殻条痕後丁寧なヨコナデ	丁寧なナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄(2.5Y6/4)	△	△	－	－	○	△	復元口径35.6cm
38	121	11315	B-10	3a			口：丁寧なナデ 胴：ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	黄褐(2.5Y5/3)	にぶい黄褐(10YR4/3)	△	－	－	－	○	－	復元口径28.3cm 復元底径10.5cm
39	122	10217他1点	B-10	3a・3b			ヨコ・ナナメナデ	口：ヨコ貝殻条痕後ナデ 胴：ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄(2.5Y6/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	○	○	－	△	－	－	復元口径30.8cm
40	123	459他2点	B-7・8	3a・3b			丁寧なヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	○	○	－	△	○	△	復元口径21.6cm
	124	一括	B-7	SD1			ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	黒褐(2.5Y3/1)	暗灰黄(2.5Y4/2)	△	－	－	○	△	－	
	125	4048	B-9	3a			ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい黄(2.5Y6/3)	△	－	－	－	○	－	
	126	4611他1点	B-8	3a			ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	灰黄(2.5Y6/2)	○	○	－	△	－	－	
	127	6191	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	にぶい黄橙(10YR6/4)	○	○	－	○	○	△	
	128	一括	B-7	SD1			ヨコナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	浅黄(2.5y7/4)	△	△	－	－	△	－	
	129	6618	B-8	1c			ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	にぶい褐(7.5YR5/3)	○	△	－	－	○	－	
	130	1814	A-7	3a	10b		ヨコナデ	ヨコ・ナナメナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	暗灰黄(2.5Y4/2)	○	○	△	△	○	－	
	131	1006	A-8	3a			ナデ	ヨコナデ	黒褐(2.5Y3/1)	暗灰黄(2.5Y4/2)	○	△	－	－	△	－	
	132	7096	B-10	1e			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ナナメ貝殻条痕後タテ・ヨコナデ	灰(5Y4/1)	にぶい褐(7.5YR5/3)	△	○	－	－	○	－	
41	133	3447	A-10	3a			ヨコ・ナナメナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	浅黄(2.5Y8/4)	浅黄(5Y7/3)	○	△	－	△	○	－	復元口径44.0cm
	134	4603他2点	B-8	3a			ナナメ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕	黄灰(2.5Y4/1)	黄灰(2.5Y4/1)	△	△	－	－	○	－	
	135	123	A-7	3a			ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	灰(5Y4/1)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	△	－	－	○	○	
	136	13798	B-9	3a			ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	○	○	－	○	○	△	
	137	8660	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	橙(7.5YR6/6)	○	○	－	○	○	○	
	138	8426	B-10	3a			ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい赤褐(5YR4/4)	にぶい褐(7.5YR5/4)	○	－	－	○	△	－	
	139	462	B-7	3a			ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	○	○	－	○	○	△	
	140	7044	B-11	1e			ヨコ・ナナメナデ	ヨコナデ	黄褐(2.5Y5/3)	にぶい黄(2.5Y6/4)	○	△	－	△	○	－	
	141	18408	B-9	3a			ヨコ・ナナメナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	明赤褐(5yr5/6)	○	△	－	△	△	－	
	142	16505	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	オリーブ黒(5Y3/1)	○	△	－	△	○	－	
42	143	8757	B-8	3a			ヨコ・ナナメナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	灰黄褐(10YR4/2)	にぶい黄(2.5Y6/3)	○	△	－	△	○	－	復元口径37.0cm
	144	15111	B-10	3a			タテ・ヨコ・ナナメナデ	タテ・ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	明褐(7.5YR5/6)	○	○	－	○	○	○	
43	145	12191	B-10	3a	10c		ナナメ貝殻条痕後ナデ	ナナメ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	黄褐(2.5Y5/3)	○	△	－	－	△	－	復元口径17.4cm
	146	8661	B-9	3a			ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄褐(10YR4/2)	灰オリーブ(5Y5/2)	○	△	－	－	△	－	
	147	14783	B-10	3a			ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	浅黄橙(10YR8/3)	○	△	－	－	－	－	
	148	12947	B-10	3a			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい褐(7.5YR5/3)	灰(5Y4/1)	○	－	－	○	△	－	
	149	15713	B-10	3b			ヨコナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	浅黄(2.5y7/4)	○	○	－	△	－	－	
	150	12128	A-11	3a			ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	浅黄(2.5Y7/3)	△	△	－	－	－	－	
	151	8444	B-10	3a			ナナメナデ	タテ貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	○	○	－	○	－	－	
	152	16044	B-9	3a	10d		ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	オリーブ褐(2.5Y4/3)	○	△	－	－	－	－	
	153	11267	A-11	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	黒褐(2.5Y3/2)	明赤褐(5yr5/6)	○	○	－	○	○	△	
	154	2241	B-8	3a			丁寧なヨコナデ	丁寧なヨコナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	○	△	－	△	○	－	
	155	10273	B-10	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナナメナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	黄灰(2.5Y4/1)	○	－	－	○	△	－	
	156	10173	B-10	3a			ナデ	丁寧なナデ	橙(5YR6/6)	にぶい黄(2.5Y6/4)	－	－	－	－	○	－	
44	157	10	A-8	3a			ナデ	ヨコナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	△	－	－	○	○	復元口径19.0cm
	158	865	B-7	3a			ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	橙(7.5YR6/6)	△	○	－	－	○	○	
	159	18169	B-10	3a			ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄褐(10YR5/3)	○	－	－	－	○	－	
	160	8476	B-10	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	黄灰(2.5Y4/1)	△	－	－	△	○	－	
	161	16354	B-10	3b			ナデ	ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	○	△	－	△	△	－	
	162	13093	B-11	3a			ナデ	ナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	オリーブ黒(5Y3/1)	○	△	－	△	○	○	
	163	12535	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	黄褐(2.5Y5/3)	△	△	－	－	○	○	
45	164	一括	A-6	SD1	11	宮之迫	ナデ	ナデ	黒褐(2.5Y3/1)	灰黄褐(10YR4/2)	△	－	－	－	△	－	
	165	67	B-8	2b			ナデ	ヨコナデ	にぶい褐(7.5YR5/3)	黄灰(2.5Y4/1)	○	△	－	△	－	－	
	166	一括	B-7	SD1			ヨコ貝殻条痕	ヨコ貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい黄(2.5Y6/3)	○	－	－	－	－	－	
	167	一括	B-2・3	SD1			ナデ	ヨコナデ	黒褐(5YR3/1)	にぶい赤褐(5yr5/4)	○	△	－	△	△	○	
	168	7036	B-11	1e			ナデ	ナデ	黒褐(10YR3/1)	橙(7.5YR6/6)	○	△	－	－	△	－	
	169	4678	B-9	3a			タテ・ヨコナデ	ヨコナデ	黄灰(2.5Y4/1)	にぶい褐(7.5YR5/4)	○	○	－	○	△	－	
	170	10512	B-11	3a			ナデ	タテ貝殻条痕後タテ・ヨコナデ	黒褐(10YR3/1)	黒褐(2.5Y3/1)	○	－	－	△	－	－	
	171	6737	B-10	3a			ナデ	ナデ	にぶい赤褐(5yr5/4)	暗灰黄(2.5Y4/2)	○	－	－	△	－	－	
	172	8379	B-11	1e			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	黄褐(2.5Y5/3)	黒褐(2.5Y3/1)	△	○	－	－	－	○	
	173	7087	B-10	1e			ナデ	ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	にぶい褐(7.5YR5/4)	△	△	－	△	－	－	
	174	339他2点	A・B-7	3a			ナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい赤褐(5YR4/3)	赤褐(5YR4/6)	△	△	－	－	△	－	
	175	13351	B-8	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	黒褐(2.5Y3/1)	にぶい黄褐(10YR5/3)	○	－	－	○	－	－	
	176	2968	B-8	3b			ナナメ貝殻条痕	ナナメ貝殻条痕後ナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	にぶい黄褐(10YR4/3)	－	△	－	－	△	－	
	177	463	B-7	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	にぶい黄褐(10YR5/3)	○	－	－	○	－	－	
	178	10535他4点	B-11	3a			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	にぶい褐(7.5YR5/4)	○	－	－	○	－	－	
	179	10506	B-11	3a			ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい褐(7.5YR5/4)	△	－	－	△	－	○	

第５表　土器観察表（５）

挿図	報告No.	取上No.	区	層	分類	型式	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石／長	胎土 輝／角	胎土 雲母	胎土 火ガ	胎土 風礫	胎土 く礫	備考
45	180	8500	B-10	3a	11	宮之迫	ナナメ貝殻条痕	ヨコ・ナナメ貝殻条痕	褐(7.5YR4/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	△	△	－	△	－	○	
	181	5733他1点	B-10	1c			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ナナメ貝殻条痕後タテ・ナナメナデ	灰(5Y4/1)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	△	－	△	－	－	
	182	10537	B-11	3a			ナデ	ナデ	灰(5Y4/1)	にぶい橙(7.5YR6/4)	－	○	－	△	－	－	
	183	13529	B-10	3a			ナデ	ナナメナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	○	－	－	－	－	
	184	9369	B-9	3a			ナナメ貝殻条痕	ナナメ貝殻条痕後ナナメナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい褐(7.5YR5/4)	△	－	－	－	－	－	
	185	6838	B-9	3a			ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	橙(7.5YR6/6)	○	－	△	○	－	－	
	186	5726	B-9	1c			ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	黒褐(2.5Y3/2)	明赤褐(5yr5/6)	○	△	－	○	－	－	
	187	4624	B-9	3a			タテ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	にぶい褐(7.5YR5/4)	△	△	－	△	－	－	
	188	6756	B-10	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	黄褐(2.5Y5/3)	○	－	－	○	－	－	
46	189	7628	B-11	1e	12	指宿	ナデ	ナデ	黒(2.5Y2/1)	黄褐(2.5Y5/3)	○	△	－	○	－	－	
	190	15720	B-10	3b			ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	暗灰黄(2.5Y5/2)	○	－	－	○	－	－	
	191	18801	B-8	3a			ナデ	ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	○	△	○	△	△	－	
	192	7266	B-10	3a			ナデ	丁寧なヨコナデ	橙(5YR6/6)	明赤褐(5yr5/6)	○	△	○	△	－	－	
	193	6790	B-10	3a			ヨコナデ	ナデ	橙(7.5YR6/8)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	－	○	－	－	△	
	194	8507	B-10	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	－	－	－	△	○	
	195	一括	B-5	SD1			ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	オリーブ黒(5Y3/1)	○	△	○	△	－	－	
	196	一括	B-6	SD1			ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	明赤褐(5yr5/6)	△	－	△	－	－	－	
	197	268	B-7	3a			丁寧なナデ	丁寧なヨコナデ	橙(5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	○	△	△	△	－	－	
	198	一括	B-7	SD1			ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	褐灰(10YR5/1)	△	－	－	－	△	－	
	199	5677	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	○	△	－	△	△	－	
	200	6058	B-9	3a			丁寧なナデ	丁寧なナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(5YR6/6)	○	△	△	△	○	－	
	201	853	A-7	3a			ナナメ貝殻条痕	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	オリーブ黒(5Y2/2)	－	－	－	－	△	－	
47	202	5622他1点	B-8・9	3a			ナデ	ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	明赤褐(5yr5/6)	○	－	○	－	△	△	復元口径22.5cm
	203	5738	B-10	1c			丁寧なナデ	丁寧なヨコナデ	黄灰(2.5Y4/1)	褐(7.5YR4/3)	○	－	－	○	－	－	復元口径27.0cm
	204	5712	B-9	3a			丁寧なヨコナデ	丁寧なヨコ・ナナメナデ	にぶい橙(5YR6/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	－	－	－	△	△	復元口径32.0cm
	205	一括	B-12・14	1			丁寧なナデ	丁寧なヨコナデ	黒褐(7.5YR3/1)	橙(5YR6/8)	△	－	－	－	－	－	復元口径35.5cm
	206	4649他1点	B-9	3a			丁寧なヨコナデ	丁寧なヨコナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	明黄褐(10YR6/6)	○	△	△	－	－	－	復元口径20.4cm
48	207	6768	B-10	3a			ナデ	ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	黄灰(2.5Y4/1)	△	－	－	△	－	－	
	208	9237	B-11	1e			ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	○	○	－	○	－	－	
	209	7196	B-10	3a			ヨコナデ	ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	橙(5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	△	－	－	－	－	－	
	210	17530	B-10	3a			ヨコ・ナナメナデ	ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	にぶい褐(7.5YR5/4)	△	－	○	－	－	－	
	211	462	B-7	3a			丁寧なヨコナデ	丁寧なヨコナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	にぶい黄褐(10YR5/3)	○	○	－	○	○	－	
	212	5473他1点	B-8	1c			ナデ	ヨコナデ	灰黄褐(10YR5/2)	褐(7.5YR4/3)	△	－	－	－	△	△	
	213	一括	B-6	SD1			ヨコナデ	丁寧なヨコナデ	黒褐(10YR3/1)	灰黄褐(10YR4/2)	△	－	－	－	○	○	
	214	6075	B-9	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい褐(7.5YR5/3)	橙(7.5YR6/6)	△	△	－	－	－	－	
	215	6811他2点	B-10	3a			ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	にぶい褐(7.5YR5/4)	△	－	－	△	－	－	復元口径29.0cm
	216	5728他1点	B-9・10	1c・3a			ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	明赤褐(5yr5/6)	にぶい赤褐(5yr5/4)	△	－	－	△	－	－	復元口径40.0cm
49	217	5425他4点	B-8・9	1c・3a・3b			口：丁寧なヨコナデ 胴：丁寧なタテ・ヨコナデ	口：丁寧なヨコナデ 胴：ヨコ・ナナメナデ	黄褐(2.5Y5/4)	暗灰黄(2.5Y4/2)	○	△	－	△	△	○	復元口径45.6cm
	218	5424他5点	B-8・9	1c・3a			口：丁寧なヨコナデ 胴：丁寧なタテ・ヨコナデ	口：丁寧なヨコナデ 胴：ヨコ・ナナメナデ	オリーブ黒(5Y3/2)	褐(10YR4/6)	○	△	－	△	△	○	復元口径41.6cm
50	219	5672他2点	B-9	1c・3a			丁寧なヨコ・ナナメナデ	丁寧なヨコ・ナナメナデ	黄褐(2.5Y5/4)	明黄褐(10YR6/6)	○	△	○	△	－	△	スス付着 復元口径20.8cm
	220	一括	B-6	SD1			丁寧なナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	○	○	○	△	○	－	
	221	一括	B-6	SD1			丁寧なナデ	ヨコナデ	灰黄褐(10YR4/2)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	○	－	－	－	－	
	222	5655他1点	B-9	3a			丁寧なヨコ・ナナメナデ	ナナメ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい褐(7.5YR5/3)	○	△	－	○	－	○	
	223	一括	B-7	SD1			丁寧なナデ	ヨコ・ナナメナデ	灰黄褐(10YR4/2)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	－	－	－	△	○	
	224	一括	B-5	SD1			丁寧なナデ	ナナメナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	明赤褐(5yr5/6)	○	△	－	○	－	－	
	225	8753	B-8	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコナデ	黄灰(2.5Y4/1)	にぶい橙(7.5YR6/4)	○	－	○	△	－	－	
	226	5883	A-9	3a			丁寧なナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	明赤褐(5yr5/6)	○	－	○	△	－	○	
	227	一括	表採	－			丁寧なナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	明赤褐(5yr5/6)	灰黄褐(10YR4/2)	○	－	－	－	－	－	
	228	6797	B-10	1c			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコケズリ	灰黄褐(10YR5/2)	橙(7.5YR6/6)	○	－	○	○	－	－	
51	229	6818	B-10	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ナデ	にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	○	△	－	－	－	－	
	230	90	B-6	3a			ナナメナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	橙(7.5YR6/6)	△	－	－	－	△	－	
	231	一括	B-7	SD1			ナデ	ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/3)	△	－	－	－	－	－	
	232	一括	表採	－			ナナメナデ	ヨコナデ	橙(7.5YR6/6)	黒褐(2.5Y3/2)	△	－	○	－	○	－	
	233	一括	B-7	SD1			丁寧なナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	オリーブ黒(5Y3/1)	△	△	○	△	○	－	
	234	一括	B-10	造成			ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	橙(7.5YR6/6)	△	△	－	－	－	－	
	235	6775他1点	B-10	3a			丁寧なナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	暗灰黄(2.5Y5/2)	△	－	○	－	－	－	
	236	一括	表採	－			ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい褐(7.5YR5/4)	○	△	－	△	△	△	
	237	8441	B-10	3a			丁寧なナデ	ヨコナデ	にぶい褐(7.5YR5/3)	橙(7.5YR6/6)	△	－	－	－	－	－	
	238	5569他1点	B-8	1c			ヨコ・ナナメナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	－	○	－	－	－	
	239	5718他1点	B-9	1c・3a			ヨコ・ナナメナデ	ナナメ貝殻条痕後ナナメナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	明褐(7.5YR5/6)	○	－	－	○	○	－	

第６表　土器観察表（６）

挿図	報告No.	取上No.	区	層	分類	型式	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石／長	胎土 輝／角	胎土 雲母	胎土 火ガ	胎土 風礫	胎土 く礫	備考
52	240	5538	B-8	1c	13	市来	ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい黄褐(10YR4/3)	△	○	－	－	－	－	
	241	920	B-8	3a			ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(5YR6/6)	○	△	－	△	－	○	
	242	一括	B-7	SD1			ヨコナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	灰黄褐(10YR5/2)	○	－	○	－	－	－	
	243	5441	B-8	3a			ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	浅黄(2.5Y7/3)	○	△	－	○	－	－	
	244	9333	B-10	3a			ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	黄褐(2.5Y5/3)	○	○	－	○	－	－	
	245	17520	B-10	3a			ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	○	△	－	△	－	－	
	246	一括	B-6	SD1			ヨコナデ	ナデ	橙(2.5YR7/6)	橙(2.5YR7/6)	○	－	－	○	－	－	
	247	12902	B-10	3a			ナデ	ナデ	褐(7.5YR4/3)	黒褐(2.5Y3/1)	○	△	－	△	－	－	
	248	5552	B-8	1c			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい褐(7.5YR5/3)	橙(5YR6/6)	○	△	－	○	－	－	
	249	6897他1点	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(5YR6/6)	○	○	－	○	－	－	
	250	15724	B-10	3b			ヨコナデ	ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	浅黄(2.5y7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	－	－	－	－	△	
	251	6958	B-9	3a			ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	○	○	○	△	－	－	
	252	6346	B-7	3a			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄褐(10YR4/3)	橙(7.5YR6/6)	○	○	－	△	○	－	
	253	12258他1点	B-10	3a			ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	○	○	－	－	－	－	
	254	14492	B-8	3a			ヨコナデ	ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	暗オリーブ褐(2.5Y3/3)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	○	－	－	－	－	復元口径20.0cm
	255	5420他2点	B-8	3a			ヨコ・ナナメナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	灰(5Y4/1)	△	－	－	－	○	△	復元口径20.0cm
53	256	一括	B-7	SD1			ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	橙(5YR6/6)	赤褐(5YR4/8)	○	△	－	△	－	－	
	257	18244	B-8	3a	14	丸尾	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	○	○	－	－	－	○	
	258	5721	B-9	1c			ヨコナデ	丁寧なナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	橙(7.5YR6/6)	○	△	○	－	○	－	
	259	16093	B-8	3a			ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい黄褐(10YR5/3)	○	△	－	○	○	－	
	260	7455	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコ・ナナメナデ	にぶい褐(7.5YR5/3)	灰黄褐(10YR4/2)	△	△	－	－	○	○	
	261	2061	A-8	3a			ナデ	ナデ	灰褐(7.5YR4/2)	灰黄褐(10YR4/2)	○	○	－	－	△	○	
	262	16535	B-8	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい赤褐色(2.5YR4/4)	明赤褐(2.5YR5/6)	○	△	－	○	○	－	
	263	一括	表採	－	15	納曽	ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	橙(5YR6/6)	○	－	－	－	－	－	
	264	7509	B-8	3a			ナデ	ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	明褐(7.5YR5/6)	○	－	△	－	△	－	
	265	6566	B-8	3a			ナデ	ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	橙(5YR6/6)	○	○	－	－	－	－	
	266	3863	A-10	3a			ナデ	ヨコナデ	浅黄(2.5y7/4)	浅黄(2.5y7/4)	－	－	－	－	○	－	
	267	一括	B-12・14	1			丁寧なナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	－	－	－	－	○	－	
	268	3217	B-8	3b			ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	明黄褐(10YR6/6)	○	△	－	○	－	－	
	269	4002	B-9	3a			ナデ	ナデ	にぶい橙(7.5YR7/3)	橙(5YR6/6)	○	△	－	○	－	－	
	270	一括	B-7	SD1			ナデ	ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	にぶい黄(2.5Y6/4)	△	○	－	－	△	－	
	271	9549	B-8	3a			ナデ	ヨコ貝殻条痕	橙(7.5YR6/6)	明赤褐(5yr5/6)	△	△	－	－	－	－	
	272	16752	B-10	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	褐(7.5YR4/4)	暗灰黄(2.5Y4/2)	○	○	－	○	△	△	
54	273	4026	B-9	3a			ナデ	ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	褐(7.5YR4/4)	○	○	－	－	－	－	
	274	一括	B-9	3a			ナナメナデ	ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	灰黄褐(10YR5/2)	○	－	－	－	○	－	
	275	15681	B-10	3a			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	明赤褐(2.5YR5/6)	明褐(7.5YR5/6)	○	△	－	△	－	－	
	276	8464	B-10	3a			ナデ	ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい褐(7.5YR5/4)	○	－	－	－	△	△	
	277	887	B-8	3a	16	中岳Ⅱ	ヨコナデ	丁寧なヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	○	○	－	○	○	－	
	278	一括	B-6	1			丁寧なナデ	丁寧なナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい褐(7.5YR5/4)	△	－	○	－	△	－	
	279	7274	B-10	3a			丁寧なヨコナデ	丁寧なヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	暗灰黄(2.5Y5/2)	－	－	－	－	○	－	スス付着
	280	一括	B-6	SD1			丁寧なナデ	ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	にぶい黄褐(10YR5/3)	○	○	－	－	－	－	
	281	11645	B-9	3a			ミガキ・丁寧なヨコナデ	丁寧なヨコナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	△	○	－	－	－	△	
	282	7566	B-8	3a			ナデ	ヨコ貝殻条痕	黒(5Y2/1)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	△	－	－	△	△	
	283	54	B-8	3a			ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	○	△	－	○	－	－	
	284	7533	B-8	3a			丁寧なナデ	丁寧なナデ	灰黄褐(10YR4/2)	橙(7.5YR6/6)	－	△	－	－	－	△	
	285	9471	B-9	3a			丁寧なヨコナデ	丁寧なナデ	灰黄褐(10YR5/2)	明赤褐(5yr5/6)	○	－	○	○	△	－	
	286	5589	B-8	1c			ナデ	ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	橙(5YR6/6)	△	△	－	△	－	△	
	287	9281	B-10	3a			丁寧なナデ	ヨコナデ	黒褐(10YR3/1)	にぶい赤褐(5YR5/3)	○	△	－	△	－	○	
	288	17709	B-8	3a			丁寧なヨコナデ	ナナメ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ	黒(2.5Y2/1)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	－	－	－	－	－	スス付着
	289	6787	B-10	3a			胴：丁寧なヨコナデ　　底：未調整	丁寧なヨコナデ	にぶい黄(2.5Y6/3)	橙(7.5YR6/6)	○	△	○	△	－	△	
	290	9553	B-8	3a			丁寧なナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	灰黄褐(10YR4/2)	○	△	－	○	－	－	
	291	6745他4点	B-10	3a			ミガキ	丁寧なナデ	にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	○	－	－	○	－	－	
55	292	2946	A-8	3b	17	縄文後期型式不明	ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	暗褐(10YR3/4)	暗灰黄(2.5Y4/2)	△	△	－	－	○	－	
	293	17397	B-8	3a			ナデ	ヨコナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	暗灰黄(2.5Y5/2)	△	△	－	△	△	○	
	294	6470	B-8	3a			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	浅黄(2.5y7/4)	浅黄(2.5y7/4)	△	△	－	－	△	△	
	295	5902	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	浅黄(2.5y7/4)	にぶい黄(2.5Y6/4)	○	－	△	△	○	△	
	296	10438	B-9	3a			ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR4/3)	にぶい褐(7.5YR5/4)	○	△	○	△	△	－	
	297	13207	B-9	3a			ナデ	ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	にぶい黄橙(10YR6/3)	△	－	－	－	－	－	
	298	9641	B-7	1c			ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	○	△	－	○	○	△	
	299	4689	B-9	3a			ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	△	－	－	－	△	－	
	300	4321	A-9	3a			ナデ	ヨコナデ	黒褐(2.5Y3/1)	浅黄(2.5Y7/3)	△	－	－	－	－	－	

第７表　土器観察表（６）

挿図	報告No.	取上No.	区	層	分類	型式	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石／長	胎土 輝／角	胎土 雲母	胎土 火ガ	胎土 風礫	胎土 く礫	備考
55	301	一括	B-7	SD1	18	磨消縄文	縄文	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい褐(7.5YR5/3)	明褐(7.5YR5/6)	○	－	－	△	－	－	
	302	一括	B-7	SD1			縄文	丁寧なナデ	褐(7.5YR4/3)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	－	－	－	○	－	
	303	一括	B-6	SD1			縄文	ナナメナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	橙(7.5YR6/6)	○	○	－	－	－	○	
	304	18915	B-9	3a			縄文	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	橙(7.5YR6/6)	○	－	○	○	○	－	
	305	一括	B-12・14	1			縄文	ナデ	にぶい黄褐(10YR4/3)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	△	－	－	○	－	
	306	5938	A-9	3a	19	縄文後期粗製土器	ヨコ貝殻条痕後ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/3)	△	△	－	－	－	－	
	307	18055	B-8	3a			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	△	－	－	－	－	
	308	6456	B-8	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕	黒褐(2.5Y3/1)	にぶい黄橙(10YR6/3)	△	△	－	－	○	－	
	309	1474	B-7	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	タテ・ヨコ貝殻条痕後ナナメナデ	黄灰(2.5Y4/1)	黄灰(2.5Y4/1)	○	－	－	－	－	－	
	310	6354	B-7	3a			ヨコナデ	ナデ	灰(5Y4/1)	にぶい黄橙(10YR6/4)	○	△	－	○	△	－	
56	311	17790	B-8	3a			タテ・ヨコ貝殻条痕後ナデ	ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	黄灰(2.5Y4/1)	△	－	－	－	△	－	
	312	2093	A-8	3a			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	橙(7.5YR6/6)	△	－	－	－	△	－	
	313	17442	C-3	3a			ナデ	ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	オリーブ黒(5Y3/1)	△	－	－	－	△	－	
	314	5430	B-8	1c			ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	黄灰(2.5Y4/1)	△	－	－	△	－	－	
	315	12147	A-11	3a			ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	－	－	－	△	－	
	316	9680	B-10	3a			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ・ナナメナデ	灰黄褐(10YR4/2)	灰黄褐(10YR4/2)	－	－	－	－	○	－	
	317	18688	B-8	3b			ナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	明褐(7.5YR5/6)	△	○	－	－	－	－	復元口径28.4cm
	318	一括	B-10	造成			ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	○	△	－	△	－	－	復元口径33.8cm
	319	12040	A-11	3a			ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	橙(5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	○	－	－	△	△	－	
	320	4156	A-10	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	△	－	－	－	－	
	321	11936	B-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	黒褐(2.5Y3/1)	暗灰黄(2.5Y4/2)	△	－	－	○	△	○	
	322	4094	A-9	3a			ヨコ貝殻条痕後ナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	明黄褐(10YR6/6)	－	－	－	－	△	－	
	323	14447	B-8	3a			ヨコナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5y7/4)	△	△	－	－	－	－	
	324	12623	B-9	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	－	－	－	－	△	
57	325	8651	B-9	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	暗灰黄(2.5Y4/2)	○	△	－	○	△	－	
	326	一括	B-8	1	20	刻目突帯文	丁寧なナデ	丁寧なナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	にぶい黄橙(10YR6/3)	○	○	－	△	－	－	
	327	5138	C-7	1c			ナデ	ナデ	にぶい橙(5YR6/4)	にぶい褐(7.5YR6/3)	○	△	－	○	－	－	
	328	5624他1点	B-9	3a			ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐(7.5YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	△	－	－	－	－	－	
	329	一括	B-7	1			ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄褐(10YR5/2)	浅黄(2.5Y7/3)	△	△	－	－	－	－	
	330	5709	B-9	1c			ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	橙(5YR6/6)	○	○	－	○	－	－	
	331	10737	B-8	3a			ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄褐(10YR6/2)	にぶい黄橙(10YR7/3)	○	○	－	○	○	○	
	332	一括	B-7	1			ヨコナデ	ヨコナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	にぶい黄(2.5Y6/3)	△	△	－	－	○	－	
	333	1659他2点	B-8	2b			胴：丁寧なナデ　　底：組織痕	丁寧なナデ	褐灰(10YR4/1)	暗灰黄(2.5Y5/2)	○	○	－	－	－	－	
58	334	15498	B-9	3a	21	型式不明	タテ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	タテ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	浅黄(2.5y7/4)	浅黄(2.5y7/4)	△	△	－	－	－	△	スス付着
	335	6176	B-8	3a			ナデ	ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	△	○	－	－	－	－	
	336	16932	B-9	3a			ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	オリーブ褐(2.5Y4/3)	△	△	－	－	－	－	
	337	2408	A-8	3a			タテ・ナナメ貝殻条痕	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	にぶい褐(7.5Y5/4)	○	－	－	－	－	△	
	338	3120	B-7	3b			ナデ	ナデ	明赤褐(5yr5/6)	明赤褐(5yr5/6)	△	－	－	△	○	－	
	339	18679	B-8	3a			ヨコナデ	ヨコナデ	灰(5Y4/1)	にぶい黄褐(10YR5/3)	○	△	－	－	－	－	
	340	15226	B-10	3a			ナデ	ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	灰オリーブ(5Y4/2)	△	△	－	△	－	－	
	341	一括	B-6	SD1			ナデ	タテ・ヨコ貝殻条痕後ナデ	橙(7.5YR6/6)	黒褐(2.5Y3/1)	○	○	－	○	－	－	
	342	2324	A-8	3a			ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	○	－	－	△	－	－	
	343	9217	C-7	3a			タテ貝殻条痕後ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	褐(7.5YR4/3)	○	○	－	－	○	－	
	344	4733	B-9	3a			ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	明赤褐(5yr5/6)	△	－	－	－	○	△	
	345	14662	B-9	3a			タテ貝殻条痕	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	暗灰黄(2.5Y4/2)	○	△	－	△	△	－	
	346	12977	B-10	3a			ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	にぶい黄(2.5Y6/3)	○	－	－	△	△	○	
	347	207	B-5	3a			タテ・ヨコ貝殻条痕	ナデ	にぶい黄(2.5Y6/3)	オリーブ黒(5Y3/2)	△	－	－	－	△	－	
	348	17432	C-7	3b			ヨコ貝殻条痕	ヨコ貝殻条痕後ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	灰オリーブ(5Y4/2)	○	△	－	△	－	－	
	349	9624他1点	B-7・9	3a			ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	暗オリーブ褐(2.5Y3/3)	○	－	－	○	－	－	
	350	16472	B-10	3b			ナデ	タテ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	△	－	－	－	－	
59	351	1579	A-7	3a	21	型式不明	ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	にぶい黄橙(10YR6/3)	△	○	－	－	－	－	
	352	13731	B-9	3a			ナデ	ナナメナデ	オリーブ黒(5Y3/1)	にぶい黄(2.5Y6/4)	○	△	－	○	△	△	
	353	8037	B-7	3a			ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄褐(10YR5/4)	－	－	－	－	△	－	
	354	5665	B-9	1c			縄文	丁寧なナデ	褐(10YR4/6)	暗灰黄(2.5Y4/2)	○	○	－	○	－	－	
	355	17570	B-9	3a			貝殻条痕後ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	○	－	△	－	－	
	356	7026	B-9	3a			ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄褐(10YR4/3)	橙(7.5YR6/6)	△	○	－	－	－	－	
	357	16294	B-9	3a			ケズリ後ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	灰(5Y4/1)	にぶい黄(2.5Y6/3)	△	△	－	△	－	－	
	358	5673	B-9	3a			ヨコナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	にぶい黄褐(10YR5/3)	○	－	△	－	○	○	
	359	1785	A-8	3a			ナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	○	○	－	○	－	－	
	360	11727	B-7	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	暗灰黄(2.5Y4/2)	○	○	－	○	△	－	

第８表　土器観察表（７）

挿図	報告No.	取上No.	区	層	分類	型式	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石／長	胎土 輝／角	胎土 雲母	胎土 火ガ	胎土 風礫	胎土 く礫	備考
60	361	2930	A-8	3b	22	縄文中後期粗製土器	ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	灰オリーブ(5Y5/2)	にぶい黄褐(10YR5/4)	△	△	－	△	○	－	復元口径22.6cm
	362	13402	B-8	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	にぶい黄橙(10YR6/3)	○	○	－	○	－	－	
	363	13988他2点	B-10	3a			タテ・ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	黄灰(2.5Y4/1)	△	－	－	－	△	－	
	364	12361	B-9	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	橙(5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	○	△	－	△	△	－	
	365	3605	B-9	3a			タテ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	浅黄(2.5Y7/3)	明褐(7.5YR5/8)	△	－	－	△	－	－	
61	366	9818	A-9	3b			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	にぶい黄褐(10YR4/3)	橙(7.5YR6/6)	○	△	－	－	○	－	
	367	18188	B-10	3a			タテ・ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	浅黄(2.5y7/4)	△	－	－	－	△	－	
	368	10875	B-9	3a			タテ・ナナメナデ	ヨコ貝殻条痕	黄褐(2.5Y5/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	－	－	△	△	－	
	369	2746	A・B-8	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕	丁寧なヨコ・ナナメナデ	黒褐(10YR3/1)	黄灰(2.5Y5/1)	△	－	－	－	△	－	
62	370	13841	B-10	3a			貝殻条痕後ナナメナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕	にぶい黄褐(10YR4/3)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	－	－	－	△	－	
	371	11371	B-10	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/8)	にぶい黄橙(10YR6/4)	○	○	－	△	△	－	復元底径11.4cm
	372	11900	B-9	3a			胴：タテ・ナナメ貝殻条痕後ナデ 底：ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ	黄灰(2.5Y4/1)	にぶい橙(7.5YR6/4)	○	△	－	○	○	－	底径8.6cm
63	373	11138他2点	A・B-8・9	3a・3b			胴：ナナメナデ　　底：ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	明赤褐(5YR5/8)	にぶい黄褐(10YR5/4)	△	－	－	－	○	－	底径5.6cm
	374	15137	B-10	3a			胴：タテ・ヨコ貝殻条痕後ナデ 底：ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	明赤褐(5YR5/8)	黄褐(10YR5/8)	△	－	－	△	－	－	復元底径12.6cm
	375	9958他2点	B-9	3a			ナナメナデ	ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ	黄褐(10YR5/8)	暗赤褐(2.5YR3/2)	△	－	－	－	－	－	底径9.0cm
	376	10247	B-10	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	暗灰黄(2.5Y5/2)	○	○	－	○	△	△	
64	377	14267	B-9	3a			ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	黄褐(10YR5/8)	オリーブ褐(2.5Y4/4)	△	－	－	－	△	－	復元底径8.8cm
	378	12635	B-9	3a			ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	橙(7.5YR6/6)	黄褐(2.5Y5/3)	△	－	－	－	△	△	底径8.8cm
	379	5447他6点	B-8	1c・3a			胴：ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ 底：ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄(2.5Y6/4)	黄褐(10YR5/6)	△	－	－	－	△	○	底径10.4cm
65	380	12625	B-9	3a			胴：ナナメ貝殻条痕後ナデ 底：ナデ	ヨコ貝殻条痕	にぶい黄褐(10YR5/4)	明黄褐(10YR7/6)	△	－	－	－	○	△	底径8.6cm
	381	13827他7点	B-9・10	3a			胴：ナナメ貝殻条痕後ナデ 底：ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕	褐(7.5YR4/4)	暗灰黄(2.5Y4/2)	○	－	－	○	－	－	底径6.4cm
66	382	1236	B-5	3a	23a	底部	胴：タテ貝殻条痕後ヨコ・ナナメナデ 底：丁寧なナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	明赤褐(5yr5/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	－	－	－	－	－	底径8.0cm
	383	13771	B-9	3a			胴：ナナメナデ　　底：ナデ	丁寧なナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	灰オリーブ(5Y5/2)	△	－	－	－	－	－	底径9.8cm
	384	16755	B-10	3a			胴：ナデ　　底：ナデ	ナナメ貝殻条痕	にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	○	△	－	○	－	－	底径9.8cm
	385	7186	A-10	3a			胴：ヨコナデ　　底：ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	△	－	－	－	－	底径9.0cm
	386	18190	B-10	3b			胴：ナデ　　底：ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	黒(5Y2/1)	△	－	－	△	－	－	底径8.0cm
	387	5694	B-9	3a			胴：ナナメ貝殻条痕後ナデ 底：貝殻条痕後ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	明褐(7.5YR5/6)	黄褐(2.5Y5/3)	△	－	－	－	△	－	底径9.0cm
	388	8752	B-8	3a			胴：丁寧なナデ　　底：丁寧なナデ	丁寧なナデ	明赤褐(5yr5/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	－	－	－	△	－	底径9.2cm
	389	7340	B-9	3a			胴：タテ貝殻条痕後ナデ 底：丁寧なナデ	ナデ	明赤褐(5yr5/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	－	－	－	－	－	復元底径5.6cm
	390	17266	B-10	3b			胴：タテ貝殻条痕後ナデ 底：丁寧なナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	△	△	－	－	－	－	底径11.0cm
	391	14349	B-9	3a			胴：ナデ　　底：ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナナメナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	△	－	－	－	－	△	底径9.4cm
67	392	4663	B-9	3a			胴：ヨコナデ　　底：ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	－	－	－	○	－	底径10.0cm
	393	15231	B-11	3a			胴：ヨコ・ナナメナデ　　底：ナデ	ナナメナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	暗灰黄(2.5Y5/2)	△	－	－	△	－	－	底径6.6cm
	394	11767	B-10	3a			胴：タテ貝殻条痕後ナデ　　底：ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	灰オリーブ(5Y6/2)	△	－	－	△	－	－	復元底径9.6cm
	395	13236	B-9	3a			胴：ナデ　　底：ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	橙(7.5YR6/6)	オリーブ黒(5Y3/1)	○	－	－	○	○	－	復元底径10.0cm
	396	1484	B-6	3a			胴：ナデ　　底：ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕	明赤褐(5yr5/6)	にぶい褐(7.5YR5/4)	△	－	－	－	－	△	復元底径9.4cm
	397	17339	B-8	3a	23b		ナデ	ナデ	浅黄(2.5y7/4)	暗灰黄(2.5Y5/2)	△	△	－	－	－	－	底径5.6cm
	398	8126	B-9	3a			ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	○	△	－	△	－	－	底径6.4cm
	399	14705	B-9	3a			丁寧なナデ	貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	浅黄(2.5Y7/3)	△	△	－	－	△	－	底径7.8cm
	400	18345他1点	B-9	3a	23a		胴：ナナメ貝殻条痕後ナデ 底：丁寧なナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	黄褐(2.5Y5/3)	○	○	－	－	△	－	復元底径8.6cm
	401	12191	B-10	3a	23b		胴：タテ貝殻条痕後ナデ 底：ナデ	丁寧なナデ	灰白(5Y8/1)	にぶい黄(2.5Y6/3)	△	－	－	－	△	－	復元底径11.4cm
68	402	9683	B-10	3a			胴：ヨコ・ナナメナデ　　底：ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	浅黄(2.5Y7/3)	△	－	－	－	△	－	底径9.4cm
	403	12032	A-11	3a			胴：ナナメ貝殻条痕後ナデ 底：貝殻条痕後ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	－	－	△	－	－	底径8.2cm
	404	5686	B-9	3a			胴：ナデ　　底：ナデ	丁寧なナデ	橙(5YR6/6)	にぶい橙(7.5YR6/4)	△	－	－	△	－	△	底径7.8cm
	405	11328	B-10	3a			胴：丁寧なナデ　　底：丁寧なナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	浅黄(2.5y7/4)	△	－	－	－	－	－	底径10.4cm
	406	3474	B-10	3a			胴：ヨコ貝殻条痕後ヨコナデ 底：ナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい黄(2.5Y6/3)	○	－	－	－	－	－	復元底径10.0cm
	407	18148	B-9	3a			胴：ナデ　　底：貝殻条痕後ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/3)	△	－	－	－	○	△	底径10.0cm
	408	12580	B-9	3a			丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい黄褐(10YR5/4)	オリーブ黒(5Y3/1)	△	△	－	△	－	－	底径8.8cm
	409	13222	B-9	3a			胴：ヨコ貝殻条痕後ナデ　　底：ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	浅黄(2.5Y7/3)	△	○	－	－	－	－	復元底径7.8cm
69	410	18854	B-9	3a			胴：ナデ　　底：ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	－	△	－	－	底径7.8cm
	411	10489	A-11	3a			胴：ヨコ・ナナメナデ　　底：ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	浅黄(2.5y7/4)	△	－	－	△	－	－	底径8.8cm
	412	13050	B-10	3a			胴：ナナメ貝殻条痕後ナデ 底：ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	橙(7.5YR6/6)	灰(5Y4/1)	△	△	－	－	－	－	復元底径9.8cm
	413	15670	B-10	3a			ナデ	貝殻条痕後ナデ	浅黄(2.5Y7/3)	オリーブ黄(5Y6/3)	△	－	－	－	△	－	底径9.4cm
	414	5460	B-8	1c			胴：ヨコナデ　　底：貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	黄灰(2.5Y4/1)	△	○	－	－	－	－	底径8.8cm
	415	10301	B-9	3a			胴：ナナメ貝殻条痕後ナデ 底：丁寧なナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	灰黄褐(10YR5/2)	○	－	－	○	△	－	復元底径10.4cm
	416	14174	B-9	3a			ナデ	ナデ	にぶい黄(2.5Y6/4)	にぶい黄褐(10YR5/4)	△	△	－	－	△	－	底径8.0cm
	417	3572	B-10	3a			胴：タテ貝殻条痕後ナデ 底：ナデ	丁寧なナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	浅黄(2.5y7/4)	○	△	－	△	－	－	復元底径11.6cm

第９表　土器観察表（８）

挿図	報告No.	取上No.	区	層	分類	型式	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石/長	胎土 輝/角	胎土 雲母	胎土 火ガ	胎土 風礫	胎土 く礫	備考
69	418	12140	A-11	3a	23b	底部	胴：タテ貝殻条痕後ヨコナデ 底：ナデ	ヨコ・ナナメナデ	橙(5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR6/4)	△	－	－	－	－	－	復元底径9.4cm
70	419	13986	B-10	3a			胴：ナデ　　底：ナデ	ナナメ貝殻条痕	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄(2.5Y6/3)	○	△	－	△	－	－	復元底径8.8cm
	420	7373	B-9	3a			ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	灰(5Y4/1)	△	－	－	－	△	－	底径10.0cm
	421	2603他2点	A-7	3a・3b			胴：ナナメ貝殻条痕後ナデ 底：貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	△	△	－	－	△	△	復元底径14.6cm
	422	11655	B-9	3a			胴：ナデ　　底：ナデ	貝殻条痕後ナデ	橙(7.5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	－	－	－	－	底径7.0cm
	423	9931	B-9	3a			ナデ	貝殻条痕後ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	－	－	－	－	底径6.8cm
	424	18275	B-8	3a	23c		胴：ナデ　　底：貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄(2.5Y7/3)	△	△	－	△	－	－	底径8.4cm
	425	1204	B-7	3b			胴：ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ 底：ナデ	ヨコ・ナナメ貝殻条痕	褐(7.5YR4/3)	にぶい黄(2.5Y6/3)	△	－	－	－	－	－	底径9.0cm
	426	5317	B-8	1c			胴：ナデ　　底：ナデ	貝殻条痕後ナデ	暗灰黄(2.5Y4/2)	灰オリーブ(5Y5/2)	△	－	－	－	△	△	復元底径6.0cm
	427	9692	B-10	3a			胴：ナナメナデ　　底：ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	明赤褐(5yr5/6)	橙(5YR6/6)	△	－	－	△	－	－	復元底径9.6cm
	428	15181	B-10	3a			ナデ	ナデ	浅黄(2.5Y7/3)	明褐(7.5YR5/6)	△	△	－	－	－	－	底径8.0cm
	429	8228	A-9	3a			貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	灰オリーブ(5Y6/2)	灰オリーブ(5Y4/2)	△	△	－	－	－	△	白色物質付着 復元底径6.0cm
	430	18521	C-7	SK10-			貝殻条痕後ナデ	磨耗により不明	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR6/3)	○	○	－	△	－	－	底径7.0cm
71	431	16672	B-9	3a			胴：ナナメ貝殻条痕後ナデ 底：貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	暗灰黄(2.5Y5/2)	△	－	－	－	－	－	底径7.8cm
	432	13357	B-8	3a			胴：ナデ　　底：ナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい褐(7.5YR5/4)	灰(5Y4/1)	○	△	－	△	○	△	底径7.2cm
	433	5630	B-9	3a			丁寧なナデ	貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	灰オリーブ(5Y5/2)	○	○	－	－	－	－	復元底径8.0cm
	434	10049	B-9	3a			胴：タテ貝殻条痕後ナデ 底：貝殻条痕後ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	灰(5Y4/1)	○	○	－	○	△	○	復元底径3.6cm
	435	12595	B-9	3a			貝殻条痕後ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR4/3)	にぶい黄褐(10YR5/3)	△	○	－	－	－	－	白色物質付着 復元底径8.4cm
	436	17025	B-9	3a			ナデ	ナデ	橙(7.5YR6/6)	黒(7.5YR2/1)	○	△	－	○	○	○	底径6.0cm
	437	6779	B-10	3a	23d		組織痕	ナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	橙(7.5YR6/6)	○	△	－	○	－	△	底径7.6cm
	438	5571他2点	B-8	1c・3a			胴：ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ヨコナデ 底：組織痕	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	橙(7.5YR6/8)	○	－	－	○	－	－	底径8.8cm
	439	6567	B-8	3a			胴：ヨコナデ 底：組織痕	ナデ	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	○	△	－	○	△	－	復元底径10.8cm
	440	146	A-7	3a			組織痕	磨耗により不明	にぶい黄橙(10YR6/3)	橙(7.5YR6/6)	○	－	○	△	△	－	復元底径8.8cm
	441	6332	B-7	3a			組織痕	ナデ	浅黄(2.5Y7/3)	浅黄(2.5y7/4)	○	－	－	○	－	－	復元底径10.0cm
	442	12364	B-9	3a			胴：ナデ　　底：組織痕	ナデ	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	○	△	－	△	－	△	復元底径12.8cm
	443	5717	B-9	3a			胴：ナデ　　底：組織痕	ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(7.5YR6/4)	○	－	－	○	－	－	底径10.8cm
72	444	5613	B-9	3a			胴：ナデ　　底：組織痕	ナデ	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	△	○	－	－	△	－	復元底径8.0cm
	445	9271	B-10	3a			組織痕	ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	橙(7.5YR6/6)	△	△	－	－	－	－	復元底径8.4cm
	446	9495	B-8	1c			組織痕	ナデ	橙(7.5YR7/6)	橙(5YR6/6)	○	○	－	△	－	－	復元底径6.8cm
89	548	一括	B-13	1	－	成川式	ナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	○	○	－	△	○	○	
	549	一括	A-6	1a	－	成川式	ナデ	ナデ	橙(5YR6/6)	浅黄橙(10YR8/4)	○	○	－	△	○	○	

第10表　円盤状土製加工品観察表

挿図	報告No.	取上No.	区	層	法量 長径(cm)	法量 短径(cm)	法量 重量(g)	調整 外面	調整 内面	色調 外面	色調 内面	胎土 石/長	胎土 輝/角	胎土 雲母	胎土 火ガ	胎土 風礫	胎土 く礫	備考
72	447	14230	B-9	3a	3.5	3.0	8.1	ヨコナデ	ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	暗灰黄(2.5Y4/2)	○	○	－	△	－	－	側面打欠
	448	12362	B-9	3a	5.7	4.3	31.6	ナデ	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	浅黄(2.5Y7/3)	△	○	－	－	△	－	側面打欠
	449	一括	A-7	SD1	4.4	4.2	23.5	ナナメ貝殻条痕後ナナメナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	橙(7.5YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	△	△	－	○	－	－	側面打欠
	450	12443	B-8	3a	5.8	5.1	38.2	ヨコ・ナナメナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	灰黄褐(10YR4/2)	褐(7.5YR4/4)	○	△	－	○	－	○	側面打欠
	451	5943	B-9	3a	6.4	4.9	41.0	ナデ	ナデ	黒(5YR1.7/1)	橙(5YR6/6)	○	△	－	○	△	－	側面打欠
	452	598	A-8	3a	6.1	4.5	31.8	ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい赤褐(5yr5/4)	暗灰黄(2.5Y5/2)	△	－	－	－	△	－	側面打欠
	453	5167	C-7	3a	4.7	4.2	20.3	ヨコ・ナナメ貝殻条痕後ナデ	ナデ	オリーブ黒(5Y3/2)	にぶい黄(2.5Y6/3)	○	△	－	○	－	－	側面打欠
	454	一括	B-7	1	7.1	6.2	53.4	ナデ	ヨコ貝殻条痕後ナデ	黄褐(2.5Y5/3)	オリーブ黒(5Y2/2)	○	－	○	－	○	－	側面打欠
	455	89	B-6	3a	5.5	5.1	32.8	ナナメ貝殻条痕後ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい褐(7.5YR5/3)	△	－	－	－	△	△	側面打欠
	456	9658	B-10	3a	4.1	3.8	16.8	ヨコ貝殻条痕後ナデ	ナナメ貝殻条痕後ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	黄褐(2.5Y5/3)	○	－	－	○	△	○	側面打欠
	457	一括	B-11	3a	4.3	3.8	18.3	ヨコ・ナナメ貝殻条痕	ナナメ貝殻条痕	暗褐(10YR3/3)	にぶい褐(7.5YR5/4)	○	△	－	△	－	－	側面打欠
	458	一括	表採	－	5.2	4.8	22.1	ナデ	ナデ	オリーブ黒(5Y3/2)	にぶい黄橙(10YR6/4)	○	－	－	－	－	－	側面打欠
	459	379	B-6	3a	5.5	4.3	26.2	ナナメ貝殻条痕	ナナメ貝殻条痕後ナデ	黒褐(10YR3/1)	にぶい赤褐(5yr5/4)	○	○	－	○	－	△	側面打欠

（凡例）
本報告書の観察表で用いている胎土中の鉱物・岩片の種類は以下のとおりである。
「石/長」：石英・長石類で、透明・白色不透明を呈するもの。
「角/輝」：角閃石・輝石類で、黒色を呈し、柱状のもの。
「雲母」：金色を呈する雲母で、薄い層状のもの。
「火ガ」：火山ガラスで、黒色や透明、半透明を呈し、泡がはじけたようなもの。
「風礫」：風化礫で、白色を呈して小礫状のもの。
「く礫」：くされ礫で、赤～赤褐色を呈する小礫状のもの。

第11表　石器観察表（１）

挿図	報告No.	取上No.	区	層	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
79	460	972	B-7	Ⅲa	打製石鏃　1a類	黒曜石1類	1.07	1.22	0.33	0.37
	461	10477	B-7	Ⅲa	打製石鏃　1a類	玻璃質安山岩	1.10	1.20	0.35	0.29
	462	1980	A-8	Ⅲa	打製石鏃　1a類	黒曜石2類	1.23	1.03	0.26	0.23
	463	2449	A-7	Ⅲb	打製石鏃　1b類	黒曜石1類	0.97	0.90	0.23	0.12
	464	1804	A-7	Ⅲa	打製石鏃　1b類	黒曜石1類	0.88	0.88	0.22	0.12
	465	11046	B-8	Ⅲb	打製石鏃　1b類	黒曜石1類	0.95	1.10	0.25	0.14
	466	2384	A-7	Ⅲa	打製石鏃　1b類	黒曜石1類	1.01	1.21	0.20	0.15
	467	5198	C-7	Ⅲa	打製石鏃　1b類	玻璃質安山岩	1.07	1.13	0.27	0.20
	468	946	A-7	Ⅲb	打製石鏃　1b類	玻璃質安山岩	1.30	1.35	0.20	0.28
	469	10480	B-7	Ⅰc	打製石鏃　1b類	玻璃質安山岩	1.50	1.40	0.30	0.35
	470	1190	A-7	Ⅲa	打製石鏃　2類	玻璃質安山岩	1.47	1.12	0.36	0.46
	471	17662	B-11	Ⅲb	打製石鏃　2類	玻璃質安山岩	2.45	1.50	0.35	1.18
	472	12050	B-11	Ⅲa	打製石鏃　3類	玻璃質安山岩	1.60	1.30	0.33	0.52
	473	8263	A-11	Ⅲa	打製石鏃　3類	黒曜石1類	1.60	1.25	0.45	0.56
	474	16667	B-9	Ⅲa	打製石鏃　3類	黒曜石5類	1.75	1.60	0.30	0.34
	475	7300	B-10	Ⅲa	打製石鏃　3類	黒曜石1類	1.60	1.30	0.35	0.56
	476	19106	B-8	Ⅲa	打製石鏃　3類	ギョクズイ	1.40	1.45	0.25	0.42
	477	14345	B-9	Ⅲa	打製石鏃　3類	黒曜石1類	1.85	1.20	0.35	0.52
	478	9879	B-9	Ⅲa	打製石鏃　3類	チャート2類	2.15	1.00	0.30	0.59
	479	14906	B-9	Ⅲa	打製石鏃　3類	珪質頁岩	2.05	1.20	0.45	0.57
	480	19009	B-9	Ⅲa	打製石鏃　3類	ギョクズイ	1.85	1.40	0.45	0.76
	481	7806	B-10	Ⅲa	打製石鏃　3類	黒曜石5類	2.10	1.50	0.42	0.76
	482	745	B-4	Ⅲa	打製石鏃　3類	頁岩	2.85	1.90	0.45	1.51
	483	15832	B-9	Ⅲa	打製石鏃未製品	玻璃質安山岩	1.90	1.43	0.45	1.13
80	484	18508	B-9	Ⅲb 落ち込み	スクレイパー	頁岩	4.55	6.30	1.55	41.84
	485	3412	A-7	Ⅲa	スクレイパー	チャート2類	4.60	2.92	1.42	16.45
	486	16154	B-8	Ⅲa	スクレイパー	粘板岩	7.95	3.20	0.70	17.90
	487	9635	C-7	Ⅲa	石匙　縦型	チャート1類	5.22	3.14	1.24	15.09
	488	13654	B-8	Ⅲa	石匙　縦型	玻璃質安山岩	3.49	1.81	0.62	3.36
	489	14596	C-7	Ⅲa	石匙　縦型	チャート2類	4.03	1.93	0.96	6.43
	490	7451	B-9	Ⅰc	石匙　縦型	頁岩	5.62	5.18	1.12	34.00
81	491	3268	B-8	Ⅲb	石匙　横型	頁岩	5.90	8.70	1.50	55.14
	492	13661	B-9	Ⅲa	石匙　横型	頁岩	5.46	6.36	1.14	33.05
	493	3775	B-8	Ⅲa	石匙　横型	玻璃質安山岩	2.22	4.70	0.66	4.98
	494	2721	A-8	Ⅲa	二次加工痕剥片	玻璃質安山岩	2.22	2.58	0.77	4.01
	495	6141	B-8	Ⅲa	二次加工痕剥片	頁岩	6.22	3.32	0.97	21.77
	496	16908	B-9	Ⅲa	二次加工痕剥片	珪質頁岩	4.25	3.28	1.42	12.49
82	497	3177	A-8	Ⅲb	石核	黒曜石1類	1.34	1.90	0.70	1.76
	498	15842	B-9	Ⅲa	石核	黒曜石1類	2.18	3.52	1.48	9.26
	499	3464	B-10	Ⅲa	石核	黒曜石1類	2.21	3.00	2.10	9.58
	500	17425	B-7	Ⅲb	石核	珪質頁岩	3.43	1.80	1.86	11.07
	501	19042	B-9	Ⅲa	石核	黒曜石1類	4.07	2.18	1.92	11.52
	502	8747	B-8	Ⅲa	石核	黒曜石1類	2.70	2.92	2.31	13.28
	503	18642	B-8	Ⅲb	石核	黒曜石1類	2.63	3.89	2.08	16.86
	504	8281	B-10	Ⅲa	石核	黒曜石1類	4.52	7.30	2.75	77.78
	505	8951	B-9	Ⅲa	石核	黒曜石2類	2.00	2.32	2.43	11.13

第12表　石器観察表（２）

挿図	報告No.	取上No.	区	層	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
83	506	14224	B-9	Ⅲa	石核	珪質頁岩	4.03	10.36	2.67	117.00
	507	11956	B-9	Ⅲa	石核	砂岩	4.02	10.32	3.07	87.60
	508	18897	B-9	Ⅲb 落ち込み	原礫	黒曜石1類	3.20	2.34	2.27	17.05
	509	3886	A-10	Ⅲa	原礫	ギョクズイ	4.09	4.77	2.70	56.85
	510	4054	B-9	Ⅲa	原礫	珪質頁岩	2.54	4.00	3.29	32.33
84	511	7647	B-11	Ⅰe	剥片	黒曜石1類	4.16	2.90	0.90	7.68
	512	9287	B-10	Ⅲa	剥片	黒曜石1類	4.10	3.52	0.97	10.52
	513	18494	B-9	Ⅲb 落ち込み	剥片	珪質頁岩	4.88	2.92	1.62	17.34
	514	8923	B-8	Ⅲa	剥片	砂岩	6.94	5.01	1.00	32.81
	515	5973	B-9	Ⅲa	剥片	粘板岩	5.40	8.15	1.10	36.94
85	516	16866	B-8	Ⅲa	磨製石斧	頁岩	5.95	3.06	1.08	28.24
	517	12388	B-9	Ⅲa	磨製石斧	頁岩	7.00	2.30	1.30	28.29
	518	3602	A-10	Ⅲa	磨製石斧	頁岩	7.25	2.80	1.22	37.42
	519	15848	B-9	Ⅲa	磨製石斧	頁岩	8.77	4.24	1.78	98.45
	520	13528	B-10	Ⅲa	磨製石斧	頁岩	9.43	3.67	1.73	87.19
	521	14394	B-8	Ⅲa	磨製石斧	頁岩	9.10	4.30	1.55	86.26
	522	10332	B-9	Ⅲa	磨製石斧	頁岩	9.70	3.60	1.64	79.76
	523	11395	B-10	Ⅲa	磨製石斧	頁岩	9.53	4.02	1.42	71.89
	524	18314	C-3	Ⅲa	磨製石斧	頁岩	13.40	4.43	1.92	175.10
	525	7535	B-8	Ⅲa	磨製石斧	頁岩	8.28	4.84	1.62	101.44
	526	9433	B-9	Ⅲa	磨製石斧	頁岩	7.34	4.46	1.61	88.46
	527	6358	B-7	Ⅲa	磨製石斧	頁岩	7.40	4.64	1.57	89.29
	528	4666	B-9	Ⅲa	磨製石斧	頁岩	8.10	3.63	1.59	73.73
86	529	16904	B-9	Ⅲa	磨製石斧	頁岩	7.25	4.38	1.78	82.57
	530	7441	B-9	Ⅲa	磨製石斧	頁岩	6.90	4.16	1.69	68.51
	531	6742	B-10	Ⅲa	局部磨製石斧	頁岩	10.96	4.17	1.27	79.16
	532	1660	B-8	Ⅱb	打製石斧	頁岩	7.70	5.24	1.40	64.59
	533	14570	C-7	Ⅲa	打製石斧	頁岩	8.20	4.70	9.70	46.42
	534	14667	C-8	Ⅲa	局部磨製石斧	頁岩	1.21	5.12	2.07	155.45
	535	一括	B-6	SD1埋土	石斧未製品	頁岩	1.51	5.63	2.63	282.04
	536	14834	B-9	Ⅲa	礫器	砂岩	13.10	13.20	2.10	525.00
87	537	16227	C-7	Ⅲa	切目石錘	頁岩	2.28	3.72	1.40	15.52
	538	2159	B-7	Ⅲa	磨石	砂岩	10.40	8.20	4.90	565.90
	539	9967	B-7	Ⅲb	凹石	砂岩	7.70	6.00	3.40	221.00
	540	4910	B-8	Ⅲa	凹石	砂岩	6.30	5.30	4.40	202.40
	541	10755	B-7	Ⅲa	敲石	砂岩	6.50	4.90	2.70	119.70
	542	15949	B-7	Ⅲb	敲石	砂岩	5.93	2.82	2.00	48.06
	543	11728	B-7	Ⅲb	敲石	頁岩	6.00	1.70	1.40	23.30
88	544	8260	B-10	Ⅲa	石皿	砂岩	39.90	38.60	9.80	13150
	545	4467	A-10	Ⅲa	環状石斧	頁岩	9.08	5.41	2.30	133.76
	546	5502	B-8	Ⅲa	磨製石器	頁岩	5.20	1.79	0.70	10.97
	547	15192	B-10	Ⅲa	石刀状石製品	粘板岩	17.55	5.00	1.50	147.95

第５章　総　括

第１節　縄文時代の調査

本遺跡の中心となる時代である。アカホヤ火山灰層上位のⅢa層・Ⅲb層から土器や石器が出土し、土坑と集石が検出されている。

これら遺物・遺構は、その層位から縄文前期以降に位置づけられる。なお、Ⅲa層やⅢb層からは縄文早期に位置づけられる土器や石器も出土している。

１　遺物

（１）土器

各類土器の特徴をもとに既存の土器型式に比定すると、以下のとおりである。

１類：前平式
２類：小牧３Ａ段階
３類：下剥峯式
４類：塞ノ神Ａ式
５類：曽畑式
６類：深浦式
６－ａ類は日木山段階、６－ｂ類は鞍谷段階に比定できる。
７類：野久尾式
８類：船元式
９類：春日式
９－ａ類は前谷段階、９－ｂ類は轟木ヶ迫段階、９－ｃ類は南宮島段階に比定できる。
10類：大平式
11類：宮之迫式
12類：指宿式
13類：市来式
14類：丸尾式
15類：納曽式
16類：中岳Ⅱ式
17類：縄文後期に属する可能性のある型式不明土器
18類：磨消縄文土器
19類：縄文後期の粗製土器
20類：刻目突帯文土器
21類：型式不明土器
22類：縄文中・後期の粗製土器
23類：縄文中期～弥生初頭の土器底部

本遺跡からは、縄文早期から弥生初頭、古墳時代の土器が出土している。出土量から考えると、本遺跡の中心を占めるのは、縄文中期～後期である。

縄文早期の土器は、出土量が少ない。本遺跡背後の台地上に位置する、縄文早期の集落遺跡である倉園Ｂ遺跡（志布志町教委1984）から流入した可能性が高い。

縄文前期は、曽畑式の一定数まとまった出土を確認した。志布志市内では、野久尾遺跡（志布志町教委1979）や鎌石橋遺跡（河口1982）・別府石踊遺跡（志布志町教委1979）などでも出土しており、前川流域を中心に分布している。縄文早期土器を倉園Ｂ遺跡からの流入品と考えると、縄文前期からが倉園Ａ遺跡の使用時期と想定される。

深浦式・船元式はごくわずかの出土に留まり、野久尾式も少量の出土である。しかし、野久尾式は他型式と比べて、調査範囲の西側まで分布が広がっているため（第16図上）、今回未調査の範囲に多数包蔵されている可能性がある。

縄文中期は、春日式・大平式が多量に出土した。春日式は、前谷・轟木ヶ迫・南宮島段階に比定される。市内に、前谷段階の標識遺跡である前谷遺跡（松山町教委1986）が所在するが、本遺跡の春日式は轟木ヶ迫・南宮島段階が中心を占める。胎土に滑石を含む製品もあり、他地域からの搬入品の可能性がある（第36図118）。

大平式は幾何学的な沈線文や、口縁部下位に段が付くように屈曲するなど、型式的特徴はある程度明確である。多様な文様が認められる春日式とは対照的である。強く屈曲し内湾するものは古相と考えられ（相美2017）、鋸歯状の文様を横位に施し、押引文により施文するものも多い（第39図122など）。屈曲が緩くなるにつれて、押引文は少なくなり、沈線による縦位の施文が目立つようになる（第43図145など）。口縁部下位の段がみられないものも確認されたが、少量である。

縄文後期は、宮之迫式・指宿式が中心を占める。どちらも、口縁部から胴部上半まで広く文様帯を持つ。宮之迫式は、貝殻条痕を確認できるものが多いが、指宿式はナデ調整を施すものが大半である。また、指宿式は胎土に雲母を含むものが多く確認された。

指宿式は、指宿地方で採取できる温泉変質粘土を原料とした、指宿焼成色と呼ばれる赤紫色や桃色等の発色を呈する土器の存在が指摘されている（黒川2005）。しかし、本遺跡の指宿式は、指宿焼成色に該当する製品は含まれていないようである。指宿式は、市内では特に中原遺跡で多量に確認されているが（志布志町教委1984）、中原遺跡でも指宿焼成色は確認されていない。指宿焼成色を呈する土器に、胎土に雲母を含むものは少ないことも指摘されているため、南薩地域の指宿式と、本遺跡の指宿式の流通範囲は重ならないと思われる。指宿式は、南薩と志布志湾、鹿児島湾で地域色が存在することは以前から指摘されており（三輪1998）、先行研究と齟齬のない結果である。

中原遺跡では、瀬戸内系の磨消縄文土器も多量に出土しており、それらの影響を受けた擬似縄文土器が出土している。本遺跡でも、少量であるが擬似縄文土器が出土した（第49図217・218など）。18類として報告した磨消縄文土器も同様に、瀬戸内系の土器の可能性がある。

野久尾遺跡では、縄文を施した春日式が出土するなど、瀬戸内系の影響を受けて変容した在地系土器が、縄文中期・後期に各地で確認されている。しかし、本遺跡の春日式や指宿式などに、その影響を見て取れるものは少ない。船元式や磨消縄文土器の出土もわずかであることから、他

第13表　縄文石器組成表

器種		黒曜石1類	黒曜石2類	黒曜石3類	黒曜石4類	黒曜石5類	チャート1類	チャート2類	チャート3類	ギョクズイ	鉄石英	珪質頁岩	玻璃質安山岩	頁岩	砂岩	粘板岩	安山岩	凝灰岩	花崗岩	合計		百分率
石鏃	1a	7	2										2							11	66	2.25%
	1b	7	2		1				1				3							14		
	2	2											2							4		
	3	3	2		2	3		1		2		1	7	2						23		
	未製品	2											2							4		
	欠損品	6	1		1			1					1							10		
スクレイパー								1						3		3				7		0.24%
石匙							1	3					5	3	1					13		0.44%
二次加工剥片		18	1		2		2		3			1	2	2						31		1.06%
微細剥離痕剥片		6	1	1									3							11		0.38%
石斧														27			1			28		0.95%
礫器															1					1		0.03%
切目石錘														1						1		0.03%
磨石・敲石類	1														5				2	7	18	0.61%
	2														5					5		
	3														1					1		
	4													1	3			1		5		
石皿・台石類															5					5		0.17%
環状石斧														1						1		0.03%
磨製石器														1						1		0.03%
石刀状石製品																1				1		0.03%
石核		127	7	5	2			1	5	5		5	6		3					166		5.66%
原礫		11	1							1		1								14		0.48%
剥片/砕片		1650	99	49	40	32	20	29	24	51	1	15	269	46	30	214				2569		87.59%
合計		1839	116	55	48	35	23	36	33	59	1	23	302	87	54	218	1	1	2	2933		
百分率		62.70%	3.95%	1.88%	1.64%	1.19%	0.78%	1.23%	1.13%	2.01%	0.03%	0.78%	10.30%	2.97%	1.84%	7.43%	0.03%	0.03%	0.07%			

地域との交流はありながらも、在地社会に変容を迫るほどではなかったか、あるいは積極的な受容を行わなかったと考えられる。

指宿式期以降は、土器の出土量が減少する。市来式の段階に入ると出土量が減少し、市来式に後続する丸尾式と、時期的に併行する納曽式も、それぞれ少量の出土となる。市来式期から、本遺跡の利用頻度が低下していったと考えられる。

円盤状土製加工品の中には、宮之迫式と指宿式に比定できるものがある。先述した中原遺跡では、1,000点を超える円盤状土製加工品が出土しているため、型式比定できなかった他の製品も、縄文後期に位置付けられる可能性が高い。

（２）石器（第13表参照）

本遺跡からは、石鏃やスクレイパー、石匙、石斧、切目石錘、磨石・敲石類、石皿・台石類のような生業生活に使用される道具のほか、環状石斧や石刀状石器のような精神文化に関わる道具も出土している。

石器組成について、石核が多く、次いで石鏃となる。石鏃は３類（基部に深い抉りがあり、明確に脚部が作出されるもの）が多い。

石斧も比較的多く、基部や刃部が欠損していないものが11点認められた。全体的に小さめのもの（全長10㎝以下）が多いのが気になるところである。また、上下端に刃部をもつ特徴的なものも認められた（第85図525）。

石材は、黒曜石１類（三船産類似）が約63%を占める。南九州の黒曜石原産地の中で最も地理的に近いことが要因と考える。次いで玻璃質安山岩、粘板岩と続く。一方、遠隔地石材である黒曜石３～５類の利用は少なく、本遺跡では在地系石材利用が中心となる。なお、曽於市財部町大川原にも原産地があるチャート（宮田2002、黒川2014）の比率が低いことは興味深い。

黒曜石・チャート・ギョクズイ・鉄石英・珪質頁岩・玻璃質安山岩・頁岩は剥片石器類に、砂岩・粘板岩・安山岩・凝灰岩・花崗岩は礫石器類にそれぞれ利用されており、器種に応じた石材利用が看取される。

時期は出土土器から判断すると、主に縄文前期後半から弥生初頭に属すると考える。土器型式毎に偏った分布状況を示さないため、詳細な時期は判断できない。ただし、環状石斧は縄文早期に属すると考える。本遺跡に隣接する倉園Ｂ遺跡から流入した可能性が高い。

切目石錘について

本遺跡から切目石錘が１点認められた（第87図537）。県内での切目石錘の出土例は少なく、平成21(2009)年３月時点ではあるものの、６点の出土例にとどまっている（寒川2009）。おそらく現在でも、それほど出土数は増えていないと考える。一方、隣接する宮崎県での出土例は多く、平成21(2009)年３月時点で491点と（藤木2009）、鹿児島県とは対照的な様相となる。

県内出土例は具体的に、出水市大坪遺跡１点（鹿児島県埋セ2005）、曽於市踊場遺跡１点（鹿児島県埋セ2000）、曽於市中岳洞穴１点（末吉町教委1980）、志布志市十文字遺跡２点（志布志町教委1983）、志布志市中原遺跡１点である。本遺跡を含め、いずれも県周縁域に位置しており、興味深い。

出土土器からその所属時期を考えると、大坪遺跡例は縄文後期末～晩期、踊場遺跡例は縄文晩期、中岳洞穴例は縄文後期後半～晩期、十文字遺跡例は縄文後期前葉、中原遺跡例は縄文後期前半に位置づけられる。

本遺跡は、大平式や春日式轟木ヶ迫・南宮島段階、宮之迫式、指宿式の土器群が中心となることから、本遺跡資料

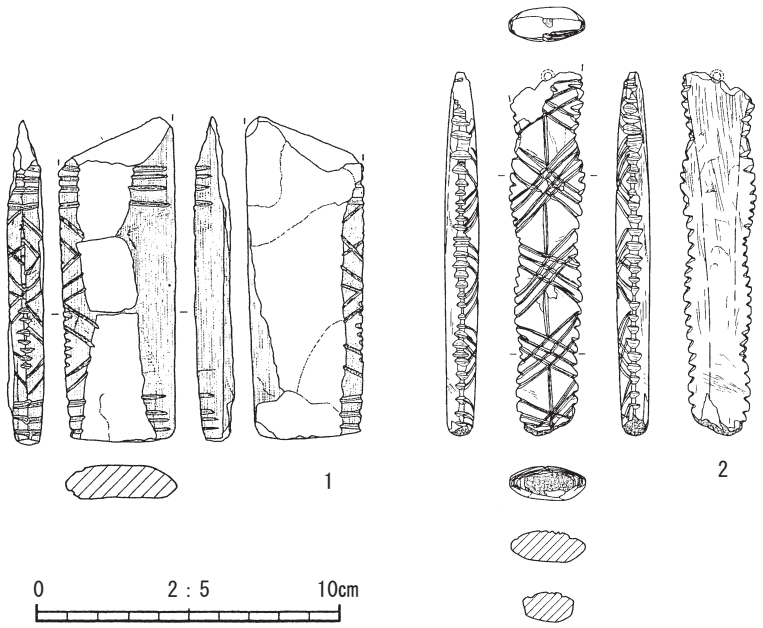
は縄文中期後半～後期後半に属する可能性が高いと考える。

石刀状石製品について

九州地方でみられる石刀 ── 天附型石刀や橿原型石刀 ── とは形態が異なることから、「石刀状石製品」と呼称した石器が認められた（第88図547）。

その特徴は、刀身部と柄部が刃関により分化し、一側縁に刻みを施す刃部をもち、器面に鋸歯状の沈線文を施すことである。

この資料に類似するものが、宮崎市樋ノ口遺跡で認められている（宮崎市教委2019）。「石刀」と報告されており、一側縁に刻みを施し、器面に沈線文を施している（第93図１）。船元式系土器や春日式土器北手牧・前谷タイプ、宮之迫式などが出土していることから、石刀を縄文中期中葉～後期初頭に位置づけている。



第93図　石刀状石製品関係資料

石刀ではないものの、宮崎県高原町井ノ原遺跡では、垂飾品と推定されている石器が出土している（高原町教委2022）。その特徴は、両側縁に刻みを施し、器面にＸ字状の沈線文を施している（第93図２）。穿孔のような痕跡があることから、垂飾品の可能性が指摘されている。アカホヤ火山灰層下位で検出した風倒木内から出土しているため、時期不明としている。なお、アカホヤ火山灰層上位からは、中尾田Ⅲ類土器や市来式土器、入佐式土器が出土している。

本遺跡では、大平式や春日式轟木ヶ迫・南宮島段階、宮之迫式、指宿式の土器群が中心となる。このことから、出土した石刀状石製品は、縄文中期後半～後期前半頃に位置づけられると考えたい。

さらに東南部九州の縄文中期後半頃において、縁辺に刻みを施し、器面に沈線文を施す石器が認められる可能性も考えておきたい。なお、鋸歯文は大平式（第41図133など）に認められる文様でもあり、その関係性が気になるところである。

石刀状石製品に関して、桒畑光博氏、寒川朋枝氏、山崎真治氏、遠部慎氏から様々なご教示をいただいた。記して感謝申し上げます。

２　遺構

本遺跡では、７基の土坑と１基の集石が検出された。

土坑は、平面形態が楕円形または不定形ものである。その性格を推測できるような埋土内出土遺物がほとんどなく、性格は判断できない。

検出遺構の時期は、包含層出土土器から主に縄文前期後半から弥生初頭に属すると考えるが、土器型式毎に偏った分布状況を示さないことから、その詳細な時期は判断できない。

第２節　古墳時代の調査

Ⅰ層から土器が２点出土したのみで、遺構は検出されていない。過去の土地改変により、包含層が削平されている可能性が高い。

出土土器は、成川式土器の甕の胴部と考えるが、特徴がないため、細分型式については不明である。

第３節　時代不明の調査

時期が明確に判断できなかった遺構として、２条の溝状遺構がある。

１・２号ともに、埋土内に川砂のような砂を含むことから、暗渠排水のための溝と考える。

国内で暗渠排水が始められた時期は明らかとなっていないものの、各地で行われるようになったのは江戸時代の天保年間以降のようで、そのころの技術は大蔵永常著の『農具便利論』にみられるような、湿田に扇の骨のような溝を掘って、粗朶や竹の束を埋めて暗渠として、要のところに集水して排水する方法、あるいは中央に一本の中心渠を設けて、それに矢羽型の支渠を連結して中心渠から排水する方法であったとされる（工藤1985）。つまり、構造からも検出された溝状遺構が暗渠排水であったことがうかがえる。

明治36（1903）年、熊本県菊池市七城町の冨田甚平氏により水閘土管が考案され、九州地方において土管を使った暗渠排水が広まっていった。そして、土管による暗渠排水は、戦中から戦後にかけて本格化したようである。

暗渠排水の材料として、九州地方では土管以外に竹・粗朶類を主体としており、鹿児島県では竹を多く使用している（庄司・守島1948）。

検出された溝状遺構では、土管が認められないことから、竹や粗朶類を用いたものと推定できる。そして、その時期は、土管使用が本格化する前の、近代から戦後まもなくの時期のものである可能性を指摘しておきたい。

第４節　小結

倉園Ａ遺跡は、宮崎県串間市との県境に近い山間部に位置する。そのような立地ながら、縄文前期後半から弥生初頭を中心とする時期の遺物が多量に出土した。

その中には、西北九州からの搬入品の可能性が高い、胎土に滑石を含む春日式南宮島段階もあり、当時の広域的な地域間交流の一端もうかがうことができた。また、切目石錘や石刀状石製品のような、県内では出土例の希少な遺物も認められた。

本遺跡の眼下を流れる前川は、四万十層群が構成する急峻な山岳地帯（鰐塚山地）を源とする。この急峻な山岳地帯は、志布志市と串間市との県境をなし、前川に沿って両市をつなぐ県道３号線が通っている。

この道は、縄文時代においても主要な交流ルートであった可能性があり、倉園Ａ遺跡（縄文早期前半においては倉園Ｂ遺跡）はこのルート沿いの拠点的な遺跡であったと考える。

このルート上を縄文時代の人々が往来した結果、倉園Ａ遺跡に多量の遺物が残されたのであろう。

第５節　市内発見の精神文化関連石器について
－独鈷状石器の紹介－

倉園Ａ遺跡では、環状石斧や石刀状石製品が出土している。これら同様の精神文化関連石器は、市内でも幾つか確認されてきた。

それは、志布志町出口Ａ遺跡の独鈷状石器（梅原1994）、志布志町中原遺跡の円盤状石製品と軽石製石棒、有明町次五遺跡の異形石器（志布志市教委2018）、次五遺跡と松山町山ノ田遺跡のトロトロ石器（松山町教委2005）である。また最近、志布志町内の市指定建造物内から独鈷状石器が１点発見された。

今回、出口Ａ遺跡の独鈷状石器２例の再実測を行う機会があった。そこで、出口Ａ遺跡２例の再報告と新発見資料の報告を行いたい（第94・95図１～３）。

１・２は、出口Ａ遺跡（志布志町帖）で出土したものである。昭和17(1942)年、畑地を田地へ改変する際に、地下４～５尺（約1.2～1.5m）の所から偶然掘り出されたものである（梅原1944）。

１：全長22.7㎝、体部最大幅5.3㎝、くびれ部幅3.6㎝、体部最大厚3.0㎝、くびれ部厚2.5㎝、重量490ｇを測る。石材は、肉眼観察によれば頁岩の可能性があるが、石英片岩との報告もある（梅原1944）。

体部がハ字状に大きく湾曲し、中央上面に一対の突起がある。突起を作出することでくびれを成している。両体部先端は鋭くとがっている。体部断面は円形に近い。

全面を丁寧に研磨して成形しており、比較的長めの擦痕が確認できる。体部は体部の軸に対して平行する横方向、くびれ部は縦方向の研磨である。

中央突起先端ともに剥離痕が認められる。ただし、使用による剥離かどうかは判断できない。

２：全長22.9㎝、体部最大幅4.9㎝、くびれ部幅3.7㎝、体部最大厚2.4㎝、くびれ部厚2.0㎝、重量395.0ｇを測る。石材は、肉眼観察によれば頁岩の可能性があるが、石英片岩との報告もある（梅原1944）。

かつおぶし形を呈し、下面が上面側にごくわずか反っている。中央に凹みが全周し、くびれを成している。体部両端は、鋭く尖っている。くびれ部断面と体部断面は、楕円形状である。

器面に原礫面を残すところもあるが、全面を研磨して成形しており、擦痕が確認できる。くびれ部は、縦方向の研磨である。使用痕は、確認できなかった。

３は、市指定文化財（建造物）である山中氏邸（志布志町志布志）内の倉庫を平成29(2017)年に整理した際に発見されたものである。詳しい出土地は不明であり、山中氏邸の倉庫にあった由来も不明であるが、志布志町内で発見されたものである可能性が高いと考える。

全長18.8㎝、体部最大幅5.9㎝、くびれ部幅5.7㎝、体部最大厚3.1㎝、くびれ部厚3.2㎝、重量485.0ｇを測る。石材は、肉眼観察によれば蛇紋岩の可能性もある。

かつおぶし形を呈し、下面が上面側に湾曲している。体部両端は尖らずに丸味を帯びる。中央上面のみに凹みがあり、くびれを有する。

くびれ部断面・体部断面ともに楕円形状で、上面側が鋭く尖る。全面を研磨して成形しており、擦痕が確認できる。使用痕は、確認できなかった。

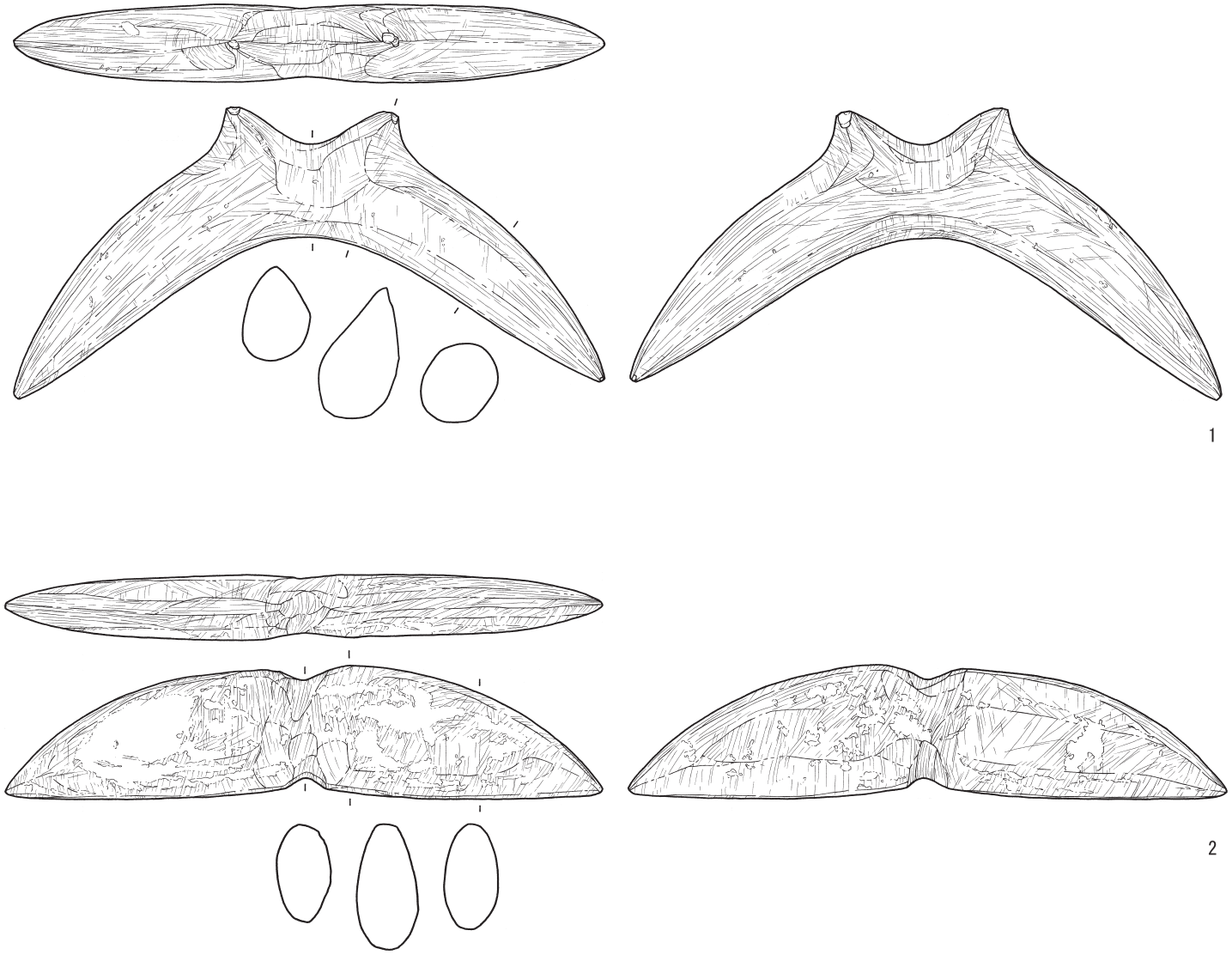
独鈷状石器は、島津義昭氏や後藤信祐氏らによって分類されている（島津1975・後藤1985）。両氏の分類にあてはめると、１・３は島津分類の「ｂ－ｂ’類」（全長20㎝以上で、中央上面に抉りまたは凹部をもつもの）、後藤分類の「Ａ－５類」（体部断面が円形または楕円形を呈し、両頭部先端が鋭く尖るもので、反りを有するもの。中央背部に抉りのみを有するものも含む）に相当する。２は島津分類の「ｂ－ａ’類」（全長20㎝以上で、くびれ部に全周する溝をもつもの）、後藤分類の「Ａ－５類」に相当する。

なお、「ｂ－ｂ’類」は「九州型独鈷状石器」と呼称されている（島津1975）。また、１～３類は「西日本型独鈷状石器」（渡辺1973）と呼称されてきたものである。

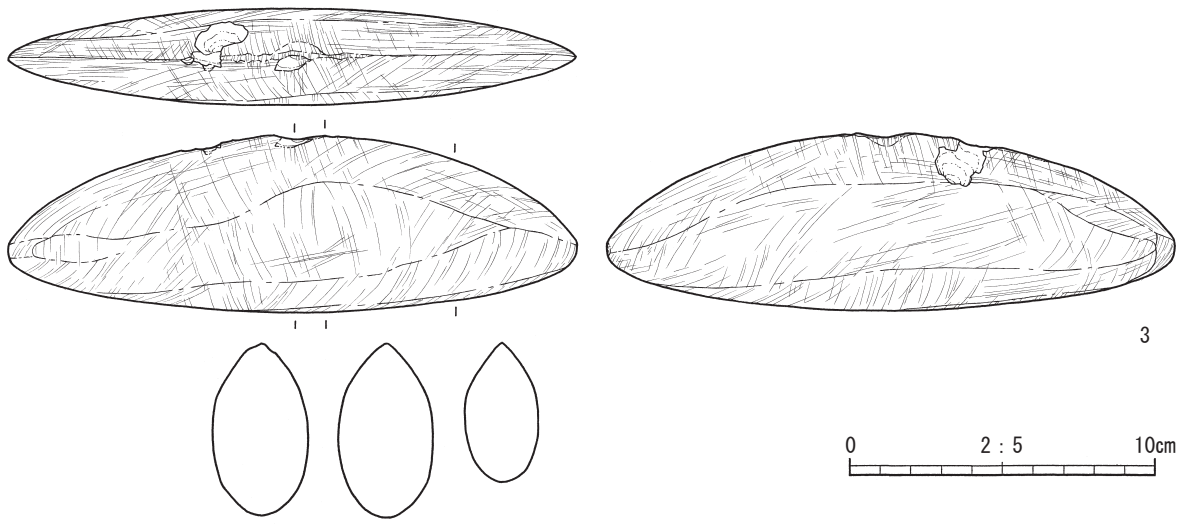
西日本の独鈷状石器について、島津氏は縄文晩期～弥生前期のものとし、後藤氏は縄文晩期前葉に位置づけ、岡本孝之氏は縄文後期～弥生中期のものとする（岡本1999）。一方、東和幸氏は発掘調査事例から、縄文中期のものと考えている（東1993・2001）。

出口Ａ遺跡資料は採集資料であり、正確な年代的位置づけは困難である。

ところで、独鈷状石器には「弥生土器」がともに出土したとされている（梅原1944）。梅原末治氏による論文に掲載された実測図からは、古墳初頭～前葉の中津野式と判断できなくはないものの、縄文後期の中岳Ⅰ式には「く」字状に外反する口縁部や上げ底状を呈する底部もあることから、出土土器が中岳Ⅰ式の可能性もあり得ること、そして近隣の出口Ｂ遺跡の調査において中岳Ⅱ式が出土していることも併せて考えると、出口Ａ遺跡資料が縄文後期後半の中岳Ⅰ式～中岳Ⅱ式土器期に位置づけられることが指摘されている（相美2014）。



第94図　市内の独鈷状石器（１）



第95図　市内の独鈷状石器（２）

出口Ａ遺跡出土の独鈷状石器に関しては、小林青樹先生から多大なるご教示をいただいた。記して感謝申し上げます。

【引用・参考文献】

梅原末治 1944「大隅発見の異形石器」『人類学雑誌』59－７　日本人類学会

岡本孝之 1999「遺物研究　独鈷状石器（独鈷石・白河型石器）」『縄文時代』10　縄文時代文化研究会

遠部慎　2001「九州石刀・石剣小考」『唐澤考古』20　唐澤考古学会

鹿児島県立埋蔵文化財センター 2004『九養岡・踊場・高篠坂遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（71）

鹿児島県立埋蔵文化財センター 2005『大坪遺跡』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（79）

河口貞徳 1982「鎌石橋遺跡」『鹿児島考古』16　鹿児島考古学会

工藤洋男 1985「近代土地改良の源流－冨田甚平の業績－」『農業土木学会誌』53－５　農業土木学会

黒川忠広 2005「指宿式土器の色調から見た交流の断片」『縄文の森から』３　鹿児島県立埋蔵文化財センター

黒川忠広 2014「石器石材としての大川原産珪質頁岩」『縄文の森から』７　鹿児島県立埋蔵文化財センター

後藤信祐 1985「独鈷状石器小考」『唐澤考古』５　唐澤考古学会

後藤信祐 2007「刀剣形石製品」『縄文時代の考古学』11　同成社

相美伊久雄 2014「志布志周辺の縄文時代研究」『平成26年度鹿児島県考古学会秋季大会発表要旨集』　鹿児島県考古学会

相美伊久雄 2017「大平式土器再考　―東南部からみた九州縄文時代中期後半期の様相―」『鹿児島考古』47　鹿児島考古学会

寒川朋枝 2009「鹿児島県における縄文時代の漁撈具」『九州における縄文時代の漁撈具』第19回九州縄文研究会長崎大会発表要旨・資料集　九州縄文研究会

志布志町教育委員会 1979『野久尾遺跡』

志布志町教育委員会 1979『別府（石踊）遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（３）

志布志町教育委員会 1984『倉園Ｂ遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（７）

志布志町教育委員会 1985『中原遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（９）

志布志町教育委員会 1985『倉園Ａ・土光・風穴遺跡』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（10）

志布志市教育委員会 2018『次五遺跡』志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書（13）

島津義昭 1975「西日本の独鈷状石器」『九州考古学の諸問題』　福岡考古学研究会

庄司英信・守島正太郎 1948「九州地方における暗渠排水の今昔」『農業土木研究』16巻１・２号　農業土木学会

末吉町教育委員会 1980『中岳洞穴』

高原町教育委員会 2022『井ノ原遺跡第１地点』高原町文化財報告書（25）

東和幸 1993「独鈷状石器」『大河』４　大河同人

東和幸 2001「九州地域（熊本県・宮崎県・鹿児島県）の概要と集成」『縄文・弥生移行期の石製呪術具２』

藤木聡 2009「打欠石錘の用途と切目石錘の来歴」『九州における縄文時代の漁撈具』第19回九州縄文研究会長崎大会発表要旨・資料集　九州縄文研究会

松山町教育委員会 1986『前谷遺跡』松山町埋蔵文化財調査報告書（１）

松山町教育委員会 2005『山ノ田遺跡発掘調査報告書』

宮崎市教育委員会 2019『樋ノ口遺跡』宮崎市文化財調査報告書（126）

宮田栄二 2002「鹿児島県の非黒曜石原産地について」『Stone Sources』１　石器原産地研究会

三輪晃三 1998「第５章　南九州縄文後期再論」『鹿児島県桜島町武貝塚発掘調査研究報告書』奈良大学文学部考古学研究室調査報告書（第16集）

山岸良二 2000「「独鈷石」形態地域論Ⅱ－「西日本型独鈷状石器」再考－」『人類史研究』12　人類史研究会

渡辺誠 1973「大阪府高槻出土の独鈷状石器をめぐって」『考古学論叢』２　別府大学考古学研究会